平成27年度入学生用

履　修　要　項

(syllabus)

生活科学科

生活科学専攻

生活福祉専攻

食物栄養学専攻

鹿児島女子短期大学

Kagoshima Women's College

《目　　次》

1）学修の手引き …… P1 ～ P6

2）用語解説 …… P7 ～ P11

3）平成27年度入学生　教育課程 …… P15 ～ P26

4）一般教養科目 …… P29 ～ P45
　カリキュラム・マップ …… P46 ～ P48

5）*生活科学専攻*
　［専門科目］　1年次（27年度）開講科目
　　2年次（28年度）開講科目 …… P51 ～ P80
　カリキュラム・マップ …… P81 ～ P84
　カリキュラムツリー …… P85

6）*生活福祉専攻*
　［専門科目］　1年次（27年度）開講科目
　　2年次（28年度）開講科目 …… P89 ～ P118
　カリキュラム・マップ …… P119 ～ P123
　カリキュラムツリー …… P124

7）*食物栄養学専攻*
　［専門科目］　1年次（27年度）開講科目
　　2年次（28年度）開講科目 …… P127 ～ P158
　カリキュラム・マップ …… P159 ～ P162
　カリキュラムツリー …… P163

8）修得単位記入表 …… P164 ～ P166

9）索引 …… P167 ～ P168

［注記］

※平成28年度（2年次）の履修科目について
一部「担当者・履修内容等」の変更がある場合があります。
なお、内容変更等があった科目は、2年次当初で差し替えを行います。

学 修 の 手 引

この冊子は、本学での学修の手引きとして作成したものです。
はじめに、生活科学科、生活科学専攻・生活福祉専攻・食物栄養学専攻の教育課程を掲載しました。これは平成27年度入学生の皆さんに対して開設される授業科目を示したものです。
つぎは、講義要項で、教育課程に示された各授業科目について、担当教員が授業の概要・授業の項目等を解説したものです。受講に際して大いに活用してください。

1. 履修計画および単位修得

大学における履修計画および単位修得は、皆さん一人ひとりの問題であり、自分自身の責任においてなされるべきものです。したがって、自ら本学を志した初心に立ち、もう一度将来の進路を見極め、その目標に沿って確実な履修計画を立てて単位を修得していくよう努めなければなりません。
履修上の疑問点については、学級指導教員（ホーム担任）の指導・助言をしっかり受け、また教務課に問い合わせるなどして、問題を残さないようにしてください。卒業の時期になって単位不足や単位の取り違いなどにより、卒業あるいは、めざす免許・資格の取得ができないなどのことがおこらないよう十分注意してほしいと思います。

2. 教育課程と履修

本学における教育課程には、まず、一般教養科目の他に、専攻ごとに専門科目がおかれています。その中に卒業要件としての課程のほかに、免許・資格を取得するために必要な課程が体系的に編成されています。以下、教育課程のことについて説明します。

（1） 授業科目の 区分 について

① 一般教養科目
② 専門科目
③ 教職科目
④ 医療秘書実務士関係科目（生活科学専攻）
⑤ 第一種衛生管理者免許関係科目（生活科学専攻）
⑥ レクリエーション・インストラクター養成科目（生活福祉専攻）
⑦ 介護保険実務士養成科目（生活福祉専攻）
⑧ 福祉メイクセラピスト養成科目（生活福祉専攻）
⑨ 介護福祉士養成科目（生活福祉専攻）
⑩ フードスペシャリスト養成科目（食物栄養学専攻）
⑪ 栄養士養成科目（食物栄養学専攻）
⑫ ピアヘルパー認定試験受験資格必修科目（専攻によって異なる）

（2） 授業科目の 履修方法 について

大学の授業は、講義・演習・実験・実習・実技など、その形態はさまざまですが、学生の主体的、積極的参加により、教員と学生が共に学問に取り組む場です。そのような授業への参加によって、高度な知識・技能を修得し、あわせて学問的研究のあり方についても十分身につけるようにしてもらいたいと思います。

（3） 授業科目の 単位数 について

大学の授業科目には、それぞれ単位数が定められています。これは、授業の形態と授業時間数に応じて決められているものです。したがって、皆さんは授業科目を履修して単位を修得

し、その単位数で課程の終了が認定されることになります。そこで、開講されている授業科目の中から、所要の科目を履修し、それらの単位を修得して、卒業や免許・資格の取得に必要な要件を充足しなければなりません。

（4） 授業科目の 必修・選択 の指定について

教育課程の中で、それぞれの授業科目には、必修・選択必修・選択の指定があります。

① 必　修　科　目 … 必ずその単位を修得しなければならない科目のことです。
② 選択必修科目 … 特定の授業科目のグループの中から決められた数の科目を選択してその単位を修得しなければならない科目のことです。
③ 選　択　科　目 … 各自が自由に選択して履修し、その単位を修得する科目のことです。

（5） 授業科目の 開講学期 について

授業科目の開講学期は、教育課程表の中の開講学期単位数の欄に示されています。つまり当該授業科目が開講される学期は、その授業科目の単位数が記入されているところとなります。したがって、指定された学期において、それぞれの科目を受講するように履修計画を立てなければなりません。もし、そのことを誤ると、授業科目の履修の機会を失い、2年間での卒業ができなくなることもありますので、十分に注意してください。

（6） 履修届 について

皆さんが所要の単位を修得していくためには、本学の教育課程により、各学期のはじめに受講科目を決め、教務課へ履修届を提出しなければなりません。その際に、卒業要件が充足できるか、希望する免許・資格取得のために必要な科目とその単位数が充足できるかなど確実におさえておかなければなりません。

3. 卒業要件や免許・資格に必要な単位数

（1） 卒業の要件

本学に2年以上在学し、本学所定の教育課程により、次に示す単位の合計が、各専攻ともに62単位以上を修得した者を卒業と認めることになっています。

卒業に必要な各専攻の最低修得単位数

専　攻	一般教養科目			専　門　科　目		一般教養科目又は専門科目の中から	計
	必修	選択必修	選択	必修	選択		
生活科学専攻	3	4	7	16	30	2	62
生活福祉専攻	3	4	7	46		2	62
食物栄養学専攻	3	4	7	19	27	2	62

卒業要件として必要な最低修得単位数の修得方法

ア. 一般教養科目の中から、14単位以上を修得すること。

○ 必 修 科 目 … 「キャリアガイダンス」を2単位、「WE LOVE 鹿児島！」を1単位修得すること。

○ 選択必修科目 … 「英語演習・ドイツ語演習・中国語演習・韓国語演習」のいずれかの同じ科目のⅠ・Ⅱを4単位修得すること。

○ 選 択 科 目 … 上記以外の一般教養科目の中から、7単位以上を修得すること。

イ. 専門科目の中から、46単位以上を修得すること。
この場合、各専攻によって必修科目・選択科目が決められているので十分配慮すること。

ウ. アとイで60単位になります。残りの2単位は、一般教養科目又は、専門科目の中から2単位以上を修得すること。
なお、「免許・資格関連科目」は、「専門科目」に含まれるものを除き、**卒業に必要な単位に含めることができません**ので注意が必要です。

（2） 免許または資格

生活科学科・各専攻において、取得できる教員免許状または資格は次のとおりです。

学　　科	専　　攻	取得できる免許状・資格
生活科学科	生活科学専攻	養護教諭二種免許状 中学校教諭二種免許状（保健） 医療秘書実務士認定証 第一種衛生管理者免許証 社会福祉主事任用資格 ピアヘルパー受験資格
	生活福祉専攻	介護福祉士登録証 介護保険実務士受験資格 福祉メイクセラピスト認定 社会福祉主事任用資格 レクリエーション・インストラクター資格 ピアヘルパー受験資格
	食物栄養学専攻	栄養士免許証 栄養教諭二種免許状 専門フードスペシャリスト（食品開発）受験資格 専門フードスペシャリスト（食品流通・サービス）受験資格 フードスペシャリスト受験資格 日本茶アドバイザー資格＊ 社会福祉主事任用資格 ピアヘルパー受験資格

＊資格取得に必要な科目は他学科他専攻開放科目のため全学科取得可能。

生活福祉専攻の授業科目の履修について

生活福祉専攻で履修できる授業科目は、学科共通の「一般教養科目」と生活福祉専攻の「専門科目」の2種に大別できます。「専門科目」は、卒業履修単位科目と介護福祉士履修単位科目に分かれます。「一般教養科目」と「専門科目」は、卒業履修単位となり、別表第3の「一般教養科目」の最低修得単位数を満たしたうえで専門科目を含めて総計62単位を修得すれば、卒業できます。 介護福祉士の国家資格をとるには、「専門科目」の介護福祉士履修単位数の欄の「必修」科目のすべての単位を修得しなければなりません。

● 「一般教養科目」の履修について

一般教養科目では、皆さんに幅広い教養を身につけてもらうために30科目が用意してあります。これらの科目は、原則としてどれでも履修できます。しかしながら、1年間で開講されるすべての科目を履修することは不可能ですから、自分の興味や関心によって、科目を選んでください。
ただし、次の2点については、十分に留意して科目を選択してください。

1. 英語・ドイツ語・中国語・韓国語の4つの科目群から、1科目連続（4単位）は、必ず履修すること。
2. 英語・ドイツ語・中国語・韓国語の1科目を含めて他の選択科目を加えて、最低で15単位、多くて16単位を目標とすること。
3. 介護福祉士国家資格を取得するためには、一般教養科目の★印の科目から3～4科目（8単位以上）を履修すること。

● 「専門科目」の履修について

生活福祉専攻には、介護福祉士資格を取得するための必修科目と、本学独自の科目として選択科目が用意されています。これらの科目は、高齢者や障がい者に関する医学・社会学・心理学・社会福祉・介護福祉の理論を理解しながら、健康管理、生活支援技術、社会活動や相談援助等の方法を学び、将来の介護のリーダーとなり得る人材を養成することを目標としています。 また、時代の要請に応じた科目も用意してあります。専門科目の履修については、次の2点について、十分に留意して履修してください。

1. 介護福祉士国家資格との関連
   介護福祉士国家資格を取得するには、一般教養科目15単位以上を修得した上で、専門科目の必修科目すべての単位修得が必要です。この中には2年間で10週間の学外での実習が含まれます。

2. 社会福祉主事任用資格との関連
   社会福祉主事任用資格は、社会福祉主事の資格に関する科目指定のうち、3科目以上を修得すれば、資格要件を充たすことができます。

3. レクリエーション・インストラクター資格との関連
   レクリエーション・インストラクターの資格を取得するには、レクリエーション概論、レクリエーション活動援助法の単位を修得し、学外で行われる日本レクリエーション協会の主催する事業に2年間で3日間出席しなければなりません。したがって、次のことに留意してください。

(1) 資格取得を希望する人は、レクリエーション概論を履修すること。
(2) 3日間の学外事業については、必要の都度掲示しますので、その指示に従うこと。

4. COC関連科目及び学内他学科・他専攻開放科目

COC科目の定義

1. 地域密着型短大としての本学の個性をアピールする、本学独自の地域志向科目である。
2. 地域について学び、地域課題に取り組む意欲を持ち、地域活性化の担い手として活躍できる人材を育てることに資する科目である。
3. 文部科学省の大学改革実効プランに挙げられた「地（知）の拠点（Center of Community)としての機能強化の一環である。自治体を中心に地域社会と連携し、地域を志向した教育・研究・社会貢献を促進する「地域のための大学」として全学的に取り組むことを求められている教育改革の1つに位置付けられる科目である。

COC関連科目［生活科学科生活科学専攻］

授業科目	授業形態	履修方法	開講学期／単位数				備考
			1前	1後	2前	2後	
WE LOVE 鹿児島！	演習	必修				1	
医療秘書実務実習	実習	選択			1		
教職実践演習(養護教諭)	演習	選択				2	
教職実践演習(中・保健)	演習	選択				2	
住環境学	講義	選択				2	

COC関連科目［生活科学科生活福祉専攻］

授業科目	授業形態	履修方法	開講学期／単位数				備考
			1前	1後	2前	2後	
WE LOVE 鹿児島！	演習	必修				1	
介護の基本Ⅱ	演習	必修	1				
生活支援技術（住）	講義	必修	2				
住環境と福祉	講義	選択			2		
介護実習Ⅰ	実習	選択		3			
介護実習Ⅱ	実習	選択		2			
介護実習Ⅲ	実習	選択			2		
介護実習Ⅳ	実習	選択				3	

COC関連科目［生活科学科食物栄養学専攻］

授業科目	授業形態	履修方法	開講学期／単位数				備考
			1前	1後	2前	2後	
WE LOVE 鹿児島！	演習	必修				1	
食品加工学実習	実習	選択			1		
栄養教育実習	実習	選択			1		
給食管理実習Ⅳ	実習	選択				1	
教職実践演習（栄養教諭）	演習	選択				2	

学内他学科・他専攻開放科目

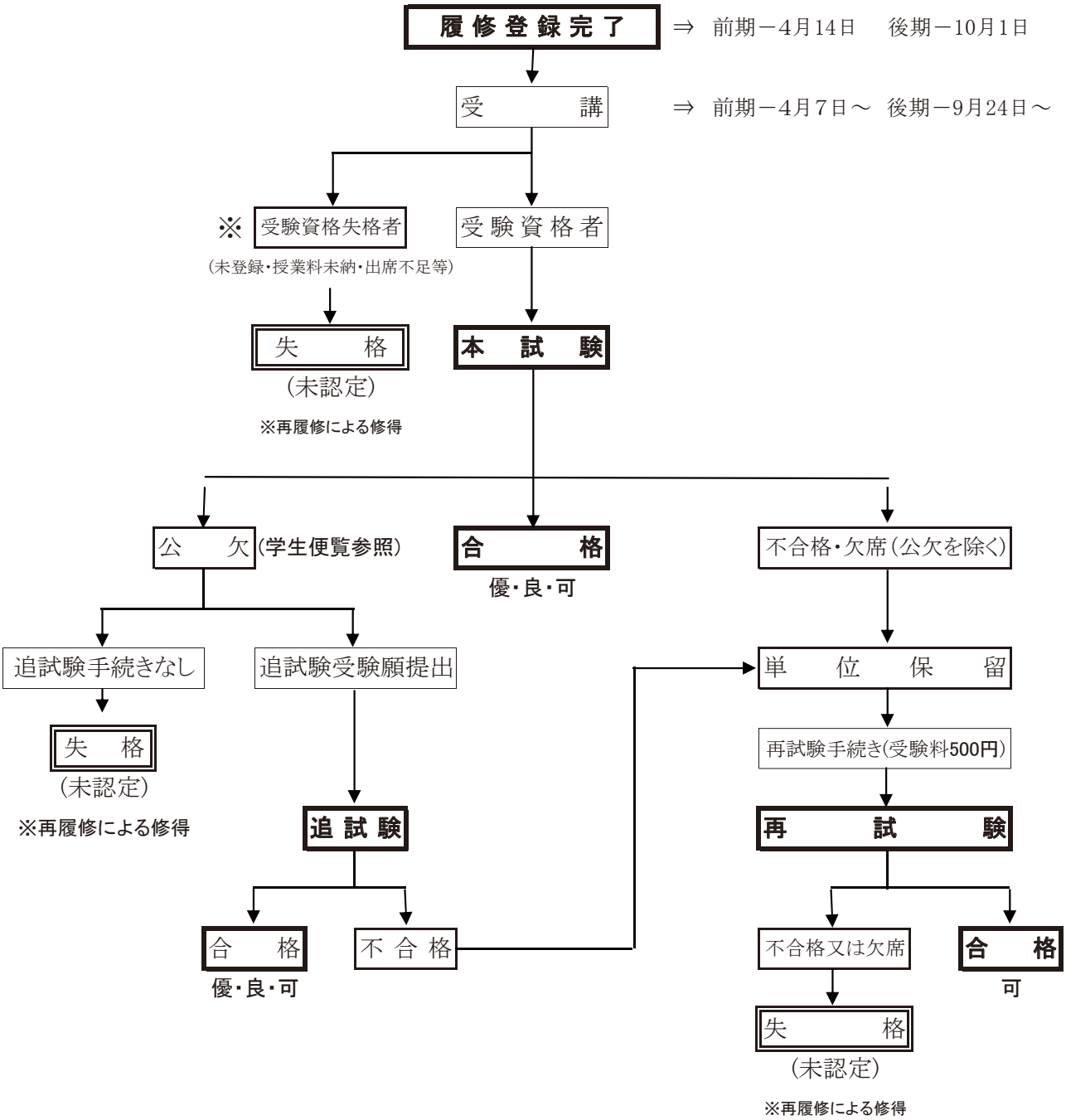
（1）児童教育学科…次の科目以外の「専門科目（教職に関する科目）」を開放する
①教育実習（実習指導等も含む）
②演習・実習科目の一部
③原則として非常勤講師担当科目

（2）生活科学科……次の科目以外は開放する。
①卒業必修科目（但し，講義科目は開放する）
②実験・実習・演習科目
③非常勤講師担当科目

（3）教養学科……原則として、卒業必修科目及び司書養成科目を除く、本学専任教員担当の講義科目をすべて開放する。

※「くらしとお茶」全学科対象。この科目の単位を修得すると日本茶アドバイザー資格が得られる。

「履修登録」から「単位認定」までの流れ



Ⅰ.「本試験」の成績発表について

①本試験の成績発表は、試験終了後「**成績発表用学生番号**」によって**掲示**します。

②「成績発表用学生番号」は、試験開始前に、配布します。

Ⅱ.「追試験」・「再試験」の実施日程等ならびに成績発表について

①本試験同様、「**成績発表用学生番号**」によって**掲示**します。

※「成績発表学生番号」は、学籍番号とは異なり、学年によって変わります。

用　語　解　説

これからの皆さんの学習に関連するさまざまなことばの意味・内容を説明します。よく読んで今後に活かして行ってください。

１．３つのポリシー

本学の建学の精神や教育理念、教育目標をふまえて、どのような学生を育成し、目標達成を目指すか等を３つのポリシーとしてまとめています。

①ディプロマ・ポリシー［学位授与の方針］：卒業までにどのような能力の習得を目指すのか、達成すべき目標を設定したものです。本学ではこのポリシーに示されている諸能力を「学習成果」と規定しており、後で出てくる（４.）「カリキュラム・マップ」に記載の、科目ごとの具体的目標を達成することによって学習成果が得られたものと考えます。

《一般教養のディプロマ・ポリシー》

(1) 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。
(2) 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。
(3) 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。
(4) 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。

《生活科学科　生活科学専攻のディプロマ・ポリシー》

(1) 教育課程の履修を通して保健・養護分野の学力を身につける。
(2) 人や環境の多様性を理解し、豊かな人間性及び創造性を身につける。
(3) 現場で応用できる能力を身につけ、常に社会に貢献しうるよう自らを高めることができる。

《生活科学科　生活福祉専攻のディプロマ・ポリシー》

(1) 介護に関する専門的な知識と、人と社会を理解するための幅広い教養を身につける。
(2) 介護職として必要に応じたコミュニケーション能力を身につけ、サービス利用者の個別性に応じた介護サービスを提出できる専門的技能を習得する。
(3) サービス利用者の自己決定を尊重し、尊厳の保持・自立支援に関わる介護実践力を身につける。
(4) 自らの介護実践能力を評価でき、介護職のリーダーとして、よりよい介護実践の方向性を示す能力を身につける。
(5) 介護に必要な専門知識と技術を活用して自らの新たな課題を発見し、解決する能力を身につける。

《生活科学科　食物栄養学専攻のディプロマ･ポリシー》

(1) 栄養士として必要な食と健康に関する専門知識を身につける。

(2) 信頼される栄養士として自らを高め、他者と目的を共有し協働できる人材となることを目指す。

(3) 時代と社会の要請に応えうる栄養士として必要な専門的技能を習得する。

(4) 食と健康の専門家として幅広い知識やコミュニケーション能力を身につける。

②カリキュラム・ポリシー［教育課程編成の方針］：ディプロマ・ポリシーで定めた達成目標の実質化をはかるために、どのような方針で教育課程を編成しているかをまとめたものです。

［各学科・専攻のポリシー］

《生活科学科　生活科学専攻のカリキュラム・ポリシー》

主に保健・養護の領域において、社会で役立つ実践的能力を身につけることができるように支援します。特に、養護教諭二種免許状と医療秘書実務士認定証、中学校教諭二種免許状（保健）、第一種衛生管理者免許取得に必要な科目を設定しています。

《生活科学科　生活福祉専攻のカリキュラム・ポリシー》

(1) 複雑多様化する福祉ニーズに対応できる介護福祉のスペシャリストとしての知識と教養の修得をめざす。

(2) 専門科目の「介護」では、実習や個別指導により、介護の専門性を身につけた実践力を高めるための科目を取り入れる。

(3) 福祉に関連したレクリエーション・インストラクター資格、ピアヘルパー受験資格、福祉住環境コーディネーター資格取得等に関する科目も多彩に取り入れる。

《生活科学科　食物栄養学専攻のカリキュラム・ポリシー》

(1)　健康の基盤である「食物」と「栄養」についての専門知識と技術を身につけ、地域社会の人々の健康づくりに貢献できる地域密着型の人材の養成と、給食実務に強く、的確な栄養指導と食教育ができる栄養士の養成をめざす。

(2)　栄養士に必要な専門科目はもちろんのこと、食の専門家をめざす人のために、栄養教諭をはじめとしてフードスペシャリスト、さらに日本茶アドバイザーなど地域の食文化に関する科目等も、多彩に取り入れる。

③アドミッション・ポリシー［入学者受け入れの方針］：デイプロマ・ポリシーを実現するために、本学がどのような能力や意欲、適性等を有する学生を求めているかをまとめたものです。

［各学科・専攻のポリシー］

《生活科学科　生活科学専攻のアドミッション・ポリシー》

(1) 健康や病気に強い関心を持つ人

(2) 教育、医療をはじめ様々な職場において、健康支援やその増進、環境管理にたずさわる専門家として働くことを希望する人、具体的には、養護教諭、医療事務・医療秘書職、第一種衛生管理者

(3) 心と身体の支援者などをめざす人

《生活科学科　生活福祉専攻のアドミッション・ポリシー》

(1) 人間がすき、人の世話をして社会に役立つ仕事をしたい人

(2) 人々の喜びや悲しみを自分のこととして共感することができる人

(3) 幅広い教養を身につけて、深い人間理解ができる人

(4) コミュニケーション能力があり、文章読解力と文章表現力を身につけたい人

《生活科学科　食物栄養学専攻のアドミッション・ポリシー》

(1) 食の専門家として、学ぶ意欲を持ち、社会に貢献したいと望む人

(2) 基礎学力を備え、自ら考える力を持つ人

(3) 知的好奇心が旺盛で、自分の可能性に挑戦できる人

(4) 人と人とのつながりを大切にする人

２．教育課程（カリキュラム）

卒業までの 2 年間で学べるすべての科目を一覧にしたものです。どのような順序で、どんな科目を学ぶのか、資格取得に必要な科目はどれか等が記されています。

３．シラバス

各科目の具体的な内容を説明したものです。概要、各回の内容、到達目標等が詳しく書かれていますので、受講中も参照して学習に役立ててください。

４．カリキュラム・マップ

履修することにより何ができるようになるかという到達目標を科目ごとに明らかにし、その到達目標が、「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」のどの項目を達成することにつながるかを一覧表にしたものです。学習の成果を確認するときにも用います。

５．カリキュラムツリー（履修系統図）

各科目を「ディプロマ・ポリシー」のどの項目に合致するかで分類し、開講学期ごとにまとめたものです。在学中見通しを持って学習できるように科目の順序性や関係性を示してあります。

６．CAP 制度

各科目の単位を修得するには、単に講義に出席するだけでなく、その前後に自主的な学習が必要です。その学習時間を確保するという観点から、1 年間に履修科目として登録することができる単位の上限を設ける制度のことです。生活科学科では次のとおり、生活科学専攻は 70 単位、生活福祉専攻は 63 単位、食物栄養学専攻は 73 単位と定められています。

７．GPA（グレード・ポイント・アベレージ）

100 点満点以外の成績評価のひとつとして使用します。皆さんの力をより厳密に、また多角的に評価するためのものです。算出方法は以下の通りです。

（１）まず、100 点満点法の素点を 5 点満点になるように変換してＧＰを求める。

GP =（100 点満点の素点成績−50）÷ 10

＊素点が 60 点未満の場合は、ＧＰは一律 0 とする

（２）次に、授業時間数に重きを置くこととし、ＧＰに、15 時間の授業には「２」を、7.5 時間の授業には「１」を、授業数の比重として乗じる（掛ける）。

（３）GPA は、（２）によって得られた各科目の数の総和を、授業数の比重の総和で除す（割る）ことで得られる。

GPA ＝ （履修科目の GP × 授業数の比重）の総和／履修科目の時間数比重の総和

例： 科目 A（15 時間）：70 点
科目 B（15 時間）：65 点
科目 C（7.5 時間）：90 点 の場合

注＊15 時間（15 週・15 回）
7.5 時間（7.5 週・7.5 回）
を意味する

それぞれの GP は、

科目 A：（70－50）÷10＝2
科目 B：（65－50）÷10＝1.5
科目 C：（90－50）÷10＝4

GPA は、（2×2＋1.5×2＋4×1）／（2＋2＋1）＝11／5＝2.2 となる。

［注意］不可（60 点未満）・失格となった科目は、ＧＰを「０」として計算する。

８．授業時間以外の学習

履修科目の内容を十分に理解してその定着を目指すには、講義（演習・実技・実習も含む。）を単に受講するだけでは不十分です。講義の各回の予習・復習は言うまでもなく、その科目の内容の把握およびその発展的理解のための自主的学習が必要となります。シラバスに記された事項を参考に、自ら課題を設けて取り組むことによって、科目の確実な理解と定着をはかることが求められています。

９．オフィスアワー

授業科目等に関する質問や相談に教員が応じるための時間です。基本的にこの時間帯であれば予約なしに研究室を訪れることができます。シラバスに明記してあるので参照してください。非常勤の先生方の場合は、基本的に「授業前後」の時間となっています。

一般教養科目

生活科学専攻

生活福祉専攻

食物栄養学専攻

日本語表現の基礎

担当者：　瀬戸口　修

●科目の概要

日本語の表現（書くこと・話すこと）について、基礎的な表現力（就中、書く力）を身につけることをめざす。それも、自ら進んで、興味・関心をもって、話し・書けるようになることをめざす。

●授業計画

1　自己紹介をする（話す・書く）
2　原稿用紙のつかい方を学ぶ
3　文字について（字形・楷書・鉛筆書き・50音図）
4　表記法について（文体＝デアル・ダ・タ体、ひらがな書き）
5　課題作文の提示・・・①　レヴェルⅠ
6　一文の短さ・簡潔さの模範→奨励→実践へ
7　話しことばと書きことばの差異の具体的理解（演錬）
8　課題作文の提示・・・②　レヴェルⅡ
9　文のつづけ方（接続のしかた）の理解→演錬→実践
10　課題作文のチェックとフィードバック
11　課題作文の提示・・・③　レヴェルⅢ
12　アウトライン・段落の設定と工夫（文章構成）
13　一語作文・一文作文の理解・演錬→実践
14　文章の推敲・チェック→演錬
15　課題作文の提示・・・④（最終作文）　レヴェルⅣ
16

●到達目標

1. 原稿用紙のつかい方を身につける
2. 文字・表記・用語に習熟する
3. 文章表現力を身につける

●授業時間以外の学習

・新聞やテレビなどで、情報を収集し、自分の意見や考えなどを表明・開陳する場を多くもつ

●テキスト・参考書等

米田・藏中・山上：『大学生のための日本語表現実践ノート』風間書房

●成績評価

各種レポート（20%）と最終作文（80%）

●オフィスアワー

月曜日　7・8限　（研究室）

●備考

倫理学

担当者：　村若　修

●科目の概要

「倫理学」とは、人の生き方、人と人との関係のあり方、社会のあり方について、善／悪や正／不正という視点で考えていく学問です。「道徳」や「倫理」はすでに皆さんに身についているものですが、倫理学はそれについて反省し、吟味する学問だと考えてください。本年度は、「生命倫理」と呼ばれる領域の諸問題、主として医療にまつわる諸問題について考えていきます。

●授業計画

1　倫理学と「生命倫理」
2　生命倫理の成立(１)患者の権利
3　生命倫理の成立(２)インフォームド・コンセントの歴史
4　生命倫理の成立(３)生命倫理の基本原則
5　尊厳死(１)
6　尊厳死(２)
7　安楽死(１)
8　安楽死(２)
9　人工妊娠中絶
10　不妊治療技術の利用(１)
11　不妊治療技術の利用(２)
12　出生前診断(１)
13　出生前診断(２)
14　脳死と臓器移植(１)
15　脳死と臓器移植(２)
16

●到達目標

1. 倫理学的な思考を身につける
2.「生命倫理学」の基礎を理解する3. 身近な生命倫理の問題を知り、それについて自分の考えを述べることができる

●授業時間以外の学習

・テキストの該当箇所を読んでおく

●テキスト・参考書等

テキスト：中山愈編『現代世界の思想的課題』弘文堂
使用視聴覚機器：VHS ビデオデッキ、DVD プレーヤー

●成績評価

定期試験の成績（８０％）　※筆記試験は６０分で実施
提出物（感想文等）（２０％）

●オフィスアワー

火曜日　13：00〜14：30　（研究室）

●備考

文学

担当者：　瀬戸口　修

●科目の概要

日本文学の代表的古典の『万葉集』をとりたてて、テーマ別に解説を加え、具体的な和歌の鑑賞を通して、古代人のものの考え方・とらえ方を理解する。さらに、現代人との差異を、分析・考察する。

●授業計画

1 『万葉集』の概説（成立・構成・編者・名義の由来）
2 万葉の自然Ⅰ・・・花（梅、桜、もみじなど）
3 万葉の自然Ⅱ・・・動物（鳥など）
4 万葉の恋Ⅰ・・「孤悲」、恋占
5 万葉の恋Ⅱ・・初恋・片恋
6 万葉の恋Ⅲ・・待つ心・忍ぶ恋・秘密の恋
7 万葉の恋Ⅳ・・勿忘草の恋、占有の恋
8 万葉の結婚（当時の時代状況・結婚形態）
9 万葉の夫婦
10 万葉の親子
11 万葉の兄弟・友人
12 万葉の旅
13 防人歌
14 万葉の社会生活
15 総まとめ・プレテスト
16 定期試験

●到達目標

1. 万葉集の和歌の鑑賞ができる
2. 古代人の考え・想いを理解する
3. 自己の考え・意見を確認する

●授業時間以外の学習

日本の名所・旧跡や歴史ならびに和歌・文字に興味をもち、伝統的文化に、いろいろな機会を通してふれる

●テキスト・参考書等

中西進『万葉集全訳原文付』１～４巻　講談社文庫
斎藤茂吉『萬葉秀歌』上・下巻　　岩波新書

●成績評価

各種レポート（20%）
筆記試験　（80%）

●オフィスアワー

金曜日・７・８限・研究室

●備考

文学

担当者：　吉村　圭

●科目の概要

文学作品の深い理解のためには、歴史的背景の理解が不可欠である。そこでこの講義では、代表的なイギリス文学の作家・作品を、イギリスの歴史をたどる形で学習する。英文学史のおおまかな流れを把握しながら、各時代の文学作品への理解を深める。この講義では文学というものを広義にとらえ、ポピュラーミュージック等にも言及する。講義では作品の原文をはじめ、映画等を用いて作家の人生、作品のあらすじをたどる。

●授業計画

1 オリエンテーション
2 １６世紀：　英国国教会の成立
3 ウィリアム・シェイクスピアとエリザベス朝演劇の流行
4 シェイクスピア　『ハムレット』鑑賞
5 『ハムレット』に見られる女性の姿
6 １７世紀：　清教徒革命から王政復古へ
7 ジョン・ミルトン　『失楽園』
8 １８世紀：　名誉革命とイギリス小説の誕生
9 ジョナサン・スウィフト　『ガリヴァー旅行記』
10 １９世紀：　産業革命の時代とロマン派詩人
11 チャールズ・ディケンズと産業革命の影
12 ディケンズ　『クリスマス・カロル』鑑賞
13 ２０世紀前半：　世界大戦の時代
14 T. S. エリオットと A. A. ミルン
15 ２０世紀後半：　ヴェトナム戦争とロックンロールの隆盛
16

●到達目標

1. 各講義を聞き自分の意見を述べることができる
2. 文学作品について自ら調査し考えを述べることができる

●授業時間以外の学習

・レポート作成時には、文献を用い作品の時代背景や作家について調査すること

●テキスト・参考書等

テキスト　：なし
参考書　：『はじめて学ぶイギリス文学史』（ミネルヴァ書房）
『たのしく読めるイギリス文学』（ミネルヴァ書房）

●成績評価

感想カード（５０%）
小テスト・レポート（授業時、期末、計５０%）による総合評価

●オフィスアワー

水曜　１２：５５－１４：２５　（研究室）

●備考

心理学

担当者：　園田　美保

●科目の概要

心理学の主な分野を網羅する。
講義形式であるが、受講者はそれぞれ自分自身の日常生活や身近な他者を想定して、内容の理解を行い、各回の内容に即したレポートで記述する。
主な目標は、より深い人間理解である。ここでの人間とは、もちろん自分自身を含むものであり、その点では自己を探る手がかりを見つける。
また同時に、身近な他者を理解する手がかりやきっかけとして、心理学の各領域や方法を学びながら、考える力も身に付けていく。

●授業計画

1 オリエンテーション（講義形式、授業計画、心理学導入）
2 心理学の歴史と多様な考え方、方法、領域
3 動機づけ（各種動機づけ説、動機づけを高める方法）
4 情動（情動の発達、情動の種類、感情と表出、気分障害）
5 認知（私たちが環境を知るしくみ、感覚・知覚・認知）
6 学習（人間の行動が作られるしくみ、条件づけ）
7 中間振り返り＜普段の「わたし」の行動を心理学で解説＞ *
8 知能（構造、発達、遺伝と環境、創造性を発揮する思考）
9 パーソナリティ（捉え方：類型論と特性論、形成要因）
10 適応（ストレス、フラストレーション、防衛機制）
11 社会と人間１（集団とは、集団から個人への影響）
12 社会と人間２（少数者の影響力、リーダーシップ論）
13 臨床の心理学１（心理的問題、反応の症状理解）
14 臨床の心理学２（心理療法のアプローチ例４種）
15 総括・補足・全体ふり返り *
16

●到達目標

1. 人間の心理と行動との関係を理解する
2. 自己理解のために心理学の考え方を当てはめ、説明できる
3. 他者理解のために心理学の考え方を当てはめ、理解できる

●授業時間以外の学習

・各回の授業からキーワードになる言葉や概念を５語程ピックアップし、説明できる程度に理解を深める・身近な例を取り上げ、それらを上記のキーワードを使用して説明する

●テキスト・参考書等

特定のテキストは使用せず、随時資料配布する
（参考書一部例）
『心理学』武藤隆（編）　有斐閣　2004
『心理学　Introduction to Psychology』浦上昌則・神谷俊次・中村和彦（編）　ナカニシヤ出版　2005

●成績評価

小レポート及び受講態度65%
中間振り返りレポート10%　最終レポート25%

●オフィスアワー

水曜日　16：30〜17：30　（研究室）
（その他、金曜以外で事前調整した日時にも対応します）

●備考

授業計画で「*」の回にはそれまでの配布資料・レポート持参

社会学

担当者：　倉重　加代

●科目の概要

日常生活の何気ない行為や社会で起こっている出来事を題材に日常生活や社会の仕組みを解読していくことができるよう、自分の視点から離れて世の中を見ることや、想像力の大切さを学習する。そして、私たちの行動に影響している社会の意味や形式を意識し、それらがどのように形成され社会に定着するか、また、それらが多様であり変化するものであることを理解することを目指す。順序としては、まず、自分自身のことや自分と直接接する他者との関係を題材に身近な人間関係の間で繰り広げられる行為の分析をし、次第に扱う題材の範囲を広げ、社会の大きな変化と個々人の行為の関係について学習する。

●授業計画

1 「社会学すること」の視点を学ぶ
2 人々をつなぐ言葉の特徴を学ぶ
3 人々の行為の意味を学ぶ
4 自分探しについて考える
5 アイデンティティの確立における社会の仕組みを学ぶ
6 主体的に生きることと自由について考える
7 健康と病気の境界は？―対比されるものの境界について学ぶ
8 「正常―異常」の判断の背後にあるものを学ぶ
9 当たり前を疑問に思う――社会構築主義の視点を学ぶ
10 水俣病を題材に、レッテルを貼ることの意味について考える
11 共同体 (1) 家族の特徴を考える
12 共同体 (2) 地域社会の性質とその変容について学ぶ
13 共同体 (3) 人々の新たな関係性について学ぶ
14 国家と市民社会 (1) 国家とは何かを学ぶ
15 国家と市民社会 (2) 現代社会の市民のあり方を考える
16 定期試験

●到達目標

1. 世の中の出来事を自分の立場から離れて見る視点を身につける
2. 自分の関心と社会の出来事を結びつける能力を身につける
3. 社会的に共有される意味や形式の相対性について理解する

●授業時間以外の学習

・日頃から新聞を読んだりテレビのニュースを見たりする
・自分が生活してきた地域社会の状況を把握しておく

●テキスト・参考書等

○テキスト
友枝俊雄ほか著『社会学のエッセンス〔新版〕』2007年 有斐閣.
○参考書
E. フロム著『自由からの逃走』東京創元社.
P. アリエス著『〈子供〉の誕生』みすず書房.　ほか授業中に紹介

●成績評価

筆記試験（90%）、受講態度（10%）

●オフィスアワー

火曜日・金曜日　16：30〜18：00　（倉重研究室）

●備考

国際化と経済

担当者：　大重　康雄

●科目の概要

経済環境の複雑化とグローバル化が進み、社会人・企業人として要求される経済・金融に関する知識も高度なものが要求されるようになってきた。本科目では産業と経済・金融の基本的なしくみを学び、且つグローバル社会を理解するため国際経済の現状に触れ、日本・地域経済の課題について考える。

●授業計画

1 「経済」とは何か・・・経済学的考え方について
2 GDP で考える物価と経済成長
3 金融のしくみと経済
4 貿易取引と決済のしくみ
5 国際通貨制度の現状と問題点
6 企業のグローバル化（多国籍化の現状）
7 地域経済統合（FTA/EPA）の歩み
8 グローバル・イシュー　Ⅰ（開発と貧困）
9 グローバル・イシュー　Ⅱ（環境・エネルギー・食料）
10 各国・地域事情－グローバル化と日本
11 各国・地域事情－アジア・ＡＳＥＡＮ
12 各国・地域事情－アメリカ
13 各国・地域事情－ヨーロッパ・ロシア
14 鹿児島県経済とグローバル化
15 講義のまとめ
16 筆記試験

●到達目標

1. 基本的な日本経済・国際経済の仕組みが理解できる
2. グローバル化の進む地域経済で何が今問題でどう自分は行動すべきかを主体的に判断できる

●授業時間以外の学習

・各授業のテーマの中から自分の最も関心のある経済分野での事柄についてサマリーを作成。そのサマリーに基づきグループで討論し、問題点をまとめ次回授業で質問する

●テキスト・参考書等

テキスト：「私たちの国際経済－見つめよう、考えよう、世界のこと」有斐閣ブックス
参考文献：「グローバルエコノミー」有斐閣アルマ
講師作成レジュメ (毎回配布)

●成績評価

・学期末に実施する筆記試験（90分で実施）の成績及び、授業への取組姿勢によって評価する。授業取組姿勢10%・定期試験90%

●オフィスアワー

16：30～17：30（大重研究室）・要事前連絡

●備考

単位互換科目

日本国憲法

担当者：　池田　哲之

●科目の概要

日本国憲法の重要条項の意義を、「立憲主義」の観点から学び取ってゆく。

●授業計画

1 鴎州憲政史にみる自由権の確立
2 人権の諸相－自由権、社会権、参政権、請求権－
3 日本国憲法の構造
4 立法府（国会）の権能
5 行政府（内閣）の権能と内閣総理大臣の権限
6 司法府（裁判所）の権能と違憲立法審査制
7 人権の享有主体
8 私人間における憲法効－３つの判例より－
9 精神的自由権（１）
10 精神的自由権（２）
11 経済的自由権とその規制法理
12 人身の自由－刑事法制の目的－
13 社会権（１）－生活保護法を中心に－
14 社会権（２）－労働法制－
15 憲法改正問題
16 筆記試験

●到達目標

1.「人権」の歴史的由来について理解する
2. 統治機構と人権保障の関係について理解する
3.「国民国家」における憲法の機能を把握する

●授業時間以外の学習

・日頃より意識して、新聞等における憲法関連記事を読むよう努めること
・担当教員の与える課題に取り組むこと

●テキスト・参考書等

指定テキスト：駒村圭吾編『プレステップ憲法』弘文堂
参考書：資格試験研究会編『1択1答憲法過去問ノック』実務教育出版
浦部法穂『世界史の中の憲法』共栄書房

●成績評価

筆記試験９０点、受講姿勢・意欲１０点

●オフィスアワー

月曜日１６：３０～１７：３０　研究室：西館４１４

●備考

上記記載内容は、受講生の理解度、受講生数などにより、授業開始後に変更となるばあいもあります。

歴史学

担当者：　松﨑　康弘

●科目の概要

いわゆる「自分たちからは遠い存在の出来事の暗記」ではない、本来の歴史学の在り方を具体的な事例に基づいて学ぶ。民俗学や地理学などとの連携を視野に、柔軟で多角的な歴史の見方を学ぶ。
また、現在そして未来の人の生き方や社会の在り方を考えるために歴史研究がどのように生かせるかについても学ぶ。
「自分たちの身近に展開した歴史」という視点から、具体的には「地名」「妖怪」「人生儀礼」などのテーマを取り上げる。

●授業計画

1　地名研究と歴史①（地名研究の動向）
2　地名研究と歴史②（鹿児島における地名と歴史）
3　地名研究と歴史③（沖縄等における地名と歴史）
4　歌から読み取る地域の歴史
5　TV 番組から読み取る地域の歴史
6　妖怪研究と歴史①（研究の視点）
7　妖怪研究と歴史②（映画から読み取る歴史）
8　妖怪研究と歴史③（妖怪から読み取る社会史）
9　妖怪研究と歴史④（妖怪研究とこれからの社会）
10　生活研究と歴史①（死をめぐる文化①）
11　生活研究と歴史②（死をめぐる文化②）
12　生活研究と歴史③（恋愛・結婚をめぐる文化）
13　生活研究と歴史④（伝統芸能）
14　生活研究と歴史⑤（食の歴史）
15　まとめ（自らの生活と結びつく歴史）
16　定期試験

●到達目標

1. 民俗学等との連携も視野に、歴史学の方法を理解する
2. 過去の人々の生き方から自分の生き方を見つめなおす
3. 歴史学の成果を参照しながら、社会の在り方を考える

●授業時間以外の学習

授業で紹介された事例をもとに、「自分の地域にはどのようなものがあるか」を探ってもらう（筆記試験に反映）

●テキスト・参考書等

テキスト：使用しない
参考書：谷川彰英『地名の魅力』（白水社）、小松和彦『妖怪文化入門』（せりか書房）　ほか

●成績評価

筆記試験100%

●オフィスアワー

火曜　14：30〜16：20　（研究室：西411）

●備考

インターンシップ

担当者：　大重　康雄

●科目の概要

本科目の目的は、家庭と学校で教育を受けてきた学生に、今後参画して行く「社会」を体験する機会を与え、これまで得てきた知識やスキルが社会といかなる関連をもっているかを、地元企業での職業体験を通して考える機会とする。
・事前研修として、研修先企業団体研究、研修内容説明、職業意識・ビジネスマナー研修等の指導が、本学教員と２〜３名の学外講師陣によって行われる。学内指導・講義を終えた後、主に夏季休業中に１〜２週間インターンシップを体験。事後、報告書等に基づきインターンシップ発表会を開催し、他の職業体験での情報に触れる。

●授業計画

1　ガイダンスーインターンシップとは何か
2　研修先地元企業概要・エントリーシート登録方法説明
3　エントリーシート・自己ＰＲの書き方
4　一次マッチング説明・仕事の基本的心得
5　県内雇用環境の説明・働く意義
6　研修企業の研修内容説明
7　来客対応の基本・二次マッチング参加登録
8　職場の人間関係・二次マッチング調整
9　職場のマナー研修（学内講師）　外
10　企業のしくみとコンプライアンス
11　インターンシップ地元企業の業界研究
12　外部講師講演（県内企業の現状と課題等）　外
13　お礼状の書き方　（学内講師）　外
14　インターンシップによる職業体験　（1〜２週間程度）
15　研修日誌・研修報告書等作成・提出
16　インターンシップ参加報告発表会

●到達目標

1. 社会体験を短大での学習にフィードバックさせ、以後の学生生活に役立て、社会人としての自覚を持つ
2. 職業に関する興味、関心、適性がどこにあるかを自ら考えられる

●授業時間以外の学習

・関心ある企業について企業研究・調査を行う
・インターンシップ後、得られた成果を自分の進路決定に活かせるように努める

●テキスト・参考書等

参考図書：「インターンシップ―職業教育の理論と実践」学文社
講師作成プリント

●成績評価

研修報告書等提出状況30%、参加報告プレゼンテーション70%

●オフィスアワー

16：30〜17：30（大重研究室）・要事前連絡

●備考

外：外部講師
COC 関連科目

キャリアガイダンス

担当者：　１年生指導教員

●科目の概要

有意義な短大生活を過ごすために、卒業後の進路に関して多方面から学び、自己理解を深め、自分がどのような生き方をしたいのかを考える。

●授業計画

1	キャリアデザインに必要な基礎的知識を学び、理解する	B
2	短大生活の送り方	A
3	社会人として働く意味と職業観を学ぶ	B
4	多彩な職種や業種を系統的に学ぶ	C
5	キャリアガイダンス（社会人として必要なマナーを学ぶ）	A
6	キャリアガイダンス（コミュニケーション力を学ぶ）	A
7	会社組織の仕組みと自分の立場を理解する	C
8	キャリアデザインの構築（進路を考える）	B
9	レポート等の提出	
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

●到達目標

1. 自己理解を深める
2. 自分の生き方を考える

●授業時間以外の学習

1. 日常的に求人状況を把握し、企業研究を行う
2. 進学希望者は、進学先研究を行う
3. 授業後にレポート等にまとめる

●テキスト・参考書等

参考書：「ビジネスマナーの基本講座」ANA ラーニング、成美堂出版

●成績評価

受講態度６０％、レポート等の提出状況４０％

●オフィスアワー

木曜7,8限、各講義室

●備考

A：学内教員による指導、B：就職ガイダンス（学生支援課）、
C：外部講師（卒業生を含む）

キャリアガイダンス

担当者：　２年指導教員

●科目の概要

１年次のキャリアガイダンスを基に、働くことの社会的及び個人的意義を考えさせる。また、卒業生を始めとした外部講師の講和等も参考に、進路のイメージを具体化し、実際の就職活動につなげる。

●授業計画

1	到達目標を設定し、自己啓発を行う	A
2	キャリアデザインの構築（進路を具体化する）	A
3	キャリアガイダンス（就職活動の実際的な進め方を学ぶ）	B
4	職場の基本ルールを学ぶ	B
5	キャリアデザインに応じた働き方を理解する	C
6	キャリアガイダンス（就職活動指導）	B
7	キャリアガイダンス（将来設計と仕事の取組み方）	C
8	キャリアガイダンス（お礼状の書き方等）	B
9	レポート等の提出	
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

●到達目標

1. 働くことの意義を考える
2. 社会に関心を持ち、自己実現を目指し、行動する

●授業時間以外の学習

1. 日常的に求人状況を把握し、企業研究を行う
2. 進学希望者は、進学先研究を行う
3. 授業後にレポート等にまとめる

●テキスト・参考書等

参考書：「ビジネスマナーの基本講座」ANA ラーニング、成美堂出版

●成績評価

受講態度６０％、レポート等の提出状況４０％

●オフィスアワー

木曜7,8限、各講義室

●備考

A：学内教員による指導、B：就職ガイダンス（学生支援課）
C：外部講師（卒業生を含む）

英語演習Ⅰ

担当者：　髙島　まり子

●科目の概要

高校までに学んだ英語の復習を踏まえて「聴く・話す・読む・書く」の総合力を向上させ、英語によるコミュニケーション能力の土台を築いて更なる応用につなげることを目指す。

●授業計画

1 Unit 1　品詞について
2 Unit 2　平叙文・否定文・疑問文・命令文
3 Unit 3　主語・目的語・第1、3、4文型
4 Unit 4　第2、5文型
5 Unit 5　前置詞
6 Unit 6　時制：現在・過去・未来・進行形
7 前半の復習
8 Unit 7　現在完了形
9 Unit 8　過去完了・未来完了形
10 Unit 9　接続詞・従属節
11 Unit10　埋め込み文
12 Unit11　比較級・最上級
13 Unit 12　能動態・受動態
14 後半の復習
15 全体の振り返り
16 定期試験

●到達目標

1. 基礎的文法力を固める
2.「聴く・話す・読む・書く」力を向上させる
3. リスニングや会話練習でコミュニケーション能力を磨く

●授業時間以外の学習

・テキストの予習・復習、課題の提出

●テキスト・参考書等

Step-by-Step Basic English Grammar（朝日出版）

●成績評価

受講態度（30%）定期試験（70%）

●オフィスアワー

金曜日　16：30〜17：30（研究室）

●備考

英語演習Ⅰ

担当者：　吉村　圭

●科目の概要

この授業では会話や英作文に最低限必要な英文法の理解を目標とする。また文法事項を理解した上で、リーディング、英作文と英文の聞き取りを行い、総合的な英語力の向上を目指す。その際、テキストの問題のみならず、マンガ等を用いより理解を深める。

●授業計画

1 オリエンテーション
2 Unit 1　be 動詞（現在形）
3 Unit 2　一般動詞（現在形）
4 Unit 3　be 動詞（過去形）
5 Unit 4　一般動詞（過去形、規則変化）
6 Unit 5　一般動詞（過去形、不規則変化）
7 Unit 6　命令文、There is[are] 〜、it の特別用法
8 Unit 7　注意すべき疑問文
9 Unit 8　進行形
10 Unit 9　未来形
11 Unit 10　助動詞（1）
12 Unit 11　助動詞（2）
13 Unit 12　名詞・冠詞　基本事項
14 Unit 12　名詞・冠詞　応用
15 総括
16 定期試験

●到達目標

1. 英文の基礎的なルールを理解し、簡単な英文の聞き取り、及び読解ができる

●授業時間以外の学習

・テキストに出てきた単語・表現を覚え語彙を増やす

●テキスト・参考書等

テキスト　：Everyday English Grammar　南雲堂
参考書　：『英単語ターゲット1400』等単語帳

●成績評価

定期試験・小テスト・提出物（７０%）、授業貢献度（３０%）による総合評価

●オフィスアワー

水曜日　１２：５５〜１４：２５　（研究室）

●備考

英語演習Ⅰ（C）

担当者：　後藤　廣文

●科目の概要

英会話の基礎となる英語を聞き取る力をつけ、併せて英米の社会や文化に関する知識を深める

●授業計画

1 授業方針の説明および Listening(Face 等)
2 How much is the bus ticket? 1　TOEIC Drill1, Drill 11
3 How much is the bus ticket? 2　TOEIC Drill 2, Drill 21
4 May I use your phone? 1　TOEIC Drill 12
5 May I use your phone? 2　TOEIC Drill 3, Drill 31
6 Turn right onto Bush Street 1　TOEIC Drill 22
7 Turn right onto Busg Street 2　TOEIC Drill 4, A song
8 I'd like to confirm my flight. (Departures)　TOEIC Drill 23
9 Welcome aboard.　TOEIC 13
10 Test (確認テスト)
11 I'd like to book a room.　TOEIC Drill 5, Drill 32
12 I'm starving. (Bill A・B)　TOEIC Drill 24
13 These disks are on special.　TOEIC Drill 33
14 Where did Ileave my umbrella?　TOEIC Drill 25
15 Can you break a five?　TOEIC Drill 14
16 学期末試験

●到達目標

1. TOEIC リスニング問題等で正答率60%を取ること

●授業時間以外の学習

CD 付教科書なので、授業中で行った問題について繰り返し聞いて、どこが何が、わからなかったのかしっかり確認すること

●テキスト・参考書等

辞書（どこの辞書でも可）（単語の意味だけでなく、発音記号が読めること――発音記号については授業中に説明します）

●成績評価

小テスト20%　学期末試験80%

●オフィスアワー

時間・・・講義時間の前後
場所・・・講義室

●備考

ドイツ語演習Ⅰ

担当者：　武田　輝章

●科目の概要

はじめてドイツ語を学びたいという人が対象です。ゼロからのスタートですから、英語が苦手だった人も心配はいりません。英語が得意な人は、英語とドイツ語を比較することで新たな発見があることでしょう。言葉はまず音が大切です。恥ずかしがらずに大きな声で発音練習をしましょう。簡単な決まり文句は、理屈抜きでそのまま暗唱します。次に、ドイツ語の仕組みについて自分の頭で考えてみましょう。さらに、ドイツ・オーストリア・スイスなどの歴史や文化にも触れながらヨーロッパの視点から世界を見てみましょう。

●授業計画

1 ドイツ語の簡単なあいさつを音で覚える
2 身近にあるドイツ語を見つけて読んでみる
3 ドイツ語のアルファベットを英語と比較して覚える
4 ドイツ語の文字とその読み方を学び、その仕組みを考える
5 英語にない文字と発音を学び、それらを意識して覚える
6 ドイツ語の文字と発音の仕組みを、自分の力で見つける
7 数字１～１０をドイツ語の音で覚える
8 動詞１：自分の名前を伝え、相手の名前を尋ねる
9 身の回りの物の名前をドイツ語で覚える
10 数字１～１０をドイツ語で書き、発音の仕組みを考える
11 動詞 kommen の使い方について学ぶ
12 名詞１：不定冠詞について学び、その仕組みを考える
13 動詞２：出身の国や都市について受け答えができる
14 英語と比較して、覚える数字を増やしていく
15 動詞 sein の使い方について学ぶ
16 定期試験

●到達目標

1. 基本的なドイツ語を、大きな声で読めるようになる
2. 日常のあいさつ程度の会話が、自然にできるようになる

●授業時間以外の学習

・ドイツ語の文章をノートに写し、単語の意味を調べてくる
・ドイツ語の単語や文章を、大きな声で読む練習をしてくる

●テキスト・参考書等

・テキスト：田中・筒井著『みるみるドイツ語』同学社　2013年
・参考書：新アポロン独和辞典（同学社）・常木実著『標準ドイツ語』（郁文堂）・関口初等ドイツ語講座3巻（三修社）・大岩信太郎著『ドイツ語の最初歩』（三修社）

●成績評価

筆記試験（60%）レポートと小テスト（20%）受講態度（20%）

●オフィスアワー

木曜日　12：30～13：30　(研究室)

●備考

なし

中国語演習Ⅰ

担当者：　谷口　明夫

●科目の概要

中国語を初めて学ぶ人を対象とする科目です。
中国と台湾で標準語として使用されている言葉を学びます。中国語の発音と基本的文法、日常の挨拶言葉、短い文の読解と簡単な作文を学びます。
発音の学習では、日本語にない母音・子音・声調を学び、有気音と無気音の違いを理解し、正確な発音の仕方を習得します。今後の学習の順調な発展を期するために、自分の姓名を紹介する文と１から10までの数詞を完璧に発音できるようになるまで練習します。
文型では「～です」「～を～する」「～を持っている」「～したい」「～よりも～だ」の構文の否定型と疑問型も学びます。

●授業計画

1　声調とは　単母音と声調　声調の変化　簡単な挨拶言葉
2　第１課　「～です」「～でない」自己紹介　複母音と鼻音
3　同上　声母・無気音・有気音・摩擦音・巻舌音　１～10
4　第２課　「～の～」「どの～」「なんの～」　疑問詞とは
5　同上　発音の矯正と朗読の反復練習　単語の補充
6　同上　発音の矯正　自分の名前の中国語音の確認
7　第３課　「～を～する」「～も～する」　動詞述語文
8　同上　連動文　場所を表す言葉　発音の矯正と反復練習
9　同上　反復練習　１～10の数詞と自己紹介の発音の矯正
10　第４課　「～したい」反復疑問文　形容詞述語文
11　同上　指示代名詞（こそあど）　発音の評価
12　同上　単語の補充　発音の矯正　反復練習　発音の評価
13　第５課　「～がいます」「～を持っています」　否定形
14　同上　「～よりも～だ」「～ほど～ではない」発音評価
15　同上　「いくつ」「どれほど～か」　１～10億の数詞
16　試験

●到達目標

1. 本文を正確な発音で読み、ローマ字ピンインでも書ける
2. 中国語で名前を紹介し、１～10の数を正確に言える
3. 学んだ単語と文型の文を読み、読み書きができる

●授業時間以外の学習

・教科書付属の CD を何度も聞いて発音とリズムを習得する
・教科書本文とローマ字ピンインを書き写し、暗唱する

●テキスト・参考書等

【教】相原茂・陳淑梅・飯田敦子
『日中いぶこみ広場』　朝日出版社　2015年　第７刷
【参】相原茂『はじめての中国語学習辞典』　朝日出版社　2002年

●成績評価

１～10の数の発音と自己紹介の発音（20 %）　筆記試験（70%）　受講態度（10%）

●オフィスアワー

講義時間後　（講義室）

●備考

韓国語演習Ⅰ

担当者：　金　孝珍

●科目の概要

韓国語を初めて学習する人が対象です。授業では基礎文法を説明した後、音読練習、作文練習、対話練習をします。授業の最後に目標会話を暗記し発表する時間を設けることにより学習内容を授業時にしっかり身につけることを目指します。

●授業計画

1　韓国・韓国文化紹介 / 韓国語の文字と発音
2　韓国語の文字と発音①
3　韓国語の文字と発音②
4　韓国語の文字と発音③
5　簡単な挨拶・自己紹介 / 確認テスト
6　物の名称について表現する①
7　物の名称について表現する②
8　出身地について尋ねる①
9　出身地について尋ねる②
10　家族を紹介する・名前を尋ねる①
11　家族を紹介する・名前を尋ねる②
12　存在の有無を表現する①
13　存在の有無を表現する②
14　居場所について尋ねる
15　総括
16

●到達目標

1. 韓国語の文字と発音を表わすことができる
2. 自己紹介や簡単な日常会話ができる
3. 他国の言語に触れることで文化の多様性を理解することができる

●授業時間以外の学習

・教科書を事前に読んでおくこと
・各課に出てくる単語や文法や表現を暗記すること

●テキスト・参考書等

入佐信宏・金孝珍 共著『これで話せる韓国語 STEP1』白帝社2015

●成績評価

授業での積極性 (10%)　小テスト (40%)　定期試験 (50%) で評価することとし、合計が60点以上に到達した者を合格とする

●オフィスアワー

講義前後の休憩時間　（講義室）

●備考

数学基礎

担当者：　内田　豊海

●科目の概要

数学は、昔から様々な文化で多くの人々が創造してきた知の体系です。本講義では、多様な単元を取り扱い、問題解決を通して、「数学すること」の楽しさを実感することを目的としています。また、先人の知に触れることで、文化としての数学を継承するとともに、数学的な考え方のよさも体験し、自ら創意工夫し、問題解決を試みようという態度を培っていきます。

●授業計画

1 数の歴史　いろいろな文化にある様々な数学
2 不思議な数のパターン
3 微分と積分　イメージすると計算できる
4 迷路　出口を見つけるためにはどうしたらいいだろう
5 グラフを読む　鹿児島の人口変動を探ろう
6 数値を読み解く　オリンピック選手を選んでみよう
7 タングラム　図形を組み合わせてみると
8 面積　一つの知識でどれだけのことが考えられるか
9 確率　好きな人の隣に座れる確率は
10 フィボナッチ数　美しいデザインの中にある秘密
11 価値観　数を選ぶことで、自分の価値を知る
12 関数　変化する先の予測
13 証明　どうしたら人に説明できるだろう
14 ベクトル　力を図示するとわかること
15 不完全性定理　数学はどこまで正しいのだろうか
16 定期試験

●到達目標

1. 数学的活動の楽しさを知り、問題解決をしようとする態度を培う
2. 数学の有用性を認識する
3. 習得した技能を日常に応用することができる

●授業時間以外の学習

・授業後、適宜宿題を提示する

●テキスト・参考書等

<テキスト>
使用しない
<参考書>
ポザマンティエ『偏愛的数学　驚異の数』岩波書店
ポザマンティエ『偏愛的数学　魅惑の図形』岩波書店

●成績評価

定期試験の成績（７０％）　宿題（３０％）

●オフィスアワー

月曜日　終日　水曜日　５コマ目以外　（研究室西館４１２）

●備考

理科基礎

担当者：　内田　豊海

●科目の概要

身近なものや出来事でも、よく考えてみると、不思議なことばかり。この授業では、様々な「なぜ？」から出発して、その？を解き明かすことで、科学の楽しさを実感するとともに、科学的な考え方も身につけていくことを目標としています。

取り扱う内容は、広い科学の分野から、できるだけ多くの単元を選出しており、結果として、たくさんのことに興味・関心をもち、最終的には、自分で科学についてももっと知りたい、考えたいと思えるような授業構成にしてあります。

●授業計画

1 ロウソクの観察を通し、科学的な考え方を知ろう
2 五感で感じられることは何？　視覚・聴覚・触覚
3 五感で感じられることは何？　嗅覚・味覚
4 最先端の科学事情　今科学でできること
5 宇宙の誕生と今、そして未来
6 星座物語と地球誕生
7 生物　その進化と多様性
8 遺伝するもの、しないもの
9 病気ってなんだろう？
10 燃えるもの、燃えないもの
11 化学反応式はすごい　こんなことまで説明できる
12 電化製品はどんな仕組み？　イヤホンを作ってみよう
13 炎色反応　金属を使って花火を作ろう
14 時間の流れは同じではない？　相対性理論と量子力学
15 科学的ってなんだろう？　科学と疑似科学
16 定期試験

●到達目標

1. 理科・科学の楽しさを実感する
2. 様々なものごとに、興味関心をもつ視点を養う
3. 疑問や問題に、自分なりの考えをもてる科学的思考力を習得する

●授業時間以外の学習

・日常で不思議に思ったことをメモし、自分なりにその答えを考えるとともに、授業の前後で教員と話をしながら、その背景を探る

●テキスト・参考書等

テキスト：使用しない
参考図書：科学雑誌『ニュートン』

●成績評価

定期試験（70%）授業態度（30%）

●オフィスアワー

月曜日　終日　および　水曜日　５コマ目以外　（西館４１２）

●備考

分子からみた生物

担当者：　横峯　孝昭

●科目の概要

生物とは何か、このことについて一般常識としての生物と、最近の生物に関する知見について学び、自分のこととして考えられる教養を身につける

●授業計画

1 オリエンテーション
2 生物と細胞
3 生物の体を作っているもの①
4 生物の体を作っているもの②
5 細胞の増え方、精子と卵のでき方
6 メンデルの遺伝（優勢の法則、分離の法則について）
7 血液型で遺伝を知ろう
8 男の子、女の子の生まれる確率（伴性遺伝）
9 遺伝疾患の分類
10 クローン動物
11 臓器移植
12 生物の進化と地球環境①（生命の誕生）
13 生物の進化と地球環境②（全球凍結と生命）
14 生物の進化と地球環境③（大海からの離脱）
15 生物の進化と地球環境④（大量絶滅）
16 定期試験

●到達目標

1. 生物について基礎的な知識を習得する
2. 最近の生物における知見を学ぶ

●授業時間以外の学習

・自ら作成したノートを読み直し、次の講義へ備える

●テキスト・参考書等

＜参考書＞休み時間の生物学　講談社サイエンティフィック

●成績評価

筆記試験70%、受講態度30%

●オフィスアワー

月曜日　14：40~18：00　（研究室）

●備考

人間と環境

担当者：　江﨑一朗

●科目の概要

現代社会において特に顕著になってきている問題の一つが環境問題である。産業革命以降のさまざまな分野での近代化により、われわれの生活は物質的豊かさを享受することができるようになった。特に石油等の化石燃料の消費により、言わば「便利な生活」を手に入れたわけである。だが、このように便利で豊かな生活の限界が見え始めている。たとえば、地球温暖化がその一つであり、また局地的には発生しつつある食糧不足もその一つである。この講義では地球環境問題に的を絞り、人間と環境とのあるべき関係を考えると同時に、このことの基礎ともなるべき人間行為のあり方、そこにおける法的あるいは倫理的な問題をも考察の対象としながら、この問題の具体的解決策について考察する

●授業計画

1 人間と環境を学ぶためのオリエンテーション
2 環境問題とは
3 地球温暖化
4 オゾン層の破壊
5 熱帯林の伐採
6 砂漠化
7 酸性雨
8 公害問題
9 京都議定書
10 気候変動に関する国際連合枠組み条約
11 化学物質過敏症
12 環境ホルモン
13 環境基本法
14 新しい人権としての環境権
15 エネルギー問題
16

●到達目標

1. 環境問題を主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる

●授業時間以外の学習

・授業開始前には、事前の下調べをする、また業終了後には、学習した内容をノートにまとめ、必要な情報を収集する

●テキスト・参考書等

竹下賢編『第4版・入門法学』晃洋書房

●成績評価

平常点30%、レポート70%

●オフィスアワー

金曜日　授業終了後30分　（非常勤講師控室）

●備考

海外事情

担当者：　内田　豊海

●科目の概要

本授業は、異文化体験を通し、国際理解を深め、国際感覚を養おうというものである。事前指導で研修国の文化や歴史、民族性といった情報を収集したのち、今年度は協定校である台湾の樹人医護管理専科学校を拠点に、台湾国内で履修学生が所属する学科の特性に見合った研修を行う。

●授業計画

1 「国外研修旅行」参加者の募集
2 「国外研修旅行」の事前説明会と事前指導
3 「国外研修旅行」の実施
4 研修成果の発表
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 異文化に接し、異文化への理解を深める
2. 体験的に国際感覚を養う
3. 自分の専門分野について国際比較の視点から理解を深める

●授業時間以外の学習

インターネットやニュースを通し、台湾に関する情報を収集し、文化や人に対する関心を深める

●テキスト・参考書等

＜参考書＞
『参考書地球の歩き方　台湾２０１４～２０１５』
地球の歩き方編集室　ダイヤモンド社

●成績評価

事前指導の参加（10%）　研修中の活動（５０%）　研修の発表（４０%）によって評価する

●オフィスアワー

西館４１２号室
月曜（終日）　および　水曜（５コマ目以外）

●備考

１．参加希望者数の人数や研修国の情勢により、本授業が開講されない可能性もある
２．履修届けをする際、本科目の単位数（２）を卒業の取得必修単位の内に加算しないこと

英語演習 II

担当者：　髙島　まり子

●科目の概要

前期の英語演習 I に引き続き、高校までに学んだ英語の復習を踏まえて「聴く・話す・読む・書く」の総合力を向上させ、英語によるコミュニケーション能力の土台を築いて更なる応用につなげることを目指す。

●授業計画

1 Unit 13　名刺修飾、関係代名詞
2 Unit 14　名刺修飾、関係代名詞
3 Unit 15　分詞の活用
4 Unit 16　関係副詞
5 Unit 17　分詞構文
6 Unit 18　知覚動詞、第5文型
7 前半の復習
8 Unit 19　使役動詞、第5文型
9 Unit 20　話し手の判断を示す法助動詞
10 Unit 21　仮定法過去、仮定法過去完了形
11 Unit 22　不定詞と動名詞
12 Unit 23　形式主語
13 Unit 24　冠詞
14 後半の復習
15 全体の振り返り
16 定期試験

●到達目標

1. 基礎的文法力を固める
2.「聴く・話す・読む・書く」力を向上させる
3. リスニングや会話練習でコミュニケーション能力を磨く

●授業時間以外の学習

・テキストの予習・復習、課題の提出

●テキスト・参考書等

Step-by-Step Basic English Grammar（朝日出版）

●成績評価

受講態度（30%）定期試験（70%）

●オフィスアワー

月曜日　16：30～17：30　（研究室）

●備考

英語演習 II

担当者：　吉村　圭

●科目の概要

この授業では会話や英作文に最低限必要な英文法の理解を目標とする。また文法事項を理解した上で、リーディング、英作文と英文の聞き取りを行い、総合的な英語力の向上を目指す。その際、テキストの問題のみならず、マンガ等を用いより理解を深める。

●授業計画

1 オリエンテーション（前期の復習）
2 Unit 13　代名詞　基本事項
3 Unit 13　代名詞　応用
4 Unit 14　前置詞　基本事項
5 Unit 14　前置詞　応用
6 Unit 15　形容詞　基本事項
7 Unit 15　形容詞　応用
8 Unit 16　副詞　基本事項
9 Unit 16　副詞　応用
10 Unit 17　比較　基本事項
11 Unit 17　比較　応用
12 Unit 19　接続詞　基本事項
13 Unit 19　接続詞　応用
14 Unit 20　受け身（受動態）
15 総括
16 定期試験

●到達目標

1. 英文の基礎的なルールを理解し、簡単な英文の聞き取り、及び読解ができる

●授業時間以外の学習

・テキストに出てきた単語・表現を覚え語彙を増やす

●テキスト・参考書等

テキスト　：Everyday English Grammar　南雲堂
参考書　：『英単語ターゲット1400』等単語帳

●成績評価

定期試験・小テスト・提出物（７０％）、授業貢献度（３０％）による総合評価。

●オフィスアワー

水曜日　１２：５５－１４：２５　（研究室）

●備考

英語演習 I I（C）

担当者：　後藤　廣文

●科目の概要

英会話の基礎となる英語を聞き取る力をつけ、併せて英米の社会や文化に関する知識を深める

●授業計画

1 My job　TOEIC Drill 15
2 My Company 1　TOEIC Drill 26 Drill 34
3 My Company 2　TOEIC Drill 6, Drill 35
4 Marketing 1　TOEIC Drill 16, Drill 27
5 Marketing 2　TOEIC Drill 7, Drill 36
6 Business Cards 1　TOEIC Drill 8, Drill 37
7 Business Cards 2　TOEIC Drill 9, Drill 38
8 Stocks and Shares 1・2　TOEIC Drill 17, Drill 28
9 Test (確認テスト)
10 Small Business 1　Christmas Songs 1
11 SmallBusiness 2　Christmas Songs 2
12 Catering Business 1　TOEIC Drill 18, Drill 29
13 Catering Business 2　TOEIC Drill 19, Drill 30
14 Self-employed 1　TOEIC Drill 10, Drill 39
15 Self-employed 2　TOEIC Drill 20, Drill 40
16 学期末試験

●到達目標

1.TOEIC リスニング問題（特に長文）等で正答率60%以上取ること

●授業時間以外の学習

授業中に行った問題について繰り返し聞いて、特に長文の内容を把握できるようにすること

●テキスト・参考書等

辞書（どこの辞書でも可）（単語の意味だけでなく、発音記号が読めること）

●成績評価

小テスト20%　学期末試験80%

●オフィスアワー

時間・・・講義時間の前後
場所・・・講義室

●備考

ドイツ語演習 II

担当者：　武田　輝章

●科目の概要

はじめてドイツ語を学びたいという人が対象です。ゼロからのスタートですから、英語が苦手だった人も心配はいりません。英語が得意な人は、英語とドイツ語を比較することで新たな発見があることでしょう。言葉はまず音が大切です。恥ずかしがらずに大きな声で発音練習をしましょう。簡単な決まり文句は、理屈抜きでそのまま暗唱します。次に、ドイツ語の仕組みについて自分の頭で考えてみましょう。さらに、ドイツ・オーストリア・スイスなどの歴史や文化にも触れながら、ヨーロッパの視点から世界を見てみましょう。

●授業計画

1 名詞2：定冠詞を学び、その仕組みについて考える
2 動詞 haben の使い方について学ぶ
3 ドイツ語の動詞の仕組みを自分で見つける
4 時間や電話番号の数字を表現できる
5 名詞3：否定冠詞について学び、考える
6 動詞3：職業や国籍について話すことができる
7 定冠詞の仕組みについて考える
8 個数や値段の数を表現できる
9 名詞の性について考えよう
10 前置詞について考えよう
11 再帰動詞とは何だろう
12 話法の助動詞について学ぼう
13 分離動詞とは何だろう
14 現在完了について学ぼう
15 受動態と未来形について学ぼう
16 定期試験

●到達目標

1. 身の回りのものについて簡単な表現ができる
2. 食堂で注文ができ店で買い物ができる

●授業時間以外の学習

・ドイツ語の文章をノートに写し、単語の意味を調べてくる
・ドイツ語の単語や文章を、大きな声で読む練習をしてくる

●テキスト・参考書等

・テキスト：田中・筒井著『みるみるドイツ語』同学社　2013年
・参考書：新アポロン独和辞典（同学社）・常木実著『標準ドイツ語』（郁文堂）・関口初等ドイツ語講座3巻（三修社）・大岩信太郎著『ドイツ語の最初歩』（三修社）

●成績評価

筆記試験（60%）レポートと小テスト（20%）受講態度（20%）

●オフィスアワー

木曜日　12：30〜13：30　（研究室）

●備考

なし

中国語演習 II

担当者：　谷口　明夫

●科目の概要

中国語演習 I を履修したか、それと同等の学力を持つ人が受講する科目です。

演習1に続けて、新しい表現と文法を学びます。正確な発音を身につけるために反復朗読し、発音を矯正します。３回の授業で1課を学びおえます。

「〜した」（変化・完了）、「〜したことがある」（経験）、「〜するのが好き」、大きな数の読み方、数詞を使った表現（年月日・時刻等），量詞、「〜から」と「〜へ」、現在進行の表現「〜ねばならない」、「どこそこで〜する」、「〜できる」の異なった表現、動作の結果まで含めた結果補語の表現などを学びます。

●授業計画

1 授業の進め方、受講上の注意　第６課　朗読と新出単語
2 第６課　経験の表現と「〜するのが好き」、助動詞「要」
3 同上　数の読み方と数詞を使った表現　反復朗読
4 第７課　新出単語と本文朗読　年月日、時刻等の言い方
5 同上　「どこそこで〜する」　文末の「了」の意味と用法
6 同上　関連する語句等　反復朗読
7 第８課　新出単語と本文　時間量の言い方　様々な量詞
8 同上　本文朗読　「〜から」と「〜へ」　反復朗読
9 同上　関連する語句等　反復朗読
10 第９課　新出単語と本文　「〜にある」「〜で〜する」
11 同上　本文朗読　「〜しているところだ」　反復朗読
12 同上　場所を表す言葉　関連する語句等　反復朗読
13 第10課　進出単語と本文　「〜できる」
14 同上　動作の結果まで含めた言い方（結果補語）
15 同上　関連する語句と表現　反復朗読
16 試験

●到達目標

1. 本文を正確流暢に読み、暗唱できる
2. 大きな桁の数を読み、数を使った表現を理解し、言える
3. 学んだ単語と文型の文を読み、読み書きができる

●授業時間以外の学習

・教科書付属の CD を聞いて声調等の発音を身につける
・教科書の本文とローマ字ピンインを書き写し、覚える

●テキスト・参考書等

【教科書】　相原茂・陳淑梅・飯田敦子
『にっちゅういぶこみ広場』　朝日出版社　2015年　第７刷
【参考書】　相原茂　『はじめての中国語学習辞典』　朝日出版社　2002年

●成績評価

100以上の数と教科書本文朗読の発音が正確で流暢であること（20%）筆記試験（70%）受講態度（10%）

●オフィスアワー

講義時間後　（講義室）

●備考

韓国語演習 II

担当者：　金　孝珍

●科目の概要

韓国語演習 I を受講した人が対象です。授業では、韓国語演習 I に引き続き、より発展した表現を学習し会話能力を高めていきます。本文の基本文法を説明した後、音読練習、作文練習、対話練習をします。授業の最後に目標会話を暗記し発表する時間を設けることにより学習内容を授業時にしっかり身につけることを目指します。

●授業計画

1 習慣について尋ねる - 動詞編 1
2 習慣について尋ねる - 動詞編 2
3 予定について尋ねる - 動詞編 3
4 予定について尋ねる - 動詞編 4
5 時間を表す
6 位置を表す
7 過去の行動について表す - 動詞の過去形 1
8 過去の行動について表す - 動詞の過去形 2
9 電話番号を尋ねる
10 状態や気持ちを表す - 形容詞編 1
11 相手の気持ちを尋ねる - 形容詞編 2
12 過去に感じたことについて表現する - 形容詞の過去形 1
13 過去に感じたことについて表現する - 形容詞の過去形 2
14 行動を促す / 依頼する
15 得意・苦手について表現する / 総括
16

●到達目標

1. 韓国語の基礎文法を応用することができる
2. 日常会話のより発展した表現を話すことができる
3. 会話練習を通してコミュニケーション能力を高めることができる

●授業時間以外の学習

・教科書を事前に読んでおくこと
・各課に出てくる単語や文法や表現を暗記すること

●テキスト・参考書等

入佐信宏・金孝珍 共著『これで話せる韓国語 STEP1』白帝社2015

●成績評価

授業での積極性 (10%)　小テスト (40%)　定期試験 (50%) で評価することとし、合計が60点以上に到達した者を合格とする

●オフィスアワー

講義前後の休憩時間　(講義室)

●備考

体育実技

担当者：　黒原　貴仁

●科目の概要

現代社会において、スポーツは豊かな QOL（生活の質）の観点からも重要な役割を担っている。また、スポーツは望ましい人間関係の構築や地域の活性化、活力ある民主的な社会の発展に大きく寄与する人類の貴重な文化のひとつである。本授業は、体を動かすことの楽しさや意義を理解し、生涯をとおして積極的にスポーツに参加できるような知識、技能、態度を習得し、健康、安全、体力の保持増進への基礎的な能力を高めることを目的とする。

●授業計画

1 オリエンテーション　前半の種目選択と実践
2 前半活動期間
3 ［バレーボール、バドミントン、バスケットボール、卓球］
4 を開講し各自選択する
5 各種目ごとにルールの解説・基本練習・ゲームを行う
6
7
8
9 後半活動期間
10 ［バレーボール、バドミントン、バスケットボール、卓球］
11 を開講し各自選択する
12 各種目ごとにルールの解説・基本練習・ゲームを行う
13
14
15
16

●到達目標

1. 健康的な心と身体を培う知識を深める
2. スポーツをとおしてコミュニケーション能力を高める
3. 充実した生活を送るための体力を高める

●授業時間以外の学習

実技に耐えうる体力を高める

●テキスト・参考書等

なし

●成績評価

受講態度及びゲーム結果を統合して評価する。

●オフィスアワー

水曜日午後（研究室）

●備考

体育実技

担当者：　大村　一光

●科目の概要

身体を動かす機会の少なくなった今日、余暇時間等におけるスポーツ・レクリエーション活動の必要性が高まってきている。そこで、生涯スポーツとして人気の高い種目を履修することにより各自が生涯にわたり、積極的にスポーツ・レクリエーション活動に参加（関わり）し，健康・体力の保持・増進ができるようにする

●授業計画

1 オリエンテーション、前半活動種目の決定
2 種目別活動Ⅰ（バドミントン、バレーボール、卓球）
3 種目別活動Ⅱ（バドミントン、バレーボール、卓球）
4 種目別活動Ⅲ（バドミントン、バレーボール、卓球）
5 種目別活動Ⅳ（バドミントン、バレーボール、卓球）
6 種目別活動Ⅴ（バドミントン、バレーボール、卓球）
7 種目別活動Ⅵ（バドミントン、バレーボール、卓球）
8 種目別活動Ⅶ（バドミントン、バレーボール、卓球）
9 後半活動種目の決定、活動Ⅰ
10 種目別活動Ⅱ（バドミントン、バスケットボール、卓球）
11 種目別活動Ⅲ（バドミントン、バスケットボール、卓球）
12 種目別活動Ⅳ（バドミントン、バスケットボール、卓球）
13 種目別活動Ⅴ（バドミントン、バスケットボール、卓球）
14 種目別活動Ⅵ（バドミントン、バスケットボール、卓球）
15 種目別活動Ⅶ（バドミントン、バスケットボール、卓球）
16

●到達目標

1. スポーツ活動の楽しさを理解する
2. 積極的に健康管理に関われるようにする

●授業時間以外の学習

日常生活において、身体運動やスポーツを実施できるようにする

●テキスト・参考書等

●成績評価

受講態度等（60%）、技術・技能点（40%）

●オフィスアワー

月・火曜日以外の昼食時間、研究室

●備考

単位互換科目

体育講義

担当者：　黒原　貴仁

●科目の概要

本授業では、スポーツおよび健康についての意義や役割を多角的な視点から概説し、現代社会における健康増進やスポーツの社会的発展に寄与・貢献できる基礎的な理解を深める。

●授業計画

1 オリエンテーション（運動とは？健康とは？）
2 古代オリンピックと近代オリンピック
3 現代社会におけるスポーツの社会的意義
4 スポーツと国際理解
5 生活習慣病とその予防
6 正しいダイエットと運動効果
7 生涯スポーツとは？
8 ヘルスプロモーションの意義
9
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. スポーツについての基礎的な理解を深めることができる
2. 健康についての基礎的な理解を深めることができる
3. スポーツと健康における相互関係の理解を深めることができる

●授業時間以外の学習

スポーツや健康についての情報収集

●テキスト・参考書等

適宜

●成績評価

筆記試験（70%）、レポート課題（30%）と統合して評価する。

●オフィスアワー

毎週水曜日13:00~16:00　研究室

●備考

体育講義

担当者：　大村　一光

●科目の概要

からだを動かすことの少なくなった現代社会では、各自が意図的に日常生活のなかに運動を取り入れそれを積極的に実践していく必要がある。本講義では，安全で効果的な運動の行い方（運動処方）について解説し、健康の捉え方および維持、増進のあり方について理解を深める

●授業計画

1　運動処方とは？
2　現代社会における運動の必要性
3　運動処方の手順（健康診断、体力診断）
4　運動処方の手順（目標の設定、運動処方）
5　運動処方の手順（運動の実践、処方の再調整）
6　運動の一般原則
7　運動障害と応急処置
8　喫煙が健康に及ぼす影響
9　学期末試験
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

・健康に関する理解
・積極的に健康管理に関われるようにする

●授業時間以外の学習

日常生活における定期的な身体運動やスポーツの実施

●テキスト・参考書等

●成績評価

学期末試験（70%）、受講態度（30%）

●オフィスアワー

月曜日・火曜日以外の昼食時間　研究室

●備考

WE　LOVE　鹿児島！

担当者：　センター長・学科長

●科目の概要

地域の中で自分自身を位置づける「ローカルアイデンティティ」を「生きる力」とし、「地域活性化の担い手」となることを目指す。ここでは、防災をテーマにし内容を深める。その結果、防災を通じて地域貢献できる能力を身につける。

●授業計画

1	オリエンテーション、地域防災と災害時の対応について	A
2	鹿児島県の自然環境の特徴と過去の自然災害について	B
3	災害と感染症について	C
4	災害時のこころのケアについて	D
5	災害時の対応：炊き出し・包帯法・AED	B
6	災害時の対応：炊き出し・包帯法・AED	B
7	非常食について～災害時に備えて～	B
8	振り返り	E
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

●到達目標

①鹿児島の自然災害を知ることができる
②災害に対する備え（防災）に関する問題点を理解できる
③防災を実践できる方法を身につけることができる

●授業時間以外の学習

・講義前には防災に関する書物を調べる。
・講義後はレポートをまとめ提出する。

●テキスト・参考書等

植村健一　著　「桜島大噴火」　春苑堂出版
石川秀雄　著　「桜島：噴火と災害の歴史」　共立出版
かごしま文庫編集部　編　「手記 '93風水害の中で」春苑堂出版
「'93夏鹿児島風水害　報道写真集」　南日本新聞社

●成績評価

学期末の最終レポート（75%）、受講態度と提出物（25%）

●オフィスアワー

授業担当者：金曜日　16時10分～18時（講義室）

●備考

COC 科目
A：倉重・外部講師、B：外部講師、C：胸元、D：松元
E：倉重

一般教養科目DP	①主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。 ②自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。 ③地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。 ④社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。

	科目名	最も関係の深いDP番号	到達目標	DPとの関係			
				①	②	③	④
わたしを知る・わたしを創る							
心と思想の探求（人間の心に迫り人間を知る）							
	日本語表現の基礎	①	1.　原稿用紙のつかい方を身につける	○			
			2.　文字・表記・用語に習熟する	○			
			3.　文章表現力を身につける	◎	○	○	
	倫理学	①	1.　倫理学的な思考を身につける	◎			
			2.　「生命倫理」の基礎を理解する	○		○	
			3.　身近な生命倫理の問題を知り、それについて自分の考えを述べることができる		○	○	
高島	文　学	④	1.　映像を通してアメリカ文学に親しむ	◎			○
			2.　社会・歴史・文化を土台とした米国人の価値観への理解を深める		○		◎
			3.　日米比較によりグローバルな視点を養い、自分の生き方を考える	○			◎
瀬戸口	文　学	③	1.　万葉集の和歌の鑑賞ができる	○			
			2.　古代人の考え・想いを理解する		○	◎	
			3.　自己の考え・意見を確認する	○	○		
伊佐山	文　学	①	1.　物語の大略を理解し、説明することができる	◎			○
			2.　登場人物に自身を重ねながら物語を読むことができる	◎	○		
			3.　平安時代の生活に関する知識を身につける	◎			○
吉村	文　学	④	1.　各講義を聞き自分の意見を述べることができる	○			◎
			2.　文学作品について自ら調査し考えを述べることができる	◎			○
			3.				
	心理学	②	1.　人間の心理と行動との関係を理解する	○	◎		
			2.　自己理解を深める	○	◎		
			3.　他者理解の幅を広げる	○	◎		
健康の探求（健康の心と体をつくる）							
大村	体育講義	②	1.　健康に関する理解	○	○		
			2.　積極的に健康管理に関われるようにする	○	◎		○
			3.				
黒原	体育講義	①	1.　健康についての基礎的な知識を深めることができる	◎	○		
			2.　スポーツについての基礎的な理解を深めることができる	○	◎		○
			3.　健康とスポーツの相互関係の理解を深めることができる	◎	○	○	
大村	体育実技	②	1.　スポーツ活動の楽しさを理解する	○	◎		
			2.　積極的に健康管理に関われるようにする	○	◎		○
			3.				
黒原	体育実技	②	1.　スポーツを楽しめる能力を身につけることができる	◎	○		
			2.　スポーツを通してコミュニケーション能力を高めることができる		◎	○	○
			3.　充実した生活を送るための体力を高めることができる		◎	○	
社会を知る・社会につながる							
社会の探求（社会に目を向ける）							
	社会学	④	1.　世の中の出来事を自分の立場から離れて見る視点を身につける		◎	○	
			2.　自分の関心と社会の出来事を結びつける能力を身につける			○	◎
			3.　社会的に共有される意味や形式の相対性について理解する	◎			○

一般教養科目DP	①主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。 ②自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。 ③地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。 ④社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。

科目名		最も関係の深いDP番号	到達目標	DPとの関係			
				①	②	③	④
	国際化と経済	④	1. 基本的な日本経済・国際経済の仕組みが理解できる	○	○		◎
			2. グローバル化の進む地域経済で何が今問題でどう自分は行動すべきかを主体的に判断できる	○	○	◎	
			3.				
	日本国憲法	④	1. 「人権」の歴史的由来について理解する	◎			◎
			2. 統治機構と人権保障の関係について理解する				◎
			3. 「国民国家」における憲法の機能を把握する				◎
	歴史学	④	1. 民俗学等との連携も視野に、歴史学の方法を理解する	○			
			2. 過去の人々の生き方から自分の生き方を見つめなおす		○		
			3. 歴史学の成果を参照しながら、社会の在り方を考える			○	◎
児童教育	WE LOVE 鹿児島！	③	1. 「ローカル・アイデンティティ」を自覚し、「生きる力」とする	○			◎
			2. 地域課題への取り組みを通して社会貢献の実践力を体得する			◎	○
			3. 意欲的な「地域活性化の担い手」としての基礎を固める		○	◎	
生活科学	We Love 鹿児島！	④	1. 鹿児島の自然災害を知ることができる	○		○	
			2. 災害に対する備え（防災）に関する問題点を理解できる			○	○
			3. 防災を実践できる方法を身につけることができる		○		◎
教養	WE LOVE 鹿児島！	④	1. 鹿児島再発見	◎	○	○	
			2. 「ローカル・アイデンティティ」の自覚を深める		○	◎	○
			3. 「地域活性化の担い手」としての基礎を固める	○	◎		○
キャリアの探究（職業を考え人生を設計する）							
	インターンシップ	③	1. 社会体験を短大での学習にフィードバックさせ、以後の学生生活に役立て、社会人としての自覚を持つ	○	○	◎	
			2. 職業に関する興味、関心、適性がどこにあるかを自ら考えられる	○	◎		○
			3.				
児童教育学科	キャリアガイダンスⅠ	③	1. 自己理解を深める	◎	○		
			2. 2. 働くことや職業について理解を深める		○	◎	○
			3. 3. 目指す職業について理解を深める			◎	○
	キャリアガイダンスⅡ	③	1. 職業選択を行う（キャリア形成）	○		◎	
			2. 就職活動や実習を通して自己理解を深める	◎	○		
			3. 働くための法律を知る			◎	○
生活科学科	キャリアガイダンス（Ⅰ）	④	1. 自己理解を深める	◎			○
			2. 自分の生き方を考える				◎
			3.				
	キャリアガイダンス（Ⅱ）	④	1. 働くことの意義を考える	○			◎
			2. 社会に関心を持ち、自己実現を目指し、行動する				◎
			3.				
世界を知る・世界を広げる							
異文化の探求（海外に目を向ける）							
	海外事情	①	1. 異文化への理解	○	○		○
			2. 国際感覚を養う		○		○
			3. 専門分野について国際比較できるようにする		○		◎
	英語演習Ⅰ	①	1. 基礎的文法力を固める	◎	○		
			2. 「聴く・話す・読む・書く」力を向上させる		◎		○
			3. リスニングや会話練習でコミュニケーション能力を磨く		○		◎

一般教養科目DP	①主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。 ②自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。 ③地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。 ④社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。

科目名	最も関係の深いDP番号	到達目標	DPとの関係			
			①	②	③	④
英語演習Ⅰ	④	1.　英文の基礎的なルールを理解できる				◎
		2.　簡単な英文の聞き取りができる				◎
		3.　簡単な英文の読解ができる				◎
英語演習Ⅰ	①	1.　人の前で英文を綺麗に朗読すること	○			
		2.　朗読の内容を正しく理解すること		◎		
		3.　異文化の理解				○
ドイツ語演習Ⅰ	④	1.　日常のあいさつ程度の会話が、自然にできるようになる		○		◎
		2.　基本的なドイツ語を、大きな声で読めるようになる		◎		○
		3.				
韓国語演習Ⅰ	②	1.　韓国語の文字と発音を表わすことができる	○	◎		
		2.　自己紹介や簡単な日常会話ができる	○	◎		
		3.　他国の言語に触れることで文化の多様性を理解することができる	○	◎		○
中国語演習1	②	1.　本文を正確な発音で読み、ローマ字ピンインでも書ける	○	◎		○
		2.　中国語で名前を紹介し、1～10の数字を正確に言える	○	◎		○
		3.　学んだ単語と文型の文を、読み,書き，聞き、言うことができる	○	◎		○
英語演習Ⅱ	②	1.　基礎的文法力を固める	◎	○		
		2.　「聴く・話す・読む・書く」力を向上させる		◎		○
		3.　リスニングや会話練習でコミュニケーション能力を磨く		○		◎
英語演習Ⅱ	④	1.　英文の基礎的なルールを理解できる				◎
		2.　簡単な英文の聞き取りができる				◎
		3.　簡単な英文の読解ができる				◎
ドイツ語演習Ⅱ	④	1.　身の回りのものについて簡単な表現ができる		○		◎
		2.　食堂で注文ができ店で買い物ができる		○		◎
		3.				
中国語演習Ⅱ	②	1.　本文を正確流暢に読み、暗唱できる	○	◎		○
		2.　大きな桁の数を読み、時間等数詞を使った表現を理解し、言える	○	○		○
		3.　学んだ単語と文型の文を読み、書き，聞き、言うことができる	○	◎		○
韓国語演習Ⅱ	②	1.　韓国語の基礎文法を応用することができる	○	◎		
		2.　日常会話のより発展した表現を話すことができる	○	◎		
		3.　会話練習を通してコミュニケーション能力を高めることができる	○	◎		
自然界の探求（いろいろな世界に目を向ける）						
数学基礎	①	1.　数学的活動の楽しさを知り、問題解決をしようとする態度を培う	◎			
		2.　数学の有用性を認識する	◎			
		3.　習得した技能を日常に応用することができる	○			◎
理科基礎	①	1.　理科・科学の楽しさを実感する	◎			○
		2.　様々なものごとに、興味関心をもつ視点を養う	◎			○
		3.　疑問や問題に、自分なりの考えをもてる科学的思考力を習得する	◎			
分子からみた生物	①	1.　生物について基礎的な知識を習得する	◎			
		2.　最近の生物における知見を学ぶ		○	○	
		3.				
人間と環境	①	1.　環境問題を主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる	◎		○	
		2.				
		3.				

専 門 科 目

生活科学専攻

食生活論

担当者：改元　香

●科目の概要

時代・社会構造の変化にともなって変わりゆく食生活と文化的な価値を持つ変わらない食生活について学び、人生８０年の食生活について考察する。

●授業計画

1 食生活の意義（食生活の基本、食生活と環境）
2 食の歴史（摂食行動）
3 食の歴史（日本の食の変遷）
4 健康と栄養の歴史
5 健康に関する社会制度・保健対策（健康増進法等）
6 健康に関する社会制度・保健対策（食育基本法等）
7 健康・栄養の行政
8 世界と日本の食
9 日本の食（日本料理の種類、食事作法）
10 栄養面からみた食生活
11 人生各期における食生活（乳幼児期、妊産婦・授乳婦）
12 人生各期における食生活（学童期、青年期）
13 人生各期における食生活（壮年期、高齢期）
14 安全面からみた食生活
15 環境面からみた食生活
16 定期試験

●到達目標

1. 食生活とは何かを自覚できる
2. 日本の食の現状を理解することができる
3. 人生80年の食生活を考察することができる

●授業時間以外の学習

・授業の予習（教科書を読み、関連することに興味を持っておく）
・授業の復習（講義内容についてもう一度考察しなおしてみる）

●テキスト・参考書等

テキスト：私たちの食と健康　食生活の諸相
（三共出版：吉田勉　他）
参考書：国民衛生の動向（一般財団法人　厚生労働統計協会）
参考：厚生労働省ＨＰ、農林水産省ＨＰ、内閣府ＨＰ

●成績評価

定期試験の成績（８０％）※試験時間は６０分
受講態度（２０％）

●オフィスアワー

水曜日　１３：００～１５：００　（研究室：本館５０４）

●備考

単位互換・他学科他専攻開放科目

住生活論

担当者：古川　惠子

●科目の概要

住まいは、いのちを育み人間性を培う生活の基盤となるところである。家族生活を営みながら文化を創造・継承し、また、子どもや高齢者が安心して生活できる場所でもあるべきところである。超高齢社会に向けての視点に基づき、生活空間としての住まいと地域社会はどうあるべきかを考え、管理する能力を養う

●授業計画

1 住生活論の概要と意義
2 「陰翳礼讃」にみる日本の住文化
3 住居の歴史－古代～近世（郷土の歴史的伝統的建造物群）
4 住居の歴史－近代～現代
5 住宅の材料と構造
6 気候と暮らし、住まいと環境（鹿児島県の民家に学ぶ）
7 住まいの維持管理
8 住生活のための人間工学
9 高齢者と住まい－心身機能と特性
10 高齢者の家庭内事故と予防
11 高齢者の住まいの多様性
12 住まいの安全と管理
13 地域と住まい（過疎・高齢地域の今後）
14 住居計画の法的基準、規定
15 バリアフリー、ＵＤ
16 定期試験

●到達目標

1. 超高齢社会における住宅・住環境を理解できる
2. 住まいの安全性について理解できる
3. 地域と住生活との関係を理解する

●授業時間以外の学習

・講義の予習：テキストを読む
・講義で不明な点について調べる、質問する

●テキスト・参考書等

・テキスト：中根芳一 編／私たちの住居学／理工学社 /2006年
・参考書：住宅建築（月刊誌 / 図書館）、モダンリビング（季刊誌 / 図書館）
・プリント資料配布

●成績評価

定期試験（70%）レポート（30%）で評価
※筆記試験は60分で実施

●オフィスアワー

水曜日を除く月～金曜日　16：10～17：30　研究室

●備考

・他学科開放科目

栄養学

担当者：　住澤　知之

●科目の概要

正しい『食』についての理解を深め、健康的な生活を送るための的確な食教育・栄養指導を行うために、人間が生命や健康を維持するために欠かすことができない栄養素を、バランスよく、適切な量摂取するということについて、主な栄養素の消化・吸収及び働きを通して学ぶ。

●授業計画

1 オリエンテーション（栄養とは？）
2 たんぱく質とその消化・吸収
3 糖質とその消化・吸収
4 脂質とその消化・吸収
5 脂質の栄養（脂質の機能と栄養学的な意義）
6 ビタミン１（ビタミンとは・ビタミンA）
7 ビタミン２（ビタミンD・ビタミンE・ビタミンK）
8 ビタミン３（ビタミンB群①）
9 ビタミン４（ビタミンB群②・ビタミンC）
10 無機質（ミネラル）１（無機質とは・カルシウム・リン）
11 無機質（ミネラル）２（その他の主要無機質・鉄）
12 無機質（ミネラル）３（鉄以外の微量無機質）
13 アレルギー
14 水・電解質の代謝
15 エネルギー代謝、及び摂食行動
16 定期試験

●到達目標

1. 自らが正しい食生活を実践できる
2. 的確な食教育が行える

●授業時間以外の学習

・各回のプリントを見直し、授業開始時の小テストに備える
・次回のプリント中の、初めて見る語句などについて調べる

●テキスト・参考書等

プリントを配布するため、テキストは使用しない
参考書：「日本人の食事摂取基準2015年版」
　　菱田明、佐々木敏監修　（第一出版）

●成績評価

毎回の授業開始時に行う小テスト（５０％）
定期試験（５０％）

●オフィスアワー

水曜日　１３：００～１９：３０（研究室：本館501）

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

解剖学Ⅰ

担当者：　竹中　正巳

●科目の概要

正常な人体構造の理解なしには、病的な状態を知ることはできない。器官相互の有機的関連を考え、その根底にある人体の原理を知ることを目標とする。器官相互の位置関係を理解し、人体構造が立体的にとらえられるようにする。

●授業計画

1 人体の構造と機能、口と歯（口の構造と機能）
2 口腔，咽頭，喉頭（咀嚼、嚥下、食道）
3 消化吸収（胃、小腸、大腸の構造）
4 消化吸収（胃、小腸、大腸における消化、栄養素の吸収）
5 消化吸収（膵臓、肝臓、胆嚢の構造と機能）
6 細胞・組織（人体とは、細胞の構造、体液）
7 細胞・組織（上皮組織、筋組織）
8 細胞・組織（結合組織、神経組織）
9 心臓・血管（心臓、動脈、静脈、[循環器系の形態と機能]）
10 血管・リンパ管（血液、リンパ管の構造）
11 呼吸器（呼吸器の構造）
12 呼吸器（呼吸運動、呼吸の調節）
13 泌尿器（腎臓の構造と機能）
14 泌尿器（排尿路の構造）
15 内分泌（視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体、膵臓）
16

●到達目標

1. 細胞・組織の理解
2. 消化器、呼吸器、泌尿器の理解
3. 循環器、内分泌の理解

●授業時間以外の学習

・テキストをよく読んで講義に臨むこと
・講義後は、テキストの章末のゼミナール問題を解くこと

●テキスト・参考書等

テキスト：系統看護学講座１　解剖生理学　医学書院
　　：新衛生管理　上　第1種用　中央労働災害防止協会
参考図書：井上貴央監訳 「カラー人体解剖学－構造と機能：
　　マクロからミクロまで」西村書店

●成績評価

毎授業ごとの小テストの結果を合計し、評価する（100%）

●オフィスアワー

木曜日　12:00~12:50（研究室）

●備考

単位互換開放対象科目

生理学

担当者：　竹中　正巳

●科目の概要

病気の原因とその発生・進展のメカニズムを理解するためには、人体の正常な構造と機能に関する知識が欠かせない。生理学の講義では、全身の諸組織・諸臓器の機能とその役割について解説する。健康なヒトの体の働きと仕組みについて理解することを目標にする。

●授業計画

1　人体の構造と機能、消化吸収 (消化器の機能、胃の機能)
2　消化吸収 (小腸・大腸の機能、消化酵素、消化管ﾎﾙﾓﾝ、肝臓)
3　細胞（細胞内小器官、細胞膜と輸送、活動電位、代謝）
4　血液（血液の組成、血液の機能、止血と凝固系、血液型）
5　循環（形態と機能、血圧とその調節、心電図検査、血管）
6　呼吸 (換気、呼吸の調節、空気環境による人体機能の変化)
7　呼吸（呼吸中枢、口呼吸、肺機能検査、労働時の呼吸量）
8　神経（神経系の組織構造と機能、中枢神経、末梢神経）
9　神経（交感神経、副交感神経、脊髄、脳、睡眠）
10　筋（筋肉の構造と種類、筋肉の収縮、運動の調節、筋疲労）
11　内分泌（各ホルモンの作用と分泌調節）
12　排泄（排便・排尿のメカニズム、腎臓の機能、尿の成分）
13　感覚 (感覚器、受容器と刺激、環境による感覚機能の変化)
14　感覚（嗅覚、味覚、皮膚感覚、体温）
15　生殖（精巣、卵巣の機能と調節、妊娠と分娩）
16

●到達目標

1. 細胞、血液、筋肉の理解
2. 呼吸、感覚、排泄、消化の理解
3. 神経、内分泌による調節機能の理解

●授業時間以外の学習

・テキストをよく読んで講義に臨むこと
・講義後は、テキストの章末のゼミナール問題を解くこと

●テキスト・参考書等

テキスト：系統看護学講座１　解剖生理学　医学書院
　　：新衛生管理　上　第1種用　中央労働災害防止協会
参考図書：井上貴央監訳 「カラー人体解剖学－構造と機能：マクロからミクロまで」西村書店

●成績評価

毎授業ごとの小テストの結果を合計し、評価する（100%）

●オフィスアワー

木曜日　12:00~12:50（研究室）

●備考

単位互換開放対象科目

看護学

担当者：　満田　タツ江

●科目の概要

養護教諭としての資質・能力を高めるために看護の基礎を学ぶ発育発達の各段階における健康と看護を学習し、児童生徒の健康課題への支援ができる

●授業計画

1　看護概念と看護行為の基本
2　病気の経過に伴う看護
3　主な治療処置に伴う看護
4　小児期の健康と看護
5　学童期の健康
6　学童期の看護
7　思春期の健康
8　思春期の看護
9　母性看護
10　疾患と看護
11　障害のある児童生徒の理解と看護
12　成人の健康
13　成人の看護
14　高齢者の健康と看護
15　総括
16　筆記試験

●到達目標

1. 看護の基本となる知識を修得する
2. 児童生徒の健康課題への支援ができる
3. 専門職としての資質・能力を高める

●授業時間以外の学習

・授業の予習（テキストを読む）
・授業の復習（授業内容をまとめる）

●テキスト・参考書等

テキスト：養護教諭のための看護学　藤井寿美子他　大修館書店
参考書：新・衛生管理　第1種用上　中央労働災害防止協会

●成績評価

筆記試験８０％　受講態度や提出物等２０％

●オフィスアワー

木曜日　１２：１０～１２：５０　研究室

●備考

単位互換対象科目

救急処置Ⅰ

担当者：　胸元　孝夫

●科目の概要

救急とは何かを理解する。身近に出会う救急場面に対応する1次救急について理解し、救急処置Ⅱで技術の習得がスムーズにできるような基礎的知識を身につける。

初めて医学に接する学生が大多数であるので、解剖学・生理学や病理学を基に人体の臨床的な基礎から学習する。日常生活で起こりうる救急場 面を想定した疾患、外傷を紹介し、救急医療のシステム、心肺蘇生の方法、救急疾患への対応法、簡単な外傷への対応法などを学習する。一次救急場面では、どのような対処を行うべきか、軽症から心肺蘇生法の必要な重症まで、基礎的な救急処置法を学ぶ。知識の確認として毎回小テストを行う。

●授業計画

1 オリエンテーション、救急について、救急医療など
2 救急について、病態など
3 救急処置の手順や対応など、バイタルサインなど
4 救急の ABC
5 心肺蘇生法など
6 内科的な救急その１
7 内科的な救急その２
8 内科的な救急その３
9 内科的な救急その４
10 外科的な救急その１
11 外科的な救急その２
12 外科的な救急その３
13 外科的な救急その４
14 災害の救急
15 心肺蘇生法の再確認およびまとめ
16 定期試験

●到達目標

1. 基本的な救急疾患の病態を理解する
2. 心肺蘇生法を十分に理解する
3. 基本的な救急処置について理解する

●授業時間以外の学習

・授業で学習した内容を参考図書や関連資料で復習をする
・次回の授業範囲を参考図書で予習する

●テキスト・参考書等

好きになる救急医療：　講談社
養護教諭のための救急処置：　少年写真新聞社

●成績評価

定期試験60%, 小テスト及び受業への参加度40%

●オフィスアワー

408研究室、16:20～、火曜日を除く月曜日から金曜日まで
２名以上

●備考

学校保健

担当者：　満田　タツ江

●科目の概要

学校保健活動を実践できる能力と実践力を養う
そのために学校保健の領域と構造を理解し、学校保健安全法について学ぶ

●授業計画

1 学校保健の領域構造と学校保健安全法
2 学校保健関係職員と組織活動
3 学校保健安全計画と評価
4 児童生徒の保健活動と学校保健委員会
5 学校環境衛生の意義
6 養護教諭と学校環境衛生活動
7 学校環境衛生活動の実際
8 学校環境衛視基準
9 学校環境衛生活動の事後措置
10 養護教諭と学校安全
11 安全管理と安全教育
12 学校の危機管理
13 学校の管理下における災害とスポーツ振興センター
14 学校で予防すべき感染症とその対策
15 総括
16 定期試験

●到達目標

1. 学校保健安全法について理解する
2. 学校保健の領域と構造について理解する
3. 健康安全に関わる環境衛生・危機管理への対応ができる

●授業時間以外の学習

・授業の予習 (テキストを読む)
・授業の復習 (参考書で授業内容を確認する)

●テキスト・参考書等

テキスト：新訂版　学校保健実務必携
　　学校保健安全実務研究会　第一法規
参考書：新版　養護教諭執務のてびき
　　石川県養護教育研究会　東山書房

●成績評価

定期試験８０％　受講態度・提出物２０％

●オフィスアワー

木曜日　１２：１０～１２：５０　研究室

●備考

単位互換対象科目

養護概説

担当者：　満田　タツ江

●科目の概要

養護教諭の職務と保健室の機能を理解し、児童・生徒の健康を保持増進するための教育活動を実践できる能力を育成する

●授業計画

1　養護教諭とは　養護教諭の職務と役割
2　教職員免許法と養護教諭
3　養護教諭の活動計画及び評価
4　学校種別による執務の特徴
5　学校保健における職務の分担
6　保健室について、保健室の機能・保健室経営
7　健康観察、健康相談
8　定期健康検診（１）三計測と聴力検査、視力検査
9　定期健康検診（２）結核検診、尿検査心臓検診
10　定期健康検診（３）検診（内科、眼科、歯科、耳鼻咽喉科）
11　定期健康検診（４）記録と事後措置
12　臨時健康診断　就学時健康診断
13　教職員の健康診断と事後措置
14　疾病別保健管理と保健指導
15　総括
16　定期試験

●到達目標

1. 養護教諭の役割と具体的な職務について理解する
2. 養護教諭に必要な知識・技能・態度を学習する
3. 保健室経営の実施と企画力・実行力・調整能力を身のつける

●授業時間以外の学習

・授業の予習 (テキストを読む)
・授業の復習 (参考書で授業内容を確認する)

●テキスト・参考書等

テキスト：新版・養護教諭執務のてびき　石川県養護教育研究会
東山書房
参考書：新・衛生管理第1種用　上　中央労働災害防止協会
新訂版・学校保健実務必携　学校保健安全実務研究会
第一法規

●成績評価

定期試験８０％　受講態度・提出物等２０％

●オフィスアワー

木曜日　１２：１０～１２：５０　研究室

●備考

単位互換対象科目

教職概論

担当者：　山元　有一

●科目の概要

本講義は養護教諭および栄養教諭を目指す学生が、まずは教諭一般としての教職の意義、教諭の役割、その職務内容を理解し、進路選択を吟味する機会とするものである。専門の知識を持っているだけでなく、それをどのように子どもたちに共感的に、あるいは知的に伝えていくかは、子どもの育ちや教室という場をどのように捉え、本人の人格をそこにどのように活かしていくかにも通じている。講義を通して、伝えることの難しさと楽しさを担当者とともに共感してもらいたい。

●授業計画

1　オリエンテーション
2　教諭とは誰か？――教えるだけでない教諭の役割
3　教諭とは誰か？――先生としての、先生以前の教諭の資質
4　教諭とは誰か？――法規から見た教諭
5　学校における養護教諭・栄養教諭の位置づけ
6　学校組織と教諭
7　学校問題を考える
8　学校と地域、家庭――家庭問題を考える
9　子どもを知る――発達（幼児期・児童期）と教育の目的
10　子どもを知る――発達（青年期）と教育の目的
11　子どもに知る――教諭の鏡としての子ども
12　子どもと知る――相互に作る場としての教室
13　自分を知る――自分なりの教師像・人間像の模索のために
14　自分を知る――自分なりの教育観の模索のために
15　総括とレポートの指示
16

●到達目標

1. 初職の理解と教諭としての資質の理解・吟味

●授業時間以外の学習

・導入的科目であるため、特別の事前学習は必要ないが、講義の内容を絶えず自らの過去の経験に結びつけるようにしてもらいたい。

●テキスト・参考書等

特に使用しない。
参考文献としては、ジョン・デューイの著作（おもに岩波文庫）に目を通してもらいたい。

●成績評価

レポートにより評価する。

●オフィスアワー

水曜日、木曜日を除く、講義以外の午後の時間を、基本的にオフィスアワーとする。

●備考

教育原理

担当者：　山元　有一

●科目の概要

子どもたちの身体的精神的健康を前提として、子どもたちの「意・情・知」を全体として助長していることが教育の第一の使命である。しかしそればかりでなく、やがて社会に出て共同たいとぉ支え合う個人として成長するよう援助することにも、教育はかかわっている。「知ること」を単に知性の問題とせず、責任ある人格的意志にまで高めること、「感じること」が同時に「知ること」であり、「意欲すること」であること、これを本講義は伝えてたいと願っている。

●授業計画

1　はじめに――自分の「学んだ（教わった）」思い出とは？
2　学校教育の産物としての自分――知識、勉強嫌い、性格…
3　学校教育の産物としての自分――友達、恋愛、結婚…
4　教育（学校・家庭）と身体的・精神的自立
5　事例：物語に見る自立――対象喪失、幻想、退治、決断
6　事例：物語に見る自立の失敗――退治延期、絶望死
7　事例：夜驚症、家庭内暴力――予期不安、自分探し
8　事例：学校における教育問題――いじめ、排除の構造
9　事例：歴史に見る成長問題――ハウザー、シュレーバー
10　教育とは何か？（再考）――「子どもから」の教育史から
11　教育とは何か？（再考）――女子教育史から
12　教育とは何か？（再考）――学校誕生史から
13　教育とは何か？（再考）――教育作品か商品か？
14　教育とは何か？（再考）――――放任か、指導か？
15　総括
16

●到達目標

1. 子どもの発達と環境の理解
2. 教育の目的と意義
3. 教育における諸問題の理解

●授業時間以外の学習

同時期開講の科目「教職概論」と必ず関連づけること。また、マスコミ等での教育に関する話題には常に目を光らせておいてほしい。

●テキスト・参考書等

特に使用しない。

●成績評価

試験により評価する。

●オフィスアワー

原則として、水曜日、木曜日を除く講義のない午後の時間をオフィスアワーとする。

●備考

情報機器演習

担当者：　倉元　博美

●科目の概要

大学生活や社会・教育現場で必要なコンピュータやインターネットの基礎的知識・活用法を習得し、それらを現場で応用できる ICT 活用能力を育成する。

●授業計画

1　ハードウェア・ソフトウェアの基礎知識（Windows）
2　インターネットの基礎知識と検索法
3　電子メールの基礎知識と活用，課題演習
4　情報倫理とセキュリティ
5　ファイルの操作と整理，画像作成と画像処理
6　ワープロソフト「Word」による文書処理Ⅰ
7　ワープロソフト「Word」による文書処理Ⅱ
8　表計算ソフト「Excel」によるデータ処理Ⅰ
9　表計算ソフト「Excel」によるデータ処理Ⅱ
10　表計算ソフト「Excel」によるデータ処理Ⅲ
11　課題演習
12　ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄ（Power Point）によるﾌﾟﾚｾﾞﾝ作成Ⅰ
13　プレゼン作成Ⅱ
14　ホームページ作成
15　総合演習
16

●到達目標

1. ICT の基本技術を身につける
2. コンピュータを利用して情報の収集、資料の作成・整理ができる
3. コンピュータを表現の道具として活用できる

●授業時間以外の学習

・授業前：ネットワーク上に準備された教材を事前にコピーし、資料に目を通す
・授業後：資料を見直し常に ICT 機器の活用に努める

●テキスト・参考書等

テキスト：使用しない
参考文献：倉元ほか著『演習で学ぶＩＴ入門』（化学同人）

●成績評価

課題の提出状況（70%）受講態度等（30%）による総合評価

●オフィスアワー

火曜日　16:20～17:00　研究室

●備考

現代社会論

担当者：　倉重　加代

●科目の概要

今日の社会で求められる能力の一つ、論文を書く能力を高めていく。そのために、まず、論文の構成（テーマ設定、自身の主張、主張の根拠）を理解する。次に、論文作成の手順（テーマ設定の方法や、自身の主張に説得力を持たせるための根拠の記述の方法）について具体的作業を通して学んでいく。特に情報収集の方法や、情報収集する際の注意事項、収集した情報の読み方などについての基本的作法は時間をかけて学習したい。

●授業計画

1　現在の自身の論述能力を確認する
2　論文とは何かを学ぶ
3　論文の構成を理解する
4　論文作成の段取りを学ぶ
5　論文の構成要素を具体的に学ぶ
6　アウトラインの書き方を理解する
7　わかりやすい文章の書き方を学ぶ
8　冒頭に作成した自身の論文を自己点検し、改善する
9　データの読み方を学ぶ
10　社会調査（アンケート作成）方法を学ぶ (1)
11　社会調査（アンケート作成）方法を学ぶ (2)
12　調査票（アンケート）を作る
13　作成した調査票について意見交換をし、改善する
14　資料検索の方法を図書館で学習する
15　論文以外の文書について視野を広げる　総括
16

●到達目標

1. 論文の構成を理解するとともに作成の手順を身につける
2. 必要な情報を適切に収集し、活用する能力を身につける
3. 自分の考えをまとめ表現する能力を高める

●授業時間以外の学習

・自身の関心があるテーマや公開されている就職試験（論述）の過去問について実際に論述し、論述に慣れること

●テキスト・参考書等

○テキスト
戸田山和久『新版 論文の教室』NHK ブックス 2012年
○参考書
谷岡一郎『データはウソをつく』ちくまプリマー新書 2007年
ほか

●成績評価

レポート（60%）授業時間内の提出物（30%）
受講態度（10%）

●オフィスアワー

火曜日・金曜日　１６：３０～１８：００（倉重研究室）

●備考

秘書実務

担当者：　有馬　恵子

●科目の概要

社会人に求められる基本的な実務能力を学ぶ。社会人としての基本心得、職場環境の整備、接遇などの対人コミュニケーションについて知識を得ることから始め、教材による演習や事務機器等を使用した実習を通して、実社会に通用する実践力を身につける。

●授業計画

1　働くことの意識、心構え
2　秘書に求められる資質、能力
3　第一印象について
4　あいさつ、話し方、言葉づかい
5　敬語について
6　仕事の進め方
7　総務業務（環境整備、スケジューリング）
8　接遇（訪問）
9　接遇（来客応対、受付業務）
10　接遇（電話応対）
11　文書（公的手紙文）
12　文書（ビジネス文書）
13　情報（収集、整理、活用）
14　慶弔のマナー
15　国際マナー
16

●到達目標

1. 秘書業務に関する基本知識と専門知識について理解する
2. 対人コミュニケーションの技術を身につける
3. 臨機応変に対応できる実務能力を身につける

●授業時間以外の学習

・授業内容に関する資料に目を通しておく
・授業中に指示された課題に取り組む

●テキスト・参考書等

【参考図書】全国大学実務教育協会編著
『新しい時代の秘書ビジネス実務』紀伊国屋書店、2009年

●成績評価

受講態度 (50%)　演習テスト (30%)　課題レポート (20%)

●オフィスアワー

火曜日　16時20分～17時30分　研究室

●備考

健康相談活動

担当者：　満田　タツ江

●科目の概要

児童生徒の心身の健康課題について支援及び保健指導ができる
その場合、他の教職員と連携しながら活動することの大切さを
学ぶ

●授業計画

1　健康相談と保健指導の法的根拠
2　健康相談の基本的理解
3　保健指導の基本的理解
4　発達段階別心身の健康問題の特徴と理解
5　健康相談の基本的プロセスと支援体制
6　支援の進め方と相談技術
7　不登校及び保健室登校への対応
8　個別の保健指導の進め方
9　健康相談事例（食物アレルギー　保健室登校等）
10　健康相談事例（神経性やせ症　友人関係等）
11　保健相談事例（外傷　朝食欠食　インフルエンザ等）
12　保健相談事例（熱中症　アナフィラキシー　歯牙損傷等）
13　身体の健康問題 (内科系)
14　身体の健康問題 (外科系)
15　総括
16　筆記試験

●到達目標

1. 児童生徒の心身の健康課題について理解する
2. 健康課題を捉える力、解決に向けての指導力を育成する
3. 心身の健康課題の早期発見、対応ができる

●授業時間以外の学習

・授業の予習 (テキストを読む)
・授業の復習（授業の内容をまとめる）

●テキスト・参考書等

テキスト：教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引
文部科学省
参考書：養護教諭執務のてびき　石川県養護教諭教育研究会
東山書房
新・衛生管理第1種用　上　中央労働災害防止協会

●成績評価

筆記試験８０％　受講態度・提出物２０％

●オフィスアワー

木曜日　１２：１０～１２：５０　研究室

●備考

単位互換対象科目

病理学

担当者：　胸元　孝夫

●科目の概要

あらゆる疾病に共通する基礎的病変のメカニズムを学び、具体的な疾患の発症・進展。経過について理解する。病理学は病気の成り立ちを研究する学問であり、臨床医学の基礎となる。

病理学の基礎である総論から始める。総論では炎症、腫瘍、免疫など疾患の基礎となる病態を学習する。総論をもとに、各論として器官別に、各種疾患について学習をする。疾患については、まれな病気ではなく、日常的によく出会う疾患を中心に学習する。確認のために毎回、小テストを行う。

●授業計画

1　病理学とは
2　総論１細胞障害
3　総論２循環障害
4　総論３炎症
5　総論４腫瘍
6　総論５免疫・感染・アレルギー
7　総論６代謝障害
8　各論１循環器
9　各論２消化器
10　各論３呼吸器
11　各論４血液
12　各論５中枢神経・感覚器
13　各論６内分泌・代謝
14　各論７骨・筋肉・運動器
15　各論８泌尿器・生殖器
16　定期試験

●到達目標

1. 疾病の組織学的な変化について理解する
2. 疾病の臨床症状と組織学的な変化の関係を理解する
3. 基本的な疾患の病態について理解する

●授業時間以外の学習

・授業で学習した内容をテキストや関連資料で復習をする
・次回の授業範囲をテキストで予習する

●テキスト・参考書等

病理学・堤 寛・医学芸術社

●成績評価

定期試験 60%　受講態度及び小テスト 40%

●オフィスアワー

火曜日を除く月曜日から金曜日 16:20 ~ 研究室 : 408 但し、2名以上

●備考

解剖学Ⅱ

担当者：竹中　正巳

●科目の概要

正常な人体構造の理解なしには、病的な状態を知ることはできない。器官相互の有機的関連を考え、その根底にある人体の原理を知ることを目標とする。器官相互の位置関係を理解し、人体構造が立体的にとらえられるようにする。

●授業計画

1 内分泌（副腎、性腺、ホルモンによる調節）
2 骨格・関節（骨格とは、骨の連結、体幹の骨、頭蓋）
3 骨格・関節（上肢・下肢の骨）
4 筋肉（筋肉の構造と種類、体幹・頭蓋の筋肉）
5 筋肉（上肢・下肢の筋肉）
6 中枢神経（神経系の組織構造と機能、脳）
7 中枢神経（脊髄）
8 末梢神経（脳神経）
9 末梢神経（脊髄神経）
10 末梢神経（自律神経）
11 感覚器（眼、耳）
12 感覚器（舌、鼻、皮膚）
13 生殖器（男女生殖器）
14 人体の発生（受精と胎児の発生）
15 人体の発生（成長と老化）
16

●到達目標

1. 内分泌、骨格、筋肉の理解
2. 中枢・末梢神経の理解
3. 感覚器、人体発生の理解

●授業時間以外の学習

・テキストをよく読んで講義に臨むこと
・講義後は、テキストの章末のゼミナール問題を解くこと

●テキスト・参考書等

テキスト：系統看護学講座１　解剖生理学　医学書院
　　：新衛生管理　上　第1種用　中央労働災害防止協会
参考図書：井上貴央監訳 「カラー人体解剖学－構造と機能：マクロからミクロまで」西村書店

●成績評価

毎授業ごとの小テストの結果を合計し、評価する（100%）

●オフィスアワー

木曜日　12:00~12:50（研究室）

●備考

単位互換開放対象科目

解剖生理学実験

担当者：竹中　正巳

●科目の概要

自らの身体機能の計測等を通し、循環器系、感覚器系、骨格系、筋肉系、神経系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系の構造や機能のついての理解を深める実験・実習を行う。人体の正常な構造と機能に関する知識を実験を通して体得する。

●授業計画

1 オリエンテーション
2 循環に関する実験Ⅰ（血圧とその調節、運動機能検査）
3 循環に関する実験Ⅱ（心電図、運動機能検査）
4 感覚に関する実験Ⅰ（味覚）
5 感覚に関する実験Ⅱ（錯視）
6 骨格に関する実習Ⅰ（人体構造の立体的位置関係の把握）
7 骨格に関する実習Ⅱ（人体構造の立体的位置関係の把握）
8 歯に関する実習Ⅰ（乳歯、永久歯の形態の観察）
9 歯に関する実習Ⅱ（永久歯列と無歯顎）
10 体温に関する実験（身体各部の温度、体温とその調節機構）
11 神経疲労に関する実験（ﾌﾘｯｶｰ試験、疲労とは、視環境）
12 疲労とその予防（疲労の原因・分類・経過・測定・予防・回復）
13 呼吸に関する実験（ｽﾊﾟｲﾛﾒｰﾀｰを用いた実験、肺機能検査）
14 組織標本の観察
15 定期試験
16

●到達目標

1. 循環器、感覚器の理解
2. 骨格、筋肉の理解
3. 神経、呼吸器の理解

●授業時間以外の学習

・実験の手順を記したプリント、参考書をよく読み実験に臨むこと
・実験後は、得られたデータをもとに考察を深め、レポートを作成すること

●テキスト・参考書等

テキストは使用しない　実験の手順を記したプリントを配布する
参考図書：系統看護学講座１　解剖生理学　医学書院
　　：新衛生管理　上　第1種用　中央労働災害防止協会
　　：「カラー人体解剖学－構造と機能：マクロからミクロまで」西村書店

●成績評価

実験ごとに提出するレポート（60%）
筆記試験（30%）実験態度（10%）

●オフィスアワー

木曜日　12:00~12:50（研究室）

●備考

微生物学

担当者：　小松澤　均

●科目の概要

私達を取り巻く環境には多くの微生物が存在している。人類はこれらの微生物の一部を発酵食品などとして有効に利用している。しかし、一方で多くの病原微生物が存在し、ヒトに様々な疾患を引き起こしている。本授業では微生物である細菌、真菌、ウィルス、原虫等について基本的な特徴について理解する。また、感染症としての病原微生物の種類や人への病原性について理解する。さらに、病原性微生物感染に対する感染予防や治療について学ぶことを目標とする。

●授業計画

1 微生物学概論（微生物学の歴史と概要）
2 細菌の一般性状１（命名法、分類、形態、構造など）
3 細菌の一般性状２（培養、増殖、遺伝子など）
4 感染（感染の種類、感染経路、感染成立要件など）
5 免疫力１（免疫の概要、自然免疫）
6 免疫力２（獲得免疫、アレルギー、自己免疫疾患など）
7 細菌各論１（グラム陽性菌：ブドウ球菌、レンサ球菌など）
8 細菌各論２（グラム陰性菌：大腸菌、緑膿菌など）
9 細菌感染症の診断と治療（診断法、抗菌薬など）
10 ウィルスの一般性状（大きさ、形態、構造、増殖など）
11 ウィルス各論１（DNA ウィルス：ヘルペスウィルスなど）
12 ウィルス各論２（RNA ウィルス：レトロウィルスなど）
13 真菌・原虫の一般性状（大きさ、構造、増殖など）
14 真菌・原虫各論（カンジダ、マラリアなど）
15 感染症予防（滅菌法、消毒法など）
16 定期試験

●到達目標

1. 微生物の種類と性状を説明できる
2. 微生物感染症の概念と種類・病態を説明できる
3. 感染症予防法、診断法、治療法を説明できる

●授業時間以外の学習

・予習（授業予定の内容の部分のテキストを事前に読む）
・復習（配布資料の整理をし、内容の確認をする）

●テキスト・参考書等

コンパクト微生物学（改訂第３版）、編集：小熊恵二、堀田博、南江堂

●成績評価

定期試験の成績（100%）

●オフィスアワー

講義終了後、講義室

●備考

薬理概論

担当者：　栗原　崇

●科目の概要

薬理学とは、生体と外界の物質 (薬物および毒物) の相互作用の結果、生じる現象 (薬理作用) を研究する学問体系である。薬理概論では、薬理作用を説明するための基礎的知識の習得に重点を置き、身近に接する薬物・毒物に関する薬理作用を理解することを目的とする。

●授業計画

1 薬理学総論 -1 (薬力学 : 受容体と細胞内情報伝達)
2 薬理学総論 -2 (薬物動態学)
3 自律神経薬理学 -1 (交感神経系)
4 自律神経薬理学 -2 (副交感神経系)
5 末梢神経薬理学 (骨格筋弛緩薬、局所麻酔薬)
6 中枢神経薬理学 -1 (全身麻酔薬、鎮静睡眠薬、抗てんかん薬)
7 中枢神経薬理学 -2 (抗精神病薬、気分安定薬)
8 抗炎症薬、鎮痛薬
9 循環器薬理学 -1 (抗高血圧薬、心不全治療薬、利尿薬)
10 循環器薬理学 -2 (狭心症治療薬、抗不整脈薬)
11 内分泌薬理学 (糖尿病治療薬・脳下垂体前葉ホルモン)
12 呼吸器系薬理学 (気管支喘息治療薬、COPD 治療薬)
13 消化器系薬理学 (消化性潰瘍治療薬、消化管運動賦活薬)
14 化学療法薬 -1 (抗生物質)
15 化学療法薬 -2 (抗ウイルス薬、抗ガン剤)
16 定期試験

●到達目標

1. 薬理作用の一般的概念を理解する
2. システム特有に適用される薬物の作用メカニズムを理解する
3. 薬物動態、薬物相互利用の基本的概念を理解する

●授業時間以外の学習

・薬理学を理解する上で、解剖学、生理学、微生物学等の基礎知識は必須であり、よく学習しておく
・教科書・副読本を購入し、学習する

●テキスト・参考書等

・系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学 (第13版) 吉岡充弘 / 泉剛 / 井関健 医学書院 (2014) をテキストとする
・参考書として、New 薬理学 改定第6版 田中千賀子 / 加藤隆一編 南江堂 (2011) を挙げる

●成績評価

筆記試験70%、発表形式の宿題30% を総合評価 (100点) とする
総合評価100点満点中60点以上を合格とする

●オフィスアワー

平日は他大学での勤務のため、e-mail でも質問を受け付けます

●備考

看護実習 (1 年後期)

担当者：　満田　タツ江

●科目の概要

　より健康的に生きるための支援技法を修得する
　さらに、care のために必要な安全・安楽・清潔感を身につける
来室時や緊急時に観察⇒判断⇒適切な処置⇒事後指導がしっかりできる能力を育成する

●授業計画

1　オリエンテーション、入院時・来室時の援助
2　バイタルサインの測定と記録
3　ベッドメーキング
4　シーツ交換と体位
5　安楽法と運搬
6　口腔内の清潔
7　身体の清潔
8　頭髪の清潔
9　食生活の援助
10　排泄の世話
11　罨法・衛生材料の種類と作り方
12　小児看護
13　滅菌と消毒
14　感染予防
15　総括
16　筆記試験及び実技試験

●到達目標

1. 児童生徒の健康ニーズに対する観察力・判断力の育成
2. 安全で安楽な健康生活の支援技法を修得する
3. 支援技法を通して健康課題への対応力をつける

●授業時間以外の学習

・授業の予習 (テキストを読む)
・授業の復習（繰り返し練習する）

●テキスト・参考書等

テキスト：基礎看護技術ガイド　川島みどり監修　照林社
参考書：養護教諭のための看護学　藤井寿美子他　大修館書店

●成績評価

定期試験８０％　受講態度・提出物２０％

●オフィスアワー

木曜日　１２：１０～１２：５０　研究室

●備考

看護実習 (2 年前期)

担当者：　満田　タツ江

●科目の概要

　より健康的に生きるための支援技法を修得する
さらに、care のために必要な安全・安楽・清潔感を身につける
来室時や緊急時に、観察⇒判断⇒適切な処置⇒事後指導がしっかりできる能力を育成する

●授業計画

1　薬についての知識と管理
2　医療的ケア
3　包帯法、傷の手当て
4　学校における救急処置 (内科系)
5　学校における救急処置（外科系）
6　訴えや症状に対する理解と看護 (内科的)
7　訴えや症状に対する理解と看護 (外科的)
8　訴えや症状に対する理解と看護 (精神心理的)
9　診察の介助
10　身体の清潔 (入浴・シャワー浴)
11　経管営栄養法、褥瘡の予防
12　検査と看護
13　リハビリテーションと看護
14　死後のケア　他
15　総括
16　筆記試験及び実技試験

●到達目標

1. 児童生徒の健康ニーズに対する観察力・判断力の育成
2. 安全で安楽な健康生活の支援技法を修得する
3. 支援技法を通して健康課題への対応力をつける

●授業時間以外の学習

・授業の予習 (テキストを読む)
・授業の復習（繰り返し練習する）

●テキスト・参考書等

テキスト：基礎看護技術ガイド　川島みどり監修　照林社
参考書：養護教諭のための看護学　藤井寿美子他　大修館書店

●成績評価

筆記試験８０％　受講態度・提出物２０％

●オフィスアワー

木曜日　１２：１０～１２：５０　研究室

●備考

救急処置Ⅱ

担当者：　満田　タツ江

●科目の概要

傷病者を観察し、正確な判断と適切な処置ができる
どんな救急場面に遭遇しても冷静に対応できる様、知識・技能を育成するために4日間の集中演習で学ぶ

●授業計画

1　救急法の概要
2　一次救命処置 (心肺蘇生法、AED の使用方法、気道異物除去)
3　けが　各部のけがと手当　特殊なけが
4　きずの手当　止血、包帯　三角巾
5　骨折の手当　脱臼、捻挫
6　搬送　１人で・多人数での搬送　特殊な状況での移動方法
7　救護　災害時の心得と救護
8　総括
9　筆記試験及び実技試験
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 応急手当の基本知識と技能の修得
2. 傷病者に対し観察し、適切な判断と対応が出来る
3. 救助者としての心得と態度を学ぶ

●授業時間以外の学習

・授業の予習（救急処置Ⅰの復習）
・授業の復習（繰り返し練習する）

●テキスト・参考書等

テキスト：救急法講習教本　日本赤十字社
参考書：救急処置　松野智子他　少年写真新聞社

●成績評価

筆記試験５０％　実技試験５０％

●オフィスアワー

木曜日　12：10～12：50　研究室

●備考

教育心理学

担当者：　宮里　新之介

●科目の概要

教育心理学とは、教育に関する様々な事柄を、心理学の方法を用いて研究している学問です。
本講義では、人がどのように発達するのか、どのように適応するのか、どのように学習するのかといったメカニズムに関する基礎的な心理学の用語及びその内容の理解を深めます。
この科目で学ぶことは、教員が生徒に対して行う学習支援や人間関係における適応の支援といった教育活動の基礎につながるものです。

●授業計画

1　オリエンテーション　／　教育心理学で学ぶことは何か
2　発達過程①　（発達とは何か）
3　発達過程②　（知能の発達について）
4　発達過程③　（社会性の発達について）
5　個人差への対応①　（個人差の理解）
6　個人差への対応②　（適応とカウンセリング）
7　個人差への対応③　（特別支援教育）
8　学習過程①　（動機づけと学習）
9　学習過程②　（代表的な学習理論）
10　学習過程③　（知識、スキルの獲得）
11　支援の手立て①　（学力と教育評価）
12　支援の手立て②　（個に応じた学習指導）
13　支援の手立て③　（主体的学びの授業）
14　人間関係の理解①　（学習集団）
15　人間関係の理解②　（教師－生徒関係）
16　定期試験

●到達目標

①学習、適応、発達に関する心理学用語を理解し、説明できる
②実証的なデータに基づき考えることができる
③学んだ理論と教育活動を関連させて考えることができる

●授業時間以外の学習

授業では前回の授業についての理解度を図るためにミニテストを行いますので、復習を行って授業に臨むようにしてください

●テキスト・参考書等

「教師教育テキストシリーズ④　教育心理学」
杉江修治（編著）　学文社

●成績評価

・学期末の定期試験（80%）
・講義時のミニテスト（20%）

●オフィスアワー

金曜日　10：35～12：05　（研究室　本館3階）

●備考

発達心理学

担当者：　平嶋　慶子

●科目の概要

発達の定義とその様相を学び、生命の発達はどのような道すじをたどるのかを理解する。また、ひとの一生涯の発達を学ぶことによって発達変化の意味を考え、自分自身を理解する。

●授業計画

1 序論：発達と何か
2 発達の原則：発達段階
3 発達の規定因：遺伝と環境
4 発達のメカニズム：相互作用説
5 発達段階とその特徴１．胎児期～周産期～乳児期
6 〃 ２．幼児期
7 〃 ３．児童期
8 〃 ４．思春期～青年期
9 〃 ５．成人期（壮年期～老人期）
10 各側面の発達１．知覚と認知・思考
11 〃 ２．ことばとコミュニケーション
12 〃 ３、情動と意思
13 〃 ４．社会性と道徳性
14 〃 ５、親子関係とパーソナリティー
15 発達のつまずきとその援助・総括
16 定期試験

●到達目標

1. 発達の概念と発達の原則を学ぶ
2. 発達理論を理解する
3. 人の一生の発達的変化を学ぶ

●授業時間以外の学習

配布資料は講義後にも熟読し、毎回持参すること
キーワードは、講義中であっても検索可、ノートや配布資料に調べたことを書きこんでおくとよい

●テキスト・参考書等

新・プリマーズ／保育／心理　発達心理学　無藤隆／中坪文典／西山修　編著　ミネルヴァ書房
参考文献等は講義中に適宜紹介する

●成績評価

受講態度２０％　定期試験８０％

●オフィスアワー

月・水・金曜日　９・１０限　研究室

●備考

単位互換開放対象科目

教育方法の研究

担当者：　横峯　孝昭

●科目の概要

学習指導案の作成について学び、模擬授業（グループ）行う過程での教材研究について考えてもらうことを目的とする

●授業計画

1 オリエンテーション
2 保健教育と学習指導案
3 保健学習の内容①（3、４学年）
4 保健学習の内容②（5、６学年）
5 模擬授業①（グループ別に別時に設定）
6 模擬授業②（グループ別に別時に設定）
7 模擬授業③（グループ別に別時に設定）
8 総括
9
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 養護教諭の行う学習内容について理解する
2. 学習指導案の作成が可能となる
3. 作成した学習指導案を下に模擬授業を行い評価し合う

●授業時間以外の学習

学習指導案の大まかな書き方について指導を行うが、内容や教材研究については各々の授業外学習となるため、参考となりうる指導案を探す等のしていただきたい

●テキスト・参考書等

〈参考書〉
小学校学習指導要領　体育編　文部科学省

●成績評価

学習指導案（細案）提出（70%）受講態度（30%）

●オフィスアワー

月曜日　14:40～18:00　研究室

●備考

医療事務総論（医療秘書実務含む）

担当者：　児玉　利大

●科目の概要

少子、高齢化社会へ急速に移行しているわが国において、医療を取り巻く社会環境の変革を求められる現在、患者のためのより良い医療提供と医師本来の社会的責務が達成できるよう、補佐業務を身につけ医療秘書実務士の資格を取得する。

●到達目標

1. 医療の基本的な理解を医療事務全般にわたる基礎知識を学習する
2. 医療事務に関する諸規則についての知識を習得する
3. 医療知識を身につけ、診療録及び病院の業務の流れを理解する

●授業時間以外の学習

保健、医療、福祉等の社会保障関連の知識をテレビ、ラジオ、新聞雑誌、インターネット等のメディアから得る。

●テキスト・参考書等

日本医療福祉実務教育協会監修「医療秘書実務士選書　医療事務総論」建帛社

社会保険研究所　新訂「医療事務の手引」

●授業計画

1 医療事務総論の必要性と医療事務の特性
2 病院医療の概要
3 医療事務の仕事
4 医療秘書の役割と業務
5 社会保障制度
6 医療保険制度の概要
7 医事関係法規
8 医療施設の概要
9 保険請求業務
10 医事業務
11 外来、入退院業務
12 料金徴収業務、統計業務
13 介護保険制度
14 医療秘書としての人間関係と接遇
15 医療事務総論の総括
16

●成績評価

受講態度　20%
筆記試験　80%

●オフィスアワー

水曜日　14：25〜14：40（講義室）及び授業後15分非常勤講師室で対応

●備考

医療事務演習Ⅰ

担当者：　児玉　利大

●科目の概要

医療秘書実務士養成の趣旨に沿って、医療事務及び診療報酬点数の基本を短時間で学べることを目的とし、医療福祉の現場で活躍することを目指している。

●到達目標

1. 診療行為における診療報酬算定要件を理解する
2. 診療報酬明細書の作成及び請求について理解する
3. 医療費の仕組みと診療報酬点数の算定を行う技術を身につける

●授業時間以外の学習

前もって教科書に目を通しておくこと。

●テキスト・参考書等

日本医療福祉実務教育協会監修「医療秘書実務士選書　医療事務演習」建帛社

●授業計画

1 診療報酬の仕組みと診療報酬明細書
2 診療報酬明細書の作成と提出
3 診療報酬明細書の記載の一般的事項
4 医科診療報酬点数の算定　1. 基本診療料
5 医科診療報酬点数の算定　2. 医学管理等・在宅医療料
6 医科診療報酬点数の算定　3. 投薬料
7 医科診療報酬点数の算定　4. 注射、処置料
8 医科診療報酬点数の算定　5. 手術、麻酔料
9 医科診療報酬点数の算定　6. 検査料
10 医科診療報酬点数の算定　7. 画像診断、ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ料
11 医科診療報酬点数の算定　8. 入院基本、特定入院料
12 医科診療報酬点数の算定　9. 入院料の算定とﾚｾﾌﾟﾄの作成
13 診療報酬請求事務
14 診療報酬明細書の総括
15 診療報酬の総括
16

●成績評価

受講態度　20%
筆記試験　80%

●オフィスアワー

水曜日　14：25〜14：40（講義室）及び授業後15分非常勤講師室で対応

●備考

社会福祉

担当者：　谷川　知士

●科目の概要

社会福祉の歴史や現在の制度及び今日の課題や方向性を外観し、保育士を中心に、社会福祉の専門職として身に付けなければならない倫理やボランティア意識について、身近な行政との関係も含めて学習を進めていく。

●授業計画

1 保育における社会福祉の意義について学ぶ
2 社会福祉の概念と理論（なぜ必要なのかについて学ぶ）
3 社会福祉の対象と主体（誰を対象とした福祉かを学ぶ）
4 現代社会の特徴と福祉ニーズについて学ぶ
5 社会福祉の歴史から現代社会の課題について考える
6 地域福祉の必要性と誰が担うかについて学ぶ
7 社会福祉の関連法と制度について学ぶ
8 社会福祉の財政と費用負担について学ぶ
9 社会福祉の従事者と保育士の連携について学ぶ
10 各福祉関連法とこれからの動向について学ぶ
11 ボランティアの意義と活動について学ぶ
12 人権と権利擁護について学ぶ
13 社会福祉における海外事情を学ぶ
14 ノーマライゼーション・バイアフリーについて学ぶ
15 鹿児島の福祉制度について学ぶ
16

●到達目標

1. 誰にとっての社会福祉なのかを理解する
2. 社会福祉の歴史的背景と関連法について理解する

●授業時間以外の学習

・幸せについて考えてほしい。
・人権について考えてほしい。

●テキスト・参考書等

テキスト：「社会福祉」片山義弘・李木明徳　編著、北大路書房
参考図書：「国民の福祉と介護の動向」厚生労働統計協会　発行

●成績評価

レポート等の提出物（10%）受講態度（20%）試験（70%）

●オフィスアワー

第１・第３水曜日　１６：２５～１７：５５（研究室）

●備考

単位互換科目

情報処理演習

担当者：　有馬　利加子

●科目の概要

Office-Soft（主に Word & Excel & PowerPoint）を活用して、ビジネス文書や実習で利用できる文書作成、Word・Excel 連携の応用文書作成、PowerPoint によるプレゼンテーション（実習報告等：学生全員による相互評価）までを目指しています。
（e・ラーニング「Moodle」利用）

●授業計画

1 「Word」基礎演習
2 「Excel」基礎演習
3 「Internet」活用①（Mail）
4 「Internet」活用②（実習関連検索）
5 「実習」のための文書作成演習①（作表・作図等）
6 「実習」のための文書作成演習②（アンケート作成等）
7 「Excel」応用演習（関数利用）
8 総合演習（「Word・Excel」連携）
9 「PowerPoint」活用（実習報告等作成）①
10 「PowerPoint」活用（実習報告等作成）②
11 実習報告等の学生相互評価（Moodle 上）①
12 実習報告等の学生相互評価（Moodle 上）②
13
14
15
16

●到達目標

1. 各種の基本問題に取り組み修得したスキルを活用できる
2. 各種の応用問題に合わせて自由にパソコンを利用できる

●授業時間以外の学習

・演習時に提示した課題を完成させて提出する
・時間内に完成できなかった項目・内容を復習する

●テキスト・参考書等

・参考書：倉元博美他著『演習で学ぶＩＴ入門』（化学同人）
・使用機器：パソコン（Windows）
　　ビデオプロジェクター

●成績評価

演習時における課題作成１提出及び受講態度等の総合評価
レポート・課題等の提出状況 :50%　受講態度：50%

●オフィスアワー

月曜日　12:30－13:30（西館418研究室）

●備考

精神保健

担当者：　胸元　孝夫

●科目の概要

現代日本はストレス社会と言われ、ストレスに関連する疾病が急増している。精神保健の概念を理解して、種々のストレス関連疾患や統合失調症などの精神疾患の病態や対応について学ぶ。

精神医療の歴史や現状、精神症状、生物学的な基礎、ストレスとは何かなどの総論と統合失調症、気分障害、不安障害、発達障害、人格障害、薬物依存症などの各疾患についての基礎を学び、看護 や対応についても理解を深める。知識の確認のため毎回小テストを行う。

●授業計画

1 精神医療の歴史と現在
2 精神機能の生物学的基礎
3 精神症状1
4 精神症状2
5 ストレスと対処法
6 統合失調症
7 気分障害
8 不安障害1
9 不安障害2
10 発達障害
11 認知症
12 人格障害
13 薬物依存症
14 アルコール依存症
15 心身症および総括
16 定期試験

●到達目標

1. ストレスや精神的健康とは何かについて理解する
2. 基本的な精神疾患について理解する
3. 精神疾患に対する基本的な対応について理解する

●授業時間以外の学習

授業で学習した内容をテキストや関連資料で復習をする
次回の授業範囲をテキストで予習する

●テキスト・参考書等

精神看護の基礎
精神看護学①　医学書院

●成績評価

定期試験　６０％　小テストおよび授業参加度　４０％

●オフィスアワー

火曜日を除く月曜日から金曜日 16:20 ~ 研究室 : 408 但し、2名以上

●備考

疾病学

担当者：　胸元　孝夫

●科目の概要

基本的な疾患について、臨床的な側面の知識を身につけ、理解を深める。器官別に様々な疾患について学習する。解剖学、生理学、生化学、病理学などの基礎医学の知識を基に、日常的によく出会う疾患を中心にした common disease を中心として学習し、臨床的な知識を深める。疾患の疫学、病因・誘因、病態、症状、診断法、治療法、予後、予防などの観点から、疾患を理解する。

●授業計画

1 疾病学とは？
2 循環器
3 呼吸器
4 消化器
5 脳血管
6 中枢神経
7 内分泌・代謝
8 腎・泌尿器
9 血液
10 免疫・感染
11 皮膚
12 感覚器
13 骨・筋肉
14 生殖器
15 総括
16 定期試験

●到達目標

1. 疾患の病因、病態、疫学、予後について理解する
2. 疾患の症状、理学・検査所見について理解する
3. 疾患の治療法について基本的な知識を身につける

●授業時間以外の学習

・授業で学習した内容を参考図書や関連資料で復習をする
・次回の授業範囲を参考図書で予習する

●テキスト・参考書等

病理学　堤 寛：　医学芸術社
系統看護学講座　病態生理学：医学書院

●成績評価

定期試験（60%）小テスト及び受業への参加度（40%）

●オフィスアワー

408研究室、16:20〜、火曜日を除く月曜日から金曜日まで
２名以上

●備考

環境衛生学

担当者：　村山　恵美子

●科目の概要

人間が健康で安心・安全な生活を送るためには、先ず、その生活する環境が健全でなければならないが、最近その健全性を脅かす様々な環境問題が生じている。この講義では、地球規模から身近な生活環境にいたる環境汚染の実態に目を向け、環境問題を現状認識し、理解することを目的とする。

●授業計画

1 地球環境（地球の温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨）
2 地球環境（砂漠化、熱帯雨林の減少、野生生物種の減少）
3 水（水質汚染、浄化処理、水の循環を学ぶ）
4 土壌（土壌汚染、物質の循環を学ぶ）
5 人口増加と食料問題（人口と食料の関係を知る）
6 化学物質による環境汚染と人体影響（重金属、ダイオキシン
7 廃棄物とリサイクル（大量消費を考える）
8 食品汚染と安全性の確保（食環境の現状を学ぶ）
9 環境中の病原微生物（病原微生物による感染を学ぶ）
10 自然毒（動物や植物が持つ毒による食中毒を学ぶ）
11 寄生虫症（最近増えている寄生虫症等を学ぶ）
12 食品添加物（使用実態、安全性の確保等を学ぶ）
13 新しい食品の安全性問題（遺伝子組み換え、放射線照射等）
14 社会環境報告書調査①（調査報告を発表する）
15 社会環境報告書調査②（調査報告を発表する）
16 定期試験

●到達目標

1. 環境衛生に関する現状を認識し、問題点を理解する
2. 安全な生活を営むためにできることを考える

●授業時間以外の学習

・前もってテキストに目を通す
・不明な点について調べたり、質問する
・企業の環境対策への取り組みを調べ、発表の準備をする

●テキスト・参考書等

テキスト：「環境衛生の科学第2版」篠田純男他、三共出版
参考書：「新衛生管理上（第一種用）」中央労働災害防止協会編
「食品安全学」中村好志・西島基弘編、同文書院

●成績評価

定期試験６０％
調査報告プレゼンテーション４０％

●オフィスアワー

月曜日・火曜日　16：15～18：30（研究室）

●備考

運動生理学

担当者：　大村　一光

●科目の概要

身体のさまざまな生命現象のメカニズムを研究する学問に生理学があるが、なかでも運動・スポーツによって、身体の諸器官、機能がどのような働きを示し、それらがどのように変化するのかを明らかにする学問を運動生理学と呼ぶ。本講義では、ウォーキング、ジョギングなど身近な運動を通して運動による人体生理機序の理解をはかる

●授業計画

1 オリエンテーション、前半活動種目の決定
2 運動と身体組成（体脂肪率、除脂肪体重）
3 運動とエネルギー（無酸素運動の定義と運動効果）
4 運動とエネルギー（有酸素運動の定義と運動効果）
5 運動と呼吸（最大酸素摂取量と運動による変化）
6 運動と循環（運動による循環系への適応，スポーツ心臓）
7 運動と神経（運動と技能の上達，神経系の役割）
8 運動と骨（骨粗しょう症，運動の効果）
9 定期試験
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 人体各種機能の理解を深める
2. 運動に伴う機能の変化を理解する
3. 指導現場への応用ができるようにする

●授業時間以外の学習

1年次の解剖生理学等の復習を十分に行うこと

●テキスト・参考書等

運動生理学、石井喜八　他、大修館
毎時間、資料配布を行う

●成績評価

定期試験（70% ）
受講態度（30%）

●オフィスアワー

水、木曜日のの昼食時間、研究室

●備考

単位互換科目

臨床看護実習(学外)

担当者：　満田　タツ江

●科目の概要

養護教諭に必要な看護能力と実践力を育成する
さらに医療機関と連携していく上で理解すべき病院の組織・機能について学ぶ

●授業計画

1 オリエンテーション (病院機構と看護組織・看護体制)
2 臨床における観察と記録
3 看護におけるコミュニケーション
4 日常生活の援助
5 訴えや症状に対する理解と看護
6 母性の看護
7 小児の看護
8 総括
9 実習記録物等の提出・臨床からの評価
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 看護を行う上での知識・技能・態度の育成
2. 病院の組織・機能を理解し、医療機関との連携の推進
3. 看護援助への参加及び実習

●授業時間以外の学習

・授業の予習（看護実習を繰り返し行う）
・授業の復習（記録物の整理とまとめ）

●テキスト・参考書等

テキスト：基礎看護技術ガイド　川島みどり監修　照林社
参考書：養護教諭のための看護学　藤井寿美子他　大修館書店

●成績評価

臨床指導者の評価８０％　受講態度・提出物２０％

●オフィスアワー

木曜日　１２：１０～１２：５０　研究室

●備考

臨床看護実習指導

担当者：　満田　タツ江

●科目の概要

より高い実習効果をめざすために、臨床看護実習についての心得や必要な知識について学ぶ

●授業計画

1 臨床とは、病院について（病院の形態と組織）
2 診療部門と看護部門
3 実習資料・記録物等の配布と諸注意
4 臨床看護実習指導の意義・目的
5 実習上の心得と実習連絡会
6 臨床看護実習事前訪問指導
7 実習記録の書き方
8 総括
9
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 臨床看護実習についての意義・目的を理解する
2. 臨床看護実習を行う上での必要な知識・態度の育成
3. 事前訪問や実習上の諸注意を守る

●授業時間以外の学習

・授業の予習（事前学習ノートの作成）
・授業の復習（テキストのプリントを見直す）

●テキスト・参考書等

テキスト：臨床看護実習資料 (プリント)
参考書：養護教諭のための看護学　藤井寿美子他　大修館書店

●成績評価

実習レポート・小テスト等８０％
受講態度・提出物 (事前学習ノート等）２０％

●オフィスアワー

木曜日　１２：１０～１２：５０　研究室

●備考

教育制度論

担当者：　池田　哲之

●科目の概要

わが国における学校教育制度の変遷を知り、現代日本における公教育の意義と機能を理解する。

●授業計画

1　幕末期の教育概況－寺子屋・塾・藩校－
2　「学制」の布達－日本における近代学校教育制度の萌芽－
3　森有礼の教育政策－諸学校令－
4　教育勅語（教育ニ関スル勅語）の渙発
5　大正期の教育動向－新教育運動－
6　決戦下の教育と子ども－昭和戦時教育体制－
7　占領支配下の教育改革－４大教育指令－
8　旧教育基本法の制定目的
9　高度経済成長と教育政策
10　臨時教育審議会の設置目的と審議概要
11　子どもの変容－学校の無力化－
12　改正教育基本法－戦後公教育の転換－
13　道徳の「教科」化－可能性と課題－
14　安倍政権と教育改革
15　総括
16　定期試験

●到達目標

1.「国民国家」の形成と公教育の関係について理解する
2. 戦後教育改革の意義および問題点を知る
3. 現代公教育像を構築しうる知見を養う

●授業時間以外の学習

・日頃より教育問題に関心を持ち、新聞などにおける教育関連記事を読むよう努めること

●テキスト・参考書等

指定テキスト：池田哲之、他著『改訂版　現代教育本質論』学文社
参考書：苫野一徳『どのような教育が「よい」教育か』講談社
諏訪哲二『生徒たちには言えないこと』中央公論新社
広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』講談社

●成績評価

筆記試験９０点、受講姿勢・意欲１０点

●オフィスアワー

月曜日１６：３０～１７：３０　研究室（西館４１４）

●備考

単位互換開放対象科目
上記記載内容は、受講生の理解度、受講生数などにより、授業開始後に変更となるばあいもあります。

教育課程の研究

担当者：　横峯　孝昭

●科目の概要

小学校の教育課程について理解するために、小学校学習指導要領第１章総則を読み解き、その基本的な考え方についての内容を深める

●授業計画

1　オリエンテーション
2　教育課程と学習指導要領
3　教育課程の基準と法令
4　教育課程編成の原則及び一般方針
5　内容等の取り扱いに関する共通事項
6　授業時数及び指導計画の作成
7　道徳・特別活動・総合的な学習の時間
8　総括
9　定期試験
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 教育課程編成の基準となる法律について理解する
2. 教育課程編成の基準となる学習指導要領総則について理解する

●授業時間以外の学習

・学習指導要領の全文、解説書を一字一句読み解くことはしないため、一度は目を通しておくことをすすめる

●テキスト・参考書等

＜参考書＞
小学校学習指導要領　文部科学省
小学校学習指導要領解説　総則編　文部科学省

●成績評価

定期試験（70%）受講態度（30%）

●オフィスアワー

月曜：14:40～18:00（研究室）

●備考

保健科教育法

担当者：　大村　一光

●科目の概要

中学校での健康・保健教育の基礎をもとに、家庭・学校・地域社会など、生徒が身近な社会の生活における自己や他人の健康・安全についての基礎的な理解を深め、健康生活の実践に必要な習慣・態度・能力・技能を養い、健康生活を自主的に実践できるような保健科教育の指導法、教育法について学ぶ

●授業計画

1　心身の発達と心の健康（体の発育、呼吸・循環機能の発達）
2　心身の発達と心の健康（性機能の成熟、ストレスへの対処）
3　健康と環境（快適な環境の条件、水とわたしたちの生活）
4　健康と環境（環境の汚染と保全）
5　傷害の予防（傷害の原因と防止、交通事故の防止）
6　傷害の予防（自然災害に備えて、応急処置の意義と手順）
7　健康な生活と病気の予防（生活習慣病とその予防）
8　健康な生活と病気の予防（喫煙、飲酒、薬物乱用と健康）
9　定期試験
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 保健科内容の確認
2. 理解指導法、展開法の理解
3. 模擬授業による実践力向上を目指す

●授業時間以外の学習

教育実習前指導を受けて、単元研究の充実をはかる

●テキスト・参考書等

・新学習指導要領に基づくこれからの保健学習、日本学校保健会、大東印刷
・中学校「保健体育」テキスト、学習ノート

●成績評価

定期試験（50%）模擬授業評価（50%）

●オフィスアワー

水、木曜日の昼食時間、研究室

●備考

教育相談

担当者：　松元　理恵子

●科目の概要

現代社会の変容の中で、幼児、児童生徒の抱える問題が多様化し、深刻化する傾向がみられる。子どもの心の問題を理解し、どのように対応していけばよいのか、成長していく子ども達を支えていくために必要なチーム支援についての理解を深める。

そして、近年の子供の健康に与える家庭の教育や地域社会の機能の低下等を概観し、教師として子供、家族、関係者にいかなる教育相談を行えばよいのかを学ぶ。

●授業計画

1　教育相談の理論と方法（教育相談とは何かを学ぶ）
2　現代を生きる子ども達（子どもの行動の理解を学ぶ）
3　子どもの発達理解と相談・支援１（乳児期・幼児期を学ぶ）
4　子どもの発達理解と相談・支援２（学童期・思春期を学ぶ）
5　不適応行動とその心理１（いじめに対する支援）
6　不適応行動とその心理２（非社会的行動に対する支援）
7　不適応行動とその心理３（反社会的行動に対する支援）
8　保護者への対応１（「親育ち」のための発達支援）
9　保護者への対応２（保護者支援と方針のたて方について）
10　発達障がいや気になる子どもとその保護者へのかかわり
11　子どもの発達とアセスメント
12　虐待について（対応の仕方を学ぶ）
13　危機に直面した子どもの心のケア
14　教育相談の具体的方法（傾聴を学ぶ）
15　社会資源の活用（関係機関を知る）
16　定期試験

●到達目標

1. 問題を抱える子どもの心理状態を理解する
2. 教育相談の基礎的な理論と具体的な方法を習得する
3. 自己理解、他者理解を深め、相談活動のあり方を考える

●授業時間以外の学習

・次の授業でとりあげるテーマについて、配布されたレジュメをもとに予習をする　・配布された資料やワークシートをレジュメと照合しながら復習を行う

●テキスト・参考書等

参考書：よくわかる教育相談　春日井敏之・伊藤美奈子編
　　ミネルヴァ書房

●成績評価

筆記試験は60分で実施（７０％）講義で出された課題（レポート等）の提出状況（２０％）受講態度（１０％）

●オフィスアワー

火曜日・木曜日　12:05〜12:55　研究室

●備考

養教免・中（保健）必修
医療秘書実務士必修
ピアヘルパー受験資格必修

養護実習事前事後指導

担当者：　満田　タツ江

●科目の概要

　実習生としての心得や必要な知識を備える
実習中は、実習生ではあるが児童・生徒に対しては養護教諭であり
指導者であるという立場の自覚を促す

●授業計画

1　養護実習の心得
2　事前訪問と実習オリエンテーション
3　記録物等の記録及び提出について
4　保健室来室者への対応
5　保健指導について
6　学校保健事務
7　養護実習事後指導
8　総括
9
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 社会人としての常識や礼儀の修得
2. 実習生としての立場の自覚と行動ができる
3. 事前訪問や実習上の諸注意を守る

●授業時間以外の学習

・授業の予習 (事前学習ノートの作成)
・授業の復習 (テキストのプリントを見直す)

●テキスト・参考書等

テキスト：養護実習資料（プリント）
参考書：学校保健実務必携　学校保健安全実務研究会　第一法規

●成績評価

実習レポート・小テスト等７０％　受講態度・提出物等３０％

●オフィスアワー

木曜日　１２：１０～１２：５０　研究室

●備考

養護実習（学外）

担当者：　満田　タツ江

●科目の概要

養護教諭としての資質・能力・実践力を育成する
学校教育における保健室の機能と養護教諭の職務を理解する

●授業計画

1　学校の概要
2　学校保健組織活動と学校保健委員会
3　学校保健安全計画に関する事項
4　保健室経営について
5　養護教諭の執務計画と保健管理
6　健康観察と来室者への対応
7　健康診断の準備・実施・事後措置
8　健康相談と保健指導（個別）
9　疾病異常者の救急処置と必要な看護
10　保健指導と保健学習
11　環境衛生の点検と管理
12　安全管理と安全指導
13　日本スポーツ振興センターに関する事項
14　児童生徒の保健活動の指導について
15　総括
16　実習校における評価

●到達目標

1. 教育を志す者としての自覚と積極的な姿勢を養う
2. 学校教育活動に参加し、保健室の機能を理解する
3. 養護活動の実体験を通して養護教諭の専門性を理解する

●授業時間以外の学習

・授業の予習 (学習指導案、掲示物、保健室便りの作成)
・授業の復習 (記録物の整理とまとめ)

●テキスト・参考書等

テキスト：養護教諭執務の手引き　石川養護研究会編　東山書房
参考書：学校保健実務必携　学校保健安全実務研究会　第一法規

●成績評価

協力小学校、協力中学校に設けられた評価委員会の評価８０％
受講態度・提出物２０％

●オフィスアワー

木曜日　１２：１０～１２：５０　研究室

●備考

教育実習（保健）事前事後指導

担当者：　満田　タツ江

●科目の概要

教育実習に向けて基本的な心構えや必要な知識を備える
実習生としてまた指導者としての立場を自覚する

●授業計画

1　教育実習の意義
2　教育実習の心得
3　教育実習の内容と方法
4　教材研究と学習指導案の作成、点検
5　教材研究と学習指導案の作成、点検
6　模擬授業による授業研究
7　模擬授業による授業研究
8　教育実習の報告と反省
9　総括
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1.「保健分野」教育の目標や課題について学習する
2. 中学校教諭をめざす気持ちを明確にする
3. 事前訪問や実習上の諸注意を守る

●授業時間以外の学習

・授業の予習 (事前学習ノートの作成)
・授業の復習 (テキストを読む)

●テキスト・参考書等

テキスト：中学校保健体育　学研
参考書：中学校学習指導要領　保健体育編　文部科学省

●成績評価

実習レポート・小テスト等８０％　受講態度２０％

●オフィスアワー

木曜日　１２：１０～１２：５０　研究室

●備考

教育実習（保健）

担当者：　満田　タツ江

●科目の概要

保健科（保健分野）教育を中心とした教育活動を実践する
教育を志す者としての自覚と資質・能力の向上をめざす

●授業計画

1　教員としての心構え、服務規律等
2　学校経営と教育計画
3　生徒指導の概要と教育相談
4　進路指導の概要と中学生の進路指導
5　保健部 (保健・安全) の概要と活動への参加
6　学級担任と学級経営、学級指導
7　学習指導案の作成と教材研究
8　授業参観 (１年～３年)
9　授業実習と授業研究
10 道徳指導の参観
11 特別活動への参加
12 総合的な学習の時間への参加
13 体育・健康に関する指導
14 特別支援教育への参加
15 総括
16 実習記録等の提出・実習校からの評価

●到達目標

1. これまでの学習（知識や指導法）をさらに具体的に理解する
2. 教員としての自覚と資質の向上をめざす
3. 保健分野の学習指導ができる

●授業時間以外の学習

・授業の予習（学習指導案の作成、学級経営についての学習）
・授業の復習（記録物の整理とまとめ）

●テキスト・参考書等

テキスト：中学校保健体育　学研
参考書：中学校学習指導要領　総則編　　文部科学省
　　中学校学習指導要領　保健体育編　文部科学省

●成績評価

実習校の評価委員会による評価８０％
受講態度、提出物２０％

●オフィスアワー

木曜日　１２：１０～１２：５０　研究室

●備考

医療秘書実務実習（学外）

担当者：　胸元　孝夫

●科目の概要

病院での実務を見学・実習し、病院の業務の流れ、医事部門の実務の現状と病院における医療事 務職の役割を知り、受付業務や秘書実務についての実践力を身につける。

鹿児島県内を中心とする実習先の病院の指導方針に従い、実際に医療事務や秘書実務の体験を行う。特に接遇マナー については、その病院の印象にかかわるので、積極的に指導を受ける。さらにコメディカルスタッフと患 者との間のコミュニケーターとしての役割も学習する。

●授業計画

1　オリエンテーション
2　受付事務
3　診療報酬請求事務・医事業務
4　医局・看護部門での秘書業務
5　病暦管理
6　病棟クラーク
7　診療部門での医療サポーター
8　患者さんとのコミュニケーション
9
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 医療秘書・医療事務業務の基本を習得する
2. コミュニケーターとしての役割・行動を深く理解し習得する

●授業時間以外の学習

日々の実習では実習前日は翌日の実習内容について関連図書、資料で予習する　実習についての毎日の記録を提出する　実習終了後、実習成果の発表を行う。

●テキスト・参考書等

医療秘書実務 建帛社
医療事務演習 建帛社

●成績評価

実習先からの評価（８０%）受講態度（２０%）

●オフィスアワー

408研究室、16:20～、火曜日を除く月曜日から金曜日まで
２名以上

●備考

COC 関連科目

医療事務演習 II

担当者：　胸元　孝夫

●科目の概要

医療秘書実務学外実習にむけて、実習に必要な基本的態度、知識などを学外見学などを通じて身につける。医療業務の効率化や患者サービスの向上のために、電子カルテ導入の医療機関が増えている。 医療秘書実務実習に向けて、実習指導とともにカルテ入力の基本を学ぶ。実習機関及び病院組織について理解し、実習生としての心得を修得した上で、事前訪問を行うま での過程を学習する。

●授業計画

1　病院の機構と医療事務の役割
2　電子カルテ・オーダリングシステム１
3　電子カルテ・オーダリングシステム２
4　処方箋
5　各種検査と診断名１
6　各種検査と診断名２
7　薬剤について
8　病院見学
9
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 見学や講義を通して病院や医療事務の役割を知る
2. 医療事務に必要な医療・医学知識を確認する
3. 電子カルテやオーダリングシステムを理解する

●授業時間以外の学習

・授業で学習した内容についてのレポート提出や参考図書及び関連資料で復習をする
・次回の授業範囲を関連資料で予習する

●テキスト・参考書等

医療秘書実務 建帛社
医療事務演習 建帛社

●成績評価

レポート（70%）受講態度（30%）

●オフィスアワー

408研究室、16:20～、火曜日を除く月曜日から金曜日まで
２名以上

●備考

家族関係論

担当者：　倉重　加代

●科目の概要

一般的にミクロな視点で捉えられがちな家族をマクロに捉え、私たちが「これが家族だ」と描いている家族像や家族関係を見直す。そこから、家族のありようは普遍的なものではなく多様で、また社会や時代とともに変化することを学ぶ。子どもの社会化や少子化・子育て支援など、子どもをめぐる家族関係や社会情勢などの学習から家族の理解を深め、教育や医療の現場で働く者として資質向上を図る。

●授業計画

1　家族とは何か―学問的定義とアンケートから考察する
2　家族の特性と機能について学ぶ
3　家族の類型と世帯について学ぶ
4　家族と全体社会の関配偶者選択のメカニズムについて学ぶ
5　産業化と戦後家族の変動について学ぶ
6　家族の多様化と家族のゆくえについて議論する
7　配偶者選択のメカニズムについて学ぶ
8　結婚の機能について理解する
9　未婚化と少子化について学ぶ
10　子どもの社会化と親子関係について学ぶ
11　子どもの社会化と社会関係について学ぶ
12　子育てのあり方について議論する
13　高齢化社会の家族関係について実態を学ぶ
14　高齢化社会の家族関係について理解する
15　授業の総括、質疑
16　定期試験

●到達目標

1. 社会の動きにともなう家族の変化を理解する
2. 家族を多角的に捉える視点を身につける
3. 教育・医療現場で多様な状況に対応できる柔軟性を見につける

●授業時間以外の学習

・家族に関する各種資料等を入手したり新聞を読んだりして家族に関する問題や動きに関心を持つ

●テキスト・参考書等

○テキスト
木下謙治ほか編『新版　家族社会学』九州大学出版会 2008年.
○参考書
井上眞理子編『現代家族のアジェンダ』世界思想社 2004年.
内閣府『少子化対策白書』　ほか授業中に紹介

●成績評価

筆記試験（50%）レポート（40%）受講態度（10%）

●オフィスアワー

火曜日・金曜日　１６：３０～１８：００（倉重研究室）

●備考

単位互換対象科目

調理実習

担当者：　山﨑　歌織

●科目の概要

食生活を健康に営むために必要な調理法や調理技術の基本を学ぶ。内容は、日本料理、西洋料理、中国料理を中心にそれぞれの料理様式の特徴について学ぶ。さらに、健康で楽しく適切な食生活のあり方について、季節を意識し一汁三菜を基本とした日常食の献立立案を目指す。

●授業計画

1　調理実習の心得と実習実施のための諸注意
2　器具の特徴と扱い方、計量の方法、味覚検査
3　日本料理の特徴と調理①
4　日本料理の特徴と調理②
5　西洋料理の特徴と調理①
6　西洋料理の特徴と調理②
7　日常食の献立作成
8　郷土料理
9　中国料理の特徴と調理①
10　中国料理の特徴と調理②
11　クリスマス料理
12　正月料理
13　レポート提出
14
15
16

●到達目標

1. 調理の基本を習得する
2. 基本的な調理の知識・技術を身につける
3. バランスを考慮した献立が立案できる

●授業時間以外の学習

・事前配布資料を基に、作り方をよく読み予習をする
・事後には、学習した内容をレポートにまとめ提出する

●テキスト・参考書等

テキスト：調理実習レシピ（毎時間配布）
参考書　：食品成分表、香川芳子監修、女子栄養大学出版部

●成績評価

実習レポート５０％　課題レポート３０％　受講態度２０％

●オフィスアワー

金曜日　１４：００～１７：００（研究室：西205）

●備考

住環境学

担当者：古川　惠子

●科目の概要

鹿児島県の地域特性（気候・災害・高齢過疎化）を理解し、課題整理を行うとともに将来像を考える。また、高齢者や障がい者の生活空間を、住宅から近隣地域、まち全体に至るまでと捉え、現状と課題を理解する。特に鹿児島県の高齢化率と独居高齢者率の高さから住環境に求められるものを理解する。

●授業計画

1 鹿児島県の伝統的住宅（本土・離島）
2 限界集落と過疎高齢地域
3 鹿児島の住まいの環境調整
4 地域の施設と自然環境
5 住まいの構造・材料
6 アレルギー、シックハウス症候群
7 鹿児島の防災
8 鹿児島市の都市計画
9 鹿児島県の地方地域とコミュニティ
10 高齢者と住まい生活
11 高齢者・障がい者の環境整備－学外研修 / 県民交流センター
12 〃
13 介護保険と住宅改修
14 多様な住宅を知る－図書館利用
15 自宅再考
16 定期試験

●到達目標

1. 鹿児島県の地域特性を理解できる
2. 超高齢社会の住宅・住環境を理解できる
3. 今後に向けて住環境に関する私見をまとめる

●授業時間以外の学習

・講義の予習：テキストを読む
・講義で不明な点について調べる、質問する

●テキスト・参考書等

テキスト：中根芳一編／私たちの住居学／理工学社 /2006年
参考書：住宅建築（月刊誌 / 図書館）
モダンリビング（季刊誌 / 図書館）　プリント資料配布

●成績評価

レポート（90%）受講態度（10%）で評価

●オフィスアワー

水曜日を除く月～金曜日　16：10～17：30　研究室

●備考

・COC 科目

人類学

担当者：竹中　正巳

●科目の概要

人類学は、「発達した文化を持つ生物種としての人類」を総合的に研究する学問であり、ヒトとは何かを科学的に偏りなく、理解することを目標としている。言い換えれば、人類の本質（他の生物種との共通性と異質性，人類の独自性・特質）、変異（集団や個体ごとの違い・ばらつき，およびその意味）、由来（起源と進化・変遷）を対象とし、それらを明らかにすることが人類学の目的であり、目標である。この講義を通して，過去および現在の人類の解剖・生理・発育・運動機能・遺伝・行動・生態・文化、地球における人類の出現と変遷に関わる場所・時代・環境など、また、それらに関する人類と近縁な動物との比較などについての知識が得られる。

●授業計画

1 はじめに～人間とはなにか～
2 ヒトの生物学的位置づけ（ヒトの形態的特性）
3 ヒトの生物学的位置づけ（ヒトの形態的特性）
4 ヒトの生物学的位置づけ（ヒトの社会と文化）
5 ヒトの生物学的位置づけ（ヒトの社会と文化）
6 人類の600万年の歴史（人類の誕生）
7 人類の600万年の歴史（出アフリカ）
8 人類の600万年の歴史（世界各地への拡散と適応）
9 モンゴロイドの拡散（北からの拡散）
10 モンゴロイドの拡散（南からの拡散）
11 日本人の起源（旧石器時代）
12 日本人の起源（縄文時代）
13 日本人の起源（弥生時代）
14 日本人の起源（古墳時代）
15 日本人の起源（中・近世）
16

●到達目標

1. ヒトの生物学的位置づけの理解
2. 人類の600万年の歴史の理解
3. 日本人の起源の理解

●授業時間以外の学習

・講義前、講義後に参考図書をよく読み込むこと

●テキスト・参考書等

テキストは使用しない
参考図書：「日本人の起源－古人骨からルーツを探る」中橋孝博　講談社　2005：「人間史をたどる－自然人類学入門－」片山一道他　朝倉書店　1996：「骨から見た日本人」鈴木隆雄　講談社　1998：「日本人のきた道」池田次郎　朝日新聞社　1998

●成績評価

レポート（100%）

●オフィスアワー

木曜日　12:00~12:50（研究室）

●備考

単位互換開放対象科目

健康管理概論

担当者：　胸元　孝夫

●科目の概要

健康の概念を理解し、健康の維持、疾病予防について学ぶ。健康についての総論と職場衛生管理について学習する。労働衛生管理の核になっている「作業環境管理」「作業 管理」「健康管理」について学習し、労働安全衛生法で定 められた労働衛生に関する事項を修得する。また、職場で起こりうるさまざまな健康障害についても学習する。知識の確認として毎回小テストを行う。

●授業計画

1 健康問題の概観、生活習慣と健康
2 労働衛生管理とは
3 衛生管理の進め方1
4 衛生管理の進め方2
5 作業環境要素と職業性疾病1
6 作業環境要素と職業性疾病2
7 作業環境管理1
8 作業環境管理2
9 作業管理
10 健康管理1
11 健康管理2
12 心とからだの健康づくり
13 快適職場づくり
14 労働衛生教育
15 衛生管理の具体的な進め方および総括
16 定期試験

●到達目標

1. 健康概念、疾病の疫学・予防について理解する
2. 職場の健康管理について学ぶ
3. 基本的な職業病について理解する

●授業時間以外の学習

・授業で学習した内容をテキストや関連資料で復習をする
・次回の授業範囲をテキストで予習する

●テキスト・参考書等

衛生管理・上 第一種用 中央労働災害防止協会

●成績評価

定期試験（60%）小テストおよび授業参加度（40%）

●オフィスアワー

火曜日を除く月曜日から金曜日 16:20 ~ 研究室 : 408 但し、2名以上

●備考

公衆衛生学

担当者：　安藤　哲夫

●科目の概要

人々は生を受けて死に到るまで様々な社会生活を営んでいる。社会生活を営む上で、目的を持った行動をするには健康が最も大切である。そのため社会生活における健康獲得には一人の努力（自助）では限界があるので、周囲の人々からの援助（共助）や公的な援助（公助）を得ている。この場合、人々には社会の仕組み上、不平等があり、公平な共助・公助が受けられないのが一般的である。そこで、社会保障（所得の再配分）という考え方があり、強者（健康で十分な生活資金が労働によって得られる者）の余力（税金）で弱者（働きたくても働けない者・働いても十分な生活資金が得られない者）の不足を補っている。それらの仕組みを知ることが公衆衛生学である。

●授業計画

1 公衆衛生学総論（公衆衛生の歴史・必要性を考える）
2 社会生活と健康（ライフステージ・乳児期～思春期と健康）
3 社会生活と健康（ライフステージ・青年期～老年期と健康）
4 環境と健康（生物学的環境要因と健康）
5 環境と健康（物理学・化学的環境要因と健康）
6 環境と健康（社会科学的環境要因と健康）
7 環境問題（過去の環境汚染について）
8 環境問題（水俣病関連のビデオ鑑賞）
9 環境問題（現在の環境問題について）
10 環境問題（将来の環境問題について）
11 公衆衛生学各論（母子保健について）
12 公衆衛生学各論（生活習慣病について）
13 公衆衛生学各論（社会福祉について）
14 公衆衛生学各論（老人保険・介護保険について）
15 公衆衛生学各論（地域保健について）
16 定期試験

●到達目標

1. 社会生活において健康増進の大切さを知る
2. 社会生活において人々との関係を通して健康の大切さを知る
3. 健康増進への取組みが行われている組織・活動を知る

●授業時間以外の学習

・過去の公害問題について調べてみよう
・鹿児島県民の健康度を全国的に比べてみよう

●テキスト・参考書等

テキストは指定しません。
必要に応じてプリントを配布します
参考図書・国民衛生の動向

●成績評価

筆記試験（60%）レポート（20%）ノート提出（20%）

●オフィスアワー

講義日の前後
講義室

●備考

疾患看護学

担当者：　胸元　孝夫

●科目の概要

基本的な疾患について深く理解し、その看護の基本的な考え方を学ぶ。各授業時間ごとに1症例を提示する。これについて各グループ毎に、参考図書を基に症例の診断・病態を検討する。その結果を各グループごとに発表して、全員で症例について理解を深める。残りの時間に、この症例の疾患について、ミニレクチャーを行い、病態と知識のまとめを行い、疾患の看護について学習する。
授業の始めに、前回の症例についての小テストを行う。

●授業計画

1　看護とは
2　循環器疾患
3　呼吸器疾患
4　消化器疾患
5　内分泌・代謝疾患
6　腎疾患
7　中枢神経疾患
8　感染症
9　小児疾患
10　耳鼻咽喉科疾患
11　血液疾患
12　免疫疾患
13　心身症
14　生殖器疾患
15　総括
16　定期試験

●到達目標

1. 基本的な疾患の病態を深く理解する
2. 基本的な疾患に対する看護の役割を理解する
3. 基本的な看護法を理解する

●授業時間以外の学習

授業で学習した内容を参考図書や関連資料で復習をする
次回の授業範囲を参考図書で予習する

●テキスト・参考書等

病理学・堤 寛・医学芸術社
養護教諭のための看護学：大修館書店

●成績評価

定期試験（60%）　小テスト及び授業参加度（40%）

●オフィスアワー

火曜日を除く月曜日から金曜日　16:20から、408研究室、２名以上

●備考

道徳教育の研究

担当者：　小柳　正司

●科目の概要

学校において子どもの道徳的な成長を促すためにはどのような道徳指導が必要であるか、その指導の目標、内容、方法について、さまざまな実践例を取り上げながら考察を深める。

●授業計画

1　小学校の道徳授業のビデオを見る。
2　道徳授業の特色について、グループで話し合う。
3　学習指導要領に示された道徳教育の要点を理解する。
4　「道徳の時間」の意義について理解する
5　「価値の内面化」について理解する
6　言語活動を生かした道徳授業案を検討する
7　いのちの授業の実践をビデオで見る。
8　食育を通した道徳教育を考える
9
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1.学校の教育活動全体における道徳教育の位置づけと役割について、理解する
2.「道徳の時間」の役割と意義について、理解する

●授業時間以外の学習

・講義前、講義後に参考文献をよく読み込むこと。

●テキスト・参考書等

小柳正司編著『道徳教育の基礎と応用』あいり出版
『小学校学習指導要領解説・道徳編』(文部科学省)

●成績評価

グループ討議などの参加・貢献度（５０%）
小論文（５０%）

●オフィスアワー

講義終了後、講義室

●備考

特別活動の研究

担当者：　山元　有一

●科目の概要

特別活動はクラスないしはクラスを越えた集団活動を通して、子どもたち個々の成長とともに、集団の一員としての自覚を深めるために小学校や中学校に導入されており、近年その意義はさらに重要視されるようになっている。本講義ではおもに学習指導要領に依拠して、どのような特別活動をどのように計画運営し、教諭がどのように子どもたちの実践活動を支えていくかを考える。

●授業計画

1　特別活動とは？――その歴史的変遷と概略的内容
2　近年の特別活動――特別活動の中で望まれているもの
3　小中高学習指導要領の比較
4　学級活動について
5　児童会・生徒会活動について
6　学校行事について
7　養護教諭、栄養教諭と特別活動
8　まとめとレポートの指示
9
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 特別活動の全般的理解

●授業時間以外の学習

本講義は養護や栄養の教育実習の後になされるものであるため、実習の準備には寄与できない。本講義を聴講したのち、必ず自らの実習体験と結びつけることを是非とも行ってもらいたい

●テキスト・参考書等

小中高の『学習指導要領』をテクストとして用いる

●成績評価

レポートにより評価する

●オフィスアワー

水曜日、木曜日を除く、講義以外の午後の時間をすべてオフィスアワーとみなす

●備考

生徒指導

担当者：　宮里　新之介

●科目の概要

生徒指導は、全生徒を対象にして一人ひとりのよりよき人格の発達を目指すとともに、学校生活がより充実したものになるようにするための教育活動です。

この科目では、心の発達を視点にして、人格の発達や社会的適応を促す指導、生徒の自己実現につながる支援についての理解を深めます。また、具体的な事例に対して、どのような対応をしていくのかをグループで考え、方向性を見出すワークも行います。

●授業計画

1　オリエンテーション　／　生徒指導提要について
2　生徒指導と教育課程
3　生徒指導のための基礎理論
4　問題行動と非行
5　不登校と生徒指導
6　いじめと生徒指導
7　青年期の心身の不適応の成り立ち
8　青年期に多い不適応①　（心身症）
9　青年期に多い不適応②　（摂食障害と欝）
10　青年期に多い不適応③　（習癖）
11　生徒指導と学校カウンセリング
12　生徒理解の方法
13　生徒指導と進路指導
14　生徒指導と健康教育
15　総括と質疑応答
16　定期試験

●到達目標

1. 自己実現という概念を理解する
2. 人格の発達と適応に関する基礎理論について理解し、説明できる
3. 具体的な事例に対して、根拠に基づき対応の方向性を見いだせる

●授業時間以外の学習

・授業の初めに、前回の授業の理解度をチェックするためにミニテストを実施しますので、前回の授業の復習を行うこと

●テキスト・参考書等

参考書：「教師教育テキストシリーズ　生徒指導　生き方についての生徒指導・進路指導とともに」
折出健二（編集）　学文社

●成績評価

・学期末の定期試験（80%）
・講義時のミニテスト（20%）

●オフィスアワー

金曜日　10：35～12：05　（研究室　本館3階）

●備考

教職実践演習（養護教諭）

担当者：　満田・竹中・胸元

●科目の概要

養護教諭としての資質能力のさらなる向上を目指すための演習である。短大での2年間の学修の振り返りを行う中で目標達成のための課題を見出し、その課題を解決し、実践力を高める。

●授業計画

1	「履修カルテ」を用いた学修の振り返り	A
2	養護教諭の役割や職務内容に関するグループ討論	B
3	ロールプレイングによる保健指導の理解	B
4	学校内および地域の関係者との連携	A
5	学校内および地域の関係者との連携に関する討論	C
6	児童生徒の学外での安全管理および危機管理	C
7	通学路・公園等の安全点検	C
8	ﾛｰﾙﾌﾟﾚｲﾝｸﾞによる学外での児童生徒の行動理解	A
9	児童生徒の理解、小中学校見学のための事前指導	B
10	学校現場の見学と現場教員の講義①	D
11	学校現場の見学と現場教員の講義②	D
12	学校見学の振り返り：児童理解の重要性・教員の責任	A
13	模擬授業（保健指導）①保健指導力の点検	B
14	模擬授業（保健指導）②保健指導力の点検	B
15	教職実践演習の振り返りと自己点検・評価	A
16		

●到達目標

1. 履修カルテによる学修の振り返りを行う
2. 教員としての責任感や使命感を自覚する
3. 総合的な人間力・社会人力の向上を目指す

●授業時間以外の学習

・養護教諭の教員免許取得に必要な授業科目での学びを振り返り、養護教諭としての学校現場での必要な能力を確認し、能力向上に努める　・参考文献を熟読する

●テキスト・参考書等

・必要に応じてプリント・資料を適宜配布する
・参考文献
「小学校学習指導要領」 文部科学省
「小学校保健学習の指導と評価」 財団法人日本学校保健会

●成績評価

成績評価（50%）模擬授業指導案およびレポートの内容（50%）

●オフィスアワー

木曜日　12:10～12:50（研究室）

●備考

COC 関連科目
A：竹中　B：満田　C：胸元　D：竹中・満田・胸元

教職実践演習（中・保健）

担当者：　竹中　満田　胸元

●科目の概要

入学以来履修してきた授業、鹿児島県内・外での研修、教育実習等を学生が有機的に関連づけているか、また、これらを通して学生が中学校保健科教諭として必要な資質能力を身につけているかを確認し、さらなる資質向上を目指すことを目的とする。

●授業計画

1	「履修カルテ」を用いた学修の振り返り	A
2	中学校教諭の役割や職務内容に関するグループ討論	B
3	教職員間および地域の関係者との連携	A
4	教職員間および地域の関係者との連携	C
5	保健の教科指導に関する事例研究	B
6	ロールプレイングによる保健指導力の点検	B
7	生徒の学外での安全・危機管理	C
8	通学路・公園等の安全点検	C
9	学級経営に関する討論と学校見学のための事前指導	B
10	学校現場の見学と現場教員の講義①	D
11	学校現場の見学と現場教員の講義②	D
12	学校見学の振り返り：生徒理解の重要性・教員の責任	B
13	模擬授業（保健指導）②保健指導力の点検	A
14	模擬授業（保健指導）②保健指導力の点検	A
15	教職実践演習の振り返りと自己点検・評価	B
16		

●到達目標

1. 履修カルテによる学修の振り返りを行う
2. 教員としての責任感や使命感を自覚する
3. 総合的な人間力・社会人力の向上を目指す

●授業時間以外の学習

・中学校教諭の教員免許取得に必要な授業科目での学びを振り返り、保健科教諭としての学校現場での必要な能力を確認し、能力向上に努める　・参考文献を熟読する

●テキスト・参考書等

・テキストは用いない
・参考文献
「中学校学習指導要領」文部科学省
「「生きる力」はぐくむ学校での安全教育」文部科学省
「中学校保健体育」学研

●成績評価

成績評価（50%）
模擬授業指導案およびレポートの内容（50%）

●オフィスアワー

木曜日　12:00~12:50（研究室）

●備考

COC 関連科目
A: 竹中　B: 満田　C: 胸元　D: 竹中・満田・胸元

労働基準法

担当者：　畑井　清隆

●科目の概要

労働基準法の基本的事項をテキストの講読を通して学びます。

●到達目標

1. 労働基準法および関連法令の内容の理解
2. 法令一般の基本的事項の理解

●授業時間以外の学習

1. テキストの該当箇所を前もって読んでおくこと
2. 計5回実施する小テストに向けてテキストを復習しておくこと

●テキスト・参考書等

・テキスト：野田進・山下昇・柳澤武編『判例労働法入門（第4版）』 有斐閣　2015年3月発行予定
・参考書：森戸英幸『プレップ労働法（第4版）』 弘文堂　2013年、山川隆一『労働法の基本』 日経文庫　2013年

●成績評価

・小テスト20点満点×5回＝100点満点で評価します
・定期試験は実施しません

●オフィスアワー

時間…講義時間の前後
場所…講義室等

●備考

●授業計画

1 労働法の課題と役割（第1章）・労働紛争の解決（第3章）
2 労働契約の締結過程と成立（第4章）
3 労働契約上の権利・義務（第7章） (1)、(2) の小テスト
4 就業規則と労働契約（第8章）
5 懲戒（第9章） (3)、(4) の小テスト
6 人事異動・配転・出向（第10章）
7 労働契約の変更（第11章） (5)、(6) の小テスト
8 解雇（第13章）
9 労働者の自由と人権（第15章）
10 雇用平等（第16章）(7) ～ (9) の小テスト
11 賃金（第17章）
12 労働時間（第18章）
13 労働時間（第18章）(10) ～ (12) の小テスト
14 休憩・休日と年次有給休暇（第19章）
15 年少者・妊産婦等（第20章）
16

労働安全衛生法

担当者：　畑井　清隆

●科目の概要

労働安全衛生法の基本的事項をテキストの講読を通して学びます。

●到達目標

1. 労働安全衛生法および関連法令の内容の理解
2. 法令一般の基本的事項の理解

●授業時間以外の学習

・テキストの該当箇所を前もって読んでおくこと
・計5回実施する小テストに向けてテキストを復習しておくこと

●テキスト・参考書等

テキスト：TAC 社会保険労務士講座『ナンバーワン社労士ハイレベルテキスト (2) 労働安全衛生法 2016年度』TAC 出版2015年10月
参考書：畠中信夫『労働安全衛生法のはなし（改訂版）』 中災防新書　2006年、同『労働安全衛生法令を読みこなす』 2012年

●成績評価

・小テスト20点満点×5回＝100点満点で評価します
・定期試験は実施しません

●オフィスアワー

時間…講義時間の前後
場所…講義室等

●備考

●授業計画

1 災害補償
2 労災保険法
3 総則（第1章）
4 総則（第1章）
5 全産業の安全衛生管理体制（第2章第1節）
6 全産業の安全衛生管理体制（第2章第1節）
7 建設業等における安全衛生管理体制等（第2章第2節）
8 危険・健康障害の防止措置（第2章第3節）
9 機械等に関する規制（第3章第1節）
10 危険・有害物に関する規制（第3章第2節）
11 就業管理（第4章）
12 健康の保持増進のための措置（第5章）
13 健康の保持増進のための措置（第5章）
14 安全衛生改善計画等、監督等及び雑則等（第6章）
15 安全衛生改善計画等、監督等及び雑則等（第6章）
16

平成27年度入学生　カリキュラム・マップ

生活科学科 （生活科学専攻）DP	①教育課程の履修を通して保健・養護分野の学力を身につける。 ②人や環境の多様性を理解し、豊かな人間性及び創造性を身につける。 ③現場で応用できる能力を身につけ、常に社会に貢献しうるよう自らを高めることができる。

	科目名	最も関係の深いDP番号	到達目標	DPとの関係 ①	②	③
専門科目	**生活科学一般**					
	社会福祉	②	1 誰にとっての社会福祉なのかを理解する			
			2 社会福祉の歴史的背景と関連法について理解する			○
			3 ウエルビーイングについて理解する		◎	
	家族関係論	②	1. 社会の動きにともなう家族の変化を理解する		◎	○
			2. 家族を多角的に捉える視点を身につける		◎	○
			3. 教育・医療現場で多様な状況に対応できる柔軟性を身につける		○	◎
	食生活論	③	1. 食生活とは何かを自覚できる	○		
			2. 日本の食の現状を理解することができる		○	
			3. 人生80年の食生活を考察することができる			◎
	調理実習	③	1. 調理の基本を習得する		○	
			2. 基本的な調理の知識・技術を身につける		○	○
			3. バランスを考慮した献立が立案できる		○	○
	住生活論	②	1. 超高齢社会における住宅・住環境を理解できる	○	◎	
			2. 住まいの安全性について理解できる	○		
			3. 地域と住生活との関係を理解する		◎	○
	住環境学	②	1. 鹿児島県の地域特性を理解できる		◎	
			2. 超高齢社会の住宅・住環境を理解できる	○	◎	
			3. 今後に向けて住環境に関する私見をまとめる			○
	人類学	②	1. ヒトの生物学的位置づけの理解	○	◎	○
			2. 人類の600万年の歴史の理解		◎	○
			3. 日本人の起源の理解		◎	○
	現代社会論	③	1. 論文の構成を理解するとともに作成の手順を身につける		○	◎
			2. 必要な情報を適切に収集し、活用する能力を身につける		○	◎
			3. 自分の考えをまとめ、表現する能力を高める		○	◎
	情報処理演習	③	1. 各種の基本問題に取り組み修得したスキルを活用できる			○
			2. 各種の応用問題に合わせて自由にパソコンを利用できる			◎
			3.			
	秘書実務	③	1. 秘書業務に関する基本知識と専門知識について理解する		○	◎
			2. 対人コミュニケーションの技術を身につける		○	◎
			3. 臨機応変に対応できる実務能力を身につける			◎
	生活科学一般					
	健康管理概論	③	1. 健康概念、疾病の疫学・予防について理解する	○	○	◎
			2. 職場の健康管理について学ぶ	○		○
			3. 基本的な職業病について理解する	○		○
	精神保健	③	1. ストレスや精神的健康とは何かについて理解する	○	○	
			2. 基本的な精神疾患について理解する	○		○
			3. 精神疾患に対する基本的な対応について理解する	○	○	◎
	公衆衛生学	②	1. 社会生活において健康増進の大切さを知る	○	◎	○
			2. 社会生活において人々との関係を通して健康の大切さを知る		◎	○
			3. 社会生活において健康増進への取組みが行われている組織・活動を知る		○	◎
	健康相談活動	①	1. 児童生徒の心身の健康課題について理解する	○		
			2. 健康課題を捉える力、解決に向けての指導力の育成	◎	○	
			3. 心身の健康課題の早期発見、対応ができる	○	○	
	病理学	①	1. 疾病の組織学的な変化について理解する	○		
			2. 疾病の臨床症状と組織学的な変化の関係を理解する	○		○
			3. 基本的な疾患の病態について理解する	◎		○
	疾病学	①	1. 疾患の病因、病態、疫学、予後について理解する	◎	○	○
			2. 疾患の症状、理学・検査所見について理解する	○		○
			3. 疾患の治療法について基本的な知識を身につける	○		○

平成27年度入学生　カリキュラム・マップ

生活科学科 （生活科学専攻）DP	①教育課程の履修を通して保健・養護分野の学力を身につける。 ②人や環境の多様性を理解し、豊かな人間性及び創造性を身につける。 ③現場で応用できる能力を身につけ、常に社会に貢献しうるよう自らを高めることができる。

	科目名	最も関係の深いDP番号	到達目標	DPとの関係 ①	②	③
専門科目	環境衛生学	②	1.　環境衛生に関する現状を認識し、問題点を理解する	○	◎	
			2.　安全な生活を営むためにできることを考える	○	○	
			3.			
	栄養学	①	1.　自らが正しい食生活を実践できる	◎	○	
			2.　的確な食教育が行える	○		○
			3.			
	運動生理学	②	1.　人体各種機能の理解	◎	○	○
			2.　運動に伴う機能の変容	◎	○	○
			3.　指導場面への応用		○	◎
	解剖学Ⅰ	①	1.　細胞・組織の理解	◎	○	○
			2.　消化器、呼吸器、泌尿器の理解	◎	○	○
			3.　循環器、内分泌の理解	◎	○	○
	解剖学Ⅱ	①	1.　内分泌、骨格、筋肉の理解	◎	○	○
			2.　中枢・末梢神経の理解	◎	○	○
			3.　感覚器、人体発生の理解	◎	○	○
	生理学	①	1.　細胞、血液、筋肉の理解	◎	○	○
			2.　呼吸、感覚、排泄、消化の理解	◎	○	○
			3.　神経、内分泌による調節機能の理解	◎	○	○
	解剖生理学実験	①	1.　循環器、感覚器の理解	◎	○	○
			2.　骨格、筋肉の理解	◎	○	○
			3.　神経、呼吸器の理解	◎	○	○
	微生物学	①	1.　微生物の構造・性状を理解する	○		
			2.　微生物感染症を理解する	◎	○	○
			3.　感染症の治療法・予防法について理解する	○		◎
	薬理概論	①	1.　薬理作用の一般的概念を理解する	○		○
			2.　システム特有に適用される薬物の作用メカニズムを理解する	◎		○
			3.　薬物動態、薬物相互作用の基本的概念を理解する	○		○
	看護学	①	1.　看護の基本となる知識を修得する	◎		○
			2.　児童生徒の健康課題への支援ができる	○	○	
			3.　専門職としての資質・能力を高める	○		○
	疾患看護学	③	1.　基本的な疾患の病態を深く理解する	○		○
			2.　基本的な疾患に対する看護の役割を理解する	○	○	◎
			3.　基本的な看護法を理解する	○	○	○
	保健・養護関係					
	看護実習	①	1.　児童生徒の健康ニーズに対する観察力・判断力の育成	○		
			2.　安全で安楽な健康生活の援助技術を習得する	◎		
			3.　援助技術を通して健康課題への対応力をつける	○		
	臨床看護看護実習	①	1.　看護を行う上での知識、技能、態度の育成	◎		
			2.　病院の組織、機能を理解し、医療機関との連携の推進	○		○
			3.　看護援助への参加及び実習	○	○	
	臨床看護実習指導	①	1.　臨床看護実習についての意義、目的を理解する	◎		
			2.　臨床看護実習を行う上での知識、態度の育成	○		
			3.　事前訪問や実習上の諸注意を守る	○	○	
	救急処置Ⅰ	③	1.　基本的な救急疾患の病態を理解する	○	○	○
			2.　心肺蘇生法を十分に理解する	○		◎
			3.　基本的な救急処置について理解する	○		○
	救急処置Ⅱ	①	1.　応急手当の基本的知識と技能の修得	◎		
			2.　傷病者に対し観察し適切な判断と対応ができる	○		
			3.　救助者としての心得と態度を学ぶ	○		○

平成27年度入学生　カリキュラム・マップ

生活科学科 （生活科学専攻）DP	①教育課程の履修を通して保健・養護分野の学力を身につける。 ②人や環境の多様性を理解し、豊かな人間性及び創造性を身につける。 ③現場で応用できる能力を身につけ、常に社会に貢献しうるよう自らを高めることができる。

科目名		最も関係の深いDP番号	到達目標	DPとの関係		
				①	②	③
専門科目	学校保健	①	1.　学校保健安全法について理解する	◎		
			2.　学校保健の領域と構造について理解する	○		
			3.　健康・安全に関わる環境衛生・危機管理への対応ができる	○		○
	養護概説	①	1.　養護教諭の役割と具体的な職務についての理解	◎		
			2.　養護教諭に必要な知識、技能、態度を学習する	○	○	
			3.　保健室経営の実施と企画力、実行力、調整能力をつける	○		
養護教諭・中学校教諭（保健）教職科目						
	教職概論	②	1.　教職の意義		◎	
			2.　教員の役割			○
			3.　教員としての資質の吟味			
	教育原理	②	1.　子どもの発達と環境		◎	
			2.　教育の目的と意義			○
			3.　教育における諸問題の理解			
	教育心理学	②	1.　学習、適応、発達に関する心理学用語を理解し、説明できる	○	◎	
			2.　実証的なデータに基づき考えることができる	◎	○	
			3.　学んだ理論と教育活動を関連させて考えることができる	○	◎	○
	教育制度論	②	1.「国民国家」の形成と公教育の関係について理解する		○	
			2.　戦後教育改革の意義および問題点を知る		○	
			3.　現代公教育像を構築しうる知見を養う			○
	発達心理学	①	1.　発達の概念と発達の原則を学ぶ	◎	○	
			2.　発達理論を理解する		◎	○
			3.　人の一生の発達的変化を学ぶ		◎	○
	教育課程の研究	①	1.　教育課程編成の基準となる法律について理解する	○		○
			2.　教育課程編成の基準となる学習指導要領について理解する	◎		○
			3.			
	保健科教育法	③	1.　保健科内容の確認と理解	◎	○	○
			2.　指導法、展開法の理解	○	○	◎
			3.　模擬授業による実践力工場	○	○	◎
	道徳教育の研究	②	1.　学校の教育活動全体における道徳教育の位置づけと役割について、理解する		◎	○
			2.「道徳の時間」の役割と意義について、理解する		◎	○
			3.			
	特別活動の研究	③	1.　特別活動の目的			◎
			2.　特別活動の内容		○	
			3.　指導上の留意事項			
	教育方法の研究	①	1.　養護教諭の行う学習指導内容について理解する	◎		
			2.　学習指導案の作成が可能となる	○		
			3.　作成した学習指導案をもとに模擬授業を行い評価し合う	○		
	情報機器演習	③	1.　ICT活用の基本技術を身につける			○
			2.　コンピュータを利用して情報の収集、資料の作成・整理ができる			○
			3.　コンピュータを表現の道具として活用できる		○	◎
	生徒指導	①	1.　自己実現という概念を理解する	◎	○	
			2.　人格の発達と適応に関する基礎理論について理解し、説明できる	◎	○	
			3.　具体的な事例に対して、根拠に基づき対応の方向性を見いだせる	○	○	◎
	教育相談	③	1.　問題を抱える子どもの心理状態を理解する		○	◎
			2.　教育相談の基礎的な理解と具体的な方法を習得する	◎	○	
			3.　自己理解、他者理解を深め、相談活動のあり方を考える		◎	○
	養護実習事前事後指導	①	1.　社会人としての常識や礼儀の習得	○		○
			2.　実習生としての立場の自覚と行動ができる	◎	○	
			3.　事前訪問や実践上の諸注意を守る	○		

平成27年度入学生　カリキュラム・マップ

生活科学科 （生活科学専攻）DP	①教育課程の履修を通して保健・養護分野の学力を身につける。 ②人や環境の多様性を理解し、豊かな人間性及び創造性を身につける。 ③現場で応用できる能力を身につけ、常に社会に貢献しうるよう自らを高めることができる。

科目名	最も関係の深いDP番号	到達目標	DPとの関係 ①	②	③
養護実習	①	1.　教育を志す者としての自覚と積極的な姿勢を養う	○	○	
		2.　学校教育活動に参加し、保健室の機能を理解する	○		
		3.　養護教諭の実体験を通して養護教諭の専門性の理解	◎		○
教職実践演習（養護教諭）	③	1.　履修カルテによる学修の振り返りを行う	◎		○
		2.　教員としての責任感や使命感を自覚する	○		◎
		3.　総合的な人間力・社会人力の向上を目指す		○	◎
教育実習事前事後指導	①	1.「保健分野」教育の目標や課題について学習する	◎		
		2.　中学校教諭をめざす気持ちを明確にする	○		
		3.　事前訪問や実習上の諸注意を守る	○		
教育実習（中学校　保健）	①	1.　これまでの学習（知識や指導法）をさらに具体的に理解する	○		
		2.　教員としての自覚と資質の向上をめざす	○	○	
		3.　保健分野の学習指導ができる	◎		○
教職実践演習（中・保健）	③	1.　履修カルテによる学修の振り返りを行う	◎		○
		2.　教員としての責任感や使命感を自覚する	○		◎
		3.　総合的な人間力・社会人力の向上を目指す		○	◎
養護教諭・中学校教諭（保健）教職科目					
医療秘書実務実習（学外）	③	1.　医療秘書・医療事務業務の基本を習得する	○		◎
		2.　コミュニケーターとしての役割・行動を深く理解し習得する		○	○
		3.			
医療事務総論 （医療秘書実務含む） （Madical coding outline）	③	1.　医療の基本的な理解を医療事務全般にわたる基礎知識を学習する	○		◎
		2.　医療事務に関する諸規則についての知識を習得する	○	◎	○
		3.　医療知識を身につけ、診療録及び病院の業務の流れを理解する	◎		○
医療事務演習Ⅰ （Madical coding exercizes Ⅰ）	③	1.　診療行為における診療報酬算定要件を理解する	○		◎
		2.　診療報酬明細書の作成及び請求について理解する		◎	○
		3.　医療費の仕組みと診療報酬点数の算定を行う技術を身につける		○	◎
医療事務演習Ⅱ	③	1.　見学や講義を通して病院や医療事務の役割を知る		○	◎
		2.　医療事務に必要な医療・医学知識を確認する	○		
		3.　電子カルテやオーダリングシステムを理解する	○		○
労働基準法	①	1.　労働基準法および関連法令の内容の理解	◎	○	
		2.　法令一般の基本的事項の理解	◎	○	
		3.			
労働安全衛生法	①	1.　労働安全衛生法および関連法令の内容の理解	◎	○	
		2.　法令一般の基本的事項の理解	◎	○	
		3.			

生活科学科　生活科学専攻 ［専門科目］ カリキュラムツリー

ディプロマポリシー		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
①教育課程の履修を通して保健・養護分野の学力を身につける。	正常な身体の仕組みに関する理解を深める	解剖学Ⅰ 生理学 栄養学	解剖学Ⅱ 解剖生理学実験		
	病気および病気に関する知識を身につける		病理学 微生物学 薬理概論	疾病学	
	個人の生命力ないし生活力を十分に発揮できるよう、支援する能力を身につける	救急処置Ⅰ 看護学	救急処置Ⅱ 看護実習	看護実習 臨床看護実習指導 臨床看護実習	健康管理概論 疾患看護学
	学校における保健・養護活動および、保健科教育に関する能力を身につける	学校保健 養護概説		養護実習事前事後指導 養護実習 保健科教育法 教育実習（保健）事前事後指導 教育実習（保健）	教職実践演習（養護教諭） 教職実践演習（中/保健）
	心の理解を深め、相談活動能力を身につける		健康相談活動 教育心理学 発達心理学	精神保健 教育相談	生徒指導
	学校や教育に関する知識を学び・理解を深める 病院および医事に関する知識と実践力を身につける	教職概論 教育原理	教育方法の研究 医療事務総論 医療事務演習Ⅰ	教育制度論 教育課程の研究 医療事務演習Ⅱ 医療秘書実務演習	道徳教育の研究 特別活動の研究
②人や環境の多様性を理解し、豊かな人間性及び創造性を身につける。		住生活論		運動生理学 環境衛生学 社会福祉	公衆衛生学 労働安全法 労働安全衛生法 家族関係論 住環境学 人類学
③ 現場で応用できる能力を身につけ、常に社会に貢献しうるよう自らを高めることができる。		情報機器演習 食生活論	秘書実務 現代社会論	情報処理演習	調理実習

専 門 科 目

生活福祉専攻

社会と制度の理解

担当者：　谷川　知士

●科目の概要

現代社会における各種の制度は、歴史的な背景を下に法律によって整備されてきたもので、生活に大きく関わってくる。介護福祉士としての職務を遂行するに当たり、介護サービス利用者主体の生活や社会背景を理解し、サービスを提供するのに必要な行政施策の仕組みやサービス利用にかかわる主な法制度体について充分理解し、特に介護保険法や障害者総合福祉法については熟知し、福祉サービス提供者としての基礎能力を身に付ける。

●授業計画

1 私たちの生活と福祉について学ぶ
2 身近な家族や地域について学ぶ
3 現代社会におけるライフスタイルの変化について学ぶ
4 生活の支援と福祉の体系ついて学ぶ
5 介護保険制度の背景と目的について学ぶ
6 介護保険制度の仕組みについて学ぶ
7 介護認定制度のにかかわる組織と役割について学ぶ
8 介護保険制度の課題と問題点について学ぶ
9 高齢者の自立支援と権利擁護について学ぶ
10 障害者総合福祉法の背景と目的について学ぶ
11 障害者総合福祉法の仕組みと対象者について学ぶ
12 障害者の支援区分について学ぶ
13 障害者の自立支援と権利擁護について学ぶ
14 介護実践にかかわる諸制度と課題について学ぶ
15 鹿児島における福祉制度の課題等について学ぶ
16

●到達目標

1. 現代社会の変化と生活構造を理解する
2. 介護保険制度と介護福祉士の役割を理解する
3. 介護実践に係わる権利擁護制度を理解する

●授業時間以外の学習

・積極的に高齢者や障害児・者と接する機会を作る。
・祖父母等の介護について考えてみる。

●テキスト・参考書等

・テキスト：新・介護福祉士養成講座　介護福祉士養成講座編集委員会編　社会と制度の理解　中央法規出版
社会福祉六法　ミネルヴァ書房
介護用語辞典　中央法規出版編集部編

●成績評価

受講態度と提出物等（30%）筆記試験（70%）

●オフィスアワー

第１・第３水曜日　14：40～17：55　谷川研究室

●備考

レクリエーション概論

担当者：　大村　一光

●科目の概要

レクリエーションに関する基礎理論や支援の方法などを学ぶことで、レクリエーションインストラクターとしての基本的な理論と実践力を獲得し、職場や地域社会の活動に対して積極的に取り組んでいけるようにする

●授業計画

1 ２１世紀の社会とこれからのレクリエーション運動
2 レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史
3 レクリエーション支援の展開と方法
4 市町村レク協会の役割と経営
5 レクリエーション運動を支える組織とその役割
6 事業と安全
7 対象者に応じたレクリエーション支援
8 目的に応じたレクリエーション支援
9 定期末試験
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. レクインストラクターの理解
2. 基本的手法の理解と獲得を目指す
3. 福祉への応用力をつける

●授業時間以外の学習

現場でのボランティア等をもとに支援力の確認を行う

●テキスト・参考書等

レクリエーション支援の基礎、日本レクリエーション協会

●成績評価

定期試験（70%）、受講態度（30%）

●オフィスアワー

月曜日・火曜日以外の昼食時間　研究室

●備考

介護の基本Ⅰ

担当者：　加藤　玲子

●科目の概要

「尊厳の保持」「自立支援」を生活の視点から捉え、在宅や施設での生活や生活環境を観察することにより、介護を必要とする人の理解を深める。

●授業計画

1 授業内容の進め方、本科の位置づけや意義、目的
2 介護の成り立ち、介護の概念・定義
3 介護問題の背景
4 「生活支援」としての介護とは（介護保険法他）
5 介護を必要とする人の理解 (歴史の理解)
6 介護を必要とする人の理解（生活）
7 介護を必要とする人の理解（文化音楽）
8 介護を必要とする人の理解（歌集）
9 介護を必要とする人の理解 (歌ってみよう)
10 生活障害の理解と生活ニーズ（個別性・自立支援）
11 さまざま間生活支援とその意義（家事支援）
12 さまざま間生活支援とその意義 (家族の支援)
13 さまざま間生活支援とその意義 (身体介護)
14 さまざま間生活支援とその意義 (通院介護等)
15 生活障害の理解
16 定期試験

●到達目標

1. 自立に向けた介護の意味を理解する
2. 介護のはたらきと基本的視点を学ぶ

●授業時間以外の学習

・授業の予習（テキストを読む）
・授業の復習（プリント、資料などを読み直す）

●テキスト・参考書等

介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護の基本Ⅰ」(中央法規)
介護福祉用語辞典

●成績評価

定期試験 (６０分で実施)（８０％）レポート（２０％）

●オフィスアワー

火曜日～木曜日　午後　（研究室）

●備考

介護の基本Ⅱ

担当者：　加藤・小城

●科目の概要

「尊厳の保持」「自立支援」を生活の視点から捉え、介護福祉を取り巻く状況や介護福祉士の役割と、機能を支えるしくみについて理解を深める。

●授業計画

1	オリエンテーション他目の意義と目的	A
2	介護サービスと介護福祉士の働く場	A
3	学外研修についての説明	A
4	学外研修（県内の施設見学と入所者との交流）	B
5	学外研修（県内の施設見学と入所者との交流）	B
6	施設見学についての事後指導 (介護を必要とする人の理解)	A
7	介護福祉士を取り巻く環境（介護職として地域連携を学ぶ）	C
8	介護サービスと介護福祉士の働く場（訪問介護）	C
9	介護サービスと介護福祉士の働く場（通所介護）	C
10	介護サービスと介護福祉士の働く場（短期入所）	C
11	介護サービスと介護福祉士の働く場 (障がい者施設)	C
12	介護保険の利用（申請）	C
13	介護保険の利用 (利用)	C
14	ＩＣＦの視点	C
15	科目のまとめ	C
16	定期試験	

●到達目標

1. 介護サービスの特性を理解する
2. 介護福祉士の役割について理解する

●授業時間以外の学習

・授業の予習（テキストを読む）
・授業の復習（プリント、資料などを読み直す）

●テキスト・参考書等

介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護の基本Ⅰ」「介護の基本Ⅱ」(中央法規出版）　介護福祉用語辞典

●成績評価

定期試験 (６０分で実施) ８０％、レポート２０％

●オフィスアワー

火曜日～木曜日　午後　（研究室）

●備考

ＣＯＣ科目
Ａ（小城）
Ｂ（加藤・小城）
Ｃ（加藤）

生活支援技術 A

担当者：　西郷　小城　庵木

●科目の概要

尊厳保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律をを尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を深めていく。

このために本講義では「衣類・寝具の衛生管理」、「自立に向けた身支度の介護」、「自立に向けた移動の介護」、「自立に向けた食事の介護」を中心として、必要な技術を習得し、介護現場で必要とされる実践能力を高める。

●授業計画

1 介護技術の基礎的理解。衛星管理、ﾍﾞｯﾄﾞﾒｰｷﾝｸﾞ
2 寝具の衛生管理①ﾍﾞｯﾄﾞの操作、2人で行うﾍﾞｯﾄﾞﾒｰｷﾝｸﾞ
3 寝具の衛生管理②一人で行うﾍﾞｯﾄﾞﾒｰｷﾝｸﾞ
4 介護の原則とボディメカニクス
5 移動の介護：ﾍﾞｯﾄﾞ上の介護
6 身支度の意義と目的：自立生活を支える身支度
7 生活習慣と身支度：衣服の種類と選択、着脱介助
8 着脱の介助：座位、ﾍﾞｯﾄﾞ上での着脱
9 移動の意義と目的：移動に関するアセスメント
10 移動の介護：車いすの基本構造、車いす介助の留意点
11 移動の介護：ﾍﾞｯﾄﾞから車いす、車いすからﾍﾞｯﾄﾞへの移動
12 車いすでの外出の介護：不整地、段差昇降、スロープ
13 食事の意義と目的：食事に関するアセスメント
14 自立を支える食事介助：座位、仰臥位
15 総括
16 定期試験

●到達目標

1. 心身の状況に応じた身支度の介護ができるように内容を深める
2. 自立に向けた移乗・移動の援助が実践できるようになる
3. 自立に向けた食事の介護を、ｱｾｽﾒﾝﾄに基づき具体的援助ができる

●授業時間以外の学習

・授業の予習・授業中のポイントの書き取り
・実技については、繰り返し練習すること。レポート作成

●テキスト・参考書等

介護福祉士養成講座生活支援技術Ⅱ

●成績評価

実技・レポート20%　　筆記試験70%　　平常点10%

●オフィスアワー

水曜日・８：５０～１２：０５（非常勤講師控室）

●備考

生活支援技術（住）

担当者：　古川　惠子

●科目の概要

鹿児島県は高齢化率と独居高齢者率が高い県である。その特性を理解し、また一般的なことも踏まえ、在宅介護の施策の中で、居住の継続を図れる住まい・まちについて考える。

社会的視野を持ちながら、高齢者、障がい者の生活も含む人間生活の基盤としての住生活の意義を考え、理解し、さらに管理する能力を養う。

２年次の生活支援技術Ｄに続く内容。

●授業計画

1 鹿児島県の伝統的な住まいと高齢者
2 限界集落と高齢過疎地域の今後
3 住居の役割と機能－シェルター、生活の伝承
4 ライフサイクルと住居、生活時間と住行為、住要求
5 近隣との交流、まちづくり、バリアフリーの住環境
6 ＡＤＬへの対応、バリアフリー、UD
7 モジュール、身体の変化と空間、起居様式
8 空間の配列とゾーニング、ライフスタイル
9 集合住宅の計画、近隣との空間的なつながり
10 空気環境の調節、光の調節、温湿度の調節、音の調整
11 住宅における居住環境整備：安全な住まい (関連法も含む)
12 住居の維持・管理、衛生管理
13 住宅改修の進め方、介護保険下の住宅改修の内容、認知症対応
14 従来の施設環境とユニット型特養の環境
15 認知症高齢者への環境支援指針
16 定期試験

●到達目標

1. 鹿児県の高齢者の住宅事情の理解
2. 生活行動と生活空間の関係の理解
3. 多様な住まいと介護保険の住宅改修

●授業時間以外の学習

・講義の予習：テキストを読む
・講義で不明な点について調べる、質問する

●テキスト・参考書等

・テキスト：川井太加子編／生活支援技術Ⅰ／メヂカルフレンド社
・参考書：外山義／クリッパンの老人たち－スウェーデンの高齢者ケア／ドメス出版、佐野眞一／大往生の島／文藝春秋

●成績評価

・定期試験（80%）、レポート（20%）で評価
※筆記試験は、60分で実施

●オフィスアワー

・水曜日を除く　月～金曜日　16：10～17：30　研究室

●備考

・COC 科目
・他学科開放科目

介護過程Ⅰ

担当者：　加藤　小城

●科目の概要

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養うために、学生自身が知識や技術を統合し、ケアに活かすということの意味を理解する。

●授業計画

1	「介護過程」の展開を学ぶ前に	B
2	「介護過程」の意義と法令で規定する「介護」の意味	B
3	問題解決過程の応用としての介護過程	B
4	日常生活で体験する問題解決過程	B
5	他者を援助する専門職にとっての課題	B
6	介護過程における「問題」という用語	B
7	ＩＣＦと介護過程との関係、実習着の準備	A
8	介護過程とケアマネジメントとの関係、記録について	A
9	記録について（オリエンテーション記録、毎日の実習記録）	A
10	記録について（毎日の実習記録）	A
11	カンファレンスについて（実施方法、記録のまとめ方）	A
12	介護実習要項説明他、赤ファイル、個人票の作成	B
13	介護実習Ⅰ配置計画について、事前訪問（説明）	B
14	事前訪問に必要な資料配布、実習記録の書き方（確認）	B
15	実習Ⅰ－①事前準備（服装チェック、実習反省会の説明等）	B
16		

●到達目標

1. 介護過程とは何か理解することができる
2. 介護実践において介護過程の必要性を理解することができる
3. ICF の視点にもとづく生活機能について説明できる

●授業時間以外の学習

・事前学習：テキストによる予習
・事後学習：テキスト及び、配布資料による復習

●テキスト・参考書等

介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護過程」（中央法規出版）
最新介護福祉全書「介護過程」石野育子著（メヂカルフレンド社）

●成績評価

定期試験の成績（100%）　※筆記試験は60分で実施

●オフィスアワー

加藤：火曜日～木曜日　8：30～17：30（研究室）
小城：火曜日～木曜日　8：30～17：30（研究室）

●備考

（担当）A：加藤　B：小城

介護総合演習Ⅰ・Ⅱ

担当者：　加藤　浜崎　小城　有馬　池田　折田

●科目の概要

介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会など、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。

●授業計画

1	介護総合演習の目的、実習の意義・目的・目標について	B
2	介護実習の種類、実習前の学びと実習後の学びの活かし方等	B
3	事前学習の内容と方法、実習記録について	C
4	実習の心得、実習期間終了時の注意、事前訪問（説明）	C
5	居宅系サービスの理解と介護実習の心得・進め方について	E
6	〃　（訪問介護）	E
7	居宅系サービスの理解と介護実習の心得・進め方について	F
8	〃　（グループホーム）	F
9	実習反省会	G
10	働くことの意識、心構え	D
11	ワーカーに求められる資質及び能力	D
12	第一印象について	D
13	挨拶、話し方、言葉づかい、敬語について	D
14	介護実習Ⅰ－②においての情報交換	A
15	介護実習の目標について（介護実習Ⅱ）	A
16	定期試験	

●到達目標

1. 介護実習に向けての予備知識、動機づけ等の準備が行える
2. 実習後の事例報告会にて実習での学びをまとめることができる
3. 実習での個別の学習到達状況に応じた総合的な学習ができる

●授業時間以外の学習

・事前学習：テキストによる予習
・事後学習：テキスト及び、配布資料による復習

●テキスト・参考書等

介護福祉士養成講座編集委員会編集　「介護総合演習・介護実習」（中央法規出版）
介護福祉士選書　18　介護福祉実習指導（建帛社）
近喰晴子他「新生活教養 － 社会人としての基本マナー」（建帛社）

●成績評価

加藤・浜崎・小城：筆記試験（40%）
有馬・池田・折田：講義内容に関連したレポート提出（各20%）

●オフィスアワー

加藤・小城・有馬：火曜日～木曜日　8：30～17：30（研究室）
浜崎：月曜日～金曜日（火曜は除く）8：30～17：30（研究室）

●備考

A：加藤　B：浜崎　C：小城　D：有馬
E：池田　F：折田　G：加藤・浜崎・小城

発達と老化の理解

担当者：　宮里　新之介

●科目の概要

本科目は、介護職が頻繁に関わる高齢者に対してより良い介護を提供するための基礎的知識として、「老化」に関する理解を深めます。
まず「発達」に関する心理学的理論を学び、老化による心理や身体機能の変化といった基本的な知識を得ながら、人が「老化」に適応していくことをいかに支援していくかということについて理解を深めます。

●授業計画

1 オリエンテーション　／　発達とは何か
2 人間の成長と発達①　（発達段階と発達課題）
3 人間の成長と発達②　（発達と個人差）
4 老年期の発達と成熟①　（老化とは）
5 老年期の発達と成熟②　（人格と尊厳）
6 老年期の発達と成熟③　（老いの価値・喪失体験）
7 老化がおよぼす心理的影響①　（高齢者のこころの問題）
8 老化がおよぼす心理的影響②　（要介護と高齢者の心理）
9 老化に伴う身体的機能の変化と日常生活への影響
10 高齢者に多い症状や訴えについての理解
11 高齢者に多い精神疾患とその留意点
12 認知症高齢者の基礎的理解①　（アルツハイマー型）
13 認知症高齢者の基礎的理解②　（脳血管型、ピック病）
14 高齢者とのコミュニケーションの基礎
15 総括と質疑応答
16 定期試験

●到達目標

1. 発達という概念を理解し、他者に説明できる
2. 老化による心理・身体機能の変化の基礎的理解をし、説明できる
3. 高齢期の発達を支える援助について考えることができる

●授業時間以外の学習

・授業の始めに、前回の授業の理解度をチェックするためミニテストを実施しますので、前回の授業の復習を行うこと

●テキスト・参考書等

「発達と老化の理解」
　介護福祉士養成講座編集委員会（編集）　中央法規

●成績評価

・定期試験（80%）
・講義時のミニテスト（20%）

●オフィスアワー

金曜日　10：35〜12：05　（研究室　本館3階）

●備考

介護技術の基礎

担当者：　加藤　浜崎

●科目の概要

介護技術の根拠となる人体の構造や機能、介護サービスの提供における安全への留意点や心身の状況に応じた介護について理解する学習とする。

●授業計画

1	身支度に関連したこころとからだのしくみ①	A
2	身支度に関連したこころとからだのしくみ②	A
3	身支度に関連したこころとからだのしくみ③	A
4	移動に関連したこころとからだのしくみ①	A
5	移動に関連したこころとからだのしくみ②	A
6	移動に関連したこころとからだのしくみ③	A
7	食事に関連したこころとからだのしくみ①	B
8	食事に関連したこころとからだのしくみ②	B
9	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ①	A
10	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ②	A
11	排泄に関連したこことろからだのしくみ①	B
12	排泄に関連したこころとからだのしくみ②	B
13	睡眠に関連したこころとからだのしくみ	B
14	死にゆく人のこころとからだのしくみ①	B
15	死にゆく人のこころとからだのしくみ②	B
16	定期試験	C

●到達目標

1. 日常生活動作のこころとからだのしくみについて理解できる
2. ターミナルケアについて理解できる

●授業時間以外の学習

・授業の予習（講義予定範囲の内容についてテキストを読む）
・授業の復習（不明な点について調べ、必要に応じて質問をする）

●テキスト・参考書等

こころとからだのしくみ　介護福祉士養成講座編集委員会
中央法規出版

●成績評価

定期試験の成績（90%）
レポート等の提出状況（10%）

●オフィスアワー

加藤：月曜日〜金曜日　8:30〜17:30（研究室）
浜崎：月曜日〜金曜日（火曜を除く）８:30〜17: ００（研究室）

●備考

A：加藤
B：浜崎
C：加藤・浜崎

医療的ケア

担当者：　胸元　孝夫

●科目の概要

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。具体的には、医療的ケアの位置づけ、医行為とは何かを理解し、医療的行為を行うために知っておくべき、医学上の倫理、基礎知識、技術などについて学習する。その後、実際の医療的ケアについて学習し、経管栄養、喀痰吸引について理解を深める。また、医療の現場では、利用者或は患者の病態が急変する場合が起こりうるので、救急処置についても学習する。さらに、チーム医療と介護職員との連携についても理解に努める。毎回小テストを行う。

●授業計画

1 オリエンテーション (医療的ケアの位置づけ等)
2 保健医療制度に関する制度、医行為に関係する法律
3 チーム医療と介護職員との連携、医療の倫理
4 個人の尊厳と自立、利用者や家族の気持ちの理解
5 感染予防、職員の感染予防、療養環境の清潔、消毒法
6 滅菌と消毒
7 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施1
8 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施２
9 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施３
10 救急蘇生１
11 救急蘇生２
12 身体・精神の健康 (平常状態について
13 健康状態を知る項目 (バイタルサイン等) １
14 健康状態を知る項目 (バイタルサイン等) ２
15 急変状態について
16 定期試験

●到達目標

1. 医の倫理について説明ができる
2. 保健医療システムと介護職との連携について説明できる
3. 医療的ケアの安全な実施について説明できる

●授業時間以外の学習

・授業で学習した内容をテキストや関連資料で復習をする
・次回の授業範囲をテキストで予習する。

●テキスト・参考書等

1）医療的ケア 新介護福祉士養成講座 中央法規
2）介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト 全国訪問看護事業協会編集 中央法規
3）介護職員のための今すぐ知りたい医療行為実技ガイド ひかりのくに

●成績評価

定期試験（60% ）受講状態 (授業参加態度、小テスト ）（40%）

●オフィスアワー

火曜日を除く月曜日から金曜日　16:20から、408研究室、２名以上

●備考

※医療的ケアに関する科目は、「医療的ケア」「経管栄養」「喀痰吸引」を履修し、単位を修得した上 でなければ演習科目である「経管栄養演習」及び「喀痰吸引演習」を履修することはできない

レクリエーション活動援助法Ⅰ

担当者：　福満　博隆

●科目の概要

レクリエーション活動の社会的意義や活動援助者としての役割について解説しながら、レクリエーション活動における企画や運営の実践を通して、活動援助能力の習得向上を図る。
１．レクリエーション種目（ニュースポーツを中心に）の実技体験
　①種目特性を理解し、その楽しさを体験する
２．レクリエーション種目イベントの企画と運営実践
　①活動領域（地域社会，学校教育，職場，社会福祉分野等）を考慮した立案とその運営実践を行う
　②企画立案と運営実践おける役割分担とグループワークを学ぶ
３．企画と運営実践に対する振り返りとまとめを行う（評価）

●授業計画

1 授業の進め方とレクリエーション活動の社会的意義について
2 レクリエーション種目 (ソフトバレー) の実技体験と指導法
3 レクリエーション種目 (スポレック) の実技体験と指導法
4 レクリエーション種目（ユニホック）の実技体験と指導法
5 レクリエーション種目 (ティーボール) の実技体験と指導法
6 レクリエーション種目（ペタンク）の実技体験と指導法
7 レクリエーション種目（生涯スポーツ大会）の企画づくり
8 レクリエーション種目 A（生涯スポーツ大会）の運営実践１
9 レクリエーション種目 B（生涯スポーツ大会）の運営実践２
10 レクリエーション種目 C（生涯スポーツ大会）の運営実践３
11 レクリエーション種目 D（生涯スポーツ大会）の運営実践４
12 楽しいスポーツ・ゲームの実技体験と指導法
13 チャレンジ・ザ・ゲームの実技体験と指導法
14 楽しい健康づくり体操の実技体験と指導法
15 企画と運営実践に対する振り返りとまとめ
16

●到達目標

1. レクリエーション活動の社会的意義と役割について理解する
2. レクリエーション種目の特性と指導法を理解する
3. スポーツ大会の企画と運営方法について実践的に学ぶ

●授業時間以外の学習

立案企画および運営実践のための打ち合わせや準備等の課題をグループで取り組む

●テキスト・参考書等

参考図書：レクリエーション活動援助法（介護福祉士養成講座６）

●成績評価

授業態度50%、イベント企画内容と運営実践能力30%、レポートの評価20%

●オフィスアワー

月曜日の12：05～12：55（講義前）、体育館

●備考

福祉メイクセラピー

担当者：　葉月　えみ

●科目の概要

福祉に携わる精神と日常生活の支援活動との融合の中で、高齢者や障がい者に応じた技能に合わせたメイク指導を通じて、日常生活の生活の質向上及び自らができる自分を綺麗にすることの喜びを提供できる技術を習得する。

●授業計画

1　概論：福祉メイクセラピストとは（座学）
2　実習：ハンドマッサージと注意事項
3　実習：挨拶の方法と立ち位置＆スキンケア＆マッサージ
4　実習：ファンデーション
5　理論：傾聴の注意と実践
6　実習：復習＆リップ＆チーク
7　実習：高齢者のメイクと流行メイクの違い
8　実習：マンツーマンのやり方（福祉施設用）
9　理論：カラーによるメイクセラピー
10　実習：印象分析と眉毛の書き方
11　実習：現場の組み立て方
12　実習：現場実習
13　実習：現場実習
14　理論：障がい者へのメイク指導（座学）
15　実習：エンゼルメイク（死化粧：亡くなられた方へのメイク）
16　定期試験

●到達目標

1. 福祉メイクセラピストとは何かを理解できる
2. 対象者に応じたメイク技術をおこなうことができる

●授業時間以外の学習

推薦図書を読む
メイクセラピー基本のき　アピアグループ　他

●テキスト・参考書等

基礎からわかる！メイクアップのすべて　　小林照子著

●成績評価

実技　20分以内、定期試験、レポート

●オフィスアワー

●備考

福祉の精神とは何かを理解し、挨拶、スキンケア、ベース、
ポイントメイク、ヘアスタイルなどを学ぶ
推薦図書、顔にあざのある女性たち―「問題経験の語り」の社会学
西倉 実季　著

人間の尊厳と自立

担当者：　谷川　知士

●科目の概要

介護は人間理解と信頼関係のうえに成り立つものである。ここでは、人間を理解するとは、どのような理解の仕方があるのかを学び、人間としての尊厳の保持と自立（自律）した生活を支える必要性について認識を深め、介護場面における権利擁護と倫理的配慮ができる基礎能力と人権意識を身に付ける。

●授業計画

1　人間の尊厳を、福祉のもつ意義から考察して行く
2　生活場面から尊厳や自立に関する基本的な考え方を学ぶ
3　人間の尊厳と自立が、人間の幸せに深く関わることを学ぶ
4　生命への畏敬について考える
5　各種の人権宣言、権利条約について学ぶ
6　地域福祉権利擁護事業について学ぶ
7　成年後見制度について学ぶ
8　介護における尊厳の保持について学ぶ
9　介護における自立支援の実践について学ぶ
10　要支援者の自立と自律について考える
11　苦情解決制度と介護サービスに関する苦情の実態を学ぶ
12　人間の発達と周りとの関係性について学ぶ
13　集団力学からみた人間関係について学ぶ
14　職場での人間関係から、援助者支援について学ぶ
15　これまでの自分の人生を振り返る
16

●到達目標

1. 人間の尊厳とは何か、人権宣言等を学び理解する。
2. 介護における尊厳の保持・自立支援の在り方を理解する。
3. 人間の尊厳を支える権利擁護制度を理解する。

●授業時間以外の学習

・家族の歴史を振り返ってみよう。
・「よりよく生きる」ことについて考察してみよう。

●テキスト・参考書等

テキスト：新・介護福祉士養成講座「人間の理解」介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規

●成績評価

受講態度と提出物（30%）筆記試験（70%）

●オフィスアワー

第１・第３水曜日　14：40～17：55　谷川研究室

●備考

社会保障制度

担当者：　谷川　知士

●科目の概要

社会保障の歴史的背景や我が国における戦後の社会保障制度の発展について考察し、その目的や役割及び対象について学ぶ。
特に少子高齢化時代を迎え、地方経済や国の財政問題も考慮し、持続可能な社会保障制度の仕組みについても議論を重ね、福祉の専門家としての基礎知識を身に付けて行く。

●授業計画

1　社会保障の役割や目的について学ぶ
2　社会保障の範囲と対象者について学ぶ
3　社会保障の歴史について学ぶ
4　日本国憲法における社会保障の位置づけについて学ぶ
5　日本の戦後における社会保障の基盤整理について学ぶ
6　福祉六法の時代的背景と成立の意義について学ぶ
7　各種保険の仕組みと皆年金について学ぶ
8　地方分権と基礎構造改革について学ぶ
9　介護保険と福祉の考え方の変化について学ぶ
10　各種社会扶助の概要について学ぶ
11　高齢者医療のあり方について学ぶ
12　少子高齢化の進行と社会保障のあり方について学ぶ
13　財政問題と社会保障について学ぶ
14　社会保障における給付と負担の関係について学ぶ
15　持続可能な社会保障制度への道について学ぶ
16

●到達目標

1. 社会保障の歴史と理念を理解する
2. 所得保障制度と関連制度を理解する
3. 医療および障害者支援の制度と支援システムを理解する

●授業時間以外の学習

・医療保険の使い方とメリット、デメリットについて考えよう。
・公的扶助や各種手当について学習しておこう。

●テキスト・参考書等

テキスト：新・介護福祉士養成講座「社会と制度の理解」介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規
参考図書：国民の福祉の動向　厚生統計協会　編集・発行

●成績評価

受講態度と提出物（30%）筆記試験（70%）

●オフィスアワー

第１・第３水曜日　14：40～17：55　谷川研究室

●備考

介護の基本Ⅲ

担当者：　加藤　玲子

●科目の概要

「尊厳の保持」「自立支援」を生活の視点から捉え、介護における安全やチームケアなどについて理解を深める

●授業計画

1　多職種連携の意義・目的と連携
2　多職種連携のあり方（事業所などに配置される専門職）
3　地域包括ケアシステム
4　地域連携
5　社会福祉法人、ＮＰＯ法人との連携
6　地域支援事業（鹿児島市の高齢者福祉サービス）
7　自助具について
8　介護保険（福祉用具）
9　介護保険住宅改修
10　介護における安全の確保
11　事故防止、安全対策
12　感染管理のための方策
13　健康管理の意義と目的
14　安心して働ける環境づくり
15　連携とリスクマネジメントのまとめ
16　定期試験

●到達目標

1. 介護実践における連携を理解できる
2. 介護におけるリスクマネジメントを理解できる

●授業時間以外の学習

・授業の予習（テキストを読む）
・授業の復習（プリント、資料などを読み直す）

●テキスト・参考書等

介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護の基本Ⅰ」(中央法規)
介護福祉用語辞典

●成績評価

定期試験 (６０分で実施)（８０%）レポート（２０%）

●オフィスアワー

月曜日～木曜日　午後　（研究室）

●備考

コミュニケーション演習

担当者：　谷川　宮里

●科目の概要

介護を必要とする人の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用家族、あるいは他職種共同におけるコミュニケーション能力を演習を通して身につける。

●授業計画

1　コミュニケーションとは何か（その意義と目的）
2　自己紹介を通しての自己知覚
3　介護現場（施設）でのコミュニケーションの実際
4　相談・面接を通したコミュニケーション
5　障害者に対するコミュニケーションの取り方①（言語障害）
6　障害者に対するコミュニケーションの取り方②（知的障害）
7　支援者間（チーム）のコミュニケーションの実際
8　施設での利用者の支援記録の実際
9　他職種間のコミュニケーション
10　利用者・介護職間のコミュニケーションの実際
11　記録の意義と記録の形式
12　記録の実際とその活用
13　会議の開き方（準備から進行・司会・会議録）
14　記録の実際
15　総括
16

●到達目標

1. 利用者とのコミュニケーションの意義を理解する
2. 介護におけるチームのコミュニケーションの意義を理解する
3. 介護現場での様々なコミュニケーション方法を自ら考えられる

●授業時間以外の学習

・1～10では、ミニテストを行う場合がありますので復習をしっかりすること　・11～15では、介護実習記録に講義内容を活かすよう心がけること

●テキスト・参考書等

「コミュニケーション技術」
介護福祉士養成講座編集委員会（編集）　中央法規出版

●成績評価

レポート（80%）
受講態度（20%）

●オフィスアワー

谷川：第１・第３水曜日　14：40～17：55　（研究室　西館３階）
宮里：金曜日　10：35～12：05　（研究室　本館３階）

●備考

生活支援技術Ｂ

担当者：　加藤　浜崎

●科目の概要

尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学ぶ。生活支援技術Ｂでは、入浴・清潔保持の介護、身支度の介護、バイタルサインの測定が主な内容となる。効果的な演習となるために、お互いに介護者役、利用者役を担いながら進めることが多い。心身の状況に応じた介護が実践できるために介護技術の基礎で学んだことを深める機会ともなる。

●授業計画

1	入浴の意義・目的、利用者のアセスメントについて	A
2	安全・的確な入浴介助技法、グループワーク（役割分担）	A
3	安全・的確な入浴介助時の移動の技法	A
4	入浴介助技法（シャワー浴、家庭浴槽・一般浴槽）	A
5	入浴介助技法（シャワー浴、家庭浴槽・一般浴槽）	A
6	入浴介助技法（特殊浴槽）	A
7	入浴介助技法（特殊浴槽）	A
8	安全・的確な入浴介助技法（実施後の評価・考察）	A
9	生命徴候としての呼吸・体温・脈拍・血圧について	B
10	身支度の介護（洗面・整髪・ひげの手入れ・爪・化粧等）	B
11	身支度の介護（軟膏塗布・湿布の貼付・点眼等）	B
12	安全・的確な清潔保持技法（全身清拭・部分清拭）	B
13	安全・的確な清潔保持技法（陰部洗浄）	B
14	安全・的確な清潔保持技法（足浴・手浴）	B
15	安全・的確な清潔保持技法（洗髪）	B
16	定期試験	C

●到達目標

1. 入浴・清潔保持の介護について具体的援助を実践できる
2. 身支度の介護について具体的援助を実践できる
3. バイタルサインの意味を理解し、正確な測定ができる

●授業時間以外の学習

・「介護技術の基礎」で学んだことを復習し、不明な点は質問する
・実施した演習内容について、繰り返し練習を行う

●テキスト・参考書等

生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ　介護福祉士養成講座編集委員会
（中央法規出版）

●成績評価

筆記試験の成績（８０％）
実技試験とレポート（２０％）

●オフィスアワー

加藤：火曜～木曜　8:30～17:30
浜崎：月曜～金曜（火曜は除く）8:30～17:00

●備考

Ａ：加藤
Ｂ：浜崎
Ｃ：加藤・浜崎

介護過程Ⅱ

担当者：　加藤　小城

●科目の概要

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養うために、介護過程とは個々のニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価することの連続であるということを理解する。

●授業計画

1	介護過程とは、介護実習Ⅰ－①においての情報交換等	C
2	展開のプロセス　・介護実習Ⅰ－②具体的目標・方法	B
3	展開の基本視点　・生活支援の考え方と介護過程の必要性	B
4	実習記録について (オリエンテーション、カンファレンス)	A
5	介護実習記録について（１日分の記録を書き直してみる）	A
6	介護実習記録について（個人指導）事前訪問（説明）	C
7	観察をして情報を得たこと (まとめ方)、事前訪問の書類配布	B
8	観察をして情報を得たこと (まとめ方)	B
9	実習Ⅰ - ②事前準備（服装チェック、実習反省会説明等	B
10	実習反省会	A
11	アセスメントとは、フェイスシートについて	B
12	情報収集について、アセスメント表（Ⅰ）について	B
13	情報の解釈・関連づけ・統合化について、介護実習Ⅱ説明	B
14	情報の解釈・関連づけ・統合化について、事前訪問について	B
15	実習Ⅱ事前準備（服装チェック・実習反省会説明等）	B
16		

●到達目標

1. 介護過程の展開について説明できる
2. 根拠に基づた介護を提供するための情報を収集できる
3. 情報を整理し、分析・解釈・統合し、課題を抽出できる

●授業時間以外の学習

事前学習：テキストによる予習
事後学習：テキスト及び、配布資料による復習

●テキスト・参考書等

介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護過程」（中央法規出版）
最新介護福祉全書「介護過程」石野育子著（メヂカルフレンド社）

●成績評価

定期試験の成績（100%）　※筆記試験は60分で実施

●オフィスアワー

加藤：火曜日～木曜日　8：30～17：30（研究室）
小城：火曜日～木曜日　8：30～17：30（研究室）

●備考

（担当）A：加藤　B：小城　C：加藤・小城

介護実習Ⅰ

担当者：　加藤　浜崎　小城

●科目の概要

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から、様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について学ぶ。介護実習Ⅰでは、鹿児島県内の居宅系事業所（通所介護事業所・通所リハビリテーション・訪問介護事業所・グループホーム等）にて実習し、介護実習Ⅰ - ①では１週間、介護実習Ⅰ - ②は２週間をかけて学びを深める。

●授業計画

＜介護実習Ⅰ－①＞
①オリエンテーション（自己紹介、施設の概要、一日の流れ・週間予定・年間予定、感染防止に関すること、その他）を受ける。内容は「オリエンテーション記録」に記入する。
②各事業所での日課表に沿った業務の進め方や内容を把握し、指導者の助言のもとに利用者に必要な生活支援技術を用いながら介護を行い、利用者の特性を知る。
③記録について
・実習目標及び計画について、前日までに実習記録に記入する。
・当日の実習開始前に一日の目標と計画を実習指導者に報告し、助言を受ける。
・実際に行った実習内容及び評価・考察についてまとめ、「実習記録」に記入する。
＜介護実習Ⅰ－②＞
介護実習Ⅰ－①の①～③
④一人の利用者を決めてもらい、個々の生活リズムや個別ケアについて観察し、情報を得たことをまとめ、「観察をして情報を得たこと」に記入する。
⑤多職種協働・関係機関との連携の在り方について、事業所ごとに情報を収集したことをまとめ、「観察をして情報を得たこと」に記入する。

●到達目標

1. 多様な事業所の概要や役割を理解し、利用者の生活を知る
2. 生活支援技術を用いて介護を行い、利用者特性を把握できる
3. 個々の生活リズムや個性に応じた生活支援の在り方を知る

●授業時間以外の学習

1. 施設や事業所、介護が必要となる人の理解を含む科目の復習をする　2. 生活支援技術やコミュニケーションの苦手な点を自己練習する　3. 実習反省会へは積極的な姿勢で参加する

●テキスト・参考書等

介護総合演習・実習　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規

●成績評価

実習施設の評価、巡回指導の結果で総合的に評価する　100%
※介護実習Ⅰの評価は介護実習Ⅰ - ①、介護実習Ⅰ - ②を合わせる

●オフィスアワー

加藤・小城：火曜～木曜　8:30～17:30（研究室）
浜崎：月曜～金曜（火曜を除く）8:30～17:00（研究室）

●備考

COC 関連科目

介護実習Ⅱ

担当者：　加藤　浜崎　小城

●科目の概要

個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。介護実習Ⅱでは、鹿児島県内の入所系施設（介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者支援施設のいずれか）にて実習し、２週間をかけて学ぶ。

●授業計画

①オリエンテーション（自己紹介、施設の概要、一日の流れ・週間予定・年間予定、感染防止に関すること、その他）を受ける。内容は「オリエンテーション記録」に記入する。
②施設での日課表に沿った業務の進め方や内容を把握し、指導者の助言のもとに利用者に必要な生活支援技術を用いながら介護を行い、利用者の特性を知る。
③記録について
・実習目標及び計画について、前日までに実習記録に記入する。
・当日の実習開始前に一日の目標と計画を実習指導者に報告し、助言を受ける。
・実際に行った実習内容及び評価・考察についてまとめ、「実習記録」に記入する。
④一人の利用者を決めてもらい、特性と現在の情報を把握する。
・利用者の特性を知る➡「フェイスシート」
・利用者の状況を理解する➡「アセスメント表（1）（2）」

●到達目標

1. 施設の概要や役割を理解し、利用者の生活・障害像を理解できる
2. 生活支援技術を用いて介護を行い、個別支援の在り方を知る
3. 利用者の特性と現状を把握することができる

●授業時間以外の学習

・施設及び介護が必要となる人の理解に関連する科目を復習する
・「介護過程Ⅰ」「介護過程Ⅱ」で学んだことで不明な点を調べる
・生活支援技術やコミュニケーションの苦手な点を自己練習する

●テキスト・参考書等

介護総合演習・実習　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規

●成績評価

実習施設の評価、巡回指導の結果で総合的に評価する　100%

●オフィスアワー

加藤・小城：火曜～木曜　8:30～17:30（研究室）
浜崎：月曜～金曜（火曜を除く）8:30～17:00（研究室）

●備考

COC 関連科目

高齢者の介護

担当者：　西郷　ヨシ子

●科目の概要

老化を理解し、老化に伴う心理的変化や、身体機能の変化及びその特徴に関する基礎的知識を習得する。
老化に伴う心理的、身体的変化と日常生活への影響を踏まえたうえで、残存機能を活用した介護と、利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション技術も深めていく。

●授業計画

1　老化が伴う心身の変化の特徴
2　視覚障害に応じた介護
3　聴覚・言語障害に応じた介護
4　内部障害（心臓機能障害）に応じた介護
5　内部障害（呼吸器障害）に応じた介護
6　内部障害（腎臓・膀胱機能障害）に応じた介護
7　免疫機能と感覚機能
8　咀嚼機能、嚥下機能の変化
9　運動中枢神経、骨・関節の変化
10　心の問題と精神障害
11　老化に伴う知的機能の変化。知的障害に応じた介護
12　高次機能障害に応じた介護
13　生活習慣病
14　高齢者に多い疾病
15　認知症の人への介護
16　筆記試験

●到達目標

1. 老化に伴う身体的変化と特徴を理解し、実践に備える
2. 老化に伴う心理的変化と、日常生活への影響を理解する
3. 高齢者の多い疾病と介護の瘤点を習得する

●授業時間以外の学習

・授業の予習（不明な点について、質問する）
・授業の復習（授業中のポイントの書き取り）

●テキスト・参考書等

介護福祉士養成講座編集委員会編集「発達と老化の理解」
介護福祉士養成講座編集委員会編集「生活支援技術Ⅲ」
参考書
「仕組みと病気がわかる・体の事典」成美堂出版

●成績評価

定期試験（７０％）レポート提出（20%）平常点（10%）
筆記試験（60分）

●オフィスアワー

非常勤講師控室金曜日：１０：３５～１２：０５

●備考

認知症の理解

担当者：　植原　和代

●科目の概要

認知症の人に対して適切なケアを行うにはその医学的知識，介護知識が必要である。
本講では介護福祉士の視点から認知症の医学的知識及び認知症の人とその家族の介護支援のあり方や地域での認知症支援システムについても解説する。

●授業計画

1　認知症ケアの歴史
2　認知症の心理症状
3　認知症高齢者専門病院の紹介
4　脳のしくみと老化
5　認知症の原因と検査・診断
6　アルツハイマー型認知症
7　脳血管性認知症
8　レビー小体型認知症
9　前頭側頭型認知症
10　若年性認知症・ＭＣＩ
11　治療薬アリセプト
12　認知症の予防
13　認知症の人の理解
14　環境の力
15　認知症の人に対する介護
16　定期試験

●到達目標

1. 認知症の医学的知識についても理解を深めることができる
2. 認知症介護を理解し家族支援のあり方を考えることができる
3. 認知症の人の介護について理解し家族支援のあり方を考えること

●授業時間以外の学習

・授業の予習（不明な点について、質問する）
・授業の復習（授業中のポイントの書き取り）

●テキスト・参考書等

認知症の理解　　新介護福祉士養成講座　中央法規

●成績評価

筆記試験　９０％
受講態度　１０％

●オフィスアワー

曜日：火曜日
時間：講義終了後　　場所：講義室

●備考

障害の理解Ⅰ

担当者：　堀田　哲一郎

●科目の概要

当事者の思いや生活実態を踏まえながら、障害の概念を学ぶ。障害者福祉の基本理念となるノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンについて学ぶ。身体的、知的、精神的な面に障害のある人について医学的理解、心理的理解、生活の理解、介護上の留意点を学ぶ。

●授業計画

1　障害の概念　障害のある人の暮らし・障害とは何か
2　障害の概念　障害者の法的定義・障害者の概数
3　障害者福祉の基本理念　ノーマライゼーション
4　障害者福祉の基本理念　リハビリテーション他
5　視覚障害のある人の生活
6　聴覚障害のある人の生活
7　言語障害のある人の生活
8　重複障害のある人の生活
9　肢体不自由のある人の生活　医学的理解・心理的理解
10　肢体不自由のある人の生活　生活の理解・介護上の留意点
11　知的障害のある人の生活
12　精神障害のある人の生活　医学的理解・配慮と生活介護
13　精神障害のある人の生活　介護上の留意点・在宅サービス
14　高次脳機能障害のある人の生活
15　発達障害のある人の生活
16　定期試験

●到達目標

1. 障害者福祉の基本理念を理解している
2. 障害のある人について医学的理解、心理的理解、生活の理解、介護上の留意点を理解している

●授業時間以外の学習

・授業の予習（不明な点について、質問する）
・授業の復習（授業中のポイントの書き取り）

●テキスト・参考書等

認知症の理解　　新介護福祉士養成講座　中央法規

●成績評価

筆記試験　９０％
受講態度　１０％

●オフィスアワー

曜日：火曜日
時間：講義終了後　　場所：講義室

●備考

こころとからだのしくみⅠ（医学）

担当者：　林　中野　河野

●科目の概要

こころとからだのしくみや疾患について学び、サービス提供上の安全や尊厳の保持について理解する。

●授業計画

1	からだのしくみの理解［（恒常性、細胞、遺伝、など）	A
2	からだのしくみの理解（脳死系系、感覚器、運動器など）	A
3	からだのしくみの理解（呼吸器、循環器、など）	A
4	からだのしくみの理解（消化器、泌尿器、生殖器など）	B
5	からだのしくみの理解（内分泌器など）	B
6	生活習慣病について学ぶ	A
7	脳血管疾患について学ぶ	A
8	心疾患について学ぶ	A
9	悪性新生物について学ぶ	A
10	消化器、泌尿器、内分泌疾患について学ぶ	B
11	呼吸器疾患について学ぶ	A
12	口腔衛生について学ぶ	C
13	歯科、口腔疾患について学ぶ	C
14	整形外科疾患について学ぶ	A
15	高齢者の健康について学ぶ	A
16		

●到達目標

1. 基本的なからだのしくみの理解
2. 高齢者のこころとからだの状態の理解
3. サービス提供上重要な疾患についての知識

●授業時間以外の学習

・テキストによる予習
・テキスト、配布資料による復習

●テキスト・参考書等

新・介護福祉士養成講座１４　こころとからだのしくみ
新・介護福祉士養成講座１１　発達と老化の理解

●成績評価

筆記試験で行う
受講態度を参考にする

●オフィスアワー

講義終了後
研究室

●備考

A: 河野　B: 中野　C: 林

経管栄養

担当者：　浜崎　眞美

●科目の概要

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。この科目では医療的ケアの中でも経管栄養を中心とし、消化器系の理解や経管栄養のしくみ、必要な援助方法、報告・記録の必要性等を説明できることを目指す。「医療的ケア」で学んだ内容と関連させながら進める部分があるため、自身の習得状況を再確認できる機会となる。医療的ケアに関する科目は、「医療的ケア」「経管栄養」「喀痰吸引」を履修し単位を修得することで「経管栄養演習」及び「喀痰吸引演習」を履修することになる。

●授業計画

1 消化器系のしくみとはたらき
2 消化・吸収とよくある消化器の症状
3 経管栄養とは何か
4 注入する内容に関する知識
5 経管栄養実施上の留意点
6 子供の経管栄養について
7 経管栄養に関係する感染と予防、手洗いの実施
8 経管栄養を受ける際の説明と同意、危険・安全管理
9 急変・事故発生時の対応と事前対策
10 用いる器具器材としくみ、清潔保持、物品の準備・設置
11 利用者の状態観察と留意点、実施前の利用者の準備・留意点
12 実施手順と留意点、実施中の身体変化の確認及び報告
13 実施後の手順と留意点、身体変化の確認及び報告、片付け等
14 経管栄養に必要なケア
15 報告及び記録について
16 定期試験

●到達目標

1. 消化器系の役割・機能について説明ができる
2. 経管栄養のしくみ、注入内容、安全な実施に関する説明ができる
3. 説明と同意の必要性、報告・記録の重要性について説明ができる

●授業時間以外の学習

・各回の内容について次回までの間に復習し不明な点を調べること
・授業中に実施する小テスト内容は分かるまで調べること

●テキスト・参考書等

1. 医療的ケア　新介護福祉士養成講座　中央法規
2. 医療的ケア　メヂカルフレンド社
3. 介護職員のための今すぐ知りたい医療行為実技ガイド　ひかりのくに

●成績評価

定期試験の成績　８０％
小テストの成績　２０％

●オフィスアワー

月曜～金曜（火曜を除く）　8：30～17：00（研究室）

●備考

レクリエーション活動援助法Ⅱ

担当者：　福満　博隆

●科目の概要

レクリエーション活動の社会的意義や活動援助者としての役割について解説しながら、レクリエーション活動の体験と指導実践を通して、活動援助能力の習得向上を図る。

1．コミュニケーション・ワークを体験し、その指導法を学ぶ
　①楽しいゲーム、ダンス、ソング、野外活動の体験をする
　②ゲーム，ダンス，ソングの指導法を学び実践する
　③課題をグループで取り組むみ、コミュニケーション能力を高める。
2．指導実践に対する振り返りとまとめを行う（評価）

●授業計画

1　オリエンテーション，野外活動についての解説
2　野外活動体験 (２泊３日の集中講義)
3　野外活動体験 (自然とのふれあいを深める)
4　野外活動体験 (仲間との協力して課題を解決する)
5　野外活動体験 (課題を成し遂げる喜びの体験)
6　野外活動体験 (自分の可能性を見つめ直す)
7　野外活動体験 (知的障害者との交流体験)
8　アイスブレイク（つどいの演出）の体験と指導法について
9　ゲーム，ダンス，ソングの指導練習 A（クループ活動）
10　ゲーム，ダンス，ソングの指導実践１と振り返り（評価）
11　ゲーム，ダンス，ソングの指導実践２と振り返り（評価）
12　ゲーム，ダンス，ソングの指導練習 B（クループ活動）
13　ゲーム，ダンス，ソングの指導実践３と振り返り（評価）
14　ゲーム，ダンス，ソングの指導実践４と振り返り（評価）
15　グループワークに重点を置いたゲームの体験と指導法
16

●到達目標

1. レクリエーション活動の社会的意義と役割について理解する
2. レクリエーション活動援助能力の習得と向上を図る
3. グループ活動を通してコミュニケーション能力を高める

●授業時間以外の学習

指導実践のための打ち合わせや練習等の課題をグループで取り組む

●テキスト・参考書等

参考図書：レクリエーション活動援助法（介護福祉士養成講座６）

●成績評価

授業態度50%、ゲーム指導実践能力30%、レポートの評価20%

●オフィスアワー

月曜日の12：05〜12：55（講義後）、体育館

●備考

情報処理Ⅰ

担当者：　瀬戸　博幸

●科目の概要

コンピュータとインターネットの役割を理解していることが当然の世の中になっている。さらに、携帯端末で音楽を楽しんだり、写真を撮ったり、コンピュータと連携し使用できる情報メディアも多様化し、急速に普及している。このような現在においてコンピュータを活用する基礎を固め、自信をもって活用できる人を育てる。

●授業計画

1　コンピュータの基本操作
2　インターネットの歴史
3　電子メール
4　ホームページを作ってみよう
5　ホームページに写真を載せよう
6　ホームページのレイアウトを整えよう
7　Ｗｏｒｄを使う（その１）
8　Ｗｏｒｄを使う（その２）
9　Ｗｏｒｄを使う（その３）
10　Ｅｘｃｅｌを使う（その１）
11　Ｅｘｃｅｌを使う（その２）
12　WordとＥｘｃｅｌの連携
13　ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔを使う
14　最終課題（その１）
15　最終課題（その２）
16

●到達目標

1. ＩＣＴの基本的な技術を習得する
2. インターネットを理解し、活用できるようになる
3. コンピュータを生活の道具として活用できるようになる

●授業時間以外の学習

・身のまわりの情報機器に、常に関心を持つようにする
・各時間に修得した内容を整理し、記録しておく

●テキスト・参考書等

テキスト
　実践ドリルで学ぶＯｆｆｉｃｅ活用術２０１３対応　noa 出版

●成績評価

日々のレポート（５０%）および最終課題レポート（５０%）

●オフィスアワー

月曜・金曜の９・10限（西４１７　瀬戸研究室）

●備考

住環境と福祉

担当者：古川　惠子

●科目の概要

鹿児島県は高齢化率と独居高齢者率が高い県である。その特性を理解し、また一般的なことも踏まえ、在宅介護の施策の中で、居住の継続を図れる住まい・まちについて考える。

介護業務の中で介護保険を利用した住宅改修に携わる機会に備えて非常に有効な福祉住環境コーディネーターの資格に関する科目でもある。受験支援を行う。

●授業計画

1 鹿児島県の住宅事情
2 鹿児島市の都市計画－集団規定と単体規定
3 鹿児島県の住宅の環境調整：採光・照明・温熱
4 〃　：通風・換気・遮音・吸音
5 住宅構造・材料
6 木造住宅の構造・名称と住宅改修
7 アレルギー、シックハウス症候群と内装材
8 試験問題から－住宅改修のポイント理解－１
9 試験問題から－住宅改修のポイント理解－２
10 介護保険における住宅改修
11 住宅改修の事例－パワーポイントで実例紹介、VHS 視聴
12 介護予防に配慮した住宅の事例
13 福祉施設の事例から設計計画主旨の理解
14 省エネ住宅とモデルハウス－学外研修
15 〃
16 定期試験

●到達目標

1. 鹿児島県の住宅事情の理解
2. 蒸暑地域の鹿児島県の住宅の環境調整が理解できる
3. 介護保険と住宅改修が理解できる

●授業時間以外の学習

・講義の予習：テキストを読む
・講義で不明な点について調べる、質問する

●テキスト・参考書等

・テキスト：福祉住環境コーディネーター検定試験３級公式テキスト／東京商工会議所編
・参考書：外山義／自宅でない在宅－高齢者の生活空間論／医学書院／2003年

●成績評価

定期試験（50%）、レポート（50%）で評価
※筆記試験は60分で実施

●オフィスアワー

水曜日を除く月～金曜日　16：10～17：30　研究室

●備考

・COC 科目
・他学科開放科目

社会福祉援助技術

担当者：谷川　知士

●科目の概要

社会福祉援助技術とは、現代社会における生活上に課題を抱える人々（疾病、障害、高齢、ひとり親家庭、貧困等）のよりよく生きたいと願う個々のニーズを把握し、それぞれに合った生活スタイルを的確に選択でき、社会生活の場で解決し自立を促す、福祉の専門家による援助方法のことである。

多様な社会福祉援助技術を習得し、益々進む少子高齢化や経済の不安定な時代において、実践に生かせる福祉の専門家を目指す。

●授業計画

1 社会福祉援助技術の歴史的展開と概念について学ぶ
2 社会福祉援助技術の意義と基本的枠組みについて学ぶ
3 社会福祉サービスと社会福祉援助技術の関係について学ぶ
4 社会福祉援助技術の原則について学ぶ
5 社会福祉援助技術と介護福祉士の役割について学ぶ
6 直接援助技術の概要について学ぶ
7 関節援助技術の概要について学ぶ
8 個別援助技術の意義と原則について学ぶ
9 個別援助技術の過程と方法について学ぶ
10 集団援助技術の意義と原則について学ぶ
11 集団援助技術の過程と方法について学ぶ
12 関連援助技術の概要と方法について学ぶ
13 地域援助技術の概要と方法について学ぶ
14 スーパービジョンの意義と方法について学ぶ
15 介護現場における事例を通した援助技術を学ぶ
16

●到達目標

1. 相談援助の歴史的展開と意義を理解する
2. 社会福祉援助技術の原則を理解し、実践できる
3. 個別および集団援助技術の基本原理を理解し実践できる

●授業時間以外の学習

・介護保険の流れについて理解を深めておく
・介護支援専門員について調べておく

●テキスト・参考書等

参考図書：介護総合演習 介護福祉士養成テキスト 白井孝子 編集 ミネルヴァ書房

●成績評価

授業態度と提出物等（30%）筆記試験（70%）

●オフィスアワー

第１・第３水曜日　14：40～17：55　谷川研究室

●備考

リハビリテーション論

担当者：　東　里美

●科目の概要

リハビリテーションの理念、障害の構造・分類、更に様々な障害の特徴を学ぶ。また発達と老化の観点を通して、予防医学を含めたリハビリテーションの重要性を考える。特に加齢と障害に主眼を置き、「介護を必要とする人」を生活の視点から捉える事について内容を深める。講義は主に PowerPoint を用いて進める。また実技を行い、身体機能についてや障害についての理解を深める。理解の確認を行うために授業ごとの小テストを行う。

●授業計画

1 リハビリテーション概論（歴史や理念　障害の概念を学ぶ）
2 チームワークとしてのリハビリテーションについて学ぶ
3 ヒトの身体機能、加齢と障害の基礎知識について学ぶ
4 廃用症候群のリハビリテーションについて学ぶ
5 脳血管疾患のリハビリテーションについて学ぶ
6 神経疾患、骨関節疾患とリハビリテーションについて学ぶ
7 高次脳機能障害、認知症について学ぶ
8 日常生活動作について学ぶ
9 実技１（身体機能について学ぶ）
10 実技２（リハビリテーション介護について学ぶ）
11 言語発達、失語症について学ぶ
12 構音障害、摂食嚥下のメカニズムについて学ぶ
13 介護予防、リハビリテーション専門職との連携について学ぶ
14 まとめ①筆記試験
15 まとめ②（試験答え合わせと、リスク管理について学ぶ）
16

●到達目標

1. 身体機能の基本要素や老化、疾病、障害を理解する
2. 障害が生活に及ぼす影響を考察する
3. 自立支援について考察できる

●授業時間以外の学習

「日常の中に障害者とのかかわり合いがあるとしたら」を意識する視点や関連分野における興味について明確にして講義に出席する事が望ましい。

●テキスト・参考書等

テキスト：介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護の基本１」（中央法規）
参考書：福祉住環境コーディネーター検定試験２級公式テキスト（東京商工会議所）

●成績評価

筆記試験８０％　小テスト１０％　受講態度１０％

●オフィスアワー

１４：１０～１８：００講義室

●備考

コミュニケーションの基礎

担当者：　宮里　新之介

●科目の概要

本科目では、言語コミュニケーションや非言語コミュニケーションといった一般的なコミュニケーションの基礎的知識を学びます。
また、介護の現場におけるコミュニケーションについて、知識・技術・態度などの理解を深め、その技法を習得します。

●授業計画

1 オリエンテーション　／　コミュニケーションとは何か
2 リレーション作りについて
3 自己開示について
4 言語コミュニケーション①（受容、繰返し、明確化）
5 言語コミュニケーション②（支持、質問）
6 非言語コミュニケーション①（視線、表情、身体接触）
7 非言語コミュニケーション②（姿勢、動作、ジェスチャー）
8 コミュニケーション上の諸問題への対処（抵抗、沈黙）
9 介護における生活支援とコミュニケーション
10 コミュニケーション障害の理解
11 コミュニケーション障害のある利用者への対応
12 高次脳機能障害、失語症、構音障害とコミュニケーション
13 認知症、視・聴力障害、言語障害とコミュニケーション
14 介護場面における利用者の家族とのコミュニケーション
15 総括と質疑応答
16 筆記試験

●到達目標

1. コミュニケーションという概念について理解する
2. 自分のコミュニケーションパターンを認識し分析できる
3. 利用者の特性に応じたコミュニケーションを考えることができる

●授業時間以外の学習

授業の始めに、前回の授業の理解度をチェックするためのミニテストを実施することがありますので、前回の授業の復習を行うこと

●テキスト・参考書等

「コミュニケーション技術」 新・介護福祉士養成講座5
「ピアヘルパーハンドブック」 日本教育カウンセラー協会（編）

●成績評価

定期試験での筆記試験（80%）
講義時のミニテスト（20%）

●オフィスアワー

金曜日　10：35～12：05　（研究室　本館３階）

●備考

生活支援技術Ｃ

担当者：　加藤　浜崎

●科目の概要

尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学ぶ。生活支援技術Ｃでは、排泄の介護、移動・移乗の介護が主な内容となる。効果的な演習となるために、お互いに介護者役、利用者役を担いながら進めることが多い。心身の状況に応じた介護が実践できるために介護技術の基礎で学んだことを深める機会ともなる。

●授業計画

1	安全・的確な排泄介助技法（トイレ）	A
2	安全・的確な排泄介助技法（ポータブルトイレ）	A
3	利用者の状況に応じたトイレ介助の留意点	A
4	利用者の状況に応じた介助（失禁時の介護の留意点）	A
5	安全・的確な移動・移乗介助技法（歩行・補助具・装具）	A
6	安全・的確な移動・移乗介助技法（移乗の一部介助）	A
7	安全・的確な移動・移乗介助技法（移乗の全介助）	A
8	安全で気兼ねなく動けることを支える介護：環境整備・余暇	A
9	排泄の意義・目的、排泄におけるアセスメント	B
10	安全・的確な排泄介助技法（おむつ交換）	B
11	安全・的確な排泄介助技法（おむつ交換）	B
12	安全・的確な排泄介助技法（尿器・差込便器）	B
13	安全・的確な排泄介助技法（尿器・差込便器）	B
14	安全・的確な排泄介助技法（おむつ交換・尿器等）実技試験	B
15	利用者の状況に応じた排泄介護について	B
16	定期試験	C

●到達目標

1. 排泄の介護について具体的援助を実践できる
2. 移動・移乗の介護について具体的援助を実践できる

●授業時間以外の学習

・「介護技術の基礎」で学んだことを復習し、不明な点は質問する
・実施した演習内容について、繰り返し練習を行う

●テキスト・参考書等

生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ　介護福祉士養成講座編集委員会
　　中央法規出版

●成績評価

筆記試験の成績　８０％
実技試験とレポート　２０％

●オフィスアワー

加藤：火曜日～木曜日　8:30～17:30（研究室）
浜崎：月曜日～金曜日（火曜は除く）8:30～17:00（研究室）

●備考

Ａ：加藤
Ｂ：浜崎
Ｃ：加藤・浜崎

生活支援技術Ｄ（住環境を含む）

担当者：　古川　浜崎

●科目の概要

尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学ぶ。生活支援技術Ｄでは、住環境整備の必要性を理解し、超高齢社会における居住環境ニーズ・施策の理解、建築分野との連携の重要性について学ぶ。また睡眠の介護、終末期の介護が主な内容となる。効果的な演習となるために、お互いに介護者役、利用者役を担いながら進めることがある。心身の状況に応じた介護が実践できるために、生活支援技術（住）及び介護技術の基礎で学んだことを深める機会ともなる。

●授業計画

1	生活空間と寸法の関係の理解（介護実習記録を事例として）	A
2	生活空間と寸法の関係の理解（学内寸法測定・改修演習）	A
3	超高齢社会における居住環境ニーズと対応（DVD・事例）	A
4	住宅改修と建築分野との連携（住生活と空間計画の関連性）	A
5	高齢者の居住環境と居住施策	A
6	過疎・高齢地域の高齢者の生活実態（実態調査より）	A
7	高齢者の住み慣れた地域での居住の継続	A
8	超高齢社会の抱える課題	A
9	睡眠の意義・目的、利用者のアセスメント	B
10	安眠のための介護、ベッドメイキング（復習）	B
11	ベッドメイキング（実技試験）	B
12	利用者の状況に応じた介護、不眠時の対応、他職種協働	B
13	終末期における介護の意義・目的、尊厳の保持について	B
14	終末期における利用者のアセスメント、連携、看取り	B
15	臨終期の介護、グリーフケア、死後のケア	B
16	定期試験	C

●到達目標

1. 住環境整備や建築分野との連携の必要性について理解できる
2. 超高齢社会における居住環境ニーズと居住施策を理解できる
3. 睡眠の介護及び終末期の介護について具体的援助を実践できる

●授業時間以外の学習

・生活支援技術（住）で学んだ内容について復習し不明な点は調べる
・介護技術の基礎で学んだ内容について復習し不明な点は調べる
・実施した演習内容について繰り返し練習を行う

●テキスト・参考書等

高齢者が自立できる住まい作り　児玉桂子他編　彰国社
超高齢社会の福祉住環境　児玉桂子編　中央法規出版
生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ　介護福祉士養成講座編集委員会
　　中央法規出版

●成績評価

古川：定期試験成績50%、提出物50%
浜崎：定期試験成績90%、実技試験10%

●オフィスアワー

古川：月曜日～金曜日（水曜は除く）16:10～17:30（研究室）
浜崎：月曜日～金曜日（火曜は除く）8:30～17:00（研究室）

●備考

A：古川
B：浜崎
C：古川・浜崎

生活支援技術（食・衣含）

担当者：　萩原　恵子

●科目の概要

1．授業の目的
　尊厳の保持の観点からどのような状態であってもその人の人格を尊重し、潜在能力を引きだし、見守る事を含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。

●授業計画

1	食事の意義・調理学と栄養	A
2	調理操作基本・理論と実習	A
3	自立に向けての介護食　おいしく食べることを支える食事	A
4	ひとり暮らしに便利な調理法・災害時の支援食	A
5	治療食・生活習慣病への配慮	A
6	安全で敵確な介護食（食中毒予防）	A
7	口腔支援・水分管理	A
8	認知症 (グループホーム）者への留意点	A
9	ありあわせの食材を用いての調理実習	A
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

●到達目標

適切な生活支援ができる基本的な食事介護の知識・技術を習得する
学習で得た知識・技術を身につける

●授業時間以外の学習

（食）適切で生活支援ができる食事介護の知識・技術を習得する
学習した知識・技能を生かし具体的な食事サービスの提供ができる

●テキスト・参考書等

介護福祉士要請講座編集委員会編集「生活支援技術1」
中央法規出版

●成績評価

（食）レポート（20%）調理実習（40%）筆記試験等（30%）
　受講態度（10%）の総合評価

●オフィスアワー

（食）西館203号室　及び調理室
　　金曜日12：55～16：10

●備考

A（萩原）

生活支援技術 (食・衣含）

担当者：　鶴東　章子

●科目の概要

　尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。

●授業計画

1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11	被服生活の基礎知識 (被服の機能、素材の性能、安全性)	B
12	被服生活の基礎知識 (被服と皮膚の衛生保持、布の吸水性)	B
13	家事の介助の技法 (被服の種類・素材別洗濯方法・しみ抜き)	B
14	裁縫実習 (衣服の補修)	B
15	裁縫実習 (衣服の補修)・高齢者、障害のある人の被服の工夫	B
16		

●到達目標

1. 被服のもつ多様な機能を理解しそれに応じた被服選択ができる
2. 被服の管理に必要な知識・技術を身につける

●授業時間以外の学習

・毎回の講義前に実施する小テストに向けての学習
・実験・実習のレポート作成　・裁縫作品の製作

●テキスト・参考書等

介護福祉士養成講座編集委員会編集「生活支援技術Ⅰ」(中央法規)
村山篤子・鎌田浩子編著　「新版家政学実習」(建帛社)

●成績評価

（衣）小テスト40%、レポート及び作品30%、受講態度30%

●オフィスアワー

（衣）金曜日12：55～16：10　西館107号室

●備考

B（鶴東）

介護過程Ⅲ

担当者：　加藤　小城

●科目の概要

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う。そのために利用者の生活の質の向上に向けて、生活上の課題を把握し、それを解決するのに必要な介護のあり方を個別に考察し計画を立て、実施・評価していく一連の流れを演習を通して理解する。

●授業計画

1	介護過程の全体像（復習）、アセスメントとは（復習）	B
2	情報収集とは、情報収集の方法や留意点（復習）	B
3	情報の解釈・関連づけ・統合化について（復習）	B
4	アセスメントについて（実習Ⅱの事例を用いて整理する）	B
5	アセスメントについて（個人指導）	C
6	アセスメントについて（個人指導）	C
7	課題の明確化とは	B
8	明確にした課題について（個人指導）	C
9	明確にした課題について（個人指導）	C
10	計画の立案について（個別援助計画とは）	B
11	計画の立案について（目標の設定など）	B
12	計画の立案について（支援内容・方法の決定など）	B
13	計画の立案について（個人指導）	C
14	計画の立案について（個人指導）	C
15	実習Ⅲでの事例を基に介護過程の展開について振り返り	A
16		

●到達目標

1. 介護サービス計画と個別援助計画の関係を理解し、説明できる
2. 介護計画を立案する目的と手順を理解することができる
3. 利用者の力を活用した介護計画を立案することができる

●授業時間以外の学習

事前学習：テキストによる予習
事後学習：テキスト及び、配布資料による復習

●テキスト・参考書等

介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護過程」（中央法規出版）
最新介護福祉全書「介護過程」石野育子著（メヂカルフレンド社）

●成績評価

定期試験の成績（100%）　※筆記試験は60分で実施

●オフィスアワー

加藤：火曜日～木曜日　8：30～17：30（研究室）
小城：火曜日～木曜日　8：30～17：30（研究室）

●備考

（担当）A：加藤　　B：小城　　C：加藤・小城

介護総合演習Ⅲ

担当者：　加藤　浜崎　小城　松園

●科目の概要

介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会など、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。

●授業計画

1	講義内容説明、プロセスレコード①（目的・内容・分析）	B
2	プロセスレコード②（個人指導）	E
3	プロセスレコード③（個人指導）	E
4	施設における介護の理解と実習の心得・進め方について	C
5	介護実習Ⅲの目標・方法について、実習前検査の説明	C
6	実習先の概要、実習の心得と進め方について（老健）	D
7	実習先の概要、実習の心得と進め方について（小規・通所）	D
8	福祉用具について（福祉機器展示相談センターへ見学）	E
9	福祉用具について（福祉機器展示相談センターへ見学）	E
10	介護実習Ⅲの目標・方法の確認、受け持ち利用者について	B
11	介護実習Ⅲの目標・方法の確認、事前訪問（説明）	B
12	介護実習Ⅲについて（自己の実習計画を立てる）	B
13	実習Ⅲ事前準備（服装チェック、実習反省会の説明等）	C
14	実習反省会	E
15	介護実習Ⅲの振り返り	A
16		

●到達目標

1. 介護実習に向けての予備知識、動機づけ等の準備が行える
2. 実習後の事例報告会にて実習での学びをまとめることができる
3. 実習での個別の学習到達状況に応じた総合的な学習ができる

●授業時間以外の学習

事前学習：テキストによる予習
事後学習：テキスト及び、配布資料による復習

●テキスト・参考書等

介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護総合演習・介護実習」（中央法規出版）
介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護過程」（中央法規出版）
介護福祉士選書　18　介護福祉実習指導（建帛社）

●成績評価

加藤・浜崎・小城：介護過程の展開 – 計画の立案まで（80%）
松園：講義内容に関連したレポート提出（20%）

●オフィスアワー

加藤・小城：火曜日～木曜日　8:30～17:30（研究室）
浜崎：月曜日～金曜日（火曜を除く）8:30～17:00（研究室）

●備考

A：加藤　B：浜崎　C：小城　D：松園
E：加藤・浜崎・小城

事例研究（ゼミナール）

担当者：　谷川・古川・加藤・浜崎・宮里

●科目の概要

介護福祉士の実践をより科学的に高めることを目的とし、事例研究を行う。
１～４回までは全体的内容の講義を行い、５回目以降は決められたゼミの担当教員の下で取り組み、中間報告を経て事例研究をまとめる。

●授業計画

1	事例研究に取り組む意義・目的・方法について	A
2	事例研究のテーマについて説明、テーマの希望調査	C
3	テーマの希望調査結果について、研究計画書作成について	A
4	研究計画書作成について、論文の書き方について	B
5	事例研究（先行研究の検索方法について）	C
6	事例研究（先行研究の読み合わせ）	C
7	事例研究（先行研究のまとめと研究テーマの設定）	C
8	事例研究（研究テーマの設定と研究デザインの作成）	C
9	事例研究（研究デザインの作成）	C
10	事例研究（中間報告）	C
11	事例研究（事例の概要のまとめ）	C
12	事例研究（介護の展開・結果のまとめ）	C
13	事例研究（介護の展開・結果のまとめと考察）	C
14	事例研究（考察）	C
15	事例研究（総括）	C
16		

●到達目標

1. 事例研究の目的について理解できる
2. 事例研究の書き方を理解し、研究テーマを設定できる
3. 事例研究をまとめることができる

●授業時間以外の学習

テキストによる予習・復習
論文検索を含む情報収集、資料の収集

●テキスト・参考書等

和田要・大島美登子・江原勝幸、「ケーススタディをはじめよう！介護事例研究の手引き」、日総研

●成績評価

事例研究のまとめおよび発表（100点）

●オフィスアワー

谷川：第1・第3水曜（14:40～17:55）古川：月～金（16:10～17:00）加藤：火～木（13～17:00）宮里：金曜（10:35～12:05）浜崎：月～金（8:30～17:00）

●備考

A：浜崎
B：加藤
C：谷川、古川、加藤、浜崎、宮里

介護実習Ⅲ

担当者：　加藤　浜崎　小城

●科目の概要

個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。介護実習Ⅲでは、鹿児島県内の入所系施設（介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者支援施設のいずれか）にて実習し、２週間をかけて学ぶ。

●授業計画

介護実習Ⅱの①～③
④利用者に関する情報を収集し、情報の解釈・関連づけ・統合化及び課題を明確化し、具体的な介護計画を立てる。
・受け持ち利用者を決めてもらい、利用者個人の情報を収集する。
・受け持ち利用者の情報を解釈・関連づけ・統合化し、利用者にとって何が課題かを見出す。
・見出された課題を基に、指導者の助言を得ながら目標・具体的計画を立てる。
⑤施設にある住設備機器や福祉用具の名称と使用方法について、「住設備機器や福祉用具について」に記入する。

●到達目標

1. 一連の介護過程の展開を行うことができる
2. 各種の住福祉機器や用具を知り、その使用方法を理解できる

●授業時間以外の学習

・施設及び介護が必要となる人の理解に関連する科目を復習する
・特に「介護過程Ⅲ」で学んだことで不明な点を調べる
・生活支援技術やコミュニケーションの苦手な点を自己練習する

●テキスト・参考書等

介護総合演習・実習　介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規

●成績評価

実習施設の評価、巡回指導の結果で総合的に評価する　100%

●オフィスアワー

加藤・小城：火曜～木曜　8:30～17:30（研究室）
浜崎：月曜～金曜（火曜を除く）　8:30～17:00（研究室）

●備考

COC 関連科目

認知症者の介護

担当者：　永峯　登美子

●科目の概要

認知症のある人がその人なりの力を発揮して、その人らしさを配慮したケアを提供するために、家族を含めた地域サポートの取り組みを学び、安定して安心できる快適な生活が維持できる介護支援を習得する

●授業計画

1　認知症者の現状の理解
2　認知症の原因は何か
3　認知症の原因疾患の検査と診断
4　認知症者の介護の目的と原則
5　認知症の進行に応じた介護
6　生活背景を探る（身体的状態・心理、社会的状態）
7　援助を要するニーズから援助の側面を探る
8　生活環境への援助
9　関係障害へのコミュニケーション技術
10　生活行動への援助
11　介護のプロフェッサーとは（徘徊について）　DVD
12　事例Ⅰ異食　　事例Ⅲ入浴拒否
13　若年性認知症の「介護と支援
14　家族支援とケアシステムの活用
15　権利擁護のサービス（利用者本位に基づく制度と施策）
16　定期試験

●到達目標

1. 認知症の理解を深め、介護の基本を身につけることができる
2. 家族支援と地域サポートについて考えることができる

●授業時間以外の学習

視聴　明日の記憶　DVD

●テキスト・参考書等

1. 新介護福祉養成講座８生活支援技術Ⅲ
2. 新介護福祉養成講座１２認知症の理解
3. 新しい認知ケア（講談社）三好春樹

●成績評価

筆記試験（４５分・８０％）発表態度（１０％）
レポート（１０％）

●オフィスアワー

火曜日

●備考

障害の理解Ⅱ

担当者：　堀田　哲一郎

●科目の概要

当事者の思いや生活実態を踏まえながら、障害の概念を学ぶ。障害者福祉の基本理念となるノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンについて学ぶ。身体的、知的、精神的な面に障害のある人について医学的理解、心理的理解、生活の理解、介護上の留意点を学ぶ。

●授業計画

1　重症心身障害のある人の生活
2　内部障害のある人の生活　心臓機能障害・腎機能障害
3　内部障害のある人の生活　呼吸器機能障害
4　内部障害のある人の生活　膀胱・直腸機能障害
5　内部障害のある人の生活　HIV 免疫機能・肝臓機能障害
6　難病のある人の生活　定義・特徴・進行段階期における支援
7　難病のある人の生活　心理的状況・医療との連携他
8　障害のある人に対する介護の基本的視点
9　基本的視点に基づいた個別支援
10　社会資源の利用と開発
11　家族への支援とは何か
12　家族の状態の把握と介護負担の軽減
13　保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携
14　地域におけるサポート体制
15　総括
16　定期試験

●到達目標

1. 障害のある人について医学的理解等をしている
2. 障害のある人にとってのサポート環境等について理解している

●授業時間以外の学習

・障害者問題に関連したメディア学習に努める。

●テキスト・参考書等

福祉士養成講座編集委員会編集『障害の理解』『生活支援技術Ⅲ』中央法規

●成績評価

定期試験（100点）　※60分で実施

●オフィスアワー

授業日の授業時間前後10分間
講義室

●備考

喀痰吸引

担当者：　浜崎　眞美

●科目の概要

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。この科目では医療的ケアの中でも喀痰吸引を中心とし、呼吸器の理解や喀痰吸引のしくみ、必要な援助方法、報告・記録の必要性等を説明できることを目指す。「医療的ケア」で学んだ内容と関連させながら進める部分があるため、自身の習得状況を再確認できる機会となる。医療的ケアに関する科目は、「医療的ケア」「経管栄養」「喀痰吸引」を履修し単位を修得することで「経管栄養演習」及び「喀痰吸引演習」を履修することになる。

●授業計画

1 呼吸のしくみとはたらき
2 いつもと違う呼吸状態とは
3 喀痰吸引とは、人工呼吸器と吸引
4 人工呼吸器と吸引
5 子供の吸引について、吸引を受けることの説明と同意
6 呼吸器系の感染と予防（吸引との関連）
7 実施に伴う危険・安全確認、事故発生時の対応対策（症状）
8 事故発生時の対応対策（対応）、連携体制の確認
9 用いる器具器材としくみ、清潔の保持
10 必要物品の準備・設備と留意点
11 実施前の利用者の状態観察、利用者の準備・留意点
12 実施手順と留意点、実施に伴う身体変化の確認と報告
13 実施後の吸引物の確認と報告、片付け方法と留意点
14 喀痰吸引に伴うケア
15 報告及び記録
16 定期試験

●到達目標

1. 呼吸器のしくみ、呼吸苦がもたらす障害について説明ができる
2. 喀痰吸引のしくみ、安全な実施に関する説明ができる
3. 説明と同意の必要性、報告・記録の重要性について説明ができる

●授業時間以外の学習

・各回の内容について、次回までの間に復習し不明な点を調べること
・授業中に実施する小テスト内容は分かるまで調べること

●テキスト・参考書等

1. 医療的ケア　新介護福祉士養成講座　中央法規
2. 医療的ケア　メヂカルフレンド社
3. 介護職員のための今すぐ知りたい医療行為実技ガイド
　ひかりのくに

●成績評価

定期試験の成績　８０％
小テストの成績　２０％

●オフィスアワー

月曜～金曜（火曜を除く）８：３０～１７：００（研究室）

●備考

経管栄養演習

担当者：　浜崎　眞美

●科目の概要

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。この科目では医療的ケアの中でも経管栄養を中心とし、シュミレーターを用いて効果的な演習を繰り返すことで、一連の過程を一人で実施できるようになることを目指す。また、救急蘇生法も一人で実施できることを目指す。「医療的ケア」「経管栄養」で学んだ内容と関連させながら進める部分があるため、自身の習得状況を再確認できる機会となる。演習は各行為最低５回の実施を、評価表に基づき行うこととし、手順どおりに実施できて合格とする。合格するまで繰り返し行う。

●授業計画

1 胃ろう・腸ろうにおける経管栄養（１回目）
2 胃ろう・腸ろうにおける経管栄養（２回目）
3 胃ろう・腸ろうにおける経管栄養（３回目）
4 胃ろう・腸ろうにおける経管栄養（４回目）
5 胃ろう・腸ろうにおける経管栄養（５回目）
6 胃ろう・腸ろうにおける経管栄養（６回目）
7 経鼻からの経管栄養（１回目）
8 経鼻からの経管栄養（２回目）
9 経鼻からの経管栄養（３回目）
10 経鼻からの経管栄養（４回目）
11 経鼻からの経管栄養（５回目）
12 経鼻からの経管栄養（６回目）
13 救急蘇生法（１回目）
14 救急蘇生法（２回目）
15 救急蘇生法（３回目）
16 定期試験

●到達目標

1. 胃ろう・腸ろうにおける経管栄養を一人で実施できる
2. 経鼻における経管栄養を一人で実施できる
3. 救急蘇生法を一人で実施できる

●授業時間以外の学習

・評価表に基づいて手順どおりに実施できるように復習を行うこと
・「医療的ケア」「経管栄養」で学んだ内容を予習しておくこと

●テキスト・参考書等

1. 医療的ケア　新介護福祉士養成講座（中央法規出版）
2. 医療的ケア　メヂカルフレンド社
3. 介護職員のための今すぐ知りたい医療行為実技ガイド
　ひかりのくに

●成績評価

実技試験の成績　７０％（評価表に基づいて実施する）
毎回の演習にて実施する実技の成績　３０％

●オフィスアワー

月曜～金曜（火曜を除く）８：３０～１７：００　研究室

●備考

レクリエーションワーク

担当者：　中村　礼香

●科目の概要

介護の現場に於いて、心豊かな自己表現のできる介護福祉士としての音楽の基本的な実践力を身につけていく。

●授業計画

1　高齢者と音楽について
2　歌唱活動Ⅰ（明治時代のうた）
3　歌唱活動Ⅱ（大正時代のうた）
4　歌唱活動Ⅲ（昭和時代のうた）
5　簡易楽器奏法
6　器楽・ハンドベル合奏
7　郷土のわらべうた、民謡
8　手話を使った歌唱活動
9　身体表現活動
10　総括とレポート発表
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 高齢者によって歌われる曲を歌えるようになる
2. 介護現場で簡単な音楽活動を指導できるようになる

●授業時間以外の学習

・高齢者にどのような曲が好まれるか調べる

●テキスト・参考書等

・思い出の愛唱歌ー唱歌・軍歌・流行歌ー　野ばら社
・童謡唱歌集　野ばら社
参考書：歌って元気、心とからだ　NPO 高齢者の音楽を考える会

●成績評価

レポート50%　受講態度50%

●オフィスアワー

水曜日　13：00～16：00（中村研究室）

●備考

レクリエーションワーク

担当者：　小松　恵理子

●科目の概要

音を伴う運動教材の習得を通して、動くことの喜びを味わうことやコミニュケーションの円滑化を図る手立てを学ぶ。また、上演系の教材作成・練習を通じて、表現力を養うことを目的とする。

●授業計画

1　レクレーショナルダンスの習得と創作①
2　レクレーショナルダンスの習得と創作②
3　高齢者向け体操の習得と創作①
4　高齢者向け体操の習得と創作②
5　車椅子ダンスの習得
6　ふうせんバレーボールの習得
7　レクリエーション教材の製作と演技技術の習得①
8　レクリエーション教材の製作と演技技術の習得②
9　レクリエーション教材の製作と演技技術の習得③
10　選択した教材（パネル・エプロン・ペープ等）による発表
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 運動教材を習得し動く喜びを知る
2. 習得した運動教材を通じて円滑な人間関係を築くことができる
3. 上演系の教材作成・練習を通じて、表現力を身につける

●授業時間以外の学習

・シラバスを読み、授業の見通しをたてておくこと
・授業で出される課題に個人やグループで取り組み、授業以前に十分準備しておく

●テキスト・参考書等

・荒川ころばん体操（DVD）
・荒川セラバン体操（DVD）
・科目担当者作成資料

●成績評価

各課題の評価（９０％）と受講態度（１０％）で評価する

●オフィスアワー

月曜日午後　研究室

●備考

なし

レクリエーションワーク

担当者：　井上　松下

●科目の概要

介護福祉士として、利用者の方の豊かな表現を引き出し、楽しく活動するための基本的な技術を様々な制作活動を通して身につけていく。

●授業計画

1　感触あそびについて
2　紙粘土の造形活動について
3　紙粘土制作
4　折り紙の造形活動について
5　切り紙制作
6　水彩画　（構図・形を捉える・着彩）
7　紙を用いたカード制作①（紙の特性・加工法）
8　紙を用いたカード制作②（仕上げ・総括）
9　多様な表現手段・素材の体験　技法遊び①
10　多様な表現手段・素材の体験　技法遊び②
11
12
13
14
15
16

●到達目標

描いたり、作ったりする活動を通して、基本的な技能を習得し表現の喜びを味わう

●授業時間以外の学習

特になし

●テキスト・参考書等

（美術）参考文献：基礎・基本をおさえた絵の指導　東山明監修　明治図書

●成績評価

受講態度（３０％）
作品評価（７０％）

●オフィスアワー

金曜日　１４：４０～１６：１０（研究室）

●備考

下記の授業計画による
１～５　⇒（井上）　５～１０　⇒（松下）

介護事務総論

担当者：　非常勤講師（　　）

●科目の概要

介護報酬請求を行なう上で必要な介護事務全体の流れと関係法規の理解。医療保険（診療報酬請求）との密接なつながりについて理解する。

●授業計画

1　介護保険制度の概要
2　介護保険法の理解
3　介護保険施行規則の内 容について (在宅)
4　介護保険施行規則の内 容について (入所)
5　介護保険施行規則の内 容についてまとめ
6　医療保険制度の概要
7　医療保険制度の概要のまとめ
8　診療報酬請求と介護
9　診療報酬請求と介護報酬のつながりについて
10　診療報酬請求と介護報酬のつながりについてまとめ
11　診療報酬請求と介護報酬の請求について
12　診療報酬請求と介護報酬請求のつながりについて
13　介護報酬請求の流れ
14　介護報酬請求の流れについてまとめ
15　教科の総括
16　定期試験

●到達目標

1. 介護報酬請求と介護事務全体の流れと関係法規が理解できる
2. 介護報酬請求と医療保険とのなつながりが理解できる

●授業時間以外の学習

●テキスト・参考書等

●成績評価

●オフィスアワー

●備考

人間関係とコミュニケーション

担当者：園田　美保

●科目の概要

主には社会心理学や発達心理学などでの知見をもとに、対人関係を様々な視点から見ていく。その中には、親子やきょうだい、仲間関係といった関係性から見る視点や、関係づくりの中で働く心理的作用という視点、コミュニケーションをスキルでとらえる視点などを含め、今後の対人関係に役立つ内容を学習する。

●授業計画

1 ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ（形式、計画、人間関係の心理学）
2 人間関係の始まり（親子関係、愛着派影響）
3 きょうだいや仲間 (性格の違い親の対応 仲間関係の発展)
4 対人認知（他者のﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨ認知，認知の歪み，偏見）
5 印象形成（情報間の影響、印象形成の原理、自己呈示）
6 対人魅力（好意を高める条件）
7 非言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（非言語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ、社会的知能）
8 社会的ｽｷﾙ（人間関係のｽｷﾙ，社会的ｽｷﾙの訓練法）
9 主張性（問題解決のためのアサーション）
10 友情と愛情 (友人関係の意義と成立要因，恋愛関係の類型化)
11 社会的自己 (自己概念 , 自己の形成過程 , 自己評価 , 自己開示）
12 共感性（思いやり , 共感の発達 , 共感的理解 , 共感的な接し方）
13 ｽﾄﾚｽと人間関係（緩和要因,ｽﾄﾚｽとつきあう方法）
14 主観的幸福感 (幸せ感との関連要因、心理的 well-being）
15 総括・振り返り
16

●到達目標

1. 他者と関わり生きている自分、自分と関わる他者・社会について主に心理学の視点から理解する
2. 日常生活での自身の行動や、これからの行動を見直す

●授業時間以外の学習

・各回のキーワードを５語程ピックアップし説明できる程度に理解
・自分の得意と苦手な分野をキーワードを使用し説明
・今後の対人関係に役立てられる方法を考える

●テキスト・参考書等

特定のテキストは使用しない。随時資料配布する。(参考書一部例)
『大学生のためのｿｰｼｬﾙｽｷﾙ』橋本剛 2008 ｻｲｴﾝｽ社『ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ人間関係の心理学』藤本忠明・東正訓（編）ﾅｶﾆｼﾔ出版 2004『人間関係づくりﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ』星野欣生　金子書房　2003

●成績評価

小レポート及び受講態度 (70%)
最終レポート (30%)

●オフィスアワー

水曜　16：30～17：30　研究室
（その他、金曜以外で事前調整した日時にも対応します）

●備考

介護の基本Ⅳ

担当者：加藤　玲子

●科目の概要

「尊厳の保持」「自立支援」を生活の視点から捉え、高齢者や障がい者の人権についての理解を深め、心身の状況に応じた自立支援を学ぶ。

●授業計画

1 視覚障がい者の介護（歩行、白状）
2 視覚障がい者の介護（コミュニケーション、点字）
3 視覚障がい者の介護（食事介助）
4 聴覚障がい者の介護
5 身体障がい者の自立支援（介護）
6 身体障がい者の自立支援（生きがい）
7 身体障がい者の自立支援（活動）
8 認知症者の理解（身体状況）
9 認知症者の理解（心身の状況に応じたアクテビィティ）
10 認知症者の理解（ドールセラピー）
11 認知症者の理解 (音楽療法）
12 自立支援（園芸療法）
13 尊厳を支える介護（身体拘束）
14 尊厳を支える介護（虐待）
15 自立支援のまとめ
16 定期試験

●到達目標

1. 高齢者や障害者の人権について理解できる
2. 心身の状況に応じた自立支援ができる

●授業時間以外の学習

・授業の予習（テキストを読む）
・授業の復習（プリント、資料などを読み直す）

●テキスト・参考書等

介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護の基本Ⅰ」
介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護の基本Ⅱ」(中央法規)
介護福祉用語辞典

●成績評価

定期試験 (６０分で実施)（８０％）レポート（２０％）

●オフィスアワー

火曜日～木曜日　午後　（研究室）

●備考

他学科開放科目

介護過程Ⅳ

担当者：　加藤　小城

●科目の概要

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養うために、実習での経験をふまえて、専門職として実践的な「介護過程の展開」とは何かを理解し、必要なスキルを身につける。また、他職種との連携における介護福祉士の役割を自覚する。

●授業計画

1	介護過程の展開（計画の立案まで）について（復習）	B
2	介護過程の展開：実施について	B
3	実習Ⅳ事前準備（受け持ち利用者を決める）	B
4	介護過程の展開：評価について	B
5	介護過程の展開及び受け持ち利用者について（個人指導）	C
6	介護過程の展開（個人指導）	C
7	介護過程の展開（個人指導）	C
8	介護過程の展開（個人指導）	C
9	介護実習Ⅳでの実践内容を報告書にまとめる	B
10	介護実習Ⅳの報告書を相互に発表し、評価していく（ＧＷ）	B
11	介護過程とケアマネジメントの関係性	A
12	介護過程とケアマネジメントの関係性	A
13	チームアプローチにおける介護福祉士の役割：カンファ	A
14	チームアプローチにおける介護福祉士の役割：サービス担当	A
15	チームアプローチにおける介護福祉士の役割：演習	A
16		

●到達目標

1. 計画した介護を利用者の状況に応じて適切に実施できる
2. 介護過程において評価とは何か理解し、評価することができる
3. 生活支援において多職種との連携の必要性を理解できる

●授業時間以外の学習

・事前学習：テキストによる予習
・事後学習：テキスト及び、配布資料による復習

●テキスト・参考書等

介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護過程」（中央法規出版）
最新介護福祉全書「介護過程」石野育子著（メヂカルフレンド社）

●成績評価

定期試験の成績（100%）※筆記試験は60分で実施

●オフィスアワー

加藤：火曜日～木曜日　8：30～17：30（研究室）
小城：火曜日～木曜日　8：30～17：30（研究室）

●備考

（担当）A：加藤　B：小城　C：加藤・小城

ケアマネジメント

担当者：　谷川　知士

●科目の概要

日常生活において、何らかの生活困難に陥っている利用者（個人やその家族）は、複数の福祉的ニーズを抱えている場合が多い。加齢に伴う認知症や疾病およびその後の後遺症、また身体障害、知的障害、精神障害などにより、色々な不自由さを強いられ、経済的にも不利益を被ることが考えられる。

こうした複合的なニーズを抱えた方々に対し、そのニーズを包括的に把握して、公的な社会福祉サービスや地域の社会資源を利用者のニーズに合わせて、的確に結びつけられるように学習を進める。

●授業計画

1 ケアマネジメントの意義と必要性について学ぶ
2 ケアマネジメントの機能と体制について学ぶ
3 介護支援専門員の役割について学ぶ
4 ケアプランの意義と目的について学ぶ
5 施設サービス計画の構成及び作成の手順について学ぶ
6 施設サービス計画の目標の設定について学ぶ
7 施設サービス計画の総合的な援助方針の作成について学ぶ
8 居宅サービス計画の構成及び作成の手順について学ぶ
9 居宅サービス計画の目標の設定について学ぶ
10 居宅サービス計画の総合的な援助方針の作成について学ぶ
11 生活全般の解決すべき課題の設定について学ぶ
12 具体的な援助内容の作成について学ぶ
13 サービス担当者会議の開催の意義とその方法について学ぶ
14 関係機関との連携と必要性について学ぶ
15 ケアプランのプレゼンテーションについて学ぶ
16

●到達目標

1. ケアマネジメントの意義と実践に関する基礎知識を身につける
2. 施設サービス計画書の意義を理解し、作成方法を身につける
3. 在宅サービス計画書の意義を理解し、作成方法を身につける

●授業時間以外の学習

・身近な家族等でケアプランを作成されたことがあるか尋ねる
・包括支援センターの役割や目的について調べてみる。

●テキスト・参考書等

参考図書等：厚生労働省のホームページより、介護サービス計画書作成等についての通知文
改訂 初めて学ぶケアマネジメント　熊本守康 著
中央法規出版

●成績評価

受講態度と提出物等（30%）筆記試験（70%）

●オフィスアワー

第１・第３水曜日　14：40～17：55（谷川研究室）

●備考

介護総合演習Ⅳ

担当者：　加藤　浜崎　小城　福留　星隈

●科目の概要

介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。

●授業計画

1	介護実習Ⅳに向けて自己課題を明確にする、評価個人指導	F
2	介護実習Ⅳについて、実習事前検査説明、事前訪問（説明）	C
3	施設における介護の理解と実習の心得・進め方について	D
4	〃　（身体障碍者施設・重症心身障碍児施設）	D
5	多職種協働について	E
6	家族との連携について	E
7	実習Ⅳについて（夜勤のことや会議等への参加について）	C
8	救急蘇生法（講義・演習）	F
9	救急蘇生法（講義・演習）	F
10	実習Ⅳ事前準備（服装チェック、実習反省会の説明等）	C
11	介護実習Ⅳについて（自己の実習計画を立てる）	B
12	実習反省会	F
13	介護実習Ⅳにおいて情報交換	A
14	介護福祉士の役割について明確にする（ＧＷ）	C
15	専門職能団体の理解、介護福祉士登録証登録のための説明	C
16		

●到達目標

1. 介護実習に向けての予備知識、動機づけ等の準備が行える
2. 実習後の事例報告会にて実習での学びをまとめることができる
3. 実習での個別の学習到達状況に応じた総合的な学習ができる

●授業時間以外の学習

事前学習：テキストによる予習
事後学習：テキスト及び、配布資料による復習

●テキスト・参考書等

介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護総合演習・介護実習」（中央法規出版）
介護福祉士養成講座編集委員会編集「介護過程」（中央法規出版）
介護福祉士選書　18　介護福祉実習指導（建帛社）

●成績評価

加藤・浜崎・小城：介護過程の展開 - 実施評価考察まで（80%）
福留・星隈：講義内容に関連したレポート提出（20%）

●オフィスアワー

加藤・小城：火曜日～木曜日　8：30～17：30（研究室）
浜崎：月曜日～金曜日（火曜は除く）8：30～17：00（研究室）

●備考

A：加藤　B：浜崎　C：小城　D：福留　E：星隈
F：加藤・浜崎・小城

介護実習Ⅳ

担当者：　加藤・浜崎・小城

●科目の概要

個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。介護実習Ⅳでは、鹿児島県内の入所系施設（介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者支援施設のいずれか）にて実習し、３週間をかけて学ぶ。

●授業計画

介護実習Ⅱの①～③
④利用者に関する情報を収集し、情報の解釈・関連づけ・統合化及び課題を明確化し、具体的介護計画を立て、実施、評価する。
・受け持ち利用者を決めてもらい、利用者個人の情報を収集する。
・受け持ち利用者の情報を解釈・関連づけ・統合化し、利用者にとって何が課題かを見出す。　・見出された課題を基に、指導者の助言を得ながら目標・具体的計画を立てる。　・安全・安楽に十分留意しながら、立てられた具体的計画を実際行ってみる。　・実施したことに対する利用者の変化や反応を観察し、どのような効果があったか、工夫すべき点は何か、今後どのように活かしていけばよいかを評価・考察する。
⑤利用者の夜間と日中の状態変化について、施設内の記録や申し送りの情報を取り理解する。
⑥施設内で行われる職員会議やケースカンファレンス等、施設運営プログラムに参加する。

●到達目標

1. 一連の介護過程の展開を継続的に実践することができる
2. チームの一員としての役割を自覚し、総合的判断力を身につける

●授業時間以外の学習

・施設及び介護が必要となる人の理解に関連する科目を復習する
・特に「介護過程Ⅳ」で学んだことで不明な点を調べる
・生活支援技術やコミュニケーションの苦手な点を自己練習する

●テキスト・参考書等

介護総合演習・実習　介護福祉士養成講座編集委員会
（中央法規出版）

●成績評価

実習施設の評価、巡回指導の結果で総合的に評価する　100%

●オフィスアワー

加藤・小城：火曜日～木曜日　8:30～17:30（研究室）
浜崎：月曜日～金曜日（火曜を除く）8:30～17:00（研究室）

●備考

COC 関連科目

こころとからだのしくみⅡ（精神）

担当者：　宮里　新之介

●科目の概要

本科目では、介護技術の根拠となる利用者の精神機能について学び、老化に伴う身体の変化と精神機能及び心理状態の関連についての理解を深めます。

心身の両面から被介護者の状態を読み取り、その状態がどのような原因から引き起こされているのか、いかにして被介護者の残存能力・潜在能力を引き出し、自立を支援するための適切な介護方法が提供できるのかを考える力を養います。

●授業計画

1 オリエンテーション　／　健康とは何か
2 こころのしくみの基礎①　（意欲・動機づけ）
3 こころのしくみの基礎②　（学習・記憶・思考）
4 こころのしくみの基礎③　（感情・適応）
5 人間の欲求について
6 自己概念と尊厳について
7 自己実現といきがいについて
8 移動に関連したこころとからだのしくみ
9 食事に関連したこころとからだのしくみ
10 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ
11 排泄に関連したこころとからだのしくみ
12 睡眠に関連したこころとからだのしくみ
13 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみ
14 高齢者の心理的サポート①　（回想法、心理劇）
15 高齢者の心理的サポート②　（動作法）
16 定期試験

●到達目標

1. 精神・身体機能の変化に伴う心理状態について理解する
2. 被介護者の心身状態の基本的なアセスメントができる
3. 残存能力や意欲を引き出す援助の方向性を考えることができる

●授業時間以外の学習

・授業の始めに、前回の授業の理解度をチェックするためのミニテストを実施しますので、前回の授業の復習を行うこと

●テキスト・参考書等

「こころとからだのしくみ」
　介護福祉士養成講座編集委員会（編集）　中央法規出版

●成績評価

・定期試験（80%）
・講義時のミニテスト（20%）

●オフィスアワー

金曜日　10：35〜12：05　（研究室　本館3階）

●備考

ターミナルケア

担当者：　馬見塚　長倉　楠本

●科目の概要

高齢化社会において加齢を背景とした慢性期疾患、その中でも癌患者の増加が想定される。今までは緩和ケアは医療の現場で癌患者に対して必要とされる知識であった。今後の日本が迎える超高齢者社会においては単に癌だけではなく、高齢者がかかえる治癒困難な慢性呼吸不全、心不全、腎不全、さらにはアルツハイマー型認知症などの末期に対しても介護施設で行われる事が予想される。当科ではこれらの対応すべく介護の現場で役にたつ人材育成を目標にする。

●授業計画

1	緩和医療総論：ターミナルケアの概要。	A
2	死にまつわる文化：医学的な死（死の三兆候）	A
3	介護施設におけるターミナルケア：多職種協働	A
4	死をめぐる倫理的課題：病状告知と自己決定	A
5	ターミナル期の身体的特徴：各症状のメカニズム	A
6	高齢者の身体的変化：加齢的な内臓機能低下	A
7	ターミナル期の全人的苦痛：身体、精神、社会、霊的痛み	A
8	ターミナル期にある家族への配慮：大切な人を失う苦痛	A
9	意思決定を支える援助：治療から緩和ケアのギアチェンジ	A
10	エンゼルケアの実際：死後のケア	A
11	トータルペインについて１）理論と意味	B
12	２）症例を通して学ぶ	B
13	３）演習	B
14	インドにおける死生観と看取り	C
15	日本における死生観と看取り	C
16		

●到達目標

1. 高齢者の身体変化を知る
2. 癌の病態変化を知る
3. 介護の現場に役に立つ緩和ケアの基本的態度を身に着ける

●授業時間以外の学習

施設での臨床実習

●テキスト・参考書等

・緩和・ターミナル看護論（第二版）：ヌーベルヒロカワ
・緩和ケア百科：春秋社
・よく生きよく笑いよき死と出会う　アルフォンス・デーケン
　：新潮社

●成績評価

講義中に触れた内容を元にした、各自が考える施設でのターミナルケアの実践に関してレポートを提出してもらう。

●オフィスアワー

講義終了後

●備考

A：馬見塚　B: 長倉　C: 楠本

喀痰吸引演習

担当者：　浜崎　眞美

●科目の概要

医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。この科目では医療的ケアの中でも喀痰吸引を中心とし、シュミレーターを用いて効果的な演習を繰り返すことで、一連の過程を一人で実施できるようになることを目指す。「医療的ケア」「喀痰吸引」で学んだ内容と関連させながら進める部分があるため、自身の習得状況を再確認できる機会となる。演習は各行為最低５回の実施を、評価表に基づき行うこととし、手順どおりに実施できて合格とする。合格するまで繰り返し行う。

●授業計画

1 口腔内吸引（１回目）
2 口腔内吸引（２回目）
3 口腔内吸引（３回目）
4 口腔内吸引（４回目）
5 口腔内吸引（５回目）
6 鼻腔内吸引（１回目）
7 鼻腔内吸引（２回目）
8 鼻腔内吸引（３回目）
9 鼻腔内吸引（４回目）
10 鼻腔内吸引（５回目）
11 気管カニューレ内部の吸引（１回目）
12 気管カニューレ内部の吸引（２回目）
13 気管カニューレ内部の吸引（３回目）
14 気管カニューレ内部の吸引（４回目）
15 気管カニューレ内部の吸引（５回目）
16 定期試験

●到達目標

1. 口腔内の喀痰吸引を一人で実施できる
2. 鼻腔内の喀痰吸引を一人で実施できる
3. 気管カニューレ内部の喀痰吸引を一人で実施できる

●授業時間以外の学習

・評価表に基づいて手順どおりに実施できるように復習を行うこと
・「医療的ケア」「喀痰吸引」で学んだ内容を予習しておくこと

●テキスト・参考書等

1. 医療的ケア　新介護福祉士養成講座（中央法規出版）
2. 医療的ケア　メヂカルフレンド社
3. 介護職員のための今すぐ知りたい医療行為実技ガイド
　ひかりのくに

●成績評価

実技試験の成績　７０％（評価表に基づいて実施する）
毎回の演習にて実施する実技の成績　３０％

●オフィスアワー

月曜～金曜（火曜を除く）８：３０～１７：００（研究室）

●備考

聴覚障害者の生活支援

担当者：　下田代　修子

●科目の概要

聴覚障害者のコミュニケーションである手話等を学ことにより、言語が人間形成にどのような関わりを持つのかを知る。聴覚障害のある介護利用者に合わせたコミュニケーション手段で、さらに専門的な知識を得て、介護力を充実させる。

●授業計画

1 講義　聴覚障害について　　実技－名前・ものの動き
2 講義　聴力検査について　　実技－挨拶・身振りの表現
3 講義　補聴器について　　実技－家族の表現
4 講義　聴覚障害　　実技－趣味の表現
5 講義　聴覚障害者のコミニュケーショ　実技－趣味の表現
6 講義　福祉用語や福祉制度　用具品目の説明　　実技－仕事
7 講義　聴覚障害者との共存　実技－地域の表現
8 講義　言語障害について　　実技－時刻の表現
9 自己紹介のまとめ　実技発表
10 実技－医療現場用語
11 討論－現場でのサポート　　実技－自己表現の練習
12 講義－重複障害　盲ろう者への介護　　実技－指文字等
13 実技－介護現場で使う会話用語の表現練習
14 介護における移動技術の展開
15 ロールプレイ　サポート支援のあり方について検討後　総括
16

●到達目標

1. 日常会話及び介護に関わる手話を取得させる
2. 聴覚障害の分類に伴う援助の手段を理解させる

●授業時間以外の学習

授業で習った手話を復習し、理解度の確認を各自行う

●テキスト・参考書等

中央法規　８　生活支援技術Ⅲ
中央法規　13　障害の理解
中央法規　１４　こころとからだのしくみ
・講師持参資料

●成績評価

演習レポート（25%）ショートレポート（25%）
技術評価（25%）受講態度（25%）

●オフィスアワー

時間　火曜日１・２時限目8：50～10：20
場所　講義教室

●備考

介護事務演習

担当者：　非常勤講師（　　）

●科目の概要

介護報酬請求の個別の理解，実際の介護給付費点数を用いての計算演習が理解できる。

●授業計画

1 訪問介護、訪問看護
2 訪問リハビリテーション、訪問入浴介護
3 居宅療養管理指導
4 通所介護（デイサービス、デイケア）
5 短期入所生活介護
6 短期入所療養介護
7 福祉用具の貸与
8 福祉用具の購入費の支給
9 住宅改修費の支給
10 認知症対応型共同生活介護
11 特定施設入所 者生活介護
12 介護サービス計画の作成
13 日報作成ほか、電話応対、接客など
14 計算演習のまとめ
15 教科のまとめ
16 テスト

●到達目標

1. 介護報酬請求の個別が理解できる
2. 介護給付費点数を用いて計算ができる

●授業時間以外の学習

●テキスト・参考書等

●成績評価

●オフィスアワー

●備考

平成27年度入学生　カリキュラム・マップ

生活科学科 （生活福祉専攻）DP	①介護に関する専門的な知識と、人と社会を理解するための幅広い教養を身につける。 ②介護職として必要に応じたコミュニケーション能力を身につけ、サービス利用者の個別性に応じた介護サービスを提供できる専門的機能を習得する。 ③サービス利用者の自己決定を尊重し、尊厳の保持・自立支援に関わる介護実践力を身につける。 ④自らの介護実践能力を評価でき、介護職実践のリーダーとして、よりよい介護実践の改善の方向性を示す能力を身につける。 ⑤介護に必要な専門的知識と技術を活用して自らの新たな課題を発見し、解決する能力を身につける。

	科目名	最も関係の深いDP番号	到達目標	DPとの関係				
				①	②	③	④	⑤
専門科目	【人間と社会】							
	人間の尊厳と自立	①	1.　人間の尊厳とは何か、人権宣言等を学び理解する	◎		○		
			2.　介護における尊厳の保持・自立支援の在り方を理解する			○	◎	
			3.　人間の尊厳を支える権利擁護制度を理解する	◎	○			
	人間関係とコミュニケーション	①	1.　他者と関わりながら生きる自分について考える視点を得る	◎	◎			
			2.　自分と関わる他者や社会について考える視点を得る		○	◎		
			3.　日常生活でのコミュニケーション手段を見直す	○	◎	○		
	社会と制度の理解	①	1.　現代社会の変化と生活構造を理解する	◎				○
			2.　介護保険制度と介護福祉士の役割を理解する				○	◎
			3.　介護実践に係わる権利擁護制度を理解する		◎		○	
	社会保障制度	①	1.　社会保障の歴史と理念を理解する	◎				○
			2.　所得保障制度と関連制度を理解する	○	◎			
			3.　医療および障害者支援の制度と支援システムを理解する	○		◎		
	住環境と福祉	⑤	1.　鹿児島県の住宅事情の理解	○				
			2.　鹿児島県の災害とまちづくりへの視点を持つ	○				○
			3.　介護保険と住宅改修が理解できる			○	○	◎
	レクリエーション概論	②	1.　レクインストラクターの理解	◎	○	○		
			2.　基本的手法の理解と獲得	○	◎	○		
			3.　福祉への応用力を身につける	○	○	○		◎
	【介護】							
	介護の基本Ⅰ	③	1.　介護を必要とする人を理解できる	◎	○	○	○	○
			2.　介護のはたらきと基本的視点を理解できる	○	◎	○	○	○
			3.					
	介護の基本Ⅱ	③	1.　介護サービスの特性を理解できる	○	◎	○	○	○
			2.　介護福祉士の役割について理解できる	○	○	◎	○	○
			3.					
	介護の基本Ⅲ	④	1.　介護実践における連携を理解できる	○	○	○	◎	○
			2.　介護におけるリスクマネジメントを理解できる	○	○	○	○	◎
			3.					
	介護の基本Ⅳ	④	1.　高齢者や障害者の人権について理解できる	○	○	○	◎	○
			2.　心身の状況に応じた自立支援ができる	○	○	○	○	◎
			3.					
	社会福祉援助技術	③	1.　相談援助の歴史的展開と意義を理解する	◎			○	
			2.　社会福祉援助技術の原則を理解し、実践できる			◎		○
			3.　個別及び集団援助技術の基本原理を理解し実践できる			◎	○	
	リハビリテーション論	③	1.　身体機能の基本要素や、老化、疾病、障害を理解する	◎		○		○
			2.　障害が生活に及ぼす影響を考察する	◎	○	○		○
			3.　自立支援について考察できる	○		◎		○

平成27年度入学生　カリキュラム・マップ

生活科学科 （生活福祉専攻）DP	①介護に関する専門的な知識と、人と社会を理解するための幅広い教養を身につける。 ②介護職として必要に応じたコミュニケーション能力を身につけ、サービス利用者の個別性に応じた介護サービスを提供できる専門的機能を習得する。 ③サービス利用者の自己決定を尊重し、尊厳の保持・自立支援に関わる介護実践力を身につける。 ④自らの介護実践能力を評価でき、介護職実践のリーダーとして、よりよい介護実践の改善の方向性を示す能力を身につける。 ⑤介護に必要な専門的知識と技術を活用して自らの新たな課題を発見し、解決する能力を身につける。

科目名		最も関係の深いDP番号	到達目標	DPとの関係				
				①	②	③	④	⑤
専門科目	コミュニケーションの基礎	②	1.　コミュニケーションという概念について理解する	◎	○			
			2.　自分のコミュニケーションパターンを認識し分析できる		◎		○	○
			3.　利用者の特性に応じたコミュニケーションを考えることができる		◎	○	○	
	コミュニケーション演習	②	1.　利用者とのコミュニケーションの意義を理解する	○	◎	○		
			2.　介護におけるチームのコミュニケーションの意義を理解する	○	◎		○	
			3.　介護現場での様々なコミュニケーション方法を自ら考えられる		◎	○	○	
	生活支援技術A	③	1.　衣類、寝具の衛生管理と、心身の状況に応じた具体的援助が実践できる力を深める		○	◎		
			2.　自立に向けた移動の介護について、アセスメントを基に具体的援助が実践できるようになる		○	◎		
			3.　自立に向けた食事の介護について、アセスメントを基に具体的援助ができるようになる		○	◎		
	生活支援技術B	③	1.　入浴・清潔保持の介護について具体的援助を実践できる		○	◎		
			2.　身支度の介護について具体的援助を実践できる		○	◎		
			3.　バイタルサインの意味を理解し、正確な測定ができる		○	◎		
	生活支援技術C	③	1.　排泄の介護について具体的援助を実践できる		○	◎		
			2.　移動・移乗の介護について具体的援助を実践できる		○	◎		
			3.					
	生活支援技術D	③	1.　住環境整備や建築分野との連携の必要性について理解できる	○	○	◎		
			2.　超高齢社会における居住環境ニーズと居住施策を理解できる	○	○	◎		
			3.　睡眠の介護及び終末期の介護について具体的援助を実践できる		○	◎		
	萩原　生活支援技術（食）	③	1.　適切な生活支援ができる基本的な食事介護の知識・技術を習得する			◎		
			2.　学習で得た知識・技術を総合し具体的な食事サービス提供の繋げる					
			3.					
	鶴東　生活支援技術（衣）	③	1.　被服のもつ多様な機能を理解し、それに応じた被服選択ができる		○	◎		○
			2.　被服の管理に必要な知識・技術を身につける		○	◎		○
			3.					
	介護過程Ⅰ	①	1.　介護過程とは何か理解することができる	◎		○		
			2.　介護実践において介護過程の必要性を理解することができる	◎		○		
			3.　介護実践において介護過程の必要性を理解することができる	◎		○		
	介護過程Ⅱ	③	1.　介護過程の展開について説明できる	○		◎		
			2.　根拠に基づた介護を提供するための情報を収集できる		◎	○		
			3.　情報を整理し、分析・解釈・統合し、課題を抽出できる		○	◎		
	介護過程Ⅲ	④	1.　介護サービス計画と個別援助計画の関係を理解し、説明できる				○	◎
			2.　介護計画を立案する目的と手順を理解することができる				○	◎
			3.　利用者の力を活用した介護計画を立案することができる				○	◎
	介護過程Ⅳ	⑤	1.　計画した介護を利用者の状況に応じて適切に実施できる				○	◎
			2.　介護過程において評価とは何か理解し、評価することができる				○	◎
			3.　生活支援において多職種との連携の必要性を理解できる				◎	○
	ケアマネジメント	⑤	1.　ケアマネジメントの意義と実践に関する基礎知識を身につける		◎		○	
			2.　施設サービス計画書の意義を理解し、作成方法を身につける			○		◎
			3.　居宅サービス計画書の意義を理解し、作成方法を身につける			○		◎

平成27年度入学生　カリキュラム・マップ

生活科学科 （生活福祉専攻）DP	①介護に関する専門的な知識と、人と社会を理解するための幅広い教養を身につける。 ②介護職として必要に応じたコミュニケーション能力を身につけ、サービス利用者の個別性に応じた介護サービスを提供できる専門的機能を習得する。 ③サービス利用者の自己決定を尊重し、尊厳の保持・自立支援に関わる介護実践力を身につける。 ④自らの介護実践能力を評価でき、介護職実践のリーダーとして、よりよい介護実践の改善の方向性を示す能力を身につける。 ⑤介護に必要な専門的知識と技術を活用して自らの新たな課題を発見し、解決する能力を身につける。

科目名		最も関係の深いDP番号	到達目標	DPとの関係				
				①	②	③	④	⑤
専門科目	介護総合演習Ⅰ・Ⅱ	①	1.　介護実習に向けての予備知識、動機づけ等の準備が行える	◎	○			
			2.　実習後の事例報告会にて実習での学びをまとめることができる				◎	○
			3.　実習での個別の学習到達状況に応じた総合的な学習ができる			○		◎
	介護総合演習Ⅲ	④	1.　介護実習に向けての予備知識、動機づけ等の準備が行える	◎	○			
			2.　実習後の事例報告会にて実習での学びをまとめることができる				◎	○
			3.　実習での個別の学習到達状況に応じた総合的な学習ができる			○		◎
	介護総合演習Ⅳ	⑤	1.　介護実習に向けての予備知識、動機づけ等の準備が行える	◎	○			
			2.　実習後の事例報告会にて実習での学びをまとめることができる				◎	○
			3.　実習での個別の学習到達状況に応じた総合的な学習ができる			○		◎
	事例研究（ゼミナール）	⑤	1.　事例研究の目的について理解する					
			2.　事例研究の書き方、研究テーマの設定方法などを理解する					
			3.					
	介護実習Ⅰ	③	1.　多様な事業所の概要や役割を理解し、利用者の生活を知る		○	◎		
			2.　生活支援技術を用いて介護を行い、利用者特性を把握できる		○	◎		
			3.　個々の生活リズムや個性に応じた生活支援の在り方を知る		○	◎		
	介護実習Ⅱ	③	1.　施設の概要や役割を理解し、利用者の生活・障害像を理解できる		○	◎		
			2.　生活支援技術を用いて介護を行い、個別支援の在り方を知る		○	◎		
			3.　利用者の特性と現状を把握することができる		○	◎		
	介護実習Ⅲ	④	1.　一連の介護過程の展開を行うことができる		○	○	◎	
			2.　各種の住福祉機器や用具を知り、その使用方法を理解できる	○		○	◎	
			3.					
	介護実習Ⅳ	⑤	1.　一連の介護過程の展開を継続的に実践することができる		○	○	○	◎
			2.　チームの一員としての役割を自覚し、総合的判断力を身につける		○	○	○	◎
			3.					
【こころとからだのしくみ】								
	発達と老化の理解	①	1.　発達という概念を理解し、他者に説明できる	◎		○		
			2.　老化による心理・身体機能の変化の基礎的理解をし、説明できる	◎	○	○		
			3.　高齢期の発達を支える援助について考えることができる	○	◎	○	○	
	高齢者の介護	②	1.　老化に伴う身体的変化と、その特徴を理解する	○	◎			
			2.　老化に伴う心理的変化と日常生活への影響を理解する	○	◎			
			3.　高齢者の多い疾病と、介護の留点を習得する	○	◎			
	認知症の理解	②	1.　認知症の人の内的世界について理解を深めることができる	◎	○			○
			2.　認知症の医学的知識や周辺症状についても理解を深めることができる	○	◎		○	○
			3.　認知症の人の介護について理解し，家族支援のあり方を考えることができる	○	○	◎	○	
	認知症者の介護	③	1.　認知症者の尊厳を守り、自立支援ができる。	◎		○		
			2.　個別に応じたアセスメント能力を身につけることができる。	○		◎		
			3.　認知症者の増加に伴う支援社会を考えることができる。	○	◎	○		

平成27年度入学生　カリキュラム・マップ

生活科学科 （生活福祉専攻）DP	①介護に関する専門的な知識と、人と社会を理解するための幅広い教養を身につける。 ②介護職として必要に応じたコミュニケーション能力を身につけ、サービス利用者の個別性に応じた介護サービスを提供できる専門的機能を習得する。 ③サービス利用者の自己決定を尊重し、尊厳の保持・自立支援に関わる介護実践力を身につける。 ④自らの介護実践能力を評価でき、介護職実践のリーダーとして、よりよい介護実践の改善の方向性を示す能力を身につける。 ⑤介護に必要な専門的知識と技術を活用して自らの新たな課題を発見し、解決する能力を身につける。

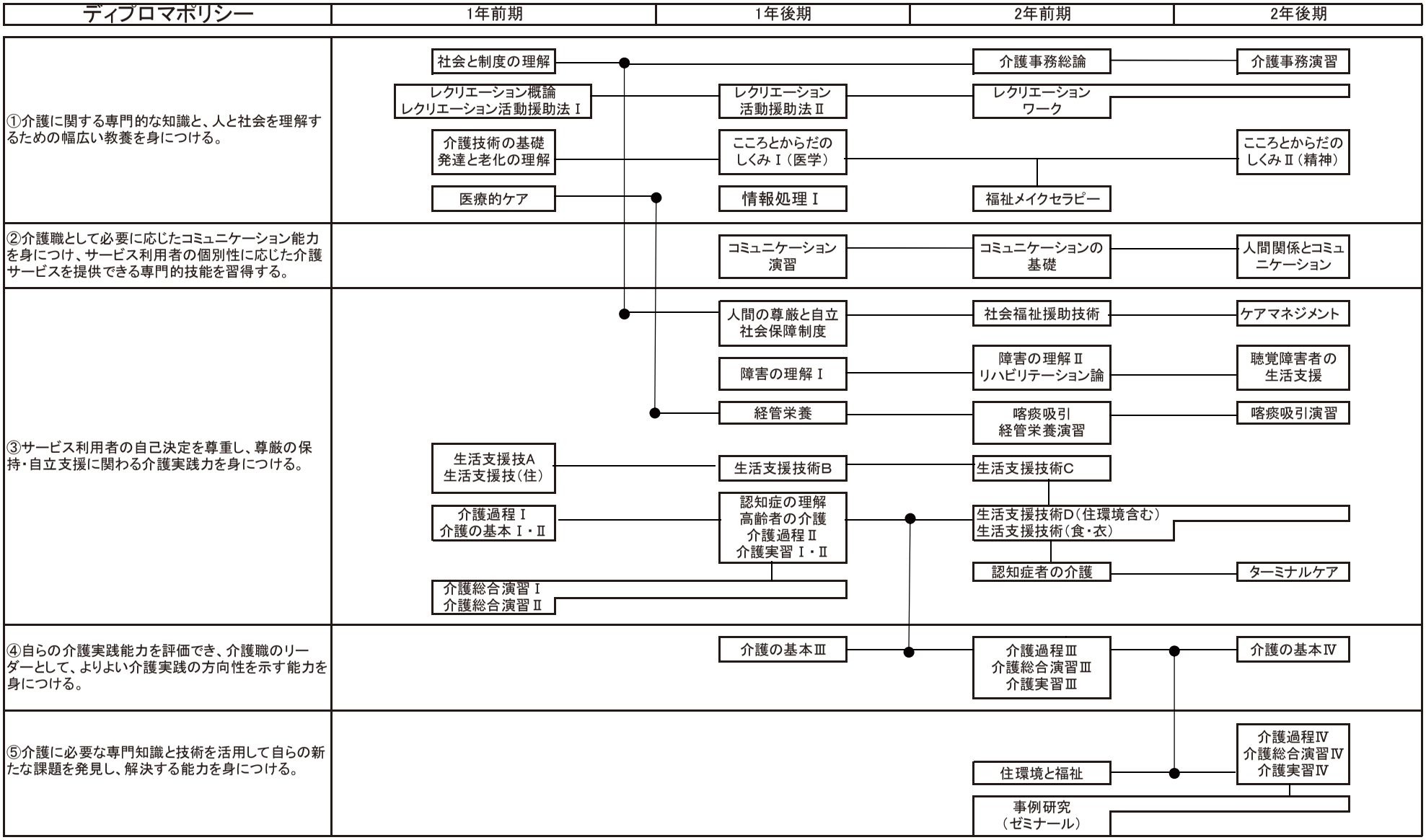
	科目名	最も関係の深いDP番号	到達目標	DPとの関係				
				①	②	③	④	⑤
専門科目	障害の理解Ⅰ	①	1. 障害者福祉の基本理念を理解している。	◎		○		
			2. 障害のある人について医学的理解、心理的理解、生活の理解、介護上の留意点を理解している	◎	○	○		
			3.					
	障害の理解Ⅱ	①	1. 障害のある人について医学的理解、心理的理解、生活の理解、介護上の留意点を理解している	◎	○	○		
			2. 障害のある人にとっての環境を構成する家族との関わり方や、サポート体制の種類について理解している	◎		○	○	
			3.					
	こころとからだのしくみⅠ（医学）	①	1. 基本的なからだの仕組みの理解	◎				
			2. 高齢者のこころとからだの状態の理解	◎	○			
			3. サービス提供上重要な疾患についての知識	◎	○			○
	こころとからだのしくみⅡ（精神）	①	1. 精神・身体機能の変化に伴う心理状態について理解する	◎		○	○	
			2. 被介護者の心身状態の基本的なアセスメントができる	◎		○	○	
			3. 残存能力や意欲を引き出す援助の方向性を考えることができる	○	○	◎	○	
	介護技術の基礎	①	1. 日常生活動作のこころとからだのしくみについて理解できる	◎	○	○		
			2. ターミナルケアについて理解できる	◎	○	○		
			3.					
	ターミナルケア	③	1. 高齢者の身体変化を知る	○		○		◎
			2. 癌の病態変化を知る			○	○	◎
			3. 介護の現場に役に立つ緩和ケアの基本的態度を身に着ける	○	○	◎		○
	【医療的ケア】							
	医療的ケア	③	1. 個人の尊厳、医の倫理、説明の同意の必要性について説明ができる	○		○		
			2. 保健医療に関する制度、チーム医療、医療職と介護職との連携について説明できる		○		○	
			3. 医療的ケアの安全な実施、清潔保持と感染予防、健康状態の把握について説明できる			◎		○
	経管栄養	③	1. 消化器系の役割・機能について説明ができる	○		◎		
			2. 経管栄養のしくみ、注入内容、安全な実施に関する説明ができる		○	◎		
			3. 説明と同意の必要性、報告・記録の重要性について説明ができる		○	◎		
	喀痰吸引	③	1. 呼吸器のしくみ、呼吸苦がもたらす障害について説明ができる	○		◎		
			2. 喀痰吸引のしくみ、安全な実施に関する説明ができる		○	◎		
			3. 説明と同意の必要性、報告・記録の重要性について説明ができる		○	◎		
	経管栄養演習	③	1. 胃ろう・腸ろうにおける経管栄養を一人で実施できる		○	◎		
			2. 経鼻における経管栄養を一人で実施できる		○	◎		
			3. 救急蘇生法を一人で実施できる		○	◎		
	喀痰吸引演習	③	1. 口腔内の喀痰吸引を一人で実施できる		○	◎		
			2. 鼻腔内の喀痰吸引を一人で実施できる		○	◎		
			3. 気管カニューレ内部の喀痰吸引を一人で実施できる		○	◎		
	【関連選択科目】							
	レクリエーション活動援助法Ⅰ	②	1. レクリエーション活動の社会的意義と役割について理解する	◎				
			2. レクリエーション種目の特性と指導法を理解する		◎	○		
			3. スポーツ大会の企画と運営方法について実践的に学ぶ		◎	○	○	

平成27年度入学生　カリキュラム・マップ

生活科学科 （生活福祉専攻）DP	①介護に関する専門的な知識と、人と社会を理解するための幅広い教養を身につける。 ②介護職として必要に応じたコミュニケーション能力を身につけ、サービス利用者の個別性に応じた介護サービスを提供できる専門的機能を習得する。 ③サービス利用者の自己決定を尊重し、尊厳の保持・自立支援に関わる介護実践力を身につける。 ④自らの介護実践能力を評価でき、介護職実践のリーダーとして、よりよい介護実践の改善の方向性を示す能力を身につける。 ⑤介護に必要な専門的知識と技術を活用して自らの新たな課題を発見し、解決する能力を身につける。

科目名		最も関係の深いDP番号	到達目標	DPとの関係				
				①	②	③	④	⑤
専門科目	レクリエーション活動援助法Ⅱ	②	1.　レクリエーション活動の社会的意義と役割について理解する	◎				
			2.　レクリエーション活動援助能力の習得と向上を図る		◎		○	○
			3.　グループ活動を通してコミュニケーション能力を高める		◎		○	○
	小松　レクリエーションワーク	②	1.　・運動教材を習得し動く喜びを知る	○	○			
			2.　・習得した運動教材を通じて円滑な人間関係を築くことができる		◎	○		
			3.　・上演系の教材作成・練習を通じて、表現力を身につける		○		○	○
	井上・松下　レクリエーションワーク	②	1.　利用者にとって造形表現活動の果たす効果について考察する	○				
			2.　制作を通して、五感を通した造形活動の良さを感じ支援の在り方を学ぶ		◎			
			3.					
	中村　レクリエーションワーク	②	1.　高齢者によって歌われる曲を歌えるようになる		◎			
			2.　介護現場で簡単な音楽活動をしどうできるようになる		◎			
			3.					
	聴覚障害者の生活支援	②	1.　日常会話及び介護に関わる手話を取得させる		◎	○		
			2.　聴覚障害の分類に伴う援助の手段を理解させる		◎	○		
			3.　知り得た知識を踏まえ、ケース討議または援助手段の計画をたてられるようになる				○	◎
	情報処理Ⅰ	①	1.　ICTの基本的な技術を習得する	◎				
			2.　インターネットを理解し、活用できるようになる	○	○	○	○	○
			3.　コンピュータを生活の道具として活用できるようになる	○	○		○	○
	介護事務総論	①						
	介護事務演習	①						
	福祉メイクセラピー	①	1.　鹿児島県の住宅事情の理解	○				
			2.　鹿児島県の災害とまちづくりへの視点を持つ	○				○
			3.　介護保険と住宅改修が理解できる			○	○	◎

生活科学科　生活福祉専攻［専門科目］カリキュラムツリー



専　門　科　目

食物栄養学専攻

栄養生化学Ⅰ

担当者：　住澤　知之

●科目の概要

後期に学ぶ、栄養素の代謝や機能を理解するための基礎的な知識として、三大栄養素の化学的な構造や特徴を通し、三大栄養素とはどのような物質であるのかを学ぶ。また、食事を摂取する意味を理解するために、生体内での主たるエネルギー源である ATP の産生にいたる代謝の概要についても学ぶ。特に、代謝をつかさどる酵素とその反応の特徴と調節について、内容を深める。さらに、ATP と遺伝の仕組みの基礎理解のために、ヌクレオチドと核酸についても学ぶ。

●授業計画

1 生化学を学ぶために必要な化学の基礎知識
2 細胞と生体膜
3 アミノ酸１(構造的特徴と分類①)
4 アミノ酸２(分類②と性質)
5 ペプチドとタンパク質、酵素１(酵素とは)
6 酵素２(酵素反応とその特徴及び調節)
7 糖質の化学１(単糖類)
8 糖質の化学２(二糖類と多糖類)
9 脂質の化学１(脂肪酸と単純脂質)
10 脂質の化学２(複合脂質)、生体エネルギー１(ATP など)
11 生体エネルギー２(電子伝達系と酸化的リン酸化)
12 中間代謝の概要１(代謝経路：糖質代謝)
13 中間代謝の概要２(代謝経路：脂質代謝・アミノ酸代謝)
14 ヌクレオチド
15 遺伝子、核酸、染色体
16 定期試験

●到達目標

1. 三大栄養素や核酸について、化学構造や特徴から説明できる
2. 生体内でのエネルギー産生の流れについて説明できる

●授業時間以外の学習

・各回のプリントを見直して理解し、授業開始時に行う栄養士実力認定試験レベルの問題が解けるようにしておく

●テキスト・参考書等

プリントを配布するため、テキストは使用しない
参考書：「ストライヤー　基礎生化学」 東京化学同人
「ヴォ―ト　基礎生化学」第４版　東京化学同人
「生化学がわかる」 田中越郎著　技術評論社

●成績評価

学期末に行う、五択形式や正しいものを選んで記号で答える形式の定期試験（100%）

●オフィスアワー

水曜日　１３：００～１９：３０（研究室：本館５０１）

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

食品学総論

担当者：　村山　恵美子

●科目の概要

わが国においては、現在多国籍、多種類、多形態の食品が豊富に出回り、多様な食品を口にする機会が増えている。それに伴い食品に求められる役割も、栄養性、嗜好性に加えて、生体調節性と多岐にわたっている。本講義では、健康な食生活を営むために必要な食品を正しく選択できるよう、食品成分の特徴を理解し、食品に関する基礎的知識を身に付けることを目的とする。

●授業計画

1 食環境（世界や日本の食料事情を学ぶ）
2 食品成分表（食品成分表の内容構成を学ぶ）
3 食品成分表（成分表の数値の意味を実際の計算で理解する）
4 色素成分（食品本来の色や調理・加工による変色を学ぶ）
5 香気成分（食品特有、加工や微生物によるにおい等を学ぶ）
6 呈味成分（味の成分、種類等について学ぶ）
7 水（食品中の水の性質を理解する）
8 炭水化物（食品中の炭水化物の種類と変化について学ぶ）
9 脂質（食品中の脂質の種類と性質、変化を学ぶ）
10 タンパク質（食品中のタンパク質の種類とその変化を学ぶ）
11 ビタミン（食品に含まれるビタミンの性質と変化を学ぶ）
12 無機質（食品中のミネラルの働きや摂取上の注意を学ぶ）
13 機能性（食品の性質と栄養表示について学ぶ）
14 物性（テクスチャーの意味を理解する）
15 官能検査（食品のおいしさを評価する方法について学ぶ）
16 定期試験

●到達目標

1. 食品成分の特徴を理解する
2. 食品に関する基礎的知識を身に付ける
3. 健康な食生活を営むために必要な食品を正しく選択できる

●授業時間以外の学習

・前もってテキストに目を通す
・不明な点について調べたり、質問する
・色々な食品を実際に見たり、触ったりする

●テキスト・参考書等

テキスト：「イラスト食品学総論」種村康子他、東京教学社
「食品成分表2015」香川芳子監修、女子栄養大学出版部
参考書：「食材図典」小学館

●成績評価

定期試験９０%、小試験１０%

●オフィスアワー

月曜日・火曜日　１６：１５～１８：３０　（研究室）

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

食品学実験

担当者：　村山　恵美子

●科目の概要

実験に必要な基礎知識と基本操作を学び、後に続く各種の実験に興味を持ち、楽しく、安全かつ正確に実習できるように、基本的実験姿勢を身に付け、さらに食品に対する理解を深めることを目的とする。

●授業計画

1 オリエンテーション (実験に必要な基礎知識と準備)
2 水分定量Ｉ（食品中の水分を測定する）
3 水分定量II、ＰＨの測定と緩衝能（試験紙とＰＨメーター）
4 水酸化ナトリウムの標定（ファクターを求める）
5 食酢中の酢酸の定量（食酢に含まれる酢酸%を求める）
6 でんぷんの分離と検鏡（分離でんぷんを顕微鏡で観察する）
7 無機質の定性と炎色反応（化学反応と炎色で性質を知る）
8 糖の定性（化学反応で糖質の特徴を理解する）
9 タンパク質の定性（タンパク質とアミノ酸の特徴を知る）
10 分光光度計の練習実験（検量線の書き方、サンプル量の測定
11 グルタミン酸定量（醤油中の量を測定する）
12 アミロース含量の測定（各種デンプン中の量を測定）
13 酵素の活性（アミラーゼの糖化力を測定する）
14 酵素による褐変、非酵素的褐変（褐変の条件を調べる）
15 総括
16 定期試験

●到達目標

1. 実験に必要な基礎知識を理解する
2. 基本操作を学び、基本的実験姿勢を身につける
3. 食品に対する理解を深める

●授業時間以外の学習

・授業の前に実験書に目を通し、実験内容を理解する
・実験の前にすべき内容を確認し、準備する
・実験後は実験内容をまとめ、レポートとして提出する

●テキスト・参考書等

テキスト：「食品学総論実験ー実験で学ぶ食品学ー」江角彰彦、同文書院
参考書：「新・食品分析法」日本食品科学工学会、光琳

●成績評価

レポート・受講態度６０%、定期試験４０%

●オフィスアワー

月曜日・火曜日　１６：１５～１８：３０　(研究室)

●備考

食品衛生学

担当者：　村山　恵美子

●科目の概要

様々な衛生管理が行われているにもかかわらず大規模化・劇症化する食中毒、環境汚染に由来する食品汚染、流通の発達に伴う加工食品や食品添加物摂取量の増大、頻発する食品の偽証表示、食糧自給率の低下、輸入食品の増加等の実態に目を向け、安全、安心な食生活を送るためにはどうすれば良いかを考える。

●授業計画

1 食品の変質 (腐敗、変敗、変質の予防法を学ぶ)
2 食中毒総論 (食中毒の定義、種類、発生状況を学ぶ)
3 自然毒食中毒 (きのこ、じゃがいも、青酸配糖体等の毒性)
4 動物性食中毒 (魚類、貝類の毒性とマスターテーブル法)
5 微生物性食中毒 (感染型食中毒を学ぶ)
6 微生物性食中毒 (毒素型食中毒を学ぶ)
7 食品による感染症・寄生虫症を学ぶ
8 食品衛生管理 (日本のＨＡＣＣＰを理解する)
9 食品中の汚染物質 (カビ毒による汚染を学ぶ)
10 食品中の汚染物質 (化学物質による汚染を学ぶ)
11 食品の器具と容器包装 (素材と衛生・環境汚染を学ぶ)
12 食品添加物総論 (分類、指定要件、使用基準、表示基準等)
13 食品添加物各論 (種類と用途を学ぶ)
14 新しい食品の安全問題 (有機・遺伝子組み換え・放射線照射
15 食品衛生行政 (食品安全行政と食品衛生関連法規を学ぶ)
16 定期試験

●到達目標

1. 食品に関する安全面での現状認識を行う
2. 食中毒予防や衛生管理法を習得する

●授業時間以外の学習

・前もってテキストに目を通す
・不明な点につい調べたり、質問する
・食品を購入する時は、表示を確認する

●テキスト・参考書等

テキスト：「イラスト食品の安全性」小塚諭編、東京教学社
参考書：「新訂原色食品図鑑」細貝祐太郎他、建帛社

●成績評価

定期試験９０%、小テスト１０%

●オフィスアワー

月曜日・火曜日　１６：１５～１８：３０　(研究室)

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

栄養指導論Ⅰ

担当者：　改元　香

●科目の概要

栄養指導論Ⅰは、個人・集団および地域に対する栄養指導を行う上での必要な基礎知識・技法を習得することが目的である。生活習慣病予防のために如何に食行動の変容を支援していくか、栄養士として栄養指導の理論と技術について学ぶ。また、栄養指導論Ⅱおよび栄養指導実習Ⅰ・Ⅱに連動するものである。

●授業計画

1　栄養指導の概念 (目的と必要性)
2　栄養指導の概念 (食生活の変遷)
3　栄養指導の沿革 (栄養指導の歴史と現状)
4　栄養指導と関連法規 (栄養士法、健康増進法)
5　栄養指導と関連法規 (地域保健法　他)
6　栄養状態の評価と栄養調査
7　栄養指導の方法 (行動科学理論と栄養指導)
8　栄養指導の方法 (行動科学理論と行動変容技法)
9　栄養指導の方法 (栄養カウンセリング)
10　栄養指導の方法 (栄養アセスメント)
11　栄養指導の方法 (ＰＤＣＡサイクル)
12　日本人の食事摂取基準 (総論)
13　日本人の食事摂取基準 (総論、各論)
14　日本人の食事摂取基準 (各論)
15　栄養指導の総まとめ
16　定期試験

●到達目標

1. 栄養指導の概念について理解し、説明できる
2. 栄養指導の歴史や法規を理解し、栄養士の役割を説明できる
3. 栄養指導の方法論を理解し、栄養指導計画を立てることができる

●授業時間以外の学習

・授業の予習 (教科書を読み、わからない語句を事前に調べておく)
・授業の復習 (テキストを読み直し、より詳しく知りたいところを調べ、理解できなかったところは質問する)

●テキスト・参考書等

テキスト：栄養士のための栄養指導論 (学建書院：芦川修貳　他)、日本人の食事摂取基準２０１５年版 (第一出版：佐々木敏　他)
参考書：イラスト栄養教育・栄養指導論 (東京教学社：城田知子　他)

●成績評価

定期試験の成績 (８０％) ※試験時間は６０分
受講態度 (２０％)

●オフィスアワー

水曜日　１３：００～１５：００　（研究室：本館５０４）

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

給食管理

担当者：　千葉　しのぶ

●科目の概要

まず、給食の概念及び意義を理解し、栄養・食事管理に関する基礎的知識を習得する。その後、特定給食施設で給食を運営するために必要な献立作成や調理技術、衛生管理に関する基礎的知識を習得し、給食運営業務の実践力を身に付けた栄養士を目指すことを目的とする。
講義は、健康増進法における特定給食施設の栄養管理の基準を解説し、栄養士の職務を理解する。さらに、２年生が実施する学生手作りランチ（給食管理実習Ⅰ）を具体的なモデルとし、次年度の学生手作りランチを円滑に提供できることを目標に、大量調理や衛生管理（大量調理施設衛生管理マニュアル）について重点的に解説する。

●授業計画

1　給食の概念、給食の定義と目的
2　健康増進法における特定給食施設の位置づけと栄養管理基準
3　栄養・食事管理 (目的及び献立計画)
4　栄養・食事管理 (評価と栄養教育)
5　調理管理〈食材料管理 (購入・検収・保存食・保管)〉
6〈調理作業管理 (大量調理の特性、工程・品質管理)〉
7〈安全・衛生管理 (人・食材・施設設備・災害時対策)〉
8　給食の施設・設備管理 (ドライシステム・食器の選定)
9　給食の組織・人事管理
10　給食の会計・原価管理 (給食原価、ＡＢＣ分析)
11　学校給食施設における給食管理
12　病院給食施設における給食管理
13　保育所等児童福祉施設における給食管理
14　高齢者福祉施設における給食管理
15　事業所における給食管理
16　定期試験 (６０分で実施)

●到達目標

1. 健康増進施行規則9条の栄養管理基準について理解する
2. 給食運営に必要な大量調理、衛生管理について理解する
3. 次年度の給食管理実習Ⅰの運営計画が概ね立案できる

●授業時間以外の学習

・授業計画表に基づいて次回の内容を教科書等で予習する
・「２年生の手作りランチ」(１枚３５０円) を実際に食し、授業の予備知識を得、不明な点は調べる。

●テキスト・参考書等

テキスト：「給食の運営」計画と実務　芦川修貳 (編著)、同文書院
栄養士必携 (社) 日本栄養士会　第一出版
参考書：食品成分表　　女子栄養大学出版部
日本人の食事摂取基準(２０１５年版)厚生労働省策定検討会

●成績評価

定期試験５０％　提出物２０％　受講態度３０％

●オフィスアワー

月曜日　１６：１０～１７：００（給食管理室　南１０４）

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

調理学

担当者：　山﨑　歌織

●科目の概要

調理学の概要を知り、調理操作や食品の調理特性を中心に学ぶ。これらの理論を基に調理技術の向上や食生活の実践に役立つ理論を修得する。

●授業計画

1 調理学の意義・役割
2 調理操作　非加熱調理操作
3 調理操作　加熱調理操作
4 調理操作　調味操作
5 調理操作　調理器具・エネルギー源
6 調理と味　食物のおいしさ　化学的な味
7 調理と味　食物のおいしさ　物理的な味
8 食品素材と調理　主食として用いる食品の調理（米）
9 食品素材と調理　主食として用いる食品の調理（小麦）
10 食品素材と調理　主菜として用いる食品の調理（魚肉類）
11 食品素材と調理　主菜として用いる食品の調理（卵・豆類）
12 食品素材と調理　副菜として用いる食品の調理（野菜類）
13 食品素材と調理　副菜として用いる食品の調理（いも類）
14 食品素材と調理　副菜として用いる食品の調理（乳類）
15 食品素材と調理　成分抽出素材　でんぷん・油脂・ゲル化剤
16 定期試験

●到達目標

1. 調理学の意義・役割を理解する
2. 調理操作全般について知る
3. 食品素材別の調理法について知る

●授業時間以外の学習

・次回の授業範囲についてテキストを読む
・復習として、専門用語の意味を理解する

●テキスト・参考書等

テキスト：NEW 基礎調理学、若松・鎹・外西、医歯薬出版
　　原色食品図鑑、菅原・井上編集、建帛社
参考書　：調理と理論、山崎・島田・渋川ほか、同文書院
　　食品成分表、香川芳子監修、女子栄養大学出版部

●成績評価

定期試験８０％　課題レポート１０％　受講態度１０％

●オフィスアワー

金曜日　１４：００～１７：００　（研究室：西２０５）

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

調理学実習基礎

担当者：　堂園　直子

●科目の概要

食に関する初歩的な操作を用いて調理に必要な基礎知識や技術を学習する。また、調理学基礎の最重要な理論や方法を実験することで科学的裏付けとなるのかを検証し、調理操作の技術向上に役立てる。

●授業計画

1 調理実習についての心得と諸注意・レポートの書き方
2 実習①（基本操作：計量・包丁の使い方）
3 実習②（日本料理１）
4 実習③（日本料理２）
5 講義（献立作成について・調理操作の復習）
6 実習④（西洋料理）
7 実習⑤（中国料理１）
8 実習⑥（中国料理２）
9 調理学実験についての心得と諸注意・レポートの書き方
10 実験①味の好みと適量～塩味～
11 実験②味の好みと適量～甘味～
12 実験③味の好みと適量～酸味～
13 実験④味の好みと適量～旨味（１）和風だし～
14 実験⑤味の好みと適量～旨味（２）洋風だし～
15 実験⑥なま（野菜の扱い方）
16 試験（定期試験・実技試験）

●到達目標

1. 調理学実習を通して基礎となる理論や技術を学ぶ
2. 調理操作を計画的に作業効率を考えて実践できる力をつける

●授業時間以外の学習

・授業前にフローチャートをノートにまとめ、実習実験がスムーズに行えるよう予習をしておく・授業後は学習したレポート提出する

●テキスト・参考書等

テキスト：調理学実習献立表（毎回配布）
　　操作別調理学実習：松元文子　校閲ほか　同文書院
参考書　：NEW 基礎調理学：石松成子ほか医歯薬出版（株）
　　NEW 調理と理論：山崎清子ほか　同文書院

●成績評価

実習・実験レポート（６０％）定期・実技試験（３０％）
受講態度（１０％）

●オフィスアワー

講義時間の前後（講義室）

●備考

化学

担当者：　横峯　孝昭

●科目の概要

私たちの身の回りには多くの物質が存在している。私たちはこれらの物質を適切に用いたり、調理したりしているだろうか。そのためには、素材の成分や性質をよく知り、これにあった取り扱い方法を考えることが必要となる。そこで、これらを理解するために化学の基本と体得することを目標としている

●授業計画

1 オリエンテーション
2 もしも原子が見えたなら①
3 もしも原子が見えたなら②
4 物質の性質（原子とその分類①）
5 物質の性質（原子とその分類②）
6 物質の性質（原子とその分類③）
7 物質の成り立ち①（原子の中身について）
8 物質の成り立ち②（重さ、量についての考え方）
9 原子とその結合（イオン結合）
10 原子とその結合（共有結合）
11 物質の変化（中和反応・酸化還元反応）
12 物質の状態と性質
13 身近な有機化合物
14 食品に見る生体物質
15 総括
16

●到達目標

1. 原子分子について理解する
2. 化学反応について理解する
3. 有機化合物の基礎について理解する

●授業時間以外の学習

・単元終了時の次回の講義初めに確認テストを行います　それに向けて各自ノート、配布資料をもとに復習を重点的に行ってください

●テキスト・参考書等

中学までの化学の内容を主に網羅した参考書であれば何でも良い
少々難しいが下記の参考書等を掲載しておく
食を中心とした化学　東京教学社
これからはじめる化学　三共出版
基礎科学と生命科学　光生館

●成績評価

講義中に課す課題の達成（７０％）　受講態度（３０％）

●オフィスアワー

月曜日　１４：００～１８：００　（研究室）

●備考

学内他学科・他専攻解放科目

くらしとお茶 A

担当者：　村山　松﨑　山﨑　住澤　有馬（恵）　佐藤　中禮

●科目の概要

茶の歴史や栽培法、機能性、性質や利用法、品質検査や鑑定法等、日本茶アドバイザーとして必要な知識を身につけるとともに、茶文化の発展と普及に寄与する人材となることを目指す。

●授業計画

1	オリエンテーション（日本茶アドバイザーの説明）	A
2	歴史（日本茶、鹿児島茶の歴史を学ぶ）	B
3	茶の利用（茶を使った料理について学ぶ）	C
4	茶業のあらまし（茶の生産、消費、流通等を学ぶ）	D
5	茶の栽培（種類別栽培・方法を学ぶ）	D
6	茶の製造（製造方法を学ぶ）	D
7	茶の化学（化学成分、品質等を学ぶ）	A
8	茶の健康科学（効能、効果等を学ぶ）	E
9	茶の品質検査と鑑定（官能検査法を学ぶ）	F
10	茶の品質検査と鑑定（鑑定技術を学ぶ）	F
11	インストラクション技術（服装、話し方、接客）	G
12	インストラクション技術（茶の淹れ方）	F
13	インストラクション技術（茶の淹れ方）	F
14	インストラクション技術（茶の淹れ方）	F
15	インストラクション技術（茶の淹れ方）	F
16		

●到達目標

1. 日本茶アドバイザーの意義、概要、役割を理解する
2. 茶に関する知識と理解を深める

●授業時間以外の学習

・前もってテキストに目を通す
・日常の生活の中で、お茶の葉の種類、色や香り、味等を確認する

●テキスト・参考書等

テキスト：「日本茶アドバイザー講座Ⅰ、Ⅱ」ＮＰＯ法人日本茶インストラクター協会
参考書：「シリーズ《食品の科学》茶の科学」村松敬一郎編、朝倉書店

●成績評価

定期試験６０％、実技テスト４０％

●オフィスアワー

集中講義開講期間の講義前後、講義実施教室

●備考

学内他学科・他専攻開放科目
夏休み集中講義
A: 村山　B: 松﨑　C: 山﨑　D: 佐藤
E：住澤　F：中禮　G: 有馬（恵）

教職概論

担当者：　山元　有一

●科目の概要

本講義は養護教諭および栄養教諭を目指す学生が、まずは教諭一般としての教職の意義、教諭の役割、その職務内容を理解し、進路選択を吟味する機会とするものである。専門の知識を持っているだけでなく、それをどのように子どもたちに共感的に、あるいは知的に伝えていくかは、子どもの育ちや教室という場をどのように捉え、本人の人格をそこにどのように活かしていくかにも通じている。講義を通して、伝えることの難しさと楽しさを担当者とともに共感してもらいたい。

●授業計画

1 オリエンテーション
2 教諭とは誰か？――教えるだけでない教諭の役割
3 教諭とは誰か？――先生としての、先生以前の教諭の資質
4 教諭とは誰か？――法規から見た教諭
5 学校における養護教諭・栄養教諭の位置づけ
6 学校組織と教諭
7 学校問題を考える
8 学校と地域、家庭――家庭問題を考える
9 子どもを知る――発達（幼児期・児童期）と教育の目的
10 子どもを知る――発達（青年期）と教育の目的
11 子どもに知る――教諭の鏡としての子ども
12 子どもと知る――相互に作る場としての教室
13 自分を知る――自分なりの教師像・人間像の模索のために
14 自分を知る――自分なりの教育観の模索のために
15 総括とレポートの指示
16

●到達目標

1. 初職の理解と教諭としての資質の理解・吟味

●授業時間以外の学習

・導入的科目であるため、特別の事前学習は必要ないが、講義の内容を絶えず自らの過去の経験に結びつけるようにしてもらいたい

●テキスト・参考書等

テキスト：特に使用しない
　参考書：ジョン・デューイの著作 (おもに岩波文庫) に目を通してもらいたい

●成績評価

レポート１００％

●オフィスアワー

水曜日、木曜日を除く、講義以外の午後の時間

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

情報機器演習

担当者：　鈴木　雄清

●科目の概要

インターネット上から効率よく情報を検索し、信憑性の高い必要な情報を選別できるようになる。また、ワープロソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを用いて、レポートや論文を作成したり、プレゼンテーション資料を作成したりすることができるようになる。加えて、情報モラルに関する用語の意味や、問題に直面したときにどのように行動するべきかについて説明できるようになる。

●授業計画

1 【B1】オリエンテーション、コンピュータの基本操作
2 強いパスワード、プリンタと用紙、掲示板を用いた自己紹介
3 インターネットの仕組み、情報検索の基礎
4 インターネットでの効率的な情報検索
5 USB メモリの活用、ショートカットキー、コピー＆ペースト
6 電子メール【B2】Word の文書作成と印刷・メール送信
7 【B2】Word によるレポート作成
8 PowerPoint によるプレゼン資料作成の基礎
9 PowerPoint によるプレゼン資料作成
10 Excel の基本操作
11 Excel による表計算【B3】プレゼン資料のテーマ選定
12 【B3】プレゼン資料作成のためのアイディアと情報収集
13 プレゼン資料の作成 (1)
14 プレゼン資料の作成 (2)
15 定期試験・プレゼン資料の相互評価
16

●到達目標

1. 信憑性の高い情報を収集し、レポートやプレゼン資料を作成できる

●授業時間以外の学習

・事前に教科書を読んでおく
・小テストや教材を用いて復習する・課題の完成度を高める

●テキスト・参考書等

テキスト：○富士通 FOM 株式会社『情報リテラシー アプリ編 Microsoft Word 2013 / Microsoft Excel 2013 / Microsoft PowerPoint 2013 対応』FOM 出版，2013年　○富士通 FOM 株式会社『情報モラル＆情報セキュリティ』FOM 出版，2013年

●成績評価

定期試験 (６０%) 最終課題 (４０%) の累積 (欠席は減点)
すべての小テスト (満点) とすべての課題の提出が単位取得の条件

●オフィスアワー

授業時間の前後（講義室）
その他：suzuki.shigakukan@gmail.com にて質問等に対応

●備考

教育原理

担当者：　山元　有一

●科目の概要

子どもたちの身体的精神的健康を前提として、子どもたちの「意・情・知」を全体として助長していることが教育の第一の使命である。しかしそればかりでなく、やがて社会に出て共同体を支え合う個人として成長するよう援助することにも、教育はかかわっている。「知ること」を単に知性の問題とせず、責任ある人格的意志にまで高めること、「感じること」が同時に「知ること」であり、「意欲すること」であること、これを本講義は伝えてたいと願っている。

●授業計画

1 はじめに――自分の「学んだ（教わった）」思い出とは？
2 学校教育の産物としての自分――知識、勉強嫌い、性格…
3 学校教育の産物としての自分――友達、恋愛、結婚…
4 教育（学校・家庭）と身体的・精神的自立
5 事例：物語に見る自立――対象喪失、幻想、退治、決断
6 事例：物語に見る自立の失敗――退治延期、絶望死
7 事例：夜驚症、家庭内暴力――予期不安、自分探し
8 事例：学校における教育問題――いじめ、排除の構造
9 事例：歴史に見る成長問題――ハウザー、シュレーバー
10 教育とは何か？（再考）――「子どもから」の教育史から
11 教育とは何か？（再考）――女子教育史から
12 教育とは何か？（再考）――学校誕生史から
13 教育とは何か？（再考）――教育作品か商品か？
14 教育とは何か？（再考）――――放任か、指導か？
15 総括
16 定期試験

●到達目標

1. 子どもの発達と環境の理解
2. 教育の目的と意義
3. 教育における諸問題の理解

●授業時間以外の学習

・同時期開講の科目「教職概論」と必ず関連づけること
・マスコミ等での教育に関する話題には常に目を光らせておいてほしい

●テキスト・参考書等

特に使用しない

●成績評価

定期試験（１００％）

●オフィスアワー

水曜日、木曜日を除く、講義のない午後の時間

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

公衆衛生学Ⅰ

担当者：　平川　英司

●科目の概要

個人に対する医学のみでは疾病の予防、治療に限界がある。公衆衛生学は人間を集団とみなし、社会的側面から介入することで人間の健康を維持する学問である。本講では、公衆衛生学を簡単に概説し、個人と集団の違い、社会保障や母子保健の仕組み、日本の社会医療システムを理解することを目的とする。

●授業計画

1 公衆衛生総論
2 人口と保健統計
3 感染症
4 予防と健康管理
5 母子保健
6 医療制度
7 国際保健
8 総括
9 定期試験
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 公衆衛生学が身近な問題であることを認識できるようなる
2. 医療の視点から見た公衆衛生学の知識を身につける

●授業時間以外の学習

・テキストによる予習
・テキスト及び配布資料による復習

●テキスト・参考書等

テキスト：
わかりやすい公衆衛生学　第３版　　清水忠彦、佐藤拓代　編集
NOUVELLE HIROKAWA(ヌーヴェル・ヒロカワ)

●成績評価

定期試験と出席にて評価

●オフィスアワー

講義時間の前後（講義室）

●備考

解剖生理学

担当者：　中河　志朗

●科目の概要

解剖学生理学では、ヒトの階層性、さらにヒトの器官や器官系の構造と働きを多数の模式図や教科書を使って説明するとともに、これらの働きに必要な栄養 (素) を解説し、将来「栄養の指導に従事」する栄養士に必要な知識の習得するための自己学習の動機づけをめざす。

●授業計画

1 ヒトの階層性、ホメオスタシ、解剖学用語、細胞の働き
2 上皮組織、結合および支持組織、筋組織、神経組織
3 外皮系の構造と働き
4 骨格系の構造と働き
5 骨格筋の構造と働き
6 神経細胞と脊髄、脊髄神経の構造と働
7 脳と脳神経の構造と働き、睡眠調節、記憶と学習
8 感覚系の構造と働き
9 内分泌系の構造と働き
10 血液と心血管系の構造と働き
11 リンパ管系と脾臓・胸腺の構造と働き、体の防御系
12 呼吸器系の構造と働き
13 消化器系の構造と働き
14 泌尿器系の構造と働き
15 生殖器系の構造と働き、ヒトの誕生
16 定期試験 (筆記)

●到達目標

1. ヒトの体を構成する器官系の構成と働きが説明できる
2. ヒトの器官の形成や機能に必要な栄養 (素) が説明できる
3. ヒトが健康に暮らせる生活上の注意点について説明できる

●授業時間以外の学習

・体の構造や働きに関与する化学物質
・栄養 (素) は栄養生化学や栄養学総論で学習済みですので、これらを復習しながら講義を受ける

●テキスト・参考書等

テキスト：「人体の構造と働き (第６版)」(中河志朗著)
参考書：「第２版 カラー図解 人体の正常構造と機能」(坂井ら編集)、日本医事新報社、２０１２年刊

●成績評価

毎回の授業で実施する小テスト (１０％) と定期試験 (９０％) の総合点で評価

●オフィスアワー

講義時間　８：５０～１０：２０　１０：３５～１２：０５

●備考

栄養生化学 II

担当者：　住澤　知之

●科目の概要

私たちが健康的に生きていけるのは、体の中で種々の酵素による代謝が、速やかに、滞りなく、正しく行われているからである。そこで、前期の「栄養生化学 I」の内容を踏まえ、三大栄養素が体内でどのように代謝されるのかについて学ぶ。また、私たちが生きていくために、遺伝子の情報がどのようにして利用されているのかについても学ぶとともに、生命の恒常性維持の仕組みのすばらしさに対する理解を深めるために、内分泌系についても学ぶ。さらに、栄養士として働くためには、食物アレルギーについての理解が必須であるため、免疫と生体防御の基礎理解を通して、アレルギーについても学ぶ。
「栄養生化学 I」の単位を修得しておくことが望ましい。

●授業計画

1 解糖系
2 クエン酸回路①
3 クエン酸回路②、糖新生と血糖調節①
4 糖新生と血糖調節②
5 グリコーゲン代謝とグルコース以外の糖の代謝
6 体内における脂質の輸送とリポタンパク質
7 脂肪酸の生合成
8 脂肪酸の酸化 (β酸化)、コレステロール合成
9 アミノ基転移反応、酸化的脱アミノ反応、尿素回路
10 脱炭酸反応、アミノ酸由来の生体物質
11 複製、修復、転写
12 タンパク質生合成 (翻訳)、免疫と生体防御
13 免疫グロブリン、アレルギー
14 内分泌系の概略と制御機構
15 主なホルモン
16 定期試験

●到達目標

1. 三大栄養素の代謝と遺伝情報の流れについて説明できる
2. ホルモンによる恒常性の維持とアレルギーについて説明できる

●授業時間以外の学習

・「栄養生化学 I」の内容を含めて各回の内容を理解し、授業開始時に行う栄養士実力認定試験レベルの問題が解けるようにしておく

●テキスト・参考書等

プリントを配布するため、テキストは使用しない
参考書：「ヴォ―ト　基礎生化学」　第4版　東京化学同人
「イラストレイテッド　ハーパー・生化学」第29版　丸善出版

●成績評価

学期末に行う、五択形式や正しいものを選んで記号で答える形式の定期試験 (１００％)

●オフィスアワー

金曜日　１３：００～１９：３０　(研究室：本館501)

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

食品衛生学実験

担当者：　村山　恵美子

●科目の概要

微生物実験と化学実験を行う。微生物実験では、身の回りの至るところに微生物が存在することを認識し消毒・滅菌の意義を理解する。化学実験では、食品や水、環境等に関する衛生上の問題点を認識し、安全な食生活とは何かを理解することを目的とする。

●授業計画

1 オリエンテーション (実験の説明、次回の準備、実験計画)
2 手指の汚染度検査、空中落下菌・浮遊菌の測定
3 水洗法によるふきんの一般細菌数、大腸菌群数の測定
4 細菌の形態観察 (細菌を染色後、顕微鏡で観察する)
5 食品の衛生検査 (各種条件での菌数の違いを確認する)
6 発酵乳、乳酸菌飲料中の乳酸菌数測定による成分規格確認
7 食中毒菌の検査 (黄色ぶどう球菌、サルモネラ属菌の検出)
8 耐熱性・紫外線抵抗性試験 (菌の耐熱性や紫外線抵抗性確認
9 保存料 (ソルビン酸) の抗菌力試験、薬剤感受性試験
10 保存料 (ソルビン酸) の定量、重金属 (スズ) の抽出
11 重金属 (スズ) の検出 (缶詰中のスズ溶出量を測定する)
12 食品の腐敗・変質試験 (揮発性塩基窒素、ヒスタミンの検出
13 食品中の添加物検査 (発色剤、漂白剤を検出する)
14 水質試験 (日常使用している水道水の水質検査を行う)
15 環境衛生試験 (風速、感覚温度、空気汚染度、照度、騒音)
16 定期試験

●到達目標

1. 消毒・滅菌の意義を理解し、衛生観念を高める
2. 衛生上の問題点を認識する
3. 安全な食生活とは何かを理解する

●授業時間以外の学習

・実験書に目を通し、実験内容を理解する
・実験の前にすべき内容を確認し、準備する
・実験結果を観察し、レポートとして提出する

●テキスト・参考書等

テキスト：「食品環境実験50」藤田修三、山田恭正、医歯薬出版
参考書：「食品衛生検査指針微生物・食品中の食品添加物分析法」
(社) 日本食品衛生協会

●成績評価

レポート・受講態度６０%、定期試験４０%

●オフィスアワー

月曜日・火曜日　１６：１５～１８：３０　(研究室)

●備考

栄養学総論

担当者：　住澤　知之

●科目の概要

人間にとって、生命を維持するために欠かすことのできないのが、バランスよく栄養素を摂取することである。そこで、正しい『食』についての理解を深め、健康的な生活を送るための的確な栄養指導を行うために、人間が生命や健康を維持するために欠かすことができない栄養素を、バランスよく、適切な量摂取するということについて、主な栄養素の消化・吸収、生理的な機能及び栄養評価の方法等を通して学ぶ。
「栄養生化学Ⅰ」の単位を修得しておくことが望ましい。

●授業計画

1 オリエンテーション (栄養とは？)
2 糖質とその消化・吸収
3 血糖とその調節、糖質のエネルギー源としての利用
4 脂質とその消化・吸収
5 脂質の栄養、たんぱく質とその消化・吸収
6 たんぱく質の栄養１(窒素出納と生物学的評価法など)
7 たんぱく質の栄養２(化学的評価法など)
8 ビタミン１(ビタミンとは・ビタミンＡ)
9 ビタミン２(ビタミンＤ・ビタミンＥ・ビタミンＫ)
10 ビタミン３(ビタミンＢ群①)
11 ビタミン４(ビタミンＢ群②・ビタミンＣ)
12 無機質 (ミネラル) １(無機質とは・カルシウム・リン)
13 無機質 (ミネラル) ２(その他の主要無機質・鉄)
14 無機質 (ミネラル) ３(鉄以外の微量無機質)
15 水・電解質の代謝、エネルギー代謝、摂食行動
16 定期試験

●到達目標

1. 適切な栄養素の摂取により、自らが正しい食生活を実践できる
2. 健康に生きていくための、的確な食教育ができる

●授業時間以外の学習

・各回のプリントを見直して理解し、授業開始時に行う栄養士実力認定試験レベルの問題が解けるようにしておく

●テキスト・参考書等

プリントを配布するため、テキストは使用しない
参考書：「日本人の食事摂取基準2015年版」　第一出版
「よくわかる栄養学の基本としくみ」　秀和システム
健康・栄養科学シリーズ「基礎栄養学」改訂第４版　南江堂

●成績評価

学期末に行う、五択形式や正しいものを選んで記号で答える形式の定期試験 (100%)

●オフィスアワー

金曜日　１３：００～１９：３０（研究室：本館５０１）

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

応用栄養学

担当者：　寺師　睦美

●科目の概要

人の各ライフステージにおける心身の成長発育の特性および変化と、運動や生活環境について理解し、健康の保持増進に必要な栄養管理の考え方を修得する。各ライフステージでの栄養評価法、疾患発症の特徴や基礎知識、生活習慣との関連について学ぶことにより、適切な栄養管理の理解を深める。

●授業計画

1 栄養マネジメントの基礎
2 ライフステージと栄養 (食事摂取基準)
3 妊娠期の栄養管理 (特性と栄養ケア、疾患と生活習慣)
4 授乳期の栄養管理 (特性と栄養ケア、問題点、母乳栄養)
5 新生児期の栄養管理 (特性と栄養ケア、問題点、離乳)
6 幼児期の栄養管理 (特性と栄養ケア、問題点、保育所給食)
7 学童期の栄養管理 (特性と栄養ケア、問題点、学校給食)
8 思春期の栄養管理 (特性と栄養ケア、疾患と生活習慣)
9 成人期の栄養管理 (特性と栄養ケア、疾患と生活習慣)
10 更年期の栄養管理 (特性と栄養ケア、疾患と生活習慣)
11 高齢期の栄養管理 (特性と栄養ケア、疾患と生活習慣)
12 高齢期の栄養管理 (特性と栄養ケア、摂食機能)
13 運動と栄養 (運動と代謝、栄養ケア)
14 環境と栄養 (環境変化と代謝、栄養ケア)
15 総括
16 定期試験

●到達目標

1. 各ライフステージの特性、心身と生理機能の変化を理解する
2. 運動や環境等に対応する適切な栄養管理の考え方を修得する

●授業時間以外の学習

・授業範囲を予習する
・応用栄養学実習と関連付けて学習する・適宜、小テストを行う

●テキスト・参考書等

テキスト：「マネジメント応用栄養学」　東條仁美・上西一弘編著
　　建帛社
参考書：「日本人の食事摂取基準 (２０１５年度版)」
　　菱田明・佐々木敏監修　第一出版

●成績評価

受講態度（１０％）小テスト（２０％）
定期試験６０分（７０％）による総合評価

●オフィスアワー

月曜日・金曜日　１３：００～１８：００　（研究室：南２０３）
事前に連絡すること

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

応用栄養学実習

担当者：　寺師　睦美

●科目の概要

人の各ライフステージにおいて、食事摂取基準に基づいた栄養管理の考え方を理解し、献立作成と調理技術、食教育、健康増進及び疾病予防に関する栄養管理方法の修得を目的とする。実習前に、授業内容を理解した上で授業に参加する。実習後は内容が適切であるか検討・考察し、レポートを作成することで、実践的な栄養管理を行う方法を学ぶ。

●授業計画

1 応用栄養学実習の意義と目的
2 乳児期栄養（特性と問題点、献立作成・調理の注意点）
3 離乳期栄養（調乳実習）
4 幼児期栄養（特性と問題点、献立作成・調理の注意点）
5 幼児期栄養（保育所給食実習）
6 幼児期栄養（保育所食教育の基本的考え方、媒体作り）
7 幼児期・成人期栄養（弁当実習）
8 学童・思春期栄養（特性と問題点、献立作成・調理の注意点
9 学童・思春期栄養（学校給食実習）
10 高齢期栄養（特性と問題点、献立作成・調理の注意点）
11 高齢期栄養（高齢者施設給食嚥下食実習）
12 高齢期栄養（高齢者施設行事食バイキング実習）
13 高齢期栄養（補助食品の活用方法）
14 食教育（発表と評価）
15 総括
16 定期試験

●到達目標

1. 各ライフステージの適切な栄養基準に基づく献立作成と、調理技術を習得する
2. 実践的な栄養管理と食教育を行うことができる

●授業時間以外の学習

1. 授業範囲を予習する
2. 実習内容をまとめて、レポートを作成する
3. グループで課題に取り組む

●テキスト・参考書等

テキスト：「応用栄養学実習」柳沢幸江・板垣裕他編　建帛社
参 考 書：「一品料理500選治療食への展開」宗像伸子編著
　　医歯薬出版株式会社
　　「五訂増補食品成分表」女子栄養大学出版部

●成績評価

受講態度（１０％）レポート・献立作成（５０％）
定期試験６０分（４０％）

●オフィスアワー

火曜日１３：００～１８：００（研究室：南２０３）
事前に連絡すること

●備考

臨床栄養学総論

担当者：　改元　香

●科目の概要

臨床の現場で的確な栄養管理を実施するために、栄養学的な診断、および治療の具体的な仕組みや方法を学び、臨床栄養学の基礎を身につける。また、臨床栄養学の応用である臨床栄養学各論につながる科目である。

●授業計画

1　臨床栄養学の基礎 (意義・目的、疾患と栄養、福祉・介護)
2　傷病者の栄養アセスメント (意義と目的)
3　傷病者の栄養アセスメント (臨床診査)
4　傷病者の栄養アセスメント (身体計測)
5　傷病者の栄養アセスメント (臨床検査)
6　傷病者の栄養アセスメント (食事調査、栄養必要量の算定)
7　傷病者の栄養アセスメント (栄養必要量の算定)
8　栄養管理 (病院での栄養管理の流れ)
9　栄養管理 (評価、目標設定、計画)
10　栄養管理 (栄養管理計画書作成)
11　栄養教育計画 (個別教育、集団教育、栄養食事指導料算定)
12　栄養管理記録 (ＰＯＳにおける記録、ＳＯＡＰの書き方)
13　疾患治療の種類および方法と特徴
14　栄養法 (栄養補給法の種類、経口栄養補給法)
15　栄養法 (経腸栄養補給法、頸静脈栄養補給法)
16　定期試験

●到達目標

1. 栄養アセスメントの流れを理解し、臨床的意義を知る
2. 栄養アセスメントにより栄養状態を評価・判断することができる
3. 栄養法の種類を知り、目的に応じた方法を選択することができる

●授業時間以外の学習

・授業の予習 (教科書を読み、わからない語句を事前に調べておく)
・授業の復習 (テキストを読み直し、より詳しく知りたいところを調べ、理解できなかったところは質問する)

●テキスト・参考書等

テキスト：わかりやすい臨床栄養学 (三共出版：吉田勉　他)
参考書：エッセンシャル臨床栄養学
　　(医歯薬出版株式会社：佐藤和人　他)

●成績評価

定期試験の成績 (８０％) ※試験時間は６０分
受講態度 (２０％)

●オフィスアワー

木曜日　９：００～１２：３０　（研究室：５０４）

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

栄養指導論 II

担当者：　改元　香

●科目の概要

栄養指導論 I で学んだ基礎知識・技法をもとに、ライフステージ・ライフスタイル別の生活習慣の実態と問題点を把握し、対象者の状況に応じた具体的な栄養指導の手法を習得することが目的である。

●授業計画

1　栄養指導に必要な基礎知識 (食事摂取基準等)
2　妊娠・授乳期の栄養指導
3　乳児期の栄養指導
4　幼児期の栄養指導
5　学童期および思春期の栄養指導
6　成人期の栄養指導
7　高齢期、傷病者および障がい者の栄養指導
8　スポーツ選手に対する栄養指導
9　糖尿病療養指導のための食品交換表の基礎
10　糖尿病療養指導のための食品交換表の基礎
11　糖尿病療養指導のための食品交換表の応用
12　糖尿病食事指導のための食品交換表のまとめ
13　腎臓病食品交換表の基礎
14　エネルギー、たんぱく質、脂質、食塩制限の栄養指導
15　栄養指導関連の諸施策 (食生活指針、休養指針、運動指針)
16　定期試験

●到達目標

1. 食事摂取基準および糖尿病交換表を理解し、活用できる
2. 対象者の問題点を把握し、科学的根拠に基づいた指導ができる
3. 健康寿命の延伸、生活の質の向上を目指した指導ができる

●授業時間以外の学習

・授業の予習 (教科書を読み、わからない語句を事前に調べておく)
・授業の復習 (理解できなかったところは質問し、課された課題は必ず取り組む)

●テキスト・参考書等

テキスト：栄養士のための栄養指導論 (学建書院：芦川修貳　他)、日本人の食事摂取基準２０１５年版 (第一出版：佐々木敏　他)、糖尿病食事療法のための食品交換表 (文光堂：日本糖尿病協会)、腎臓病食品交換表 (医歯薬出版株式会社：黒川清　他)
参考書：イラスト栄養教育・栄養指導論 (東京教学社：城田知子)

●成績評価

定期試験の成績 (７０％) ※試験時間は６０分
提出物（２０％）、受講態度（１０％）

●オフィスアワー

木曜日　９：００～１２：３０　（研究室：本館５０４）

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

公衆栄養学

担当者：　改元　香

●科目の概要

集団の健康問題が栄養管理上どのような因子に基づくのか、そしてその問題解決に栄養はどうあるべきかについて学ぶ。

●授業計画

1　公衆栄養学の概念 (公衆栄養の意義と目的)
2　公衆栄養活動 (公衆栄養活動とその歴史)
3　わが国の健康・栄養問題の現状と課題 (環境と健康の変化)
4　わが国の健康・栄養問題の現状と課題 (食生活の変化)
5　栄養政策 (地域保健法、健康増進法、食育基本法)
6　栄養政策 (管理栄養士、栄養士養成制度)
7　栄養政策 (国民健康・栄養調査)
8　栄養政策 (健康日本21、食生活指針、バランスガイド他)
9　栄養政策 (諸外国の健康・栄養政策)
10 栄養疫学 (概要、指標、方法)
11 栄養疫学 (食事調査法の種類)
12 日本人の食事摂取基準
13 公衆栄養マネジメント (マネジメントサイクル)
14 公衆栄養マネジメント (公衆栄養プログラム)
15 公衆栄養マネジメント (公衆栄養プログラムの展開)
16 定期試験

●到達目標

1. 公衆栄養学の概念を理解し、説明できる
2. わが国の栄養政策を理解し、説明できる
3. 栄養疫学を理解し、図表が示していることを説明できる

●授業時間以外の学習

・授業の予習 (教科書を読み、わからない語句を調べておく)
・授業の復習 (理解できなかった点を質問する)

●テキスト・参考書等

テキスト：公衆栄養学 (南江堂：田中平三　他)、食生活指針の解説 (一般社団法人全国栄養士養成施設協会)
参考書：国民衛生の動向 (一般財団法人　厚生労働統計協会)

●成績評価

定期試験の成績 (８０％) ※試験時間は６０分
受講態度 (２０％)

●オフィスアワー

木曜日　９：００～１２：３０　（研究室：本館５０４）

●備考

調理学実習 I

担当者：　山﨑　歌織

●科目の概要

食生活を健康に営むために、科学的・合理的な調理学の理論に基づき調理法や調理技術を学ぶ。内容は、日本料理、西洋料理、中国料理を中心にそれぞれの料理様式の特徴について学ぶ。さらに、健康で楽しく適切な食生活のあり方について、常に季節を意識し一汁三菜を基本とした日常食の献立立案と実践力を育成する。
※教育効果を向上させるため、１回の授業を２コマ (１８０分) で実施する。

●授業計画

1　調理学実習の心得と実習実施のための諸注意
2　基本調理の確認
3　日本料理の特徴と調理①
4　日本料理の特徴と調理②
5　西洋料理の特徴と調理①
6　西洋料理の特徴と調理②
7　中間まとめ
8　郷土料理
9　中国料理の特徴と調理①
10 中国料理の特徴と調理②
11 クリスマス料理
12 正月料理
13 実技・定期試験
14
15
16

●到達目標

1. 調理学実習の心得を意識して実習に臨む
2. 基本的な調理の知識・技術を身につける
3. 献立を立案しバランスを考えた食事を提供できる

●授業時間以外の学習

・毎時間の事前資料を基に、料理レシピをフローチャート化する
・事後は、毎時間ごとに学習した内容をレポートにまとめ提出する
・日々調理に携わり、技術の向上に努める

●テキスト・参考書等

テキスト：操作別調理学実習、中野・外西・二木・池田、同文書院
　　調理学実習レシピ（毎時間配布）
参考書　：NEW 基礎調理学、若松・鎹・外西、医歯薬出版
　　調理と理論、山崎・島田・渋川ほか、同文書院
　　食品成分表、香川芳子監修、女子栄養大学出版部

●成績評価

実習・課題レポート６５％　受講態度２０％
実技・定期試験１５％

●オフィスアワー

金曜日　１４：００～１７：００　（研究室：西２０５）

●備考

学校栄養教育論

担当者：　千葉　しのぶ

●科目の概要

教育に関する資質と栄養に関する専門性を併せ持つ教職員として、学校給食を実践的な面に即した教材として活用した指導を理論と実践の両面から教育の現場で生かすことができる栄養教諭を目指すことを目的にする。講義は、栄養教諭の制度の創設の意義と役割、学校給食法における位置づけ及び食に関する指導を効果的に行うためには、学校内での教職員との共通理解、家庭、学校、地域との連携の必要性を重点的に解説する。具体的には、学校での食に関する指導は教育活動全体を通して意図的、計画的、組織手に行うことで食育の推進が図られることを解説し栄養教諭のコーディネータの役割の理解を深める。

●授業計画

1　栄養教諭の制度と役割 (生きた教材)
2「食に関する指導」の目標と内容 (食育基本法)
3　給食の教育的意義と役割、栄養教諭の位置付 (学校給食法)
4　学校給食の歴史と食文化の変遷 (地場産物の活用と郷土食)
5　子供の心身の発達と食生活・食習慣の関連
6　食に関する指導の全体計画の必要性と作成上の留意点
7　各教科等における「食に関する指導」の展開
8　給食の時間における「食に関する指導」(放送原稿の作成)
9　体育科における「食に関する指導」
10 家庭科における「食に関する指導」
11 特別活動 (学級活動) における「食に関する指導」
12 家庭・地域と連携した「食に関する指導」食育だよりの作成
13 学校給食における個別対応の実際 (食物アレルギー)
14 個別的栄養相談指導の在り方 (肥満・痩せ・スポーツ栄養)
15 総括「より良い栄養教諭を目指して」
16 定期試験 (６０分で実施)

●到達目標

1. 栄養教諭の役割及び職務内容を理解する
2. 児童生徒の栄養に関する諸課題を把握する
3. 食に関する指導の方法を理解し実践力に繋げる

●授業時間以外の学習

・１年前期に２年生との栄養教育実習交流会に参加する
・１月の栄養教諭等主催の学校給食展に参加する
・２月の観察参加実習に参加し、その後模擬授業行う

●テキスト・参考書等

テキスト：三訂「栄養教諭」－理論と実際－金田雅代　編著建帛社
・「食に関する指導の手引」　第一次改訂版　文部科学省
参考書：「食に関する指導の実際」編集代表　金田雅代
　　季刊「栄養教諭－食育読本－」全国学校栄養士協議会

●成績評価

定期試験５０％　提出物２０％　受講態度３０％

●オフィスアワー

月曜日・火曜日　１０：３０～１２：３０

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

教育心理学

担当者：　宮里　新之介

●科目の概要

教育心理学とは、教育に関する様々な事柄を、心理学の方法を用いて研究している学問です。
本講義では、人がどのように発達するのか、どのように適応するのか、どのように学習するのかといったメカニズムに関する基礎的な心理学の用語及びその内容の理解を深めます。
この科目で学ぶことは、教員が生徒に対して行う学習支援や人間関係における適応の支援といった教育活動の基礎につながるものです。

●授業計画

1　オリエンテーション　／　教育心理学で学ぶことは何か
2　発達過程①　(発達とは何か)
3　発達過程②　(知能の発達について)
4　発達過程③　(社会性の発達について)
5　個人差への対応①　(個人差の理解)
6　個人差への対応②　(適応とカウンセリング)
7　個人差への対応③　(特別支援教育)
8　学習過程①　(動機づけと学習)
9　学習過程②　(代表的な学習理論)
10 学習過程③　(知識、スキルの獲得)
11 支援の手立て①　(学力と教育評価)
12 支援の手立て②　(個に応じた学習指導)
13 支援の手立て③　(主体的学びの授業)
14 人間関係の理解①　(学習集団)
15 人間関係の理解②　(教師－生徒関係)
16 定期試験

●到達目標

1. 学習、適応、発達に関する心理学用語を理解し、説明できる
2. 実証的なデータに基づき考えることができる
3. 学んだ理論と教育活動を関連させて考えることができる

●授業時間以外の学習

・授業では前回の授業についての理解度を図るために小テストを行いますので、復習を行って授業に臨むようにしてください

●テキスト・参考書等

「教師教育テキストシリーズ④　教育心理学」
　　杉江修治 (編著)　学文社

●成績評価

・定期試験 (８０％)
・講義時の小テスト (２０％)

●オフィスアワー

金曜日　１０：３５～１２：０５（研究室：本館３１２）

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

教育方法の研究

担当者：　上釜　きみ子

●科目の概要

本科目は，栄養教諭における「食に関する指導」の教育方法の観点から、子どもの心身の発達を担う栄養教諭の役割と学校教育における「食に関する指導」の意義及び目的について理解することを目標とする。また、学校教育における「食に関する指導」の実践的展開（学習指導案の計画や授業構成）に向けた栄養教諭としての指導力・実践力・理解力を養うことを目標とする。

本科目の授業内容は、主に学校教育における栄養教諭の役割、「食に関する指導」の目標・内容，「食に関する指導」の学習指導案の作成及び「食に関する指導」の模擬授業等を扱う。

●授業計画

1　学校教育における栄養教諭の役割
2「食に関する指導」の目標と内容
3「食に関する指導」と学校教育の全体計画との関わり
4「食に関する指導」と学習指導案との関わり
5「食に関する指導」計画の原理 (学習指導案との関わり)
6「食に関する指導」計画の方法論 (学習指導案との関わり)
7「食に関する指導」の実践的展開１(指導案の計画・作成)
8「食に関する指導」の実践的展開２(模擬授業)
9
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 栄養教諭の役割及び「食に関する指導」の目標・内容を理解する
2.「食に関する指導」の学習指導案を作成し，模擬授業を行う
3. 栄養教諭としての専門的な指導力・実践力・理解力を身に付ける

●授業時間以外の学習

・参考図書を読む
・学習指導案の計画・作成の準備
・模擬授業の準備

●テキスト・参考書等

「栄養教諭～理論と実際～ (改訂版)」金田雅代編著，建帛社2008年
「食に関する指導の手引き」文部科学省，２０１０年３月
「小学校学習指導要領」文部科学省，２００８年３月
「中学校学習指導要領」文部科学省，２００８年３月
視聴覚機器　Microsoft　Office　Power　Point

●成績評価

受講態度 (６０％) レポート等の提出状況 (４０％) によって評価

●オフィスアワー

講義時間の前後　(講義室)

●備考

公衆衛生学Ⅱ

担当者：　安藤　哲夫

●科目の概要

人々は生を受けて死に到るまで様々な社会生活を営んでいる。社会生活を営む上で、目的を持った行動をするには健康が最も大切である。そのため社会生活における健康獲得には一人の努力（自助）では限界があるので、周囲の人々からの援助（共助）や公的な援助（公助）を得ている。この場合、人々には社会の仕組み上、不平等があり、公平な共助・公助が受けられないのが一般的である。そこで、社会保障（所得の再配分）という考え方があり、強者（健康で十分な生活資金が労働によって得られる者）の余力（税金）で弱者（働きたくても働けない者・働いても十分な生活資金が得られない者）の不足を補っている。それらの仕組みを知ることが公衆衛生学である。

●授業計画

1　公衆衛生学総論　公衆衛生学とは
2　公衆衛生学総論　公衆衛生学の歴史
3　日本国憲法２５条と社会保障
4　疫学　研究デザイン；記述疫学、分析疫学、介入研究
5　疫学　バイアスと交絡　因果関係の評価
6　疫学　幾つかのエピソード紹介　ジョン・スノーとコレラ
7　環境保健（昨日）；公害について　熊本水俣病と新潟水俣病
8　環境保健（昨日）；全国のメチル水銀汚染について
9　環境保健（今日）；生産物質（農薬・防腐剤等）による汚染
10 環境保健（明日）；人間活動によって発生する生態系異常
11 地域保健活動；乳幼児保健　母子保健
12 地域保健活動；母性保健　労働基準法
13 地域保健活動；産業保健　労働安全衛生法
14 生命倫理；緩和医療　尊厳死　医療行動と生命倫理
15 生命倫理；ヘルシンキ宣言　アルマアタ宣言　オタワ憲章
16 定期試験

●到達目標

1. 社会生活において健康増進の大切さを知る
2. 社会生活において人々との関係を通して健康の大切さを知る
3. 健康増進への取組みが行われている組織・活動を知る

●授業時間以外の学習

・過去の公害問題について調べてみよう
・鹿児島県民の健康度を全国的に比べてみよう

●テキスト・参考書等

テキストは指定しません
必要に応じてプリントを配布します
参考図書・国民衛生の動向

●成績評価

定期試験（６０％）レポート（２０％）ノート提出（２０％）

●オフィスアワー

講義時間の前後（講義室）

●備考

解剖生理学実験

担当者：　竹中　正巳

●科目の概要

自らの身体機能の計測等を通し、循環器系、感覚器系、骨格系、筋肉系、神経系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系の構造や機能についての理解を深める実験・実習を行う。人体の正常な構造と機能に関する知識を実験を通して体得する。

●授業計画

1 オリエンテーション
2 循環に関する実験Ⅰ(血圧とその調節、運動機能検査)
3 循環に関する実験Ⅱ(心電図、運動機能検査)
4 感覚に関する実験Ⅰ(味覚)
5 感覚に関する実験Ⅱ(錯視)
6 骨格に関する実習Ⅰ(人体構造の立体的位置関係の把握)
7 骨格に関する実習Ⅱ(人体構造の立体的位置関係の把握)
8 歯に関する実習Ⅰ(乳歯、永久歯の形態の観察)
9 歯に関する実習Ⅱ(永久歯列と無歯顎)
10 体温に関する実験(身体各部の温度、体温とその調節機構)
11 神経疲労に関する実験(ﾌﾘｯｶｰ試験、疲労とは、視環境)
12 呼吸に関する実験(ｽﾊﾟｲﾛﾒｰﾀｰを用いた実験、肺機能検査)
13 組織標本の観察
14 定期試験
15
16

●到達目標

1. 循環器、感覚器の理解
2. 骨格、筋肉の理解
3. 神経、呼吸器の理解

●授業時間以外の学習

・実験の手順を記したプリント、参考書をよく読んで実験に臨むこと　・実験後は、得られたデータをもとに考察を深め、レポートを作成すること

●テキスト・参考書等

テキストは使用しない　実験の手順を記したプリントを配布する
参考書：系統看護学講座１　解剖生理学　医学書院
　　：新衛生管理　上　第1種用　中央労働災害防止協会
　　：「カラー人体解剖学－構造と機能：マクロからミクロまで」西村書店

●成績評価

実験ごとに提出するレポート(６０%)
筆記試験(３０%) 実験態度(１０%)

●オフィスアワー

木曜日　１２：００～１２：５０　(研究室)

●備考

生化学実験 A

担当者：　住澤　知之

●科目の概要

「生化学実験Ａ」では、「給食管理実習Ⅲ」において病院を希望している者、就職先に病院（給食受託会社を含む）を考えている者、将来管理栄養士資格まで取得したいと考えている者、４年制の管理栄養士養成課程の大学や鹿児島大学への編入を考えている者等を対象として想定している。そのため、特に１年次の「栄養生化学Ⅰ、Ⅱ」の栄養素の代謝や DNA の構造と複製についての理解を深め、後期の「病態生化学」への橋渡しをすることを目的とする。そこで、実験を通して臨床検査の考え方を学ぶとともに、透析の意義、酵素の性質、DNA の性質や利用等についても学ぶ。「栄養生化学Ⅰ」、「栄養生化学Ⅱ」及び「栄養学総論」の単位を修得していることが望ましい。

●授業計画

1 オリエンテーションと検量線等についての説明
2 グルコースとタンパク質の定量及びその臨床的意義
3 透析とは？(透析後のグルコースとタンパク質の定量)
4 尿素窒素の定量とその臨床的意義
5 腎機能について(透析後の尿素窒素の定量)
6 酵素の特性と消化についての説明
7 酵素の ph 依存性(トリプシン、ペプシンによる消化)
8 酵素の基質特異性(タンパク質とデンプンの消化酵素処理)
9 コメ DNA の抽出
10 DNA の定量、純度検定及び PCR による増幅
11 DNA の電気泳動
12 犯人は誰だ？科捜研の女ごっこ(制限酵素とは)
13 コレステロールと中性脂肪の定量及びその臨床的意義
14 ビタミン類の抗酸化作用及び脂質の酸化
15 ビタミン類の脂質酸化に及ぼす影響(過酸化脂質の定量)
16 定期試験

●到達目標

1. １年次に学んだことを、実験を通して確認、理解できる
2. 実験の結果を科学的に解釈し、考察できる

●授業時間以外の学習

・実験レポートの作成において、不明な点や理解が不十分な点について調べたり、質問したりする
・課題にグループで取り組む

●テキスト・参考書等

プリントを配布するため、テキストは使用しない
参考書：「はじめてみよう生化学実験」　三共出版
　　「生化学実験法」　東京化学同人

●成績評価

実験レポートの提出状況及び内容(60%)、すべての実験終了後に実施する、行った実験の内容理解を問う定期試験(40%)

●オフィスアワー

水曜日　１３：００～１９：３０　(研究室：本館５０１)

●備考

生化学実験 B

担当者：　住澤　知之

●科目の概要

「生化学実験Ｂ」では、給食管理の学外実習において病院を考えていない者、就職先として病院 (給食受託会社を含む) を考えていない者を対象として想定している。そのため、実験を通して、１年次の「栄養生化学Ⅰ、Ⅱ」で学んだ単糖類、デンプン、アミノ酸、脂肪酸の性質や特徴、「栄養学総論」で学んだ三大栄養素の消化についての理解を深め、栄養士として必要な、栄養学や生化学の基礎知識を身に付けることを目的とする。

「栄養生化学Ⅰ」と「栄養学総論」の単位を修得し、「栄養生化学Ⅱ」を履修していることが望ましい。

●授業計画

1 オリエンテーションと検量線等についての説明
2 酵素の基質特異性を用いたグルコースの定量
3 糖の還元性を利用した糖質の定量
4 ヨウ素反応によるデンプンの検出
5 糖質の消化
6 トリニトロベンゼンスルホン酸によるアミノ基の検出
7 タンパク質の定量
8 タンパク質の消化
9 アミノ酸の等電点 (pI) について
10 滴定によるカルボキシル基の検出
11 脂肪酸の融点測定
12 胆汁酸の作用と脂質の消化
13 ブロッコリーからの DNA の抽出
14 犯人は誰だ？科捜研の女ごっこ (制限酵素とは)
15 ビタミン類と抗酸化作用
16 定期試験

●到達目標

1. １年次に学んだことを、実験を通して確認、理解できる
2. 実験の結果を科学的に解釈し、考察できる

●授業時間以外の学習

・実験レポートの作成において、不明な点や理解が不十分な点について調べたり、質問したりする
・課題にグループで取り組む

●テキスト・参考書等

プリントを配布するため、テキストは使用しない
参考書：「はじめてみよう生化学実験」　三共出版
　　「生化学実験法」　東京化学同人

●成績評価

実験レポートの提出状況及び内容 (60%)、すべての実験終了後に実施する、行った実験の内容理解を問う定期試験 (40%)

●オフィスアワー

水曜日　１３：００～１９：３０　（研究室：本館５０１）

●備考

食品学各論

担当者：　内匠　正太

●科目の概要

各食品群の代表的な素材について、食品の特徴、化学成分、鮮度保持、貯蔵方法などを食品の栄養的価値と関連付けて解説し、食品素材への理解を深める。

●授業計画

1 食品の分類、食料の需給
2 植物性食品－穀類
3 いも類、甘味料
4 豆類、種実類
5 野菜類
6 果実類
7 きのこ類、藻類
8 動物性食品－魚介類
9 肉類
10 卵類
11 乳類
12 各種食品－食用油脂、菓子類
13 嗜好飲料、酒類
14 調味料および香辛料類
15 調味加工食品類、保健機能食品と健康用食品等
16 定期試験

●到達目標

1. 食品の成分特性、生理的機能について理解する
2. 食品の加工時における成分の変化について理解する
3. 食品の貯蔵法、加工法について理解する

●授業時間以外の学習

講義では、その日の内容について小試験を実施し、採点後、解答用紙と模範解答を返却する　その内容について、予習復習を行う

●テキスト・参考書等

テキスト：
南江堂「食べ物と健康 食品の科学」
監修　（独）人国立健康・栄養研究所

●成績評価

定期試験の成績（７０％）小試験の成績（１５％）受講態度（１５％）
＊筆記試験は９０分で実施

●オフィスアワー

水曜日　１５：００～１７：００　研究室

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

臨床栄養学各論

担当者：　寺師　睦美

●科目の概要

傷病者の病態や栄養状態について、その特徴と関連を学び、適切な栄養管理や疾病予防の考え方を理解する。チーム医療における治療の基本的知識や手法、疾病の再発や重症化予防に繋がる栄養管理の方法を修得する。

●授業計画

1 臨床栄養学の基礎
2 傷病者の栄養アセスメント、栄養補給法
3 生活習慣病概説 (肥満、メタボリックシンドローム)
4 代謝性疾患の栄養療法Ⅰ (糖尿病、脂質異常症)
5 代謝性疾患の栄養療法Ⅱ (高尿酸血症、痛風、内分泌疾患)
6 消化器疾患の栄養療法Ⅰ (食道逆流症、消化性潰瘍)
7 消化器疾患の栄養療法Ⅱ (炎症性腸疾患、下痢、便秘)
8 腎・尿路疾患の栄養療法Ⅰ (糸球体腎炎、ネフローゼ症候)
9 腎・尿路疾患の栄養療法Ⅱ (慢性腎臓病、腎不全、透析)
10 循環器疾患の栄養療法 (高血圧症、動脈硬化、脳卒中)
11 血液系疾患、歯・筋骨格疾患の栄養療法
12 がん、呼吸器疾患の栄養療法
13 術前・術後の栄養管理、クリティカルケアの栄養療法
14 栄養障害、摂食障害の栄養療法
15 総括
16 定期試験

●到達目標

1. 各疾患の定義、病因や症状、治療、栄養食事療法の考え方を理解する
2. 臨床の基本的な専門用語や治療の実際を学ぶ

●授業時間以外の学習

・解剖生理学や関連科目を復習する
・臨床栄養学実習と関連付けて学習する・適宜、小テストを行う

●テキスト・参考書等

テキスト：「わかりやすい臨床栄養学」吉田勉　監修　三共出版
参考文献：「臨床栄養学」佐藤和人・本間健・小松龍史編　医歯薬出版株式会社、「糖尿病食事療法のための食品交換表」文光堂　日本糖尿病協会

●成績評価

受講態度（１０％）小テスト（２０％）
定期試験６０分（７０％）による総合評価

●オフィスアワー

月曜日・金曜日　１３：００～１８：０　（研究室：南２０３）
事前に連絡すること

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

臨床栄養学実習

担当者：　寺師　睦美

●科目の概要

各疾患の病態や栄養状態に対応する治療食を提供するために必要な食事計画を立て、献立作成と調理方法の実践的な知識と技術を習得することを目的とする。実習前に、実習内容を理解した上で授業に参加する。実習後は、内容が適切であるか検討・考察し、レポートを作成することで、実践的な栄養管理を行う方法を学ぶ。

●授業計画

1 臨床栄養学実習の基礎 (食事計画の作成：常食)
2 常食 (食事計画作成)
3 易消化食 (栄養管理の基本、食事計画作成)
4 易消化食 (実習：適切な食品選択と調理法の理解)
5 エネルギー制限食 (栄養管理の基本、糖尿病交換表の理解)
6 エネルギー制限食 (糖尿病交換表を用いた食事計画作成)
7 エネルギー制限食 (実習：適切な食品選択と調理法の理解)
8 食塩制限食 (栄養管理の基本、食事計画作成)
9 食塩制限食 (実習：適切な食品選択と調理法の理解)
10 たんぱく質制限食 (栄養管理の基本、腎臓病交換表の理解)
11 たんぱく質制限食 (実習：適切な食品選択と調理法の理解)
12 脂質制限食 (栄養管理の基本、食事計画作成)
13 脂質制限食 (実習：適切な食品選択と調理法の理解)
14 口腔障害・摂食・嚥下障害食 (栄養管理の基本)
15 総括
16 定期試験

●到達目標

1. 各疾患の治療食の基本的な考え方、献立作成と調理方法を理解する
2. 各疾患に応じた治療食を調理し、比較・評価する

●授業時間以外の学習

・授業範囲を予習する
・実習内容をまとめて、レポートを作成する
・グループで課題に取り組む

●テキスト・参考書等

テキスト：「臨床栄養学実習書」玉川和子他編著　医歯薬出版株式会社、「糖尿病食事療法のための食品交換表」文光堂　日本糖尿病協会、「腎臓病食品交換表」黒川清監修　医歯薬出版株式会社　参考書：「一品料理500選治療食への展開」宗像伸子編著医歯薬出版

●成績評価

受講態度（１０％）レポート・献立作成（５０％）
定期試験６０分（４０％）による総合評価

●オフィスアワー

月曜日　１３：００～１８：００　（研究室：南２０３）事前に連絡すること

●備考

栄養指導実習Ⅰ

担当者：　改元　香

●科目の概要

栄養指導論Ⅰ・Ⅱで得られた知識や技術を土台にして、健康・栄養状態、食行動、食習慣の評価・判定に基づき、栄養教育および栄養指導の指導案を作成し、教育することを実習を通して習得する。
※教育効果を向上させるため、１回の授業を２コマ（１８０分）で実施する。

●授業計画

1 栄養教育・栄養指導の基礎知識 (食事摂取基準)
2 栄養教育・栄養指導の基礎知識 (食品構成表の作成)
3 栄養教育・栄養指導の基礎知識 (献立作成の基本)
4 栄養教育・栄養指導の基礎知識 (献立作成ソフトの使い方)
5 実態把握の方法 (栄養・食事調査、生活調査)
6 実態把握の方法 (嗜好調査・残食調査、統計処理)
7 実態把握の調査 (身体活動状況調査)
8 栄養教育指導案および指導媒体の作成
9 医学的検査法 (ＳＯＡＰの書き方)
10 食品交換表を利用した栄養指導、献立作成
11 献立作成ソフトを使用した献立作成と展開
12 個人および集団を対象とした栄養教育、カウンセリング
13 定期試験
14
15
16

●到達目標

1. 個人の栄養状態、健康状態を把握することができる
2. 栄養アセスメントを実施できる
3. 指導案を作成し、栄養教育・指導を実施できる

●授業時間以外の学習

・授業の予習 (栄養指導論Ⅰ・Ⅱで習得した関連項目を教科書等で確認し、実習に備える)
・授業の復習 (実習で返却、演習したプリントを確実に理解する)

●テキスト・参考書等

テキスト：演習栄養教育 (医歯薬出版株式会社：)、日本人の食事摂取基準２０１５年版 (第一出版：佐々木敏　他)、糖尿病食事療法のための食品交換表 (文光堂：日本糖尿病協会)
参考書：栄養士のための栄養指導論 (学建書院：芦川修貳　他)

●成績評価

定期試験の成績 (６０％) ※試験時間は６０分
提出物 (３０％)、受講態度 (１０％)

●オフィスアワー

水曜日　１３：００～１５：００　（研究室：本館５０４）

●備考

給食実務演習Ⅰ

担当者：　千葉　しのぶ

●科目の概要

この授業は、給食管理実習Ⅰの授業に引き続き行う。
給食管理実習Ⅰは、給食運営の計画・実践・評価の技術を習得することを目標としている実習である。そこで、本演習では、学生がＰＤＣＡサイクルを辿りながら、研究的、積極的かつ円滑に学内実習の準備、本番実習、事後の反省・評価の内容とプロセスを習得することを目的とする。特に、この授業では、衛生管理班と本番実習班の報告会を中心に行う。衛生管理班は、本番実習班の給食の運営の現場で衛生管理をチェックするとともに、自分の班の本番実習に生かすために観察し報告する。本番実習班は、工程表に従って効率よくランチの提供ができたか否か等について報告する。

●授業計画

1 栄養管理 (給与栄養目標量、食品構成表の理解)
2 栄養管理 (予定献立の作成)
3 栄養管理 (試作・試食)
4 栄養管理 (実施献立表の作成)
5 衛生管理 (人・食材・施設設備・調理機器・食器等)
6 衛生管理 (調理工程における需要管理事項の４項目の理解)
7 食材料管理 (食材料の購入計画・発注表作成)
8 食材料管理 (検収・保存食・保管)
9 生産管理 (大量調理の特性)
10 生産管理 (作業工程表の作成)
11 事務管理 (書類の整備・栄養報告書)
12 原価管理 (予算、決算、金銭出納簿)
13 栄養教育 (食教育パネルの作成、一言アドバイスの作成)
14 栄養教育 (食事バランスガイドの活用、献立説明原稿作成)
15 評価 (栄養・食の評価（残菜調査・アンケート・衛生管理)
16 定期試験 (６０分で実施)

●到達目標

1. 報告会を通して、衛生管理の重要性に気づき、実践できる
2. 実習班の給食運営に関するＰＤＣＡサイクルを理解する
3. 報告会で習得したことを本番実習に活かすことができる

●授業時間以外の学習

・１年後期終了後、２年前期の学内実習に向け課題 (献立作成・試作・一言アドバイス等) に取り組み、２回の本番実習終了後、実習記録の記入 (各自) 及び帳票類のまとめ (各班) をする

●テキスト・参考書等

テキスト：給食マネジメント実習　編集齊藤貴美子　㈱学研書院
「大量調理～品質管理と調理の実際～」殿塚婦美子　学研書院
「衛生管理＆調理技術マニュアル」
文部科学省スポーツ青少年局　学校健康教育課
参考書：給食管理のテキスト参考書

●成績評価

定期試験５０％　提出物２０％　受講態度３０％

●オフィスアワー

水・金曜日　１４：２５～１６：００
（給食管理研究室：南１０４）

●備考

給食管理実習Ⅰ（学内実習）

担当者：　千葉　しのぶ

●科目の概要

この実習は、給食管理、応用栄養学実習、調理学及び実験・実習、栄養学総論、食品学各論、食品衛生学実験等の講義や実習で学んだ基礎的知識を生かし、実際に学生等を対象とした給食（大量調理）を実施、給食の運営の計画、実践、評価の方法・技術を習得し、特定給食施設の栄養士の業務を身に付けることを目的とする。

給食管理実習Ⅰでは、１８～２９歳の女性、身体活動レベルⅡを対象とする。授業は班で活動し、献立作成　試作、衛生管理実習、実習打ち合わせ、本番実習（大量調理の実際）、反省会（評価）の順に行う。

●授業計画

1 オリエンテーション
2 献立作成 (１回目) 目標量・食品構成表の把握
3 試作・検討 (２人分、２回以上)
4 食材量管理 (発注書)、作業管理 (作業役割表、工程表)
5 衛生管理実習 (実習班の衛生管理・作業管理の評価、報告)
6 実習打ち合わせ (大量調理の工程、衛生管理等)
7 大量調理実習 (検収・保管・調理・盛り付け・供食) 食育
8 実習反省会及び帳票整理 (報告書作成)
9 献立作成 (２回目) ※２～８まで繰り返す
10 試作・検討 (２人分、２回以上)
11 食材料管理 (発注書)、作業管理 (作業役割表、工程表)
12 衛生管理実習 (実習班の衛生管理・作業管理の評価、報告)
13 実習打ち合わせ〈作業工程 (クックチル・真空調理)〉
14 大量調理実習前日 (検収・保管・クックチル・真空調理)
15 大量調理実習当日 (検収・保管・調理・盛付・供食) 食育
16 実習反省会及び帳票整理 (報告書作成) 総括

●到達目標

1. 給食管理、調理学実習等で学んだ知識、技術を生かせる
2. 給食運営の計画・実践・評価の方法・技術を理解する
3. 学生を対象にした給食の計画・実践・評価ができる

●授業時間以外の学習

・事前に課題（献立作成、作業役割表作成、試作）に取り組む
・実習終了後の反省会（時間外）への参加（各班２回）
・前期終了後、給食マネジメント実習帳票記帳による自己評価

●テキスト・参考書等

テキスト：給食マネジメント実習　編集　齊藤貴美子　㈱学建書院
「大量調理～品質管理と調理の実際～」殿塚婦美子　学建書院
「衛生管理＆調理技術マニュアル」
文部科学省スポ・ーツ青少年局学校健康教育課
参考書：給食管理のテキスト参考書

●成績評価

受講態度５０％　提出物５０％

●オフィスアワー

水・金曜日　１４：２５～１６：００
(給食管理研究室：南１０４)

●備考

給食管理実習Ⅱ・Ⅲ事前事後指導

担当者：　千葉・寺師・改元

●科目の概要

６月・８月に実施される給食管理実習Ⅱ・Ⅲを履修するに当たって必要な知識・技能・態度を養う。

何を学びたいか具体的な目的・目標を持ち、実習に当たっての抱負と課題を明確にする。

また、実習施設での実習内容を予め把握し、予習や予備練習を行う場とする。具体的には、実習施設から提示された課題(献立作成、試作、食育指導案、教材作成等) について取り組む。

●授業計画

1	給食管理実習Ⅱ事前オリエンテーション (事前訪問等)	A
2	実習の目的と内容 (保育所)「抱負と課題」の作成完了	A
3	実習の目的と内容 (高齢者施設等)「抱負と課題」作成完了	A
4	実習目的と内容 (学校給食施設)「抱負と課題」作成完了	A
5	卒業生による各給食施設の栄養士の業務及び実習心得指導	A
6	給食管理実習心得及び実習先の課題完了	A
7	給食管理実習Ⅱ体験発表	A
8	実習Ⅲの意義と目的、心得と注意点の説明	B
9	実習関係書類の内容説明、「抱負と課題」作成指導	B
10	実習先 (病院) の特徴と栄養士業務の理解Ⅰ (献立作成)	B
11	実習先 (病院) の特徴と栄養士業務の理解Ⅱ (栄養指導作成)	C
12	施設別課題演習Ⅰ (献立作成)	B
13	施設別課題演習Ⅱ (栄養指導作成)	C
14	施設別課題演習Ⅲ (資料作成)	C
15	総括	D
16		

●到達目標

1. 実習の意義・目的を理解し、相応しい態度で実習に臨む
2. 献立作成能力、調理技術等基礎的な技能を身に付ける
3. 実習の成果を今後の進路に生かすことができる

●授業時間以外の学習

・実習施設の内容、特徴を調べておく
・実習施設からの課題を把握する
・学外実習交流会にて1年生を指導する

●テキスト・参考書等

テキスト：給食管理実習Ⅱ・Ⅲ記録、参考書：「給食の運営」計画と実践・栄養士必携・「大量調理～品質管理と調理の実際～」・「衛生管理＆調理技術マニュアル」・給食マネジメント演習・「糖尿病食事療法のための食品交換表」、「腎臓病食品交換表」

●成績評価

課題提出状況 (７０％) 発表等 (２０％) 受講態度 (１０％)

●オフィスアワー

竹原：水曜日１５：００～１８：０　（給食管理研究室：南１０４）
寺師：月曜日１３：００～１８：００　（研究室：南２０３）

●備考

A（千葉：授業計画1～7）
B（寺師：授業計画8～10, 12）
C（改元：授業計画11, 13～14）
D（千葉・寺師・改元：授業計画15）

給食管理実習Ⅱ

担当者：　千葉　しのぶ

●科目の概要

この実習では、学外実習先で、給食業務を行うために必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービス提供の基本的業務を現職の栄養士の下経験し栄養士として具備すべき知識、技能、態度及び考え方を習得する。

さらに、実践活動の場での実体験を通して、必要とされる給食の運営に関する専門的知識及び技術の統合を図ることを目的とする。

●授業計画

1　学外の実習施設により指示される実習日程に従って行う
2　事前訪問をし概要、日程、課題等について指導を受ける
3　どのような法律に基づいて給食が提供されているのかを学ぶ
4　栄養・食事管理、給食の提供までの業務に必要な知識を学ぶ
5　大量調理の特性を知り調理作業への反映について学ぶ
6　衛生管理の給食の現場での実践を学び、体験する
7　給食運営のための施設・設備管理、作業管理等について学ぶ
8
9
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 各特定給食施設の給食について理解する
2. 各特定給食施設の栄養士の役割について理解する
3. 給食サービス提供に関する専門的技能を身に付ける

●授業時間以外の学習

・実習先に提出する「実習に当たっての抱負と課題」の取組
・実数先の給食運営に関する情報を収集
・課題 (試作を含む献立作成、教材を含む食育指導案の作成)

●テキスト・参考書等

・給食マネジメント実習　編集　齊藤貴美子　㈱学建書院・
・「大量調理～品質管理と調理の実際～」殿塚婦美子　学建書院
・「衛生管理＆調理技術マニュアル」
　　文部科学省スポーツ青少年局　学校健康教育課
・「給食管理」のテキスト参考書

●成績評価

学外実習先の評価 (８０％) 受講態度・実習記録・実習後の自己評価等 (２０％) による総合評価

●オフィスアワー

水・金曜日　１４：２５～１６：００
(給食管理研究室：南１０４)

●備考

給食管理実習Ⅲ（学外実習）

担当者：　寺師　改元

●科目の概要

学外実習先で給食運営に必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービス提供の基本的業務を現職の栄養士のもと経験し、栄養士として具備すべき知識、技能、態度および考え方を給食管理実習Ⅱを踏まえて習得することで、より実践的なスキルを身につける。

●授業計画

1　実習概要、実習日程、課題設定の指導
2　実習施設により指示される実習日程で実習をおこなう
3　給食管理における関連法規と実際
4　献立作成から給食提供に至るまでの業務の把握
5　大量調理の特性と留意点
6　大量調理の衛生管理の実際
7　給食運営をおこなうための施設・設備管理および作業管理
8　総括
9
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 各給食施設の給食について理解する
2. 各給食施設の栄養士の役割について理解する
3. 給食サービス提供に関する専門的技能を身につける

●授業時間以外の学習

・実習先に提出する「実習にあたっての抱負と課題」について考えをまとめる
・実習先から課された課題に取り組む

●テキスト・参考書等

テキスト：給食管理実習Ⅲ記録
参考書：わかりやすい臨床栄養学（三共出版：吉田勉　他）、糖尿病食事療法のための食品交換表（文光堂：日本糖尿病協会）

●成績評価

学外実習先の評価および実習記録等による総合評価

●オフィスアワー

寺師：月曜日　１３：００～１８：００
改元：水曜日　１３：００～１５：００(研究室：本館５０４)

●備考

調理学実習Ⅱ

担当者：　山﨑　歌織

●科目の概要

健康増進を根底におき、食材の栄養・特性を知り、それをいかす調理技術を基礎から応用へ進めながら、合理的かつ安心安全で栄養学的に望ましい食事作りができる力を養う。同時に、旬の食材や地域の特性をいかし、食文化について理解を深める。
※教育効果を向上させるため、１回の授業を２コマ（１８０分）で実施する。

●授業計画

1 調理学実習の心得　基本的な調理操作理論の確認
2 日本料理の特徴と調理①
3 日本料理の特徴と調理②
4 郷土料理
5 西洋料理の特徴と調理①
6 西洋料理の特徴と調理②
7 中間まとめ
8 郷土料理
9 中国料理の特徴と調理①
10 中国料理の特徴と調理②
11 魚のさばき方講習会
12 行事食
13 実技・定期試験
14
15
16

●到達目標

1. 食材に関する基礎的知識を身につけ食品を扱うことができる
2. 調理学実習の心得を意識し、段取りを考えた調理ができる
3. 地域や旬の食材を活用した食事作りができる

●授業時間以外の学習

・毎時間の事前資料を基に、料理レシピをフローチャート化する
・事後には毎時間ごとに学習した内容をレポートにまとめ提出する
・日々調理に携わり、技術の向上に努める

●テキスト・参考書等

テキスト：調理と理論、山崎・島田・渋川ほか、同文書院
　　調理学実習レシピ（毎時間配布）
参考書　：NEW 基礎調理学、若松・鎹・外西、医歯薬出版
　　操作別調理学実習、中野・外西・二木・池田、同文書院
　　食品成分表、香川芳子監修、女子栄養大学出版部

●成績評価

実習・課題レポート６５％　受講態度２０％
実技・定期試験１５％

●オフィスアワー

金曜日　１４：００～１７：００　（研究室：西２０５）

●備考

食品加工学実習

担当者：　内匠　正太

●科目の概要

食生活における加工食品の占める比率は、近年著しく増加している。この実習は食品学、食品加工学等の講義をふまえて、食品成分とその変化、食材の物性や栄養価、食品の保蔵性や安全性などを理解しながら加工技術を習得し、広く食糧資源の確保と有効利用に役立てることを目標とする。

●授業計画

〈1～4〉
植物性食品（米－大福もち、小麦粉－バターロール、うどん、ビスケット、カボチャ饅頭等）の加工

〈5～7〉
植物性食品（いも－大学芋、いきなり団子、大豆－豆腐、種実－ピーナッツクリーム等）の加工

〈8～11〉
植物性食品（果実－梅漬け、マーマレード等）の加工

〈12～15〉
植物性食品（漬物等）
動物性食品の加工（豚味噌）
海産物の利用（ところてん、佃煮）
微生物利用食品（ヨーグルト、納豆、ミソ等）の製造

●到達目標

穀類（米、小麦粉）、豆類（大豆、小豆）、いも類、果実、野菜、肉、牛乳、卵、海藻類等を材料にして、パン、うどん、漬物、マーマレード、まんじゅう等の加工品を毎回１～２種類製造する．

●授業時間以外の学習

実習終了時には、実習に関連する課題と実験のレポート提出を義務づけ、翌週の実習開始までに提出させる.

●テキスト・参考書等

「食品加工学実習」徳満　巌ら　共著

●成績評価

受講態度（５０％）　レポート（５０％）

●オフィスアワー

水曜日　１５：００～１７：００　研究室

●備考

加工原料は収穫時期が変動するものがあるため、予定表は実習開始日に配布する

くらしとお茶 B

担当者：　村山　松﨑　山﨑　住澤　有馬 (恵)
佐藤　中禮

●科目の概要

茶の歴史や栽培法、機能性、性質や利用法、品質検査や鑑定法等、日本茶アドバイザーとして必要な知識を身につけるとともに、茶文化の発展と普及に寄与する人材となることを目指す。

●授業計画

1	オリエンテーション (日本茶アドバイザーの説明)	A
2	歴史 (日本茶、鹿児島茶の歴史を学ぶ)	B
3	茶の利用 (茶を使った料理について学ぶ)	C
4	茶業のあらまし (茶の生産、消費、流通等を学ぶ)	D
5	茶の栽培 (種類別栽培・方法を学ぶ)	D
6	茶の製造（製造方法を学ぶ）	D
7	茶の化学 (化学成分、品質等を学ぶ)	A
8	茶の健康科学 (効能、効果等を学ぶ)	E
9	茶の品質検査と鑑定 (官能検査法を学ぶ)	F
10	茶の品質検査と鑑定 (鑑定技術を学ぶ)	F
11	インストラクション技術 (服装、話し方、接客)	G
12	インストラクション技術 (茶の淹れ方)	F
13	インストラクション技術 (茶の淹れ方)	F
14	インストラクション技術 (茶の淹れ方)	F
15	インストラクション技術 (茶の淹れ方)	F
16		

●到達目標

1. 日本茶アドバイザーの意義、概要、役割を理解する
2. 茶に関する知識と理解を深める

●授業時間以外の学習

・前もってテキストに目を通す
・日常の生活の中で、お茶の葉の種類、色や香り、味等を確認する

●テキスト・参考書等

テキスト：「日本茶アドバイザー講座Ⅰ、Ⅱ」ＮＰＯ法人日本茶インストラクター協会
参考書：「シリーズ《食品の科学》茶の科学」村松敬一郎編、朝倉書店

●成績評価

定期試験６０%、実技テスト４０%

●オフィスアワー

集中講義開講期間の講義前後、講義実施教室

●備考

学内他学科・他専攻開放科目
夏休み集中講義
A: 村山　B: 松﨑　C: 山﨑　D: 佐藤
E：住澤　F：中禮　G: 有馬（恵）

発達心理学

担当者：　平嶋　慶子

●科目の概要

発達の定義とその様相を学び、生命の発達はどのような道すじをたどるのかを理解する。また、ひとの一生涯の発達を学ぶことによって発達変化の意味を考え、自分自身を理解する。

●授業計画

1 序論：発達と何か
2 発達の原則：発達段階
3 発達の規定因：遺伝と環境
4 発達のメカニズム：相互作用説
5 発達段階とその特徴１．胎児期～周産期～乳児期
6 〃　２．幼児期
7 〃　３．児童期
8 〃　４．思春期～青年期
9 〃　５．成人期（壮年期～老人期）
10 各側面の発達１．知覚と認知・思考
11 〃　２．ことばとコミュニケーション
12 〃　３、情動と意思
13 〃　４．社会性と道徳性
14 〃　５、親子関係とパーソナリティー
15 発達のつまずきとその援助・総括
16 定期試験

●到達目標

1. 発達の概念と発達の原則を学ぶ
2. 発達理論を理解する
3. 人の一生の発達的変化を学ぶ

●授業時間以外の学習

配布資料は講義後にも熟読し、毎回持参すること
キーワードは、講義中であっても検索可、ノートや配布資料に調べたことを書きこんでおくとよい

●テキスト・参考書等

新・プリマーズ／保育／心理　発達心理学　無藤隆／中坪文典／西山修　編著　ミネルヴァ書房
参考文献等は講義中に適宜紹介する

●成績評価

受講態度２０%　定期試験８０%

●オフィスアワー

月・水・金曜日　９・１０限　研究室

●備考

単位互換開放対象科目

教育課程の研究

担当者：　横峯　孝昭

●科目の概要

小学校の教育課程について理解するために、小学校学習指導要領第１章総則を読み解き、その基本的な考え方についての内容を深める

●授業計画

1　オリエンテーション
2　教育課程と学習指導要領
3　教育課程の基準と法令
4　教育課程編成の原則及び一般方針
5　内容等の取り扱いに関する共通事項
6　授業時数及び指導計画の作成
7　道徳・特別活動・総合的な学習の時間
8　総括
9　定期試験
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 教育課程編成の基準となる法律について理解する
2. 教育課程編成の基準となる学習指導要領総則について理解する

●授業時間以外の学習

・学習指導要領の全文、解説書を一字一句読み解くことはしないため、一度は目を通しておくことをすすめる

●テキスト・参考書等

〈参考書〉
小学校学習指導要領　文部科学省
小学校学習指導要領解説　総則編　文部科学省

●成績評価

学期末試験（70%）受講態度（30%）

●オフィスアワー

月曜：14:40～18:00

●備考

栄養教育実習事前事後指導

担当者：　山﨑　歌織

●科目の概要

栄養教育実習の意義・目的を理解し、教育実習生としての心得や栄養教育実習に必要な知識と技術を習得する。また、栄養教諭としての自覚や心構えを養い、児童生徒の実態について理解を深め、食に関する適切な指導ができる実践的能力を培うことを目的とする。

●授業計画

1　栄養教育実習事前オリエンテーション
2　学校教育における栄養教育実習の位置づけと実習の流れ
3　実習記録等の記録方法および提出について
4　栄養教育実習の心得
5　学習指導案の作成 (実態把握・計画・展開・評価) ①
6　学習指導案の作成 (実態把握・計画・展開・評価) ②
7「食に関する指導」(個別指導・集団指導・教材作成)
8　栄養教育実習体験発表による課題の明確化
9
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 栄養教育実習の意義・目的を理解する
2. 食に関する学習指導案および関係資料を作成する
3. 児童生徒に対する食教育を実践する能力を身につける

●授業時間以外の学習

・事前準備を十分に行い提出物の期限を守れるようにする
・事後には資料の整理やまとめを行う

●テキスト・参考書等

テキスト：食に関する指導の手引、文部科学省、東山書房
参考書　：かんたん CD-ROM ですぐできる あなたの学習指導案！
　　鹿児島県学校栄養士協議会、鹿児島県
　　栄養教諭論 理論と実際、金田雅代、建帛社

●成績評価

課題等提出物６０％　受講態度４０％

●オフィスアワー

金曜日　１４：００～１７：００　（研究室：西２０５）

●備考

栄養教育実習

担当者：　山﨑　歌織

●科目の概要

栄養教育実習の意義・目的を理解し、栄養教諭の職務や学校での役割等について主に鹿児島県内の小・中学校において理解を深める。また、児童生徒の実態について理解した上で、児童生徒への指導方法を学ぶ。

●授業計画

1　学校経営・校務分掌・教員の服務等の指導講話
2「食にする関する指導」の年間計画の説明
3　給食時間における放送、配膳、後片付け指導の参観補助
4「食に関する指導」等、教科・学級活動等の参観・教材研究
5「食に関する指導」の家庭・地域との連携・調整の参観補助
6　児童生徒への個別的な相談に対する指導の参観補助
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 栄養教諭の職務を理解し体験する
2. 児童生徒に対する指導の実際を学び実践する
3. 学校教諭として責任ある教育活動を営む実践力を養う

●授業時間以外の学習

・課題を行い実習校で十分に学習できるように事前準備を怠らない
・事後には資料の整理やまとめを行い実習記録等の提出をする

●テキスト・参考書等

テキスト：食に関する指導の手引、文部科学省、東山書房
参考書　：かんたん CD-ROM ですぐできる あなたの学習指導案！
鹿児島県学校栄養士協議会、鹿児島県
栄養教諭論 理論と実際、金田雅代、建帛社
学習指導要領、文部科学省

●成績評価

実習校の評価を基に「栄養教育実習事前事後指導」の成果を含めて総合的に行う

●オフィスアワー

金曜日　１４：００～１７：００　（研究室：西２０５）

●備考

COC 関連科目

社会福祉概論

担当者：　谷川　知士

●科目の概要

現代社会において、日々の暮らしと社会福祉は密接に関係しており、日常生活から切り離すことはできない。栄養士として社会生活を送る上で、自らが生活に困った時や周りに困った人がいた時には、どのようにすれば困難から抜け出せるのか、安心して生活が送れるかなど、生涯を通じて社会福祉に関する各種の法律や制度を理解し、それらの基礎知識を身につけることは大切なことである。

●授業計画

1　社会福祉の意義と概念について学ぶ
2　社会福祉の歴史と背景について学ぶ
3　現代社会における社会福祉の制度と法体系について学ぶ
4　社会福祉における栄養士の役割と貧困について学ぶ
5　高齢者福祉とサービス体制について学ぶ
6　介護保険制度とサービス体系について学ぶ
7　障がい児・者の福祉サービス体系について学ぶ
8　障害者総合支援法の概要について学ぶ
9　児童家庭福祉と少子化対策について学ぶ
10　年金・医療保険制度について学ぶ
11　精神保健福祉法と発達障害者支援法について学ぶ
12　社会福祉援助技術における対人援助技術について学ぶ
13　個別援助技術と集団援助技術について学ぶ
14　社会福祉施設の職員と役割及びチームワークにつて学ぶ
15　社会福祉の動向と今後の展望について考察する
16

●到達目標

1. 社会福祉の歴史的背景と意義及び法体系について理解する
2. 社会保障制度の目的と原則について理解する
3. 社会福祉援助技術の目的と役割について理解する

●授業時間以外の学習

・行政や福祉施設における栄養士の役割について考察しておく。

●テキスト・参考書等

テキスト：保育ライブラリー 社会福祉 [新版] 片山義弘・李木明徳
編著 北大路書房
参考図書：国民の福祉の動向 厚生労働統計協会編

●成績評価

・受講態度や提出物等（30%）・筆記試験（70%）

●オフィスアワー

第１・第３水曜日　14：40～17：55　谷川研究室

●備考

運動生理学

担当者：　大村　一光

●科目の概要

身体のさまざまな生命現象のメカニズムを研究する学問に生理学があるが、なかでも運動・スポーツによって、身体の諸器官、機能がどのような働きを示し、それらがどのように変化するのかを明らかにする学問を運動生理学と呼ぶ。本講義では、ウォーキング、ジョギングなど身近な運動を通して運動による人体生理機序の理解をはかる

●授業計画

1　オリエンテーション、前半活動種目の決定
2　運動と身体組成 (体脂肪率、除脂肪体重)
3　運動とエネルギー (無酸素運動の定義と運動効果)
4　運動とエネルギー (有酸素運動の定義と運動効果)
5　運動と呼吸 (最大酸素摂取量と運動による変化)
6　運動と循環 (運動による循環系への適応，スポーツ心臓)
7　運動と神経 (運動と技能の上達，神経系の役割)
8　運動と骨 (骨粗しょう症，運動の効果)
9　定期試験
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 人体各種機能の理解を深める
2. 運動に伴う機能の変化を理解する
3. 指導現場への応用ができるようにする

●授業時間以外の学習

・１年次の解剖生理学等の復習を十分に行うこと

●テキスト・参考書等

運動生理学、石井喜八　他、大修館
毎時間、資料配布を行う

●成績評価

定期試験 (７０％) 受講態度 (３０％)

●オフィスアワー

水、木曜日　１２：０５～１２：５５(研究室：体育館１０１)

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

病態生化学

担当者：　住澤　知之

●科目の概要

体内での代謝異常、遺伝病、免疫の働きとその破たんによる疾患、種々ホルモンの働きによる恒常性の維持について学ぶ。栄養士に必要な基礎知識として、疾患の成り立ち、病態、診断、治療の基本的な考え方をよく理解して、栄養士実力認定試験に備えるとともに、管理栄養士への動機づけとなることを望む。
「栄養生化学Ⅱ」と「生化学実験Ａ」の単位を修得していることが望ましい。

●授業計画

1　血糖値の維持と糖尿病
2　脂質の代謝と脂質代謝異常症
3　アミノ酸の代謝とアミノ酸代謝異常症
4　ヌクレオチドの代謝と痛風
5　生活習慣病と遺伝的背景
6　自己免疫疾患
7　血圧の調節と高血圧、腎疾患
8　肝機能の検査、血液検査、尿検査
9　定期試験
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 疾病の成因・病態等について説明できる
2. 生体における恒常性維持の仕組みについて説明できる

●授業時間以外の学習

・栄養士実力認定試験で過去に出題された「人体の構造と機能」の領域の問題を見直して、それらが解けるようにしておく

●テキスト・参考書等

必要に応じてプリントを配布するため、テキストは使用しない
参考書：「疾病の成因・病態・診断・治療」　医歯薬出版株式会社
「疾病と病態生理」　改訂第3版　南江堂
「栄養士実力認定試験過去問題集」　建帛社

●成績評価

定期試験 (60%)、各疾患と関連する代謝等との関係についてまとめたグループワークのレポート (40%)

●オフィスアワー

金曜日　１３：００～１９：３０　(研究室：本館５０１)

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

栄養指導実習Ⅱ

担当者：　改元　香

●科目の概要

栄養指導論Ⅰ・Ⅱおよび栄養指導実習Ⅰで得た知識や技術を土台にして、具体的な対象者に対する栄養アセスメントをおこない、指導することができる。また、食行動の変容に導く理論と技術を習得する。
※教育効果を向上させるため、１回の授業を２コマ（１８０分）で実施する。

●授業計画

1 栄養教育法 (プレゼンテーションのための指導案作成)
2 栄養教育法 (プレゼンテーションのための媒体作成)
3 栄養教育法 (プレゼンテーションの実施)
4 個人を対象とした栄養教育 (肥満)
5 個人を対象とした栄養教育 (糖尿病)
6 個人を対象とした栄養教育 (腎臓病)
7 集団を対象とした栄養教育 (指導案作成)
8 集団を対象とした栄養教育 (媒体作成)
9 カウンセリングの栄養教育への応用
10 ロールプレイによるカウンセリング実習
11 症例別栄養指導 (症例に基づいた評価・判定)
12 症例別栄養指導 (症例に基づいた評価・判定)
13 定期試験
14
15
16

●到達目標

1. 対象者に対して計画的に問題を解決することができる
2. 対象者に応じた栄養教育を媒体を使用して実施することができる
3. 行動変容の評価ができ、改善点を見出すことができる

●授業時間以外の学習

・授業の予習 (栄養指導論Ⅰ・Ⅱで習得した関連項目を教科書等で確認し、実習に備える)
・授業の復習 (実習で返却、演習したプリントを確実に理解する)

●テキスト・参考書等

テキスト：演習栄養教育 (医歯薬出版株式会社：)、糖尿病食事療法のための食品交換表 (文光堂：日本糖尿病協会)、腎臓病食品交換表 (医歯薬出版株式会社：黒川清　他)
参考書：栄養士のための栄養指導論 (学建書院：芦川修貳　他)

●成績評価

定期試験の成績 (６０％) ※試験時間は６０分
提出物 (３０％) 受講態度 (１０％)

●オフィスアワー

木曜日　９：００～１２：３０(研究室：本館５０４)

●備考

給食実務演習Ⅱ

担当者：　千葉　しのぶ

●科目の概要

この授業は、給食管理実習Ⅳの授業に引き続き行う。
給食管理実習Ⅳは、給食運営の計画・実践・評価の技術を習得することを目標としている実習である。そこで、本演習では、学生がＰＤＣＡサイクルを辿りながら、研究的、積極的かつ円滑に学内実習の準備、本番実習、事後の反省・評価の内容とプロセスを習得することを目的とする。特に、この授業では、衛生管理班と本番実習班の報告会を中心に行う。衛生管理班は、本番実習班の給食の運営の現場で衛生管理をチェックするとともに、自分の班の本番実習に生かすために観察し報告する。本番実習班は、工程表に従って効率よくランチの提供ができたか否か等について報告する。

●授業計画

1 栄養管理 (保育所給食、学校給食、高齢者施設の給食)
2 栄養管理 (予定献立の作成)
3 栄養管理 (試作・試食)
4 栄養管理 (実施献立表の作成)
5 衛生管理 (人・食材・施設設備・調理機器・食器等)
6 衛生管理 (調理工程における需要管理事項の４項目の理解)
7 食材料管理 (食材料の購入計画・発注表作成)
8 食材料管理 (検収・保存食・保管)
9 生産管理 (大量調理の特性)
10 生産管理 (作業工程表の作成)
11 事務管理 (書類の整備・栄養報告書)
12 原価管理 (予算、決算、金銭出納簿)
13 栄養教育 (食教育パネルの作成、一言アドバイスの作成)
14 栄養教育 (食事バランスガイドの活用、献立説明原稿作成)
15 評価 (栄養等の評価（残菜調査・アンケート・衛生管理)
16 定期試験 (６０分で実施)

●到達目標

1. 報告会を通して、衛生管理の重要性に気づき、実践できる
2. 実習班の給食運営に関するＰＤＣＡサイクルを理解する
3. 報告会で習得したことを本番実習に活かすことができる

●授業時間以外の学習

・２年前期終了後、２年後期の学内実習に向け課題 (献立作成・試作・一言アドバイス等) に取り組み、２回の本番実習終了後、実習記録の記入 (各自) 及び帳票類のまとめ (各班) をする

●テキスト・参考書等

テキスト；給食マネジメント実習　編集　齊藤貴美子　㈱学建書院
「大量調理～品質管理と調理の実際～」殿塚婦美子　学建書院
「衛生管理＆調理技術マニュアル」
文部科学省スポーツ青少年局　学校健康教育課
参考書：給食管理のテキスト参考書

●成績評価

定期試験５０％　提出物２０％　受講態度３０％

●オフィスアワー

水・金曜日　１４：２５～１６：００
(給食管理研究室：南１０４)

●備考

給食管理実習Ⅳ（学内実習）

担当者：　千葉　しのぶ

●科目の概要

この実習は、給食管理、応用栄養学実習、調理学及び実験・実習、栄養学総論、食品学各論、食品衛生学実験等の講義や実習で学んだ基礎的知識を生かし、実際に学生等を対象とした給食 (大量調理) を実施、給食の運営の計画、実践、評価の方法・技術を習得し、特定給食施設の栄養士の業務を身に付けることを目的とする。

給食管理実習Ⅳでは、各班で選択した保育所、学校給食、高齢者施設等の給食の献立を大量調理の実習として学生等に提供する。授業は班で活動し、献立作成　試作、衛生管理施設実習、実習打ち合わせ、本番実習 (大量調理の実際)、反省会 (評価) の順に行う。

●授業計画

1 オリエンテーション
2 献立作成 (1回目) 目標量・食品構成表の把握
3 試作・検討 (２人分、２回以上)
4 食材量管理 (発注書)、作業管理 (作業役割表、工程表)
5 衛生管理実習 (実習班の衛生管理・作業管理の評価、報告）
6 実習打ち合わせ (大量調理の工程、衛生管理)
7 大量調理実習 (検収・保管・調理・盛り付け・供食) 食育
8 実習反省会及び帳票整理 (報告書作成)
9 献立作成 (２回目) ※２～８まで繰り返す
10 試作・検討 (２人分、２回以上)
11 食材料管理 (発注書)、作業管理 (作業役割表、工程表)
12 衛生管理実習 (実習班の衛生管理・作業管理の評価、報告)
13 実習打ち合わせ〈作業工程 (クックチル・真空調理)〉
14 大量調理実習前日 (検収・保管・クックチル・真空調理)
15 大量調理実習当日 (検収・保管・調理・盛付・供食) 食育
16 実習反省会及び帳票整理 (報告書作成) 総括

●到達目標

1. 給食管理、調理学実習等で学んだ知識、技術を生かす
2. 給食運営の計画・実践・評価の方法・技術を理解する
3. 学生を対象にした給食の計画・実践・評価ができる

●授業時間以外の学習

・事前に課題（献立作成、作業役割表作成、試作）に取り組む
・実習終了後の反省会（時間外）への参加（各班２回）
・前期終了後、給食マネジメント実習帳票記帳による自己評価

●テキスト・参考書等

テキスト：給食マネジメント実習　編集　齊藤貴美子　㈱学研書院
「大量調理～品質管理と調理の実際～」殿塚婦美子　学研書院
「衛生管理＆調理技術マニュアル」
文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課
参考書：給食管理のテキスト参考書

●成績評価

実習態度５０％　提出物５０％

●オフィスアワー

水・金曜日　１４：２５～１６：００

●備考

ＣＯＣ科目 (学生手作りランチの地域開放)

調理学実習Ⅲ

担当者：　立石　百合恵

●科目の概要

食はいのちに繋がるものである考えを基本とし、調理学実習の基礎をふまえ、調理を科学的・文化的にとらえる。楽しい食卓作りのために伝統的な日本料理・郷土料理の価値を再認識し、異なる国の食文化の様式、マナー等を理解して総合的に調理を行う。それにより、ライフステージの中で幅広い料理を主体的に提供できるようになることを目的とする。

※教育効果を向上させるため、１回の授業を２コマ (１８０分) で実施する。

●授業計画

1 食事計画、調理基本動作、実習心得、フローチャートの記入
2 日本料理
3 日本料理
4 日本料理
5 西洋料理
6 西洋料理
7 西洋料理
8 中国料理
9 中国料理
10 イタリア料理
11 薬膳料理
12 総括
13 定期試験
14
15
16

●到達目標

1. 食材に関する基礎的知識を身につけ食品を扱うことができる
2. 調理の基本動作と技術、実習の心得を身につける
3. 日本料理を中心に異なる国の食文化や調理法を理解し調理する

●授業時間以外の学習

・事前にﾚｼﾋﾟをフローチャート化し手順、器具、食器等を想定する
・事後には、各料理について考察しレポートにまとめ提出する
・日々調理に携わり、技術の向上に努める

●テキスト・参考書等

テキスト　調理と理論、山崎・島田・渋川ほか、同文書院
調理学実習レシピ（毎時間配布）
参考書　操作別調理学実習、中野・外西・二木・池田、同文書院
食品成分表、香川芳子監修、女子栄養大学出版部
中医薬膳学、辰巳洋、東洋学術出版

●成績評価

受講態度（４０％）実習・課題レポート（３０％）
定期試験（３０％）

●オフィスアワー

講義時間の前後（講義室）

●備考

食品評価・鑑別実験

担当者：　内匠　正太

●科目の概要

多種多様な食品が溢れているが、品質や安全性を理解するためには、科学的、物理的、生物的に評価、鑑別する技術を持って対応することが必要である。比較的簡易な鑑別法や高度な分析法によって、身近な食品の品質を評価する技術を実験によって習得する。

●授業計画

・食品の評価・鑑別法として
①嗜好テスト(香気, 呈味:酸味, 甘味, 辛味, 苦味, 旨味, ﾃｸｽﾁｬｰ)
②識別テスト(熟度・鮮度:品種による適正サイズ, 重量など)
③成分の化学分析(水分, 色素成分, 呈味成分, 香気成分など)
④成分間の反応(酵素的褐変, 非酵素的褐変)を行う
・食品項目に関して
①米の鑑別(新古米の判別)
②小麦粉の湿麩, 乾麩量(種類, 等級)
③パン, 麺類, パスタの品質
④野菜(天然色素およびそれらの変色)
⑤⑥果実(有機酸, 還元糖) ⑦青果物や果汁のビタミンC
⑧肉, 乳類(鮮度, カルシウム) ⑨調味料(塩分)
⑩嗜好品, 海産物(糖アルコール) ⑪食品の灰分, 鉄含量
⑫加工食品の水分活性 ⑬食品のポリフェノール含量
⑭アミノカルボニル反応　⑮ポリフェノールの測定

●到達目標

1. 食品の品質評価技術について理解する
2. 食品成分と評価の関係について理解する

●授業時間以外の学習

実習終了時には、実習に関連する課題と実験のレポート提出を義務づけ、翌週の実習開始までに提出させる

●テキスト・参考書等

「基礎食品学実験書」中村カホルら編著　三共出版

●成績評価

受講態度（５０％）　レポート（５０％）

●オフィスアワー

水曜日　１５；００～１７：００　研究室

●備考

食料経済

担当者：　田代　正一

●科目の概要

戦後わが国では国民の食生活に大きな変化が起こった。なかでも主食である米の消費量の減少、畜産物や油脂類の消費の増加が目立っている。ところが畜産物生産に不可欠な家畜飼料や食用油の原料となる油糧種子のほとんどは海外からの輸入に頼っている。そのため、わが国ではカロリーベースの食料自給率が急速に低下してきた。また、国民の食生活では外食や中食が普及し、食の外部化が進んでいる。その結果、それを支える外食産業や中食産業、食品の加工業や流通業の経済規模が拡大する反面、食品の素材を生産する農業の経済規模が縮小している。このような食料の生産と消費をめぐる経済関係について概説する。

●授業計画

1　食生活の変化と食料自給率の低下
2　日本における食料貿易の現状と特徴
3　食の外部化の進展、生産と消費の乖離
4　国内総生産（ＧＤＰ）と農業・食料関連産業
5　日本の経済成長と食料生産の変貌
6　日本における農業政策の展開
7　海外における食料生産事情を考える
8　遺伝子組換え（ＧＭ）食品と有機農業
9　定期試験
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 食生活の変化と食料自給率の低下要因について理解する
2. 日本の食料貿易の現状と特徴について理解する
3. 日本の食料生産の現状と農業政策の展開について理解する

●授業時間以外の学習

・この授業中に配布したプリントをもとに十分復習すること

●テキスト・参考書等

テキスト：授業中に配布するプリント
参考書：山田三郎他『食料経済』(建帛社)、時山ひろみ他『フードシステムの経済学』(医歯薬出版)

●成績評価

ミニレポート（４０％）
定期試験の成績（６０％）

●オフィスアワー

講義時間の前後　（講義室）

●備考

消費経済論

担当者：　田代　正一

●科目の概要

国民の食生活パターンの変化は、わが国の経済発展によってもたらされたものであるが、同時に家庭の食生活行動様式の変化によるものでもある。加えて、食材供給における輸入の増大、食品流通における加工段階の拡大および外食産業の急展開が後押ししたものでもある。そのような食生活の変化を促すとともに支えてもきた食品加工業、食品流通業、外食産業などの現状と課題について概説する。とりわけ、食品のマーケティング、卸売・小売の仕組み、食品流通におけるスーパーマーケットやコンビニエンス・ストアの役割などに注目する。食品消費をめぐる安全性確保や環境問題についても言及する。

●授業計画

1　食生活の変化とその要因
2　食生活とフードマーケティング
3　食料品の中間流通
4　食料品の小売流通
5　家庭内食と食品小売業
6　外食と外食産業
7　中食と中食産業
8　食品消費の課題と展望
9　定期試験
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 日本における食生活の変化とその要因について理解する
2. 食料品の卸売および小売の流通過程について理解する
3. 食の外部化を支えるフードビシネスの現状と課題を理解する

●授業時間以外の学習

・テキストによる事前予習と配布プリントによる事後復習を十分行うこと

●テキスト・参考書等

テキスト：日本フードスペシャリスト協会編『新版 食品の消費と流通』(建帛社)

●成績評価

ミニレポート (２０％)　期末レポート (８０％)

●オフィスアワー

講義時間の前後　(講義室)

●備考

フードスペシャリスト論

担当者：　村山　恵美子

●科目の概要

フードスペシャリストとは、食品の開発、流通、小売り、外食の分野において、食品の品質判定、広報、食品知識の普及、販売促進、コーディネート、食育活動を目的とする消費者サイドに立った食の専門職である。この講義では、フードスペシャリストの意義とその概要、その役割を理解することを目的とする。

●授業計画

1　オリエンテーション (フードスペシャリスト試験の説明)
2　フードスペシャリストとは (概念、業務、活躍、責務等)
3　現代日本の食生活 (戦後から現代までの食生活の変化を知る
4　現代日本の食生活 (食料自給率、環境と食関係を学ぶ)
5　食品産業の役割 (製造業、卸売業、小売業、外食産業)
6　食情報と消費者保護 (食情報の実態、消費者保護制度を学ぶ)
7　食品の品質規格と表示 (ＪＡＳ法に基づく表示を学ぶ)
8　食品の品質規格と表示 (食品衛生法に基づく表示を学ぶ)
9　食品の品質規格と表示 (健康増進法他に基づく表示を学ぶ)
10　人類と食物（食に関する歴史と技術史を学ぶ)
11　世界の食 (食作法や禁忌、世界各地の食事情を知る)
12　日本の食 (日本食物史を学ぶ)
13　食品の鑑別検査法 (官能評価、化学的・物理的評価法を知る)
14　食品の鑑別検査法 (個別食品の鑑別法を学ぶ)
15　フードスペシャリスト資格認定試験対策
16　定期試験

●到達目標

1. フードスペシャリストの意義、概要、役割を理解する
2. フードスペシャリストの業務に必要な知識を習得する

●授業時間以外の学習

・前もってテキストに目を通す
・不明な点について調べたり、質問する
・資格認定試験に備えて過去問題を調べる

●テキスト・参考書等

テキスト：「四訂フードスペシャリスト論第2版」（公社）日本フードスペシャリスト協会編、建帛社
参考書：「三訂食品の官能評価・鑑別演習」「改定食品の安全性第3版」「食品の表示」「フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集」いずれもフードスペシャリスト協会編、建帛社

●成績評価

定期試験100%

●オフィスアワー

月曜日・火曜日　１６：１５～１８：３０　(研究室)

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

フードコーディネート論

担当者：　楠元　明美

●科目の概要

食べることの意義を生理的・栄養的な側面と文化的・社会的側面から理解し、フードコーディネートの基本理念を把握する。現代「食」の営み環境は、流動的に変化を続けており、そこには常に対応すべき新しい課題が生まれている。このような時代に、フードコーデイネートが食生活に果している役割と価値について学ぶ。

●授業計画

1 フードコーディネートの基本理念
2 おいしさの本質
3 現代の食事文化とその課題①
4 現代の食事文化とその課題②
5 現代の食事文化とその課題③
6 テーブルウェアと食卓の演出
7 食卓のサービスとマナー
8 食空間のコーディネート
9 フードサービスマネジメント①
10 フードサービスマネジメント②
11 食企画のコーディネート①
12 食企画のコーディネート②
13 食企画のコーディネート③
14 食企画のコーディネート④
15 総括
16 定期試験

●到達目標

1. フードコーディネートの基本理念の習得
2食に対する心理的・文化的側面についての教養・感性を磨く
食企画の実践とテーブルコーディネートの実践ができる

●授業時間以外の学習

授業前に教科書に目を通し、内容把握を行う。授業後は、理解できなかった内容を質問や文献、辞書等で調べ、過去問題を解く

●テキスト・参考書等

テキスト：
フードコーディネート論
日本フードスペシャリスト協会編　建帛社

●成績評価

受講態度７５％　定期試験２５％

●オフィスアワー

講義時間の前後（講義室）

●備考

フードコーディネート演習

担当者：　寺地　貴子

●科目の概要

フードコーディネート論の基礎知識を基に、実践現場における食企画の基本的な流れと、企画を実践するために必要不可欠な基礎スキルの習得を目指す。

●授業計画

1 郷土料理とフードコーディネート
2 〃
3 和食・洋食の TPO に応じたテーブルコーディネート
4 〃
5 食企画の実践　①
6 〃
7 食企画の実践　②
8 〃
9 定期試験
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 食企画の実践
2. テーブルコーディネートの実践

●授業時間以外の学習

授業前に教科書に目を通し、内容把握を行う
授業後は、理解できなかった内容を質問や文献、辞書等で調べ、過去問題を解く

●テキスト・参考書等

参考書：
フードコーディネート論
日本フードスペシャリスト協会編　建帛社

●成績評価

受講態度７５％　定期試験２５％

●オフィスアワー

講義時間の前後（講義室）

●備考

教育相談

担当者：　松元　理恵子

●科目の概要

現代社会の変容の中で、幼児、児童生徒の抱える問題が多様化し、深刻化する傾向がみられる。子どもの心の問題を理解し、どのように対応していけばよいのか、成長していく子ども達を支えていくために必要なチーム支援についての理解を深める。

そして、近年の子供の健康に与える家庭の教育や地域社会の機能の低下等を概観し、教師として子供、家族、関係者にいかなる教育相談を行えばよいのかを学ぶ。

●授業計画

1 教育相談の理論と方法（教育相談とは何かを学ぶ）
2 現代を生きる子ども達（子どもの行動の理解を学ぶ）
3 子どもの発達理解と相談・支援１（乳児期・幼児期を学ぶ）
4 子どもの発達理解と相談・支援２（学童期・思春期を学ぶ）
5 不適応行動とその心理１（いじめに対する支援）
6 不適応行動とその心理２（非社会的行動に対する支援）
7 不適応行動とその心理３（反社会的行動に対する支援）
8 保護者への対応１（「親育ち」のための発達支援）
9 保護者への対応２（保護者支援と方針のたて方について）
10 発達障がいや気になる子どもとその保護者へのかかわり
11 子どもの発達とアセスメント
12 虐待について（対応の仕方を学ぶ）
13 危機に直面した子どもの心のケア
14 教育相談の具体的方法（傾聴を学ぶ）
15 社会資源の活用（関係機関を知る）
16 筆記試験

●到達目標

1. 問題を抱える子どもの心理状態を理解する
2. 教育相談の基礎的な理論と具体的な方法を習得する
3. 自己理解、他者理解を深め、相談活動のあり方を考える

●授業時間以外の学習

・次の授業でとりあげるテーマについて、配布されたレジュメをもとに予習をする　・配布された資料やワークシートをレジュメと照合しながら復習を行う

●テキスト・参考書等

参考書：よくわかる教育相談　春日井敏之・伊藤美奈子編
ミネルヴァ書房

●成績評価

定期試験は60分で実施（７０％）、講義で出された課題（レポート等）の提出状況（２０％）、受講態度（１０％）

●オフィスアワー

火曜日・木曜日　12:05～12:55　松元研究室

●備考

学内他学科・他専攻開放科目

道徳教育の研究

担当者：　小柳　正司

●科目の概要

学校において子どもの道徳的な成長を促すためにはどのような道徳指導が必要であるか、その指導の目標、内容、方法について、さまざまな実践例を取り上げながら考察を深める。

●授業計画

1 小学校の道徳授業のビデオを見る
2 道徳授業の特色について、グループで話し合う
3 学習指導要領に示された道徳教育の要点を理解する
4 「道徳の時間」の意義について理解する
5 「価値の内面化」について理解する
6 言語活動を生かした道徳授業案を検討する
7 いのちの授業の実践をビデオで見る
8 食育を通した道徳教育を考える
9
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1.学校の教育活動全体における道徳教育の位置づけと役割について、理解する。
2.「道徳の時間」の役割と意義について、理解する。

●授業時間以外の学習

講義前、講義後に参考文献をよく読み込むこと。

●テキスト・参考書等

小柳正司編著『道徳教育の基礎と応用』あいり出版
『小学校学習指導要領解説・道徳編』(文部科学省)

●成績評価

グループ討議などの参加・貢献度　（５０％）
小論文　（５０％）

●オフィスアワー

講義終了後、講義室

●備考

特別活動の研究

担当者：　山元　有一

●科目の概要

特別活動はクラスないしはクラスを越えた集団活動を通して、子どもたち個々の成長とともに、集団の一員としての自覚を深めるために小学校や中学校に導入されており、近年その意義はさらに重要視されるようになっている。本講義ではおもに学習指導要領に依拠して、どのような特別活動をどのように計画運営し、教諭がどのように子どもたちの実践活動を支えていくかを考える。

●授業計画

1　特別活動とは？――その歴史的変遷と概略的内容
2　近年の特別活動――特別活動の中で望まれているもの
3　小中高学習指導要領の比較
4　学級活動について
5　児童会・生徒会活動について
6　学校行事について
7　養護教諭、栄養教諭と特別活動
8　まとめとレポートの指示
9
10
11
12
13
14
15
16

●到達目標

1. 特別活動の全般的理解

●授業時間以外の学習

・本講義は養護や栄養の教育実習の後になされるものであるため、実習の準備には寄与できない　・本講義を聴講したのち、必ず自らの実習体験と結びつけることを是非とも行ってもらいたい

●テキスト・参考書等

小中高の『学習指導要領』

●成績評価

レポート100%

●オフィスアワー

水曜日、木曜日を除く、講義以外の午後の時間を、オフィスアワーとする。

●備考

教職実践演習（栄養教諭）

担当者：　山﨑　千葉

●科目の概要

これまでに履修してきた授業、学外での研修および給食管理実習、栄養教育実習等を有機的に関連付けて学び、栄養教諭として必要な資質・能力を高めることを目的とする。また、鹿児島市内の栄養教諭ほか現場の教諭による指導を受け、社会性や対人関係能力を身につける。さらに模擬授業を通して教育指導力の向上を目指す。

●授業計画

1	「履修カルテ」を用いた学修の振り返り	A
2	食農教育の意義・現状・課題を踏まえた取組みに関する講義	B
3	畑作物栽培・加工プロジェクト～野菜まるごと食育～の紹介	A
4	霧島食の文化祭における栄養教諭の役割に関する講義	B
5	地域の農業関係者との地域連携や食農教育に関する講話	D
6	地域の農業関係者の支援による農業体験	D
7	地域の農業関係者との交流及び郷土料理の調理体験	D
8	現職栄養教諭の授業（食に関する指導）の参観	E
9	現職栄養教諭の講話（栄養教諭の職務）および意見交換	E
10	教科の指導力についての講義およびグループ討論	C
11	食農教育先進小学校との学校行事を通しての交流	D
12	学校での食育の実際をテーマ別にフードコーディネイトする	B
13	使命感、責任感、教育的愛情等に関する管理職経験者の講義	F
14	活動報告会（グループ・個人発表）での教育指導力の点検	A
15	授業の振り返り、自己点検・評価・教員の資質の客観的評価	A
16		

●到達目標

1. 履修カルテを基に自らの課題と目標を明確にする
2. 教諭の使命感・責任感を自覚し栄養教諭の資質向上を目指す
3. 社会性や対人関係能力を身につけ、教育指導力を向上させる

●授業時間以外の学習

・事前調査や準備を行った上で演習に参加する
・事後には演習のまとめを行い提出する

●テキスト・参考書等

テキスト：食に関する指導の手引、文部科学省、東山書房
参考書　：かんたん CD-ROM ですぐできる あなたの学習指導案！
　　鹿児島県学校栄養士協議会、鹿児島県

●成績評価

受講態度３０％　提出物３０％　討論等への参加状況１０％
模擬授業（指導案・実践）３０％

●オフィスアワー

山﨑：金曜日　１４：００～１７：００（研修室：西２０５）
千葉：

●備考

COC 関連科目
A：山﨑歌織　B：千葉しのぶ　C：松﨑康弘
D：外部講師　土里夢たかた代表　E：外部講師　田上小学校栄養教諭　F：外部講師　元小学校校長

平成27年度入学生　カリキュラム・マップ

生活科学科 （食物栄養学専攻）DP	①栄養士として必要な食と健康に関する専門知識を身につける。 ②信頼される栄養士として自らを高め、他者と目的を共有し協働できる人材となることを目指す。 ③時代と社会の要請に応えうる栄養士として必要な専門的技能を習得する。 ④食と健康の専門家として幅広い知識やコミュニケーション能力を身につける。

	科目名	最も関係の深いDP番号	到達目標	DPとの関係			
				①	②	③	④
専門科目	社会生活と健康						
	公衆衛生学Ⅰ	④	1. 公衆衛生学が身近な問題であることを認識できるようなる				◎
			2. 医療の視点から見た公衆衛生学の知識を身につける				◎
			3.				
	公衆衛生学Ⅱ	①	1. 社会生活において健康増進の大切さを知る	◎	○	○	○
			2. 社会生活において人々との関係を通して健康の大切さを知る	○	◎	○	○
			3. 社会生活において健康増進への取組みが行われている組織・活動を知る	○	○	◎	○
	社会福祉概論	②	1. 社会福祉の歴史的背景と意義及び法体系について理解する	◎			○
			2. 社会保障制度の目的と原則について理解する		◎	○	
			3. 社会福祉援助技術の目的と役割について理解する		○		◎
	人体の構造と機能						
	解剖生理学	①	1. ヒトの体を構成する器官および器官系の働きができる	○			
			2. ヒトの器官の形成や働きに必要な栄養（素）が説明できる			○	
			3. ヒトが健康に暮らせる生活上の注意点について説明できる				○
	解剖生理学実験	①	1. 循環器、感覚器の理解	◎		○	○
			2. 骨格、筋肉の理解	◎		○	○
			3. 神経、呼吸器の理解	◎		○	○
	運動生理学	②	1. 人体各種機能の理解	◎	○	○	○
			2. 運動に伴う機能の変容	◎		○	○
			3. 指導場面への応用	○		◎	○
	栄養生化学Ⅰ	①	1. 三大栄養素や核酸について、化学構造や特徴から説明できる	◎			○
			2. 生体内でのエネルギー産生の流れについて説明できる	○			○
			3.				
	栄養生化学Ⅱ	①	1. 三大栄養素の代謝と遺伝情報の流れについて説明できる	◎			○
			2. ホルモンによる恒常性の維持とアレルギーについて説明できる	○			○
			3.				
	病態生化学	①	1. 疾病の成因・病態等について説明できる	◎			○
			2. 生体における恒常性維持の仕組みについて説明できる	○			○
			3.				
	生化学実験A	①	1. 1年次に学んだことを、実験を通して確認、理解できる	◎	○	○	
			2. 実験の結果を科学的に解釈し、考察できる	○	○		○
			3.				
	生化学実験B	①	1. 1年次に学んだことを、実験を通して確認、理解できる	◎	○	○	
			2. 実験の結果を科学的に解釈し、考察できる	○	○		○
			3.				
	食品と衛生						
	食品学総論	①	1. 食品成分の特徴を理解する	◎			○
			2. 食品に関する基礎的知識を身に付ける	○			○
			3. 健康な食生活を営むために必要な食品を正しく選択できる	○			○
	食品学各論	①	1. 食品の成分特性、生理的機能について理解する	◎			○
			2. 食品の加工時における成分の変化について理解する	◎			○
			3. 食品の貯蔵法、加工法について理解する	◎			○
	食品学実験	①	1. 実験に必要な基礎的知識を身に付ける	○			○
			2. 基本操作を学び、基本的実験姿勢を身に付ける		○	○	
			3. 食品に対する理解を深める	◎			○
	食品衛生学	①	1. 食品に関する安全面での現状認識を行う	○			○
			2. 食中毒予防や衛生管理法を習得する	◎			○
			3.				
	食品衛生学実験	①	1. 消毒・滅菌の意義を理解し、衛生観念を高める	◎		○	○
			2. 衛生上の問題点を認識する	○		○	○
			3. 安全な食生活とは何かを理解する	○		○	○

平成27年度入学生　カリキュラム・マップ

生活科学科 （食物栄養学専攻）DP	①栄養士として必要な食と健康に関する専門知識を身につける。 ②信頼される栄養士として自らを高め、他者と目的を共有し協働できる人材となることを目指す。 ③時代と社会の要請に応えうる栄養士として必要な専門的技能を習得する。 ④食と健康の専門家として幅広い知識やコミュニケーション能力を身につける。

	科目名	最も関係の深いDP番号	到達目標	DPとの関係			
				①	②	③	④
専門科目	栄養と健康						
	栄養学総論	①	1. 適切な栄養素の摂取により、自らが正しい食生活を実践できる	○	○		
			2. 健康に生きていくための、的確な食教育ができる	◎			○
			3.				
	応用栄養学	①	1. 各ライフステージの特性、心身と生理機能の変化を理解する	◎	○		
			2. 運動や環境等に対応する適切な栄養管理の考え方を修得する			○	○
			3.				
	応用栄養学実習	②	1. 各ライフステージの適切な栄養基準に基づく献立作成と、調理技術を習得する	○	◎		
			2. 実践的な栄養管理と食教育を行うことができる			○	○
			3.				
	臨床栄養学総論	③	1. 栄養アセスメントの流れを理解し、臨床的意義を知る	○			
			2. 栄養アセスメントにより栄養状態を評価・判断することができる			◎	
			3. 栄養法の種類を知り、目的に応じた方法を選択することができる			○	
	臨床栄養学各論	①	1. 各疾患の定義、病因や症状、治療、栄養食事療法の考え方を理解する	◎		○	
			2. 臨床の基本的な専門用語や治療の実際を学ぶ	○	○		○
			3.				
	臨床栄養学実習	③	1. 各疾患の治療食の基本的な考え方、献立作成と調理方法を理解する	○			○
			2. 各疾患に応じた治療食を調理し、比較・評価する		○	◎	
			3.				
	栄養の指導						
	栄養指導論Ⅰ	②	1. 栄養指導の概念について理解し、説明できる。	○			
			2. 栄養指導の歴史や法規を理解し、栄養士の役割を説明できる	○			
			3. 栄養指導の方法論を理解し、栄養指導計画を立てることができる		◎		
	栄養指導論Ⅱ	③	1. 食事摂取基準および糖尿病交換表を理解し、活用できる	○			
			2. 対象者の問題点を把握し、科学的根拠に基づいた指導ができる	○			
			3. 健康寿命の延伸、生活の質の向上を目指した指導ができる			◎	
	栄養指導実習Ⅰ	③	1. 個人の栄養状態、健康状態を把握することができる			○	
			2. 栄養アセスメントを実施できる			○	
			3. 指導案を作成し、栄養教育・指導を実施できる			◎	
	栄養指導実習Ⅱ	④	1. 対象者に対して計画的に問題を解決することができる			○	
			2. 対象者に応じた栄養教育を媒体を使用して実施することができる				◎
			3. 行動変容の評価ができ、改善点を見出すことができる			○	
	公衆栄養学	①	1. 公衆栄養学の概念を理解し、説明できる	○			
			2. わが国の栄養政策を理解し、説明できる	◎			
			3. 栄養疫学を理解し、図表が示していることを説明できる	○			
	給食の運営						
	給食管理	①	1. 健康増進施行規則9条の栄養管理基準について理解する	◎	○		
			2. 給食運営に必要な大量調理、衛生管理について理解する	◎		○	
			3. 次年度の給食管理実習Ⅰの運営計画が概ね立案できる	○		◎	
	給食実務演習Ⅰ	③	1. 報告会を通して、衛生管理の重要性に気づき、実践できる	◎		○	
			2. 実習班の給食運営に関するPDCAサイクルを理解する	○		◎	
			3. 報告会で習得したことを本番実習に活かすことができる	○		◎	
	給食実務演習Ⅱ	③	1. 報告会を通して、衛生管理の重要性に気づき、実践できる	○		◎	
			2. 実習班の給食運営に関するPDCAサイクルを理解する	◎		○	
			3. 報告会で習得したことを本番実習に活かすことができる	○		◎	
	給食管理実習Ⅰ	②	1. 給食管理、調理学実習等で学んだ知識、技術を生かせる	○		◎	
			2. 給食運営の計画・実践・評価の方法・技術を理解する	○	◎		
			3. 学生を対象にした給食の計画・実践・評価ができる		◎		○
	給食管理実習Ⅱ・Ⅲ事前事後	②	1. 実習の意義・目的を理解し、相応しい態度で実習に臨む	○	○		○
			2. 献立作成能力、調理技術等基礎的な技能を身に付ける		◎	○	○
			3. 実習の成果を今後の進路に生かすことができる		○		○

平成27年度入学生　カリキュラム・マップ

生活科学科 （食物栄養学専攻）DP	①栄養士として必要な食と健康に関する専門知識を身につける。 ②信頼される栄養士として自らを高め、他者と目的を共有し協働できる人材となることを目指す。 ③時代と社会の要請に応えうる栄養士として必要な専門的技能を習得する。 ④食と健康の専門家として幅広い知識やコミュニケーション能力を身につける。

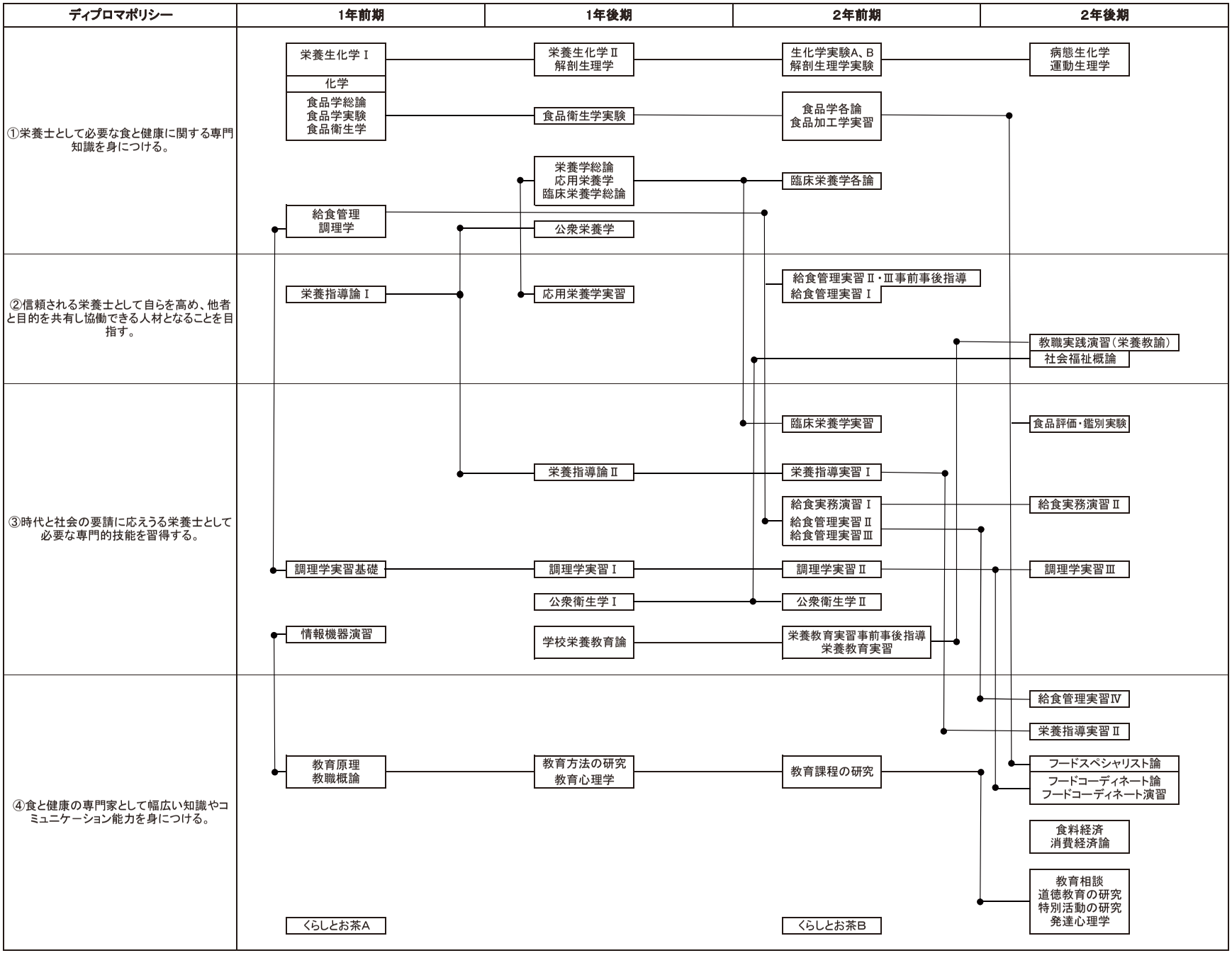
	科目名	最も関係の深いDP番号	到達目標	DPとの関係			
				①	②	③	④
専門科目	給食管理実習Ⅱ	③	1. 各特定給食施設の給食について理解する	○		◎	
			2. 各特定給食施設の栄養士の役割について理解する	◎	○		
			3. 給食サービス提供に関する専門的技能を身に付ける			◎	○
	給食管理実習Ⅲ（学外実習）	④	1. 各給食施設の給食について理解する			○	
			2. 各給食施設の栄養士の役割について理解する		○		
			3. 給食サービス提供に関する専門的技能を身につける				◎
	給食管理実習Ⅳ	④	1. 給食管理、調理学実習等で学んだ知識、技術を生かす	◎		○	
			2. 給食運営の計画・実践・評価の方法・技術を理解する	○	○	○	◎
			3. 学生を対象にした給食の計画・実践・評価ができる		○		◎
	調理学	①	1. 調理学の意義・役割を理解する	◎			
			2. 調理操作全般について知る	○		◎	○
			3. 食品素材別の調理法について知る	○		◎	○
	調理学実習基礎	③	1. 調理学実習を通して基礎となる理論や技術を学ぶ	◎	○		
			2. 調理操作を計画的に作業効率を考えながら実践できる力をつける	○		◎	○
			3.				
	調理学実習Ⅰ	③	1. 調理学実習の心得を意識して実習に臨む	○	◎		○
			2. 基本的な調理の知識・技術を身につける	○		◎	○
			3. 献立を立案しバランスを考えた食事を提供できる	○		◎	○
	調理学実習Ⅱ	③	1. 食材に関する基礎的知識を身につけ食品を扱うことができる	○		◎	
			2. 調理学実習の心得を意識し、段取りを考えた調理ができる	○	○	◎	
			3. 地域や旬の食材を活用した食事作りができる	○		◎	○
	調理学実習Ⅲ	③	1. 食材に関する基礎的知識を身につけ食品を扱うことができる	○		◎	
			2. 調理の基本動作と技術、実習の心得を身につける	○		◎	
			3. 日本料理を中心に異なる国の食文化や調理法を理解し調理する				◎
	関連科目						
	化学	①	1. 原子分子について理解する	○			
			2. 化学反応について理解する	○	○		
			3. 有機化合物の基礎について理解する	◎	○	○	
	学校栄養教育論	③	1. 栄養教諭の役割及び職務内容を理解する	○	○	◎	○
			2. 児童生徒の栄養に関する諸課題を把握する	◎		○	
			3. 食に関する指導の方法を理解し実践力に繋げる	○		◎	○
	食品評価・鑑別実験	④	1. 食品の品質評価技術について理解する	○		○	◎
			2. 食品成分と評価の関係について理解する	○		○	◎
			3.				
	食品加工学実習	①	1. 加工品を実習毎に1～2種類製造する	◎	○	○	○
			2.				
			3.				
	食料経済	④	1. 食生活の変化と食料自給率の低下傾向について理解する	○			◎
			2. 日本における食料貿易の現状と特徴について理解する	○			◎
			3. 日本における食料生産の現状、農業政策の展開について理解する		○		◎
	消費経済論	④	1. 日本における食生活の変化とその要因について理解する		○		◎
			2. 食料品の卸売および小売の流通過程について理解する	○			◎
			3. 食の外部化を支えるフードビジネスの現状と課題を理解する	○			◎
	フードスペシャリスト論	④	1. フードスペシャリストの意義、概要、役割を理解する				◎
			2. フードスペシャリストの業務に必要な知識を習得する				○
			3.				
	フードコーディネート論	④	1. フードコーディネートの基本理念の習得	○	○	◎	○
			2. 食に対する心理的・文化的側面についての教養や感性を磨く	○	○	○	◎
			3.				
	フードコーディネート演習	④	1. 食企画の実践	○	○	○	◎
			2. テーブルコーディネートの実践	○	○	◎	○
			3.				

平成27年度入学生　カリキュラム・マップ

生活科学科 （食物栄養学専攻）DP	①栄養士として必要な食と健康に関する専門知識を身につける。 ②信頼される栄養士として自らを高め、他者と目的を共有し協働できる人材となることを目指す。 ③時代と社会の要請に応えうる栄養士として必要な専門的技能を習得する。 ④食と健康の専門家として幅広い知識やコミュニケーション能力を身につける。

	科目名	最も関係の深いDP番号	到達目標	DPとの関係			
				①	②	③	④
専門科目	くらしとお茶A	④	1.　日本茶アドバイザーの意義、概要、役割を理解する				○
			2.　茶に関する知識と理解を深める				◎
			3.				
	くらしとお茶B	④	1.　日本茶アドバイザーの意義、概要、役割を理解する				○
			2.　茶に関する知識と理解を深める				◎
			3.				
	教育心理学	④	1.　学習、適応、発達に関する心理学用語を理解し、説明できる		○		◎
			2.　実証的なデータに基づき考えることができる		○		◎
			3.　学んだ理論と教育活動を関連させて考えることができる		○		◎
	発達心理学	①	1.　発達の概念と発達の原則を学ぶ	◎			
			2.　発達理論を理解する	○			◎
			3.　人の一生の発達的変化を学ぶ		◎	○	
	教職概論	④	1.　教職の意義		◎	○	
			2.　教員の役割			◎	○
			3.　教員としての資質の吟味			○	◎
	教育相談	④	1.　学校現場での児童・生徒の適応上の問題について理解する		○		◎
			2.　カウンセリングの基本的知識と技能の習得		○	○	◎
			3.				
	情報機器演習	④	1.　必要とする信憑性の高い情報を効率よく検索できる				○
			2.　事務系ソフトでレポートやプレゼン資料を作成できる				○
			3.　情報モラル関連の用語やとるべき行動を説明できる		○		
	栄養教諭関連科目						
	教育原理	④	1.　子どもの発達と環境				◎
			2.　教育の目的と意義			◎	○
			3.　教育における諸問題の理解			◎	○
	教育課程の研究	③	1.　教育課程編成の基準となる法律について理解する			○	○
			2.　教育課程編成の基準となる学習指導要領について理解する			◎	○
			3.				
	道徳教育の研究	④	1.　学校の教育活動全体における道徳教育の位置づけと役割について、理解する		◎		○
			2.「道徳の時間」の役割と意義について、理解する		○		◎
			3.				
	特別活動の研究	④	1.　特別活動の目的			◎	○
			2.　特別活動の内容			◎	○
			3.　指導上の留意事項			○	◎
	教育方法の研究	④	1.　栄養教諭の役割及び「食に関する指導」の目標・内容を理解する	◎		○	
			2.「食に関する指導」の学習指導案を作成し，模擬授業を行う		○	◎	
			3.　栄養教諭としての専門的な指導力・実践力・理解力等を身に付ける		◎		○
	栄養教育実習事前事後指導	②	1.　栄養教育実習の意義・目的を理解する	◎		○	
			2.　食に関する学習指導案および関係資料を作成する			◎	
			3.　児童生徒に対する食教育を実践する能力を身につける		○	○	◎
	栄養教育実習	④	1.　栄養教諭の職務を理解し体験する	◎		○	
			2.　児童生徒に対する指導の実際を学び実践する			◎	○
			3.　学校教諭として責任ある教育活動を営む実践力を養う		○		◎
	教職実践演習（栄養教諭）	④	1.　履修カルテを基に自らの課題と目標を明確にする			◎	
			2.　教諭の使命感・責任感を自覚し栄養教諭の資質向上を目指す			○	◎
			3.　社会性や対人関係能力を身につけ、教育指導力を向上させる		○		◎

生活科学科　食物栄養学専攻 ［専門科目］ カリキュラムツリー



「修得単位記入表」

平成２７年度入学

生活科学科　生活科学専攻

組　　番

氏名

（学籍番号　1512　　）

授業科目	一般教養科目																				外国語（Ⅰ・Ⅱ）								専門科目（卒業必修科目）								専門科目（選択）				
	キャリアガイダンス		WE LOVE 鹿児島！	日本語表現の基礎	倫理学	文学	心理学	体育講義	体育実技	社会学	国際化と経済	日本国憲法	歴史学	インターンシップ	海外事情	数学基礎	理科基礎	分子からみた生物	人間と環境		英語演習Ⅰ	英語演習Ⅱ	ドイツ語演習Ⅰ	ドイツ語演習Ⅱ	中国語演習Ⅰ	中国語演習Ⅱ	韓国語演習Ⅰ	韓国語演習Ⅱ	社会福祉	家族関係論	食生活論	住生活論	現代社会論	健康管理概論	精神保健	公衆衛生学	調理実習	住環境学	人類学	情報処理演習	秘書実務
																					同じ科目でⅠ・Ⅱを連続して受講								生活科学一般					保健・養護関係			生活科学一般				
開講学期	1 通年	2 通年	2 後	1 前後	1 前後	1 前後	1 前後	2 後	2 前	1 前後	1 前後	1 前後	1 前後	1 前	1 後	1 前後	1 前後	1 前後	1 前後		1 前	1 後	1 前	1 後	1 前	1 後	1 前	1 後	2 前	2 後	1 前	1 前	1 後	2 後	2 前	2 後	2 後	2 後	2 後	2 前	1 後
単位数	1	1	1	2	2	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	1	2
自分の取得した単位数を記入⇒																																									
卒業に必要な最低必修単位数	62		2		1							9												4					2	2	2	2	2	2	2	2		※	選択①		
養護教諭免許申請 に必要な最低必修単位	86							1	1			2																	2					2	2	2					
中学校教諭(保健)免許申請 に必要な最低必修単位	89							1	1			2																							2	2					
医療秘書実務士必修科目																													必							必				必	必
第一種衛生管理者免許必修科目																																		必	必	必					
ピアヘルパー資格必修科目																																									

注１）　養護教諭免許に最低必修単位数は、８６単位であるが、実質は、専門科目（選択）の選択①+選択②を取得すると３３単位になるため、最低必修単位数は８８単位になる。

授業科目	専門科目（選択科目）																				養護教諭・中学校教諭(保健)関連科目																	医療秘書実務士				第一種衛生管理者	
	健康相談活動	病理学	疾病学	環境衛生学	栄養学	運動生理学	解剖学Ⅰ	解剖学Ⅱ	生理学	解剖生理学実験	微生物学	薬理概論	看護学	疾患看護学	看護実習	臨床看護実習	臨床看護実習指導	救急処置Ⅰ	救急処置Ⅱ	学校保健	養護概説	教職概論	教育原理	教育心理学	発達心理学	教育制度論	教育課程の研究	保健科教育法	道徳教育の研究	特別活動の研究	教育方法の研究	情報機器演習	生徒指導	教育相談	養護実習事前事後指導	養護実習	教職実践演習（養護教諭）	教育実習（保健）事前事後指導	教育実習（保健）	教職実践演習（中・保健）	医療秘書実務実習	医療事務総論	医療事務演習Ⅰ	医療事務演習Ⅱ（実習指導を含む）	労働基準法	労働安全衛生法
	保健・養護関係																																										
開講学期	1 後	1 後	2 前	2 前	1 前	2 前	1 前	1 後	1 前	1 後	1 後	1 後	1 前	2 後	通年 1後 2前	2 前	2 前	1 前	1 後	1 前	1 前	1 前	1 前	1 後	1 後	2 前	2 前	2 前	2 後	2 後	1 後	1 前	2 後	2 前	2 前	2 後	2 後	2 前	2 後	2 前	1 後	1 後	2 前	2 後	2 後
単位数	2	2	2	2	2	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	1	1	2	1	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	2	2	2	1	3	2	1	4	2	1	2	2	1	2	2
自分の取得単位数⇒																																													
卒業必修単位	（選択①＋選択②）　※　選択②																																												
養教免必修単位	2	2	2		2		2	2	2	1	2	2	2	2	2	1	1	2	1	2	2	2	2	2		2	1		1	1	1	2	2	2	1	3	2									
中教諭(保健)免必修単位		2	2	2	2	1	2	2	2	1								2	1	2		2	2	2		2	1	1	1	1	1	2	2	2				1	4	2						
医療秘書実務士必修科目							必		必			必	必																					必							必	必	必	必		
第一種衛生管理者免許	必			必			必	必	必	必			必					必	必		必																								必	必
ピアヘルパー必修科目	必																							必	必									必												

「修得単位記入表」

平成２７年度入学

生活科学科　生活福祉専攻

組　　番

氏名

（学籍番号　1512　　　　）

授業科目	一般教養科目																		
	キャリアガイダンス		WE LOVE 鹿児島!	倫理学	社会学	日本国憲法	数学基礎	人間と環境	日本語表現の基礎	文学	心理学	体育講義	体育実技	国際化と経済	歴史学	インターンシップ	海外事情	理科基礎	分子からみた生物
				人間と社会 ★①															
開講学期	1通年	2通年	2後	1前後	1前後	1前後	1前後	1前後	1前後	1前後	1前後	2後	2後	1前後	1前後	1前	1後	1前後	1前後
単位数	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2
自分の取得した単位数を記入⇒																			
卒業に必要な最低必修単位数 **62**	2		1	8単位以上															
介護福祉士資格申請に必要な最低必修単位 **97以上**				8単位（★①+★②）															
レクリエーションインストラクター資格必修科目 **66**																			
介護保険実務士資格必修科目 **65**																			
福祉メイクセラピスト必修科目 **1**																			
ピアヘルパー資格必修科目																			

授業科目	外国語（Ⅰ・Ⅱ）								専門科目（卒業必修科目）															
	英語演習Ⅰ	英語演習Ⅱ	ドイツ語演習Ⅰ	ドイツ語演習Ⅱ	中国語演習Ⅰ	中国語演習Ⅱ	韓国語演習Ⅰ	韓国語演習Ⅱ	人間の尊厳と自立	人間関係とコミュニケーション	社会と制度の理解	社会保障制度	介護の基本Ⅰ	介護の基本Ⅱ	介護の基本Ⅲ	介護の基本Ⅳ	社会福祉援助技術	リハビリテーション論	コミュニケーションの基礎	コミュニケーション演習	生活支援技術A	生活支援技術B	生活支援技術C	生活支援技術D
	同じ科目でⅠ・Ⅱを連続して受講								人間と社会				介護											
開講学期	1前	1後	1前	1後	1前	1後	1前	1後	1後	2後	1前	1後	1前	1前	1後	2後	2前	2前	2前	1後	1前	1後	2前	2通年
単位数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	1	2	2	2	1
自分の取得した単位数を記入⇒																								
卒業に必要な最低必修単位数 **62**	4								2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	1	2	2	2	1
介護福祉士資格申請に必要な最低必修単位 **97以上**									2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	1	2	2	2	1
レクリエーションインストラクター資格必修科目 **66**																								
介護保険実務士資格必修科目 **65**																								
福祉メイクセラピスト必修科目 **1**																								
ピアヘルパー資格必修科目										2							2		2					

注1）人間と社会 ★印の①+②の科目から8単位以上選択必修

授業科目	専門科目（卒業必修科目）									専門科目（選択科目）	
	生活支援技術（住）	生活支援技術（食・衣）	発達と老化の理解	高齢者の介護	認知症の理解	障害の理解Ⅰ	こころとからだのしくみⅠ（医学）	こころとからだのしくみⅡ（精神）	介護技術の基礎	住環境と福祉	レクリエーション概論
	介護		こころとからだのしくみ							★② 人間と社会	
開講学期	1前	2通年	1前	1後	1後	1後	1後	2後	1前	2前	1前
単位数	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	1
自分の取得した単位数⇒											
卒業に必要な最低必修単位数	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	
介護福祉士資格必修	2	2	2	1	2	2	2	2	2	注1）参照	
レクリエーションインストラクター資格必修科目											1
介護保険実務士資格必修科目											
福祉メイクセラピスト必修科目											
ピアヘルパー必修			2					2			

授業科目	専門科目（選択科目）												
	介護過程Ⅰ	介護過程Ⅱ	介護過程Ⅲ	介護過程Ⅳ	ケアマネジメント	介護総合演習Ⅰ・Ⅱ	介護総合演習Ⅲ	介護総合演習Ⅳ	事例研究（ゼミナール）	介護実習Ⅰ	介護実習Ⅱ	介護実習Ⅲ	介護実習Ⅳ
	介護												
開講学期	1前	1後	2前	2後	2後	1通年	2前	2後	2通年	1後	1後	2前	2後
単位数	2	2	1	1	1	1	1	1	1	3	2	2	3
自分の取得した単位数⇒													
卒業に必要な最低必修単位数	2												
介護福祉士資格必修	2	2	1	1	1	1	1	1	1	3	2	2	3
レクリエーションインストラクター資格必修科目													
介護保険実務士資格必修科目													
福祉メイクセラピスト必修科目													
ピアヘルパー必修													

授業科目	専門科目（選択科目）														資格			
	認知症者の介護	障害の理解Ⅱ	ターミナルケア	医療的ケア	経管栄養	喀痰吸引	経管栄養演習	喀痰吸引演習	レクリエーション活動援助法Ⅰ	レクリエーション活動援助法Ⅱ	レクリエーションワーク	聴覚障害者の生活支援	情報処理Ⅰ		現場実習（学外）	介護事務総論	介護実務演習	福祉メイクセラピー
	こころとからだのしくみ			医療的ケア					関連選択科目									
開講学期	2前	2前	2後	1前	1後	2前	2前	2後	1前	1後	2通年	2後	1後			2前	2後	1前
単位数	1	2	2	2	2	2	2	2	1	1	2	1	1		1	2	1	1
自分の取得した単位数⇒																		
卒業に必要な最低必修単位数															/	/	/	/
介護福祉士資格必修	1	2	2	2	2	2	2	2										
レクリエーションインストラクター資格必修科目									1	1					1			
介護保険実務士資格必修科目																2	1	
福祉メイクセラピスト必修科目																		1
ピアヘルパー必修																		

《卒業 》
- 卒業必修単位をすべて取得
- 取得単位数（計）が**62単位**　以上

《介護福祉士国家資格》
- 卒業必修単位をすべて取得
- 資格必修科目の単位をすべて取得

《レクリエーションインストラクター 》
- 卒業必修単位をすべて取得
- 資格必修科目の単位をすべて取得

《介護保険実務士 》
- 卒業必修単位をすべて取得
- 資格必修科目の単位をすべて取得

《福祉メイクセラピスト 》
- 資格必修科目の単位をすべて取得

《ピアヘルパー 》
- 資格必修科目の単位をすべて取得
  ※認定試験受験　⇒　合格

「修得単位記入表」

平成27年度入学

生活科学科　食物栄養学専攻

組　　番

氏名

（学籍番号　1512　　）

授業科目	開講学期	単位数	自分の取得単位数を記入⇒	卒業に必要な最低必修単位数	栄養教諭免許申請に必要な最低必修単位	栄養士免許申請に必要な最低必修単位	フードスペシャリスト受験資格取得必修科目	日本茶アドバイザー受験資格	ピアヘルパー資格必修科目
一般教養科目									
キャリアガイダンス	1通年	1							
キャリアガイダンス	2通年	1		2					
WE LOVE 鹿児島！	2後	1		1					
日本語表現の基礎	1前後	2							
倫理学	1前後	2							
文学	1前後	2							
心理学	1前後	2							
体育講義	2前	1				1			
体育実技	2前	1				1			
社会学	1前後	2							
国際化と経済	1前後	2							
日本国憲法	1前後	2		9		2			
歴史学	1前後	2							
インターンシップ	1前	2							
海外事情	1後	2							
数学基礎	1前後	2							
理科基礎	1前後	2							
分子からみた生物	1前後	2							
人間と環境	1前後	2							
外国語（Ⅰ・Ⅱ）（同じ科目でⅠ・Ⅱを連続して受講）									
英語演習Ⅰ	1前	2		4					
英語演習Ⅱ	1後	2							
ドイツ語演習Ⅰ	1前	2							
ドイツ語演習Ⅱ	1後	2							
中国語演習Ⅰ	1前	2							
中国語演習Ⅱ	1後	2							
韓国語演習Ⅰ	1前	2							
韓国語演習Ⅱ	1後	2							
専門科目									
社会福祉概論（①社会生活と健康）	2後	1		1	1	1	1		
栄養生化学Ⅰ（②人体の構造と機能）	1前	2		2	2	2	1		
食品学総論（③食品と衛生）	1前	2		2	2	2	1		2
食品学各論（③食品と衛生）	2前	2		2	2	2	1		2
栄養学総論（④栄養と健康）	1後	2		2	2	2	1		2
応用栄養学（④栄養と健康）	1後	2		2	2	2	1		2
栄養指導論Ⅰ（⑤栄養の指導）	1前	2		2	2	2	1		2
公衆栄養学（⑤栄養の指導）	1後	2		2	2	2	1		2
給食管理（⑥給食の運営）	1前	2		2	2	2	1		2
調理学（⑥給食の運営）	1前	2		2	2	2	1		2

《卒業》
- 卒業必修単位をすべて取得

《栄養士免許》
- 卒業必修単位をすべて取得
- 免許必修科目の単位をすべて取得

《栄養教諭免許》
- 栄養士免許証の取得資格を有する
- 卒業必修単位をすべて取得
- 免許必修科目の単位をすべて取得
- 取得単位数（計）が**100単位** 以上

《フード･スペシャリスト 受験資格》
- 資格必修科目の22単位をすべて取得

《ピアヘルパー》
- 資格必修科目の単位をすべて取得
  ※認定試験受験　⇒　合格

授業科目	開講学期	単位数	自分の取得単位数⇒	卒業に必要な最低必修単位数	栄養教諭免必修単位	栄養士免必修単位	ﾌｰﾄﾞｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ必修科目	日本茶ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ必修科目	ピアヘルパー必修科目
専門科目									
公衆衛生学Ⅰ（①社会生活と健康）	1後	1			1	1			
公衆衛生学Ⅱ（①社会生活と健康）	2前	2			2	2			
解剖生理学（②人体の構造と機能）	1後	3			3	3			
解剖生理学実験（②人体の構造と機能）	2前	1			1	1			
運動生理学（②人体の構造と機能）	2後	1			1	1			
栄養生化学Ⅱ（②人体の構造と機能）	1後	2			2	2			
病態生化学（②人体の構造と機能）	2後	1			☆	☆			
生化学実験Ａ（②人体の構造と機能）	2前	1			1	1			
生化学実験Ｂ（②人体の構造と機能）	2前	1			1	1			
食品学実験（③食品と衛生）	1前	1			1	1	1		
食品衛生学（③食品と衛生）	1前	2			2	2	2		
食品衛生学実験（③食品と衛生）	1後	1			1	1			
応用栄養学実習（④栄養と健康）	1後	1			1	1			
臨床栄養学総論（④栄養と健康）	1後	2			2	2			
臨床栄養学各論（④栄養と健康）	2前	2			2	2			
臨床栄養学実習（④栄養と健康）	2前	1			1	1			
栄養指導論Ⅱ（⑤栄養の指導）	1後	2			2	2			
栄養指導実習Ⅰ（⑤栄養の指導）	2前	1			1	1			
栄養指導実習Ⅱ（⑤栄養の指導）	2後	1			1	1			
給食実務演習Ⅰ（⑥給食の運営）	2前	1			1	1			
給食実務演習Ⅱ（⑥給食の運営）	2後	1			1	1			
給食管理実習Ⅰ（⑥給食の運営）	2前	1			1	1			
給食管理実習Ⅱ・Ⅲ事前事後指導（⑥給食の運営）	2前	1			1	1			
給食管理実習Ⅱ（⑥給食の運営）	2前	2			2	2			
給食管理実習Ⅲ（⑥給食の運営）	2前	2			2	2			
給食管理実習Ⅳ（⑥給食の運営）	2後	1			★	★			
調理学実習基礎（⑥給食の運営）	1前	1			1	1			
調理学実習Ⅰ（⑥給食の運営）	1後	1			1	1	1		
調理学実習Ⅱ（⑥給食の運営）	2前	1			1	1	1		
調理学実習Ⅲ（⑥給食の運営）	2後	1			★	★			
関連科目									
化学	1前	2							
学校栄養教育論	1後	2			2				
食品評価・鑑別実験	2後	1					1		
食品加工学実習	2前	1			★	★	1		
食料経済	2後	1			☆	☆	1		
消費経済論	2後	1					1		
フードスペシャリスト論	2後	2					2		
フードコーディネート論	2後	2					2		
フードコーディネート演習	2後	1					1		
くらしとお茶Ａ	1前	2						選択必修	
くらしとお茶Ｂ	2前	2							
教育心理学	1後	2			2	2			2
発達心理学	2後	2			2	2			2
教職概論	1前	2			2	2			2
教育相談	2後	2			2	2			2
情報機器演習	1前	2							
栄養教諭関連科目									
教育原理	1前	2			2	1			
教育課程の研究	2前	1			1	1			
道徳教育の研究	2後	1			1	1			
特別活動の研究	2後	1			1	1			
教育方法の研究	1後	1			1	1			
栄養教育実習事前事後指導	2前	1			1	1			
栄養教育実習	2前	1			1	1			
教職実践演習（栄養教諭）	2後	2			2	2			

★の科目から1単位以上選択必修(栄養士・栄赦免)　☆の科目から1単位以上選択必修(栄養士・栄赦免)

索引

＜一般教養科目＞

【あ】
インターンシップ ・・・ 33
WE LOVE 鹿児島！ ・・・ 45
英語演習Ⅰ ・・・ 35・36
英語演習Ⅱ ・・・ 40・41

【か】
海外事情 ・・・ 40
韓国語演習Ⅰ ・・・ 37
韓国語演習Ⅱ ・・・ 43
キャリアガイダンス ・・・ 34
国際化と経済 ・・・ 32

【さ】
心理学 ・・・ 31
社会学 ・・・ 31
数学基礎 ・・・ 38

【た】
体育講義 ・・・ 44・45
体育実技 ・・・ 43・44
中国語演習Ⅰ ・・・ 37
中国語演習Ⅱ ・・・ 42
ドイツ語演習Ⅰ ・・・ 36
ドイツ語演習Ⅱ ・・・ 42

【な】
日本国憲法 ・・・ 32
日本語表現の基礎 ・・・ 29
人間と環境 ・・・ 39

【は】
文学 ・・・ 30
分子からみた生物 ・・・ 39

【ら】
倫理学 ・・・ 29
理科基礎 ・・・ 38
歴史学 ・・・ 33

＜生活科学専攻科目＞

【あ】
医療事務総論（医療秘書実務含む） ・・・ 64
医療事務演習Ⅰ ・・・ 64
医療事務演習Ⅱ（実習指導を含む） ・・・ 73
医療秘書実務実習 ・・・ 73
運動生理学 ・・・ 67
栄養学 ・・・ 52

【か】
解剖学Ⅰ ・・・ 52
解剖学Ⅱ ・・・ 59
解剖生理学実験 ・・・ 59
家族関係論 ・・・ 74
学校保健 ・・・ 54
環境衛生学 ・・・ 67
看護学 ・・・ 53
看護実習 ・・・ 61
救急処置Ⅰ ・・・ 54
救急処置Ⅱ ・・・ 62
教育原理 ・・・ 56
教育心理学 ・・・ 62
教育課程の研究 ・・・ 69
教育実習（保健）事前事後指導 ・・・ 72
教育実習（保健） ・・・ 72
教育制度論 ・・・ 69
教育相談 ・・・ 70
教育方法の研究 ・・・ 63
教職概論 ・・・ 55
教職実践演習(養護教諭) ・・・ 79
教職実践演習(中・保健) ・・・ 79
健康管理概論 ・・・ 76
健康相談活動 ・・・ 58
現代社会論 ・・・ 57
公衆衛生学 ・・・ 76

【さ】
疾患看護学 ・・・ 77
疾病学 ・・・ 66
社会福祉 ・・・ 65
食生活論 ・・・ 51
住生活論 ・・・ 51
住環境学 ・・・ 75
情報機器演習 ・・・ 56
情報処理演習 ・・・ 65
人類学 ・・・ 75
精神保健 ・・・ 66
生徒指導 ・・・ 78
生理学 ・・・ 53

【た】
調理実習 ・・・ 74
道徳教育の研究 ・・・ 77
特別活動の研究 ・・・ 78

【は】
発達心理学 ・・・ 63
秘書実務 ・・・ 57
微生物学 ・・・ 60
病理学 ・・・ 58
保健科教育法 ・・・ 70

【や】
薬理概論 ・・・ 60
養護概説 ・・・ 55
養護実習事前事後指導 ・・・ 71
養護実習 ・・・ 71

【や】
臨床看護実習 ・・・ 68
臨床看護実習指導 ・・・ 68

【ら】
労働安全衛生法 ・・・ 80
労働基準法 ・・・ 80

＜生活福祉専攻＞

【あ】
医療的ケア ・・・ 94

【か】
介護過程Ⅰ ・・・ 92
介護過程Ⅱ ・・・ 98
介護過程Ⅲ ・・・ 107
介護過程Ⅳ ・・・ 114
介護技術の基礎 ・・・ 93
介護事務演習 ・・・ 118
介護事務総論 ・・・ 112
介護実習Ⅰ ・・・ 98
介護実習Ⅱ ・・・ 99
介護実習Ⅲ ・・・ 108
介護実習Ⅳ ・・・ 115
介護総合演習Ⅰ・Ⅱ ・・・ 92
介護総合演習Ⅲ ・・・ 107
介護総合演習Ⅳ ・・・ 115
介護の基本Ⅰ ・・・ 90
介護の基本Ⅱ ・・・ 90
介護の基本Ⅲ ・・・ 96
介護の基本Ⅳ ・・・ 113
喀痰吸引 ・・・ 110
喀痰吸引演習 ・・・ 117
ケアマネジメント ・・・ 114
経管栄養 ・・・ 101
経管栄養演習 ・・・ 110
高齢者の介護 ・・・ 99
こころとからだのしくみⅠ（医学） ・・・ 101
こころとからだのしくみⅡ（精神） ・・・ 116
コミュニケーション演習 ・・・ 97
コミュニケーションの基礎 ・・・ 104

【さ】
社会と制度の理解 ・・・ 89
社会福祉援助技術 ・・・ 103
社会保障制度 ・・・ 96
障害の理解Ⅰ ・・・ 100
障害の理解Ⅱ ・・・ 109
情報処理Ⅰ ・・・ 102
事例研究（ゼミナール） ・・・ 108
住環境と福祉 ・・・ 103
生活支援技術（住） ・・・ 91
生活支援技術（食・衣） ・・・ 106
生活支援技術A ・・・ 91
生活支援技術B ・・・ 97
生活支援技術C ・・・ 105
生活支援技術D(住環境含む) ・・・ 105

【た】
ターミナルケア ・・・ 116
聴覚障害者の生活支援 ・・・ 117

【な】
人間関係とコミュニケーション ・・・ 113
人間の尊厳と自立 ・・・ 95
認知症者の介護 ・・・ 109
認知症の理解 ・・・ 100

【は】
発達と老化の理解 ・・・ 93
福祉メイクセラピー ・・・ 95

【ら】
リハビリテーション論 ・・・ 104
レクリエーション概論 ・・・ 89
レクリエーション活動援助法Ⅰ ・・・ 94
レクリエーション活動援助法Ⅱ ・・・ 102
レクリエーションワーク ・・・ 111

＜食物栄養学専攻＞

【あ】
運動生理学 ・・・ 151
栄養学総論 ・・・ 135
栄養教育実習 ・・・ 150
栄養教育実習事前事後指導 ・・・ 149
栄養指導実習Ⅰ ・・・ 144
栄養指導実習Ⅱ ・・・ 152
栄養指導論Ⅰ ・・・ 129
栄養指導論Ⅱ ・・・ 137
栄養生化学Ⅰ ・・・ 127
栄養生化学Ⅱ ・・・ 134
応用栄養学 ・・・ 136
応用栄養学実習 ・・・ 136

【か】
解剖生理学 ・・・ 134
解剖生理学実験 ・・・ 141
化学 ・・・ 131
学校栄養教育論 ・・・ 139
給食管理 ・・・ 129
給食管理実習Ⅰ ・・・ 145
給食管理実習Ⅱ ・・・ 146
給食管理実習Ⅲ ・・・ 146
給食管理実習Ⅳ ・・・ 153
給食管理実習Ⅱ・Ⅲ事前事後指導 ・・・ 145
給食実務演習Ⅰ ・・・ 144
給食実務演習Ⅱ ・・・ 152
教育課程の研究 ・・・ 149
教育原理 ・・・ 133
教育心理学 ・・・ 139
教育相談 ・・・ 157
教育方法の研究 ・・・ 140
教職概論 ・・・ 132
教職実践演習（栄養教諭） ・・・ 158
くらしとお茶A ・・・ 131
くらしとお茶B ・・・ 148
公衆衛生学Ⅰ ・・・ 133
公衆衛生学Ⅱ ・・・ 140
公衆栄養学 ・・・ 138

【さ】
社会福祉概論 ・・・ 150
消費経済論 ・・・ 155
情報機器演習 ・・・ 132
食品衛生学実験 ・・・ 135
食品衛生学 ・・・ 128
食品加工学実習 ・・・ 147
食品学各論 ・・・ 142
食品学実験 ・・・ 128
食品学総論 ・・・ 127
食品評価・鑑別実験 ・・・ 154
食料経済 ・・・ 154
生化学実験A ・・・ 141
生化学実験B ・・・ 142

【た】
調理学 ・・・ 130
調理学実習Ⅰ ・・・ 138
調理学実習Ⅱ ・・・ 147
調理学実習Ⅲ ・・・ 153
調理学実習基礎 ・・・ 130
道徳教育の研究 ・・・ 157
特別活動の研究 ・・・ 158

【は】
発達心理学 ・・・ 148
病態生化学 ・・・ 151
フードコーディネート演習 ・・・ 156
フードコーディネート論 ・・・ 156
フードスペシャリスト論 ・・・ 155

【ら】
臨床栄養学各論 ・・・ 143
臨床栄養学実習 ・・・ 143
臨床栄養学総論 ・・・ 137